

平成27年度

天理市における公共施設マネジメント
に関する共同研究報告書



天理市



早稲田大学

目次

はじめに

第一章 本報告書の概要	1
第二章 天理市の住民意識調査	2
2-1 アンケート調査	
2-1-1 アンケート調査概要	2
2-1-2 天理市における人口分布	3
2-2 アンケート集計結果	
2-2-1 回答者情報	4
2-2-2 施設の現状に関する意識調査	7
2-2-3 施設の利用頻度に関する意識調査	8
2-2-4 市への関心度に関する調査	9
2-3 アンケート分析	
2-3-1 他自治体との比較	12
2-3-2 世代別・小学校区別分析	14
2-3-3 公共施設に対して重要視するものに関する分析	24
2-4 三章まとめ	27
第三章 天理市連携自治体 川西町、三宅町、山添村	
3-1 連携自治体アンケート	
3-1-1 川西町、三宅町、山添村について	28
3-1-2 アンケート調査	32
3-1-3 アンケート集計結果・分析	33
3-1-4 連携町村と天理市との比較	41
3-1-5 アンケートまとめ	52
3-2 天理市と近隣自治体の所有する公共施設	
3-2-1 天理市と近隣自治体の人口分布	53
3-2-2 天理市と近隣自治体の所有する公営住宅	57
3-2-3 天理市と近隣自治体（川西町、三宅町）境界付近の施設	59

第四章 福住地区住民へのヒアリング・現地調査	
4-1 ヒアリング調査概要	63
4-2 ヒアリング調査用紙	64
4-3 ヒアリング結果	66
4-4 ヒアリングまとめ	70
4-5 福住地区現地調査	71
4-6 福住地区現地調査まとめ	74
第五章 総括	75

付章

はじめに

天理市長 並河 健

公共施設マネジメントに関する取組みは、今や全国的に待った無しの状況といえます。

かつて高度経済成長期に集中的に整備された公共施設では老朽化が進み、まもなく一斉に更新時期を迎えようとしているからです。

本市にも学校、学童、公民館、体育館など様々な機能をもった施設が存在しますが、中には老朽化が進んでいる施設も数多くあり、更新の必要性が生じています。しかし、昨今の厳しい財政状況が続く中で全てを新しくすることは、非常に困難であるといえます。

今回、早稲田大学小松幸夫研究室のご知見をお借りした共同研究は、まさに次の世代に過度な負担を残さないための「出」を制する礎といえるものです。

まず初年度である平成 26 年度の取組みでは、公共施設全般に関するデータ分析を実施するとともに、主に小中学校の維持管理にフォーカスを当て調査・分析を行いました。本市の学校教育系施設は、公共施設の総延床面積のおよそ 4 割を占めており、本市の公共施設の整備及び維持管理に係る経費に大きく影響するものと考えられます。特に維持管理費はランニングコストの低減を考える際に極めて重要なものとなります。

次に 2 年目となる平成 27 年度には、将来を見据えた公共施設の在り方を検討するにあたり、“市民ニーズ”という視点からのアプローチを試みるために、住民アンケートやヒアリング調査などを実施し、市民の意向を調査・分析しました。

本市における公共施設マネジメントへの取組みは、第一歩を踏み出したばかりです。2 年間の共同研究の成果を基に、引き続き全市的・経営的視点に立った、戦略的な公共施設マネジメントの取組みを推進して参ります。

最後になりましたが、本報告書の作成にあたり、小松幸夫教授をはじめ早稲田大学関係者の方々には多大なるご尽力をたまわりましたことを、紙面をもってお礼の言葉に代えさせていただきます。



早稲田大学教授 小松幸夫

公共施設に対する関心が高まってきている。総務省から各地方自治体に要請のあった公共施設の総合管理計画の提出が平成28年度末までとされており、多くの市町村では既に作成に取りかかっていることと想像される。

天理市における公共施設マネジメントについての共同研究も、2年目を迎えて最終報告を提出する段階となった。今年度は天理市および周辺地域の住民に対する意識調査、また特に山間部である福住地区での住民インタビューなどを通して、公共施設の今後の方向を住民の目線から模索した。さらに施設の老朽化の進行から、施設の更新が視野に入っている二つの中学校について現地調査を行った。

調査結果の詳細な内容は本文に譲るが、住民の意識としては公共施設の集約化や広域共同利用に関しては概ね好意的であるものの、財政事情を理由にしたサービス水準の低下や費用の負担増などには抵抗が大きいことが明らかとなった。今後の公共施設マネジメントの方向としては、サービス水準を低下させない工夫を重ねながら、施設の総量を減らしていくという取り組みが求められる。なおこれについては、比較的人口が多い市部と、人口の少ない町村部では考え方を考える必要があることも明らかになっている。町村部では必要な施設量に対して人口が比較的少ないために、一人当たりになると施設量がかなり多くなる傾向にある。これを闇雲に減らすことは決して得策ではなく、むしろ住民参加など運用方法を工夫して運用コストを減らすような工夫が求められよう。そうした意味では、施設の広域共同利用などは今後検討していく価値は大きいと思われる。

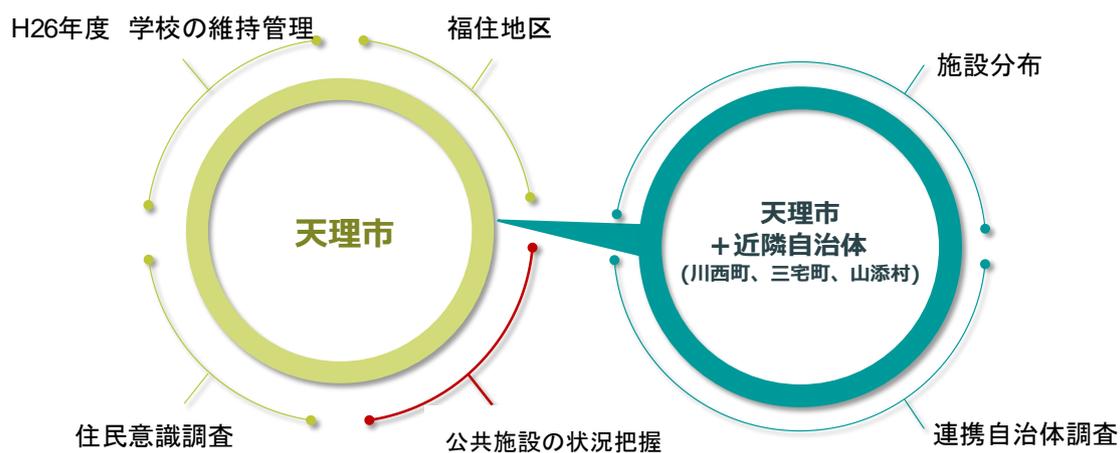
今後のわが国は少子高齢化が加速し、国の財政状況の好転もなかなか期待できない状況にある。総合管理計画の作成は公共施設マネジメントのスタートであり、これからが本番というところである。本報告が今後進められる天理市における公共施設マネジメントにおいて、いささかでも資することができるのであれば、共同研究者としては喜ばしい限りである。



第一章 本報告書の概要

天理市は、小中学校等の学校教育施設や幼稚園、保育所等の子育て支援施設、市営住宅、コミュニティ施設など様々な目的、機能を持った公共施設を保有している。県内の自治体と比較すると施設の老朽化問題は深刻ではないが、全国的な視点で見れば厳しく、施設の維持補修、大規模な改修や建て替えが必要とされている。しかし更新には多額の費用負担を要し、その時期が集中することが懸念されている。財政状況から鑑みても、今後も市民サービスを持続的に提供していくためには、公共施設マネジメントを実施し、公共施設総量の適正化を図っていくことが必要不可欠であると言える。

財政負担の軽減を図りながら現役世代・将来世代へ質を落とすことなく持続可能な市民サービスの提供を行っていくための戦略的資産管理の導入の一部として、昨年度に続き、保有する公共施設の概要の把握と対策の提案を目的として作成されたものが本報告書である。本報告書によって明らかになった結果を、今後の施設管理のための基礎情報として中長期的な資産戦略の策定に繋げていくことを目指す。



本年度は、天理市の住民が公共施設に対してどのように感じているのか住民アンケートを行い、さらに山間部に注目して、天理市の中でも少子高齢化が進む福住地区に出向き、複数の住民にヒアリングを行った。

また、今年度から天理市は、川西町・三宅町・山添村の3つの近隣自治体と「大和まほろば広域定住自立圏」を形成したことを受けて、3町村が公共施設に対してどのように感じているのかということについてアンケートを行った。そして位置情報から自治体の境界を超えた公共施設の活用の可能性を探った。

第二章 天理市の住民意識調査

2-1 アンケート調査

2-1-1 アンケート調査概要

天理市において行政サービスの水準を落とさず、公共施設マネジメントを行うために、住民意識を把握することを目的として公共施設に対するアンケート調査を実施した。

(1) 調査対象

平成 27 年 8 月 1 日現在、奈良県天理市在住の 20 歳以上の方の中から無作為に抽出した 2,700 名を対象にアンケートを実施した。

(2) 実施期間

平成 27 年 8 月末にアンケートを送付し、9 月 15 日までに回収を行った。

(3) 回収状況

配布数：2700 通	有効配布数：2688 通（返戻 12 通を除いた数）
回収数：858 通	有効回収数：855 通（無効 3 通を除いた数）
回収率：31.8%	有効回収率：31.8%

(4) 調査項目

調査項目は以下に示す通りである。

表-2-1-1 アンケート調査項目

項目	問番号	内容
施設の現状に関する意識調査	問 1	公共施設の維持・管理の取り組みへの意見
	問 2	公共施設の利用頻度
施設の利用に関する調査	問 3	公共施設を利用する理由
	問 4	公共施設に重視すること
市への関心度に関する調査	問 5	居住理由
	問 6	施設利用の際の意識
	問 7	FM の認知度
	問 8	「総合計画」の認知度
	問 9	財政状況への関心度
	問 10	今後の天理市への不安

2-1-2 天理市における人口分布

天理市における年齢別人口分布は図 2-1-2-1 に示した通りである。図 2-1-2-1 から 0～14 歳までの年少人口が他の年代と比較して、少なく、少子化が進んでいることが読み取れる。また、図 2-1-2-2 は本アンケート調査対象である 20 歳以上の世代別人口の割合を示したものである。20 歳代から 60 歳代まで、どの世代も 15%前後で、70 歳代以上の占める割合は全体の約 20%であった。

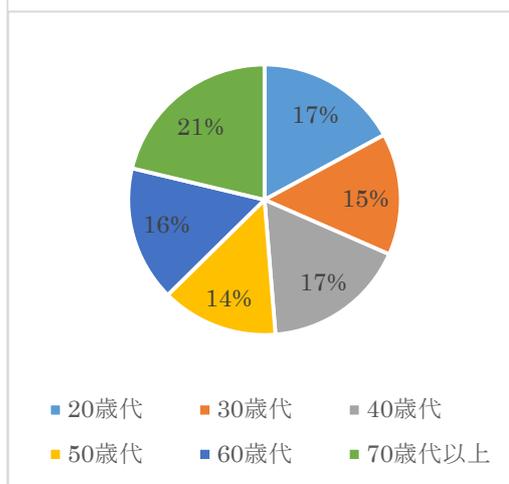
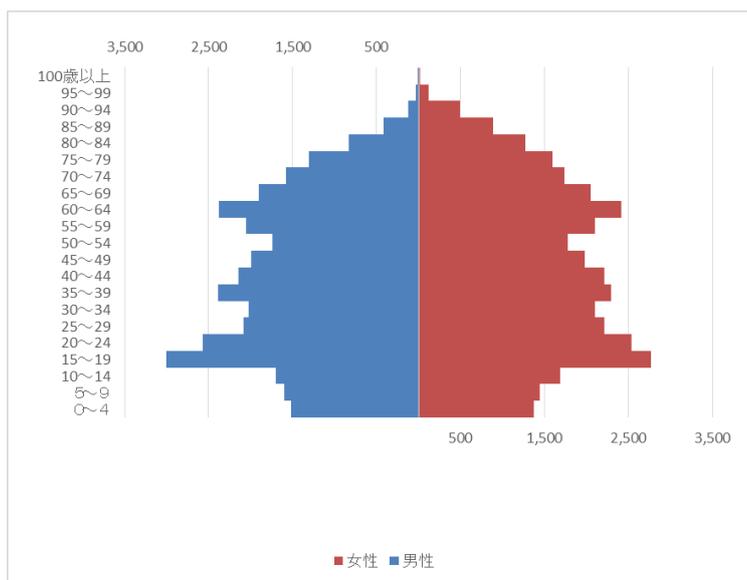


図 2-1-2-1 天理市人口分布

図 2-1-2-2 天理市世代別人口

次に、天理市の都市計画マスタープランの第 4 章に掲載されている地域別構想で、中学校区における人口特性を、表 2-1-2 に示した。西中学校地域では、人口が増加傾向で、高齢化率も他 3 地域と比較して、最も低い。一方で、山間部の福住中学校地域では、高齢化率が 39.7%と 4 地域の中で最も高く、年少人口も全体の 7.8%で 4 地域の中で最も低くなっている。

表 2-1-2 地域別人口特性

中学校区	小学校区	人口	年齢構成	高齢化率
西中学校地域	前裁小学校区	増加傾向	高齢化が進みつつある	16.4%
	二階堂小学校区			
北中学校地域	櫛本小学校区	減少傾向	高齢化が進んでいる	21.9%
	丹波市小学校区			
	山の辺小学校区			
南中学校地域	井戸堂小学校区	減少傾向	高齢化が進んでいる	24.3%
	朝和小学校区			
	柳本小学校区			
福住中学校地域	福住小学校区	減少傾向	最も高齢化が進んでいる	39.7%

2-2 アンケート集計結果

2-2-1 回答者情報

図 2-2-1-1 は本アンケート回答者の男女別の割合、図 2-2-1-2 は天理市の人口の男女別割合を表している。人口割合は男女ともに 50%前後であるのに対し、アンケート回答者の男女別割合は男性が 33%、女性が 45%で女性の方が回答数が多い結果となった。

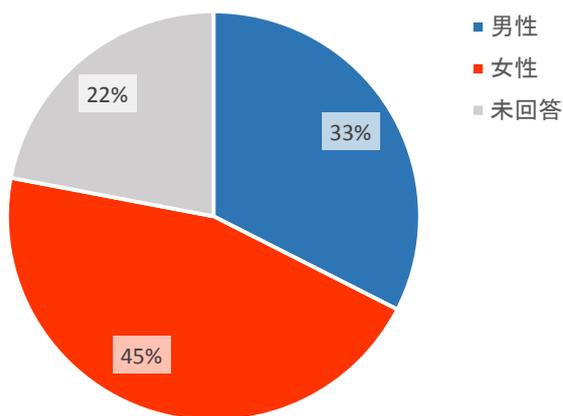


図2-2-1-1 男女別回答者割合

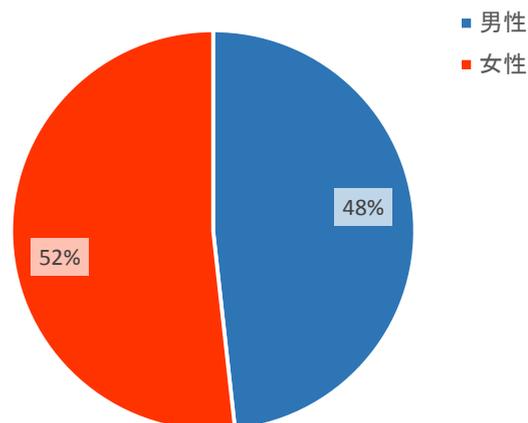


図2-2-1-2 天理市男女別人口

図 2-2-1-3 は年齢別の回答者の割合、図 2-2-1-4 は天理市における年齢別人口の割合を表す。年齢別人口と回答者の年齢別割合を比較すると、20歳代、30歳代の回答は少なく、60歳代、70歳代の回答が多い結果となった。

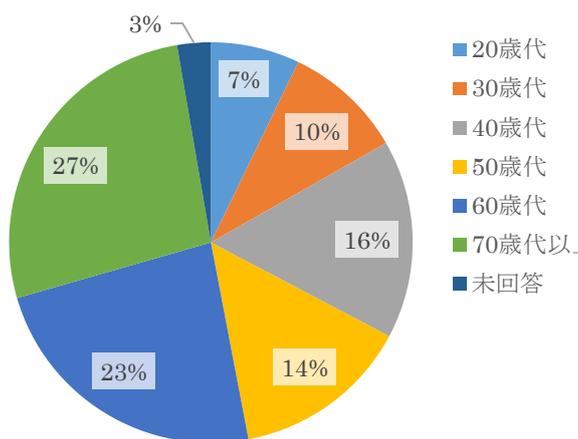


図2-2-1-3 年齢別回答者割合

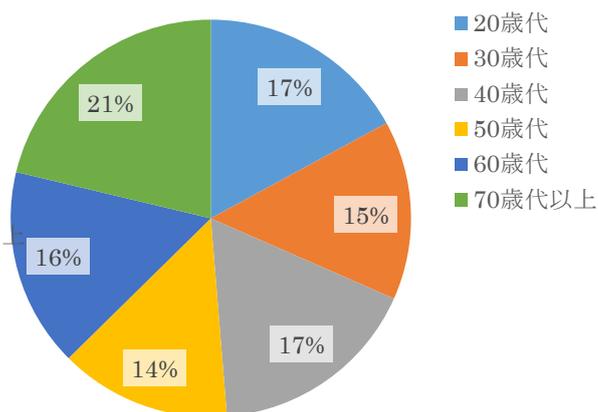


図2-2-1-4 天理市年齢別人口

図 2-2-1-5 は小学校区別の回答者の割合、表 2-2-1 は各小学校区の回収率を表している。各小学校区 300 通ずつ（人口に合わせ、前裁校区は 500 通、福住校区は 100 通）送付し、その結果、ほとんどの小学校区は回収率が 30%前後であった。福住校区のみ 49%となり、他校区と比べ、高い回収率となった。図 2-2-1-6 は天理市における小学校区の境界を表した図である。

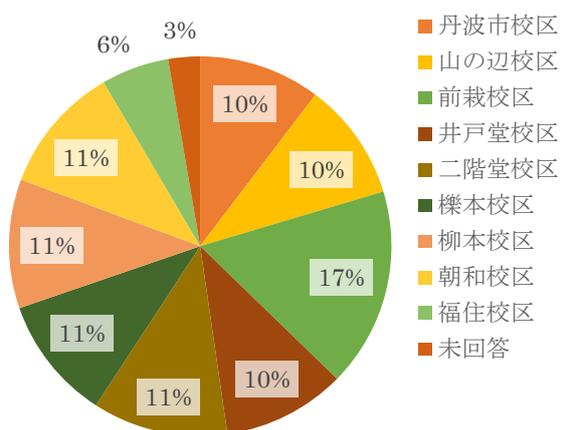


表 2-2-1 小学校区別回収率

小学校区	送信数	回収率
丹波市校区	300	29.3
山の辺校区	300	28.7
前裁校区	500	29.0
井戸堂校区	300	29.7
二階堂校区	300	32.7
櫛本校区	300	30.0
柳本校区	300	31.3
朝和校区	300	31.0
福住校区	100	49.0

図2-2-1-5 小学校区別回答者割合

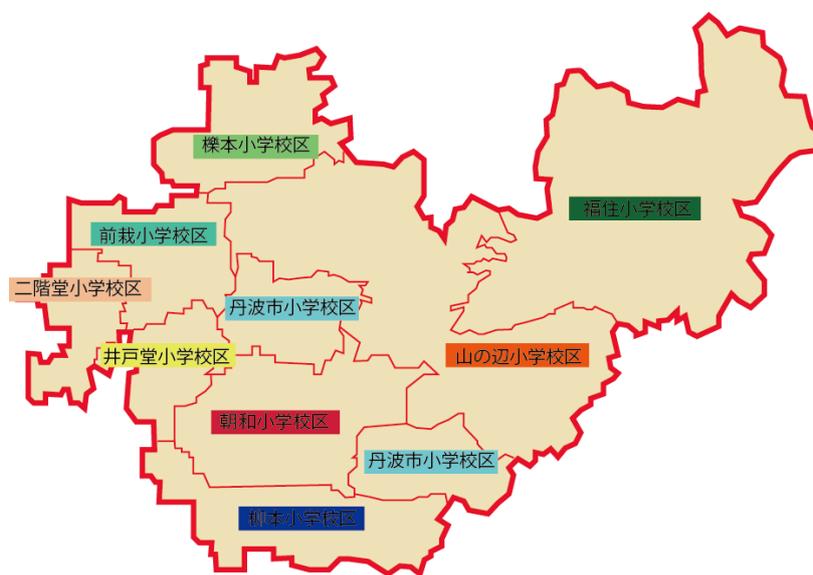


図 2-2-1-6 小学校区地図

図 2-2-1-7 は回答者の居住年数別割合を表している。20 年以上の割合が 73% となり、回答者の大半が 20 年以上居住していることがわかった。一方で、居住年数が 5 年未満の回答者割合は 5% で新たな人の流入が少ないと予測される。

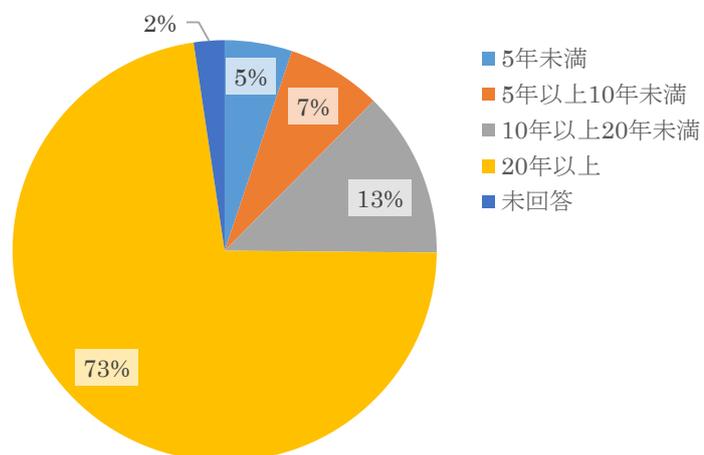


図2-2-1-7 居住年数別回答者割合

2-2-2 施設の現状に関する意識調査

東洋大学 PPP 研究センターで行われたアンケート調査を参考に、再構築した設問項目は表 2-2-2 に示した通りである。以下の設問項目に対して賛否を調査したところ、図 2-2-2 のような結果が得られた。「土地活用」「統廃合・多機能化」など市民に直接的な負担のかからない取組みに関しては、賛成意見が多かった。一方で、「利用料金引き上げ」「特別課税」など、市民に直接的な負担のかかる取組みに関しては、反対意見が多いことがわかった。

表 2-2-2 施設再編に関する設問項目

番号	内容	キーワード
1	現在ある施設の統廃合や機能の複合化により施設数を減らす	統廃合・多機能化
2	近隣自治体と共同で施設を運営し、施設を共有する	広域化
3	施設の建替えや運営管理に民間企業の技術や資金を活用する	PPP
4	地域活動に密着した施設は、地域住民に移管し、維持・管理する	地域移管
5	施設を補強し長持ちするようにして、しばらく建替えは行わない	長寿命化
6	施設を減らす代わりに民間施設(会議室・スポーツ施設)の利用に対して助成する	民間施設利用助成
7	利用していない市の土地を売却・賃貸して収入を得る	土地活用
8	施設のサービス水準(開館日数など)を引き下げる	サービス水準引き下げ
9	利用料金のかかる施設の料金を引き上げる	利用料金引き上げ
10	特別な税金等を集め、市民全体で負担する	特別課税

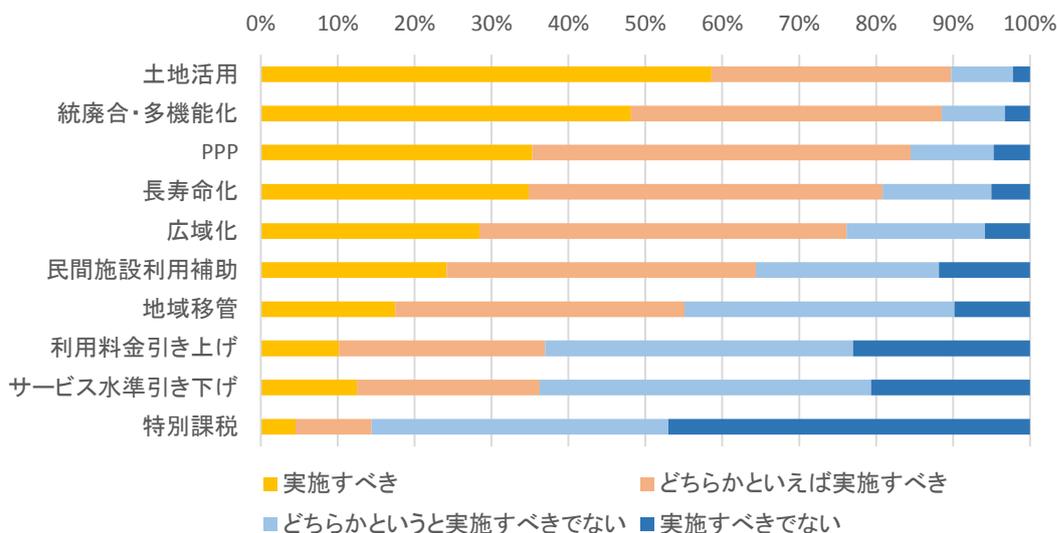


図2-2-2 天理市における施設再編に関する意見

2-2-3 施設の利用頻度に関する意識調査

各公共施設の利用頻度を調査し、施設系統別の利用頻度を図 2-2-3-1 に示した。天理市庁舎を含む行政系施設は「書類申請や手続き」等で利用されているため、他系統の施設と比較して、利用頻度が高いことがわかった。図書館、文化センター、公民館を含む市民文化系施設も比較的、利用されている。一方で、スポーツ・レクリエーション系施設、保健福祉系施設、学校教育系施設はかなり利用頻度が低いということがわかった。

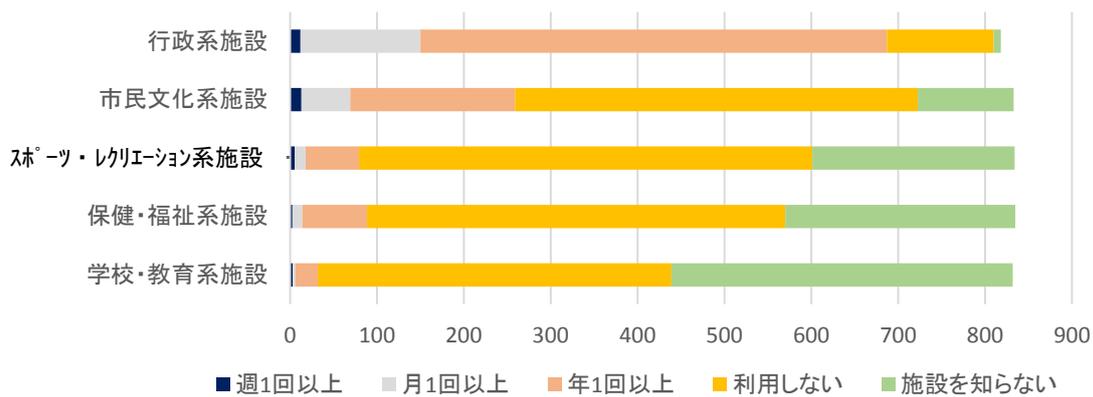


図2-2-3-1 施設系統別利用頻度

図 2-2-3-2 は公共施設全般に対して、最も重視するもの、次に重視するものを調査した結果である。最も重視するものとして、最も多い回答は「施設の立地」であった。次に重視するものでは、「1つの施設で様々なことができる」「利用料金が安い」など、施設のサービス水準の高さを重視するということがわかった。その他の回答として、「駐車場」「施設で行われるイベント内容」「施設の空調設備」などが挙げられた。

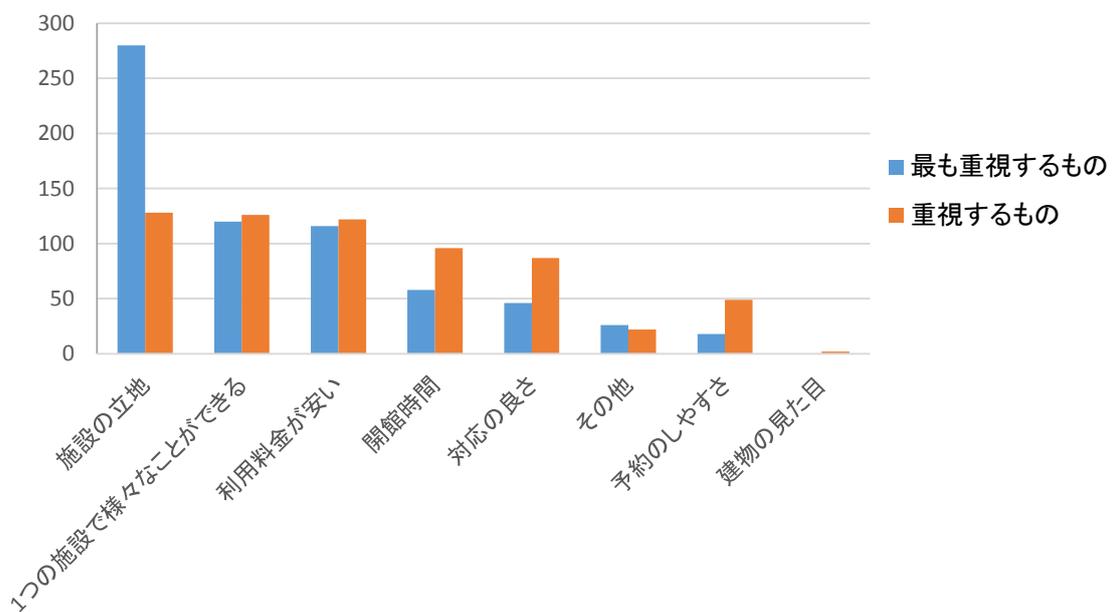


図2-2-3-2 公共施設に重視するもの

2-2-4 市への関心度に関する調査

図 2-2-4-1 は、居住理由を調査した結果である。「長く住んでいる、家族・親戚がいる」という回答が圧倒的に多い。一方で、「行政サービスが充実している」「公共施設が充実している」を居住理由に挙げる人は少なかった。その他の回答としては、「土地を保有している」「宗教の都合上住んでいる」という理由が多く挙げられた。

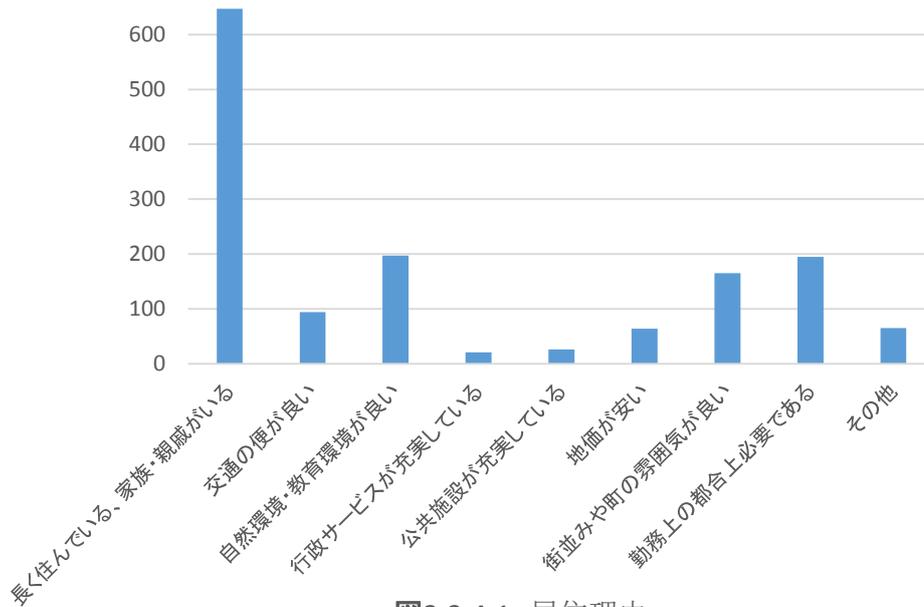


図2-2-4-1 居住理由

図 2-2-4-2 は、公共施設を利用する際に、公共施設か民間施設かの意識を調査した結果である。意識していると回答した人は全体の 33%で、半数以上の利用者が意識せずに利用しているということがわかった。

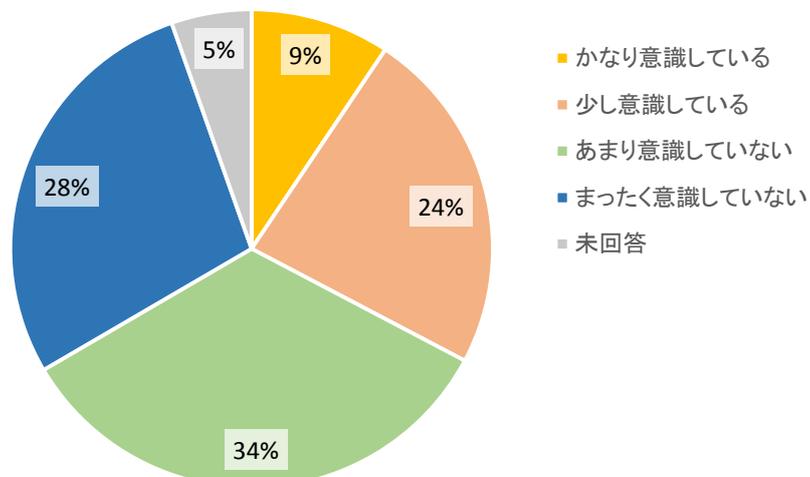


図2-2-4-2 施設利用の際の公共施設か民間施設かの意識

図 2-2-4-3 は、FM を知っているか調査した結果、図 2-2-4-4 は、天理市まちづくりに関する計画である「総合計画」に対する認知度を調査した結果である。FM の認知度は知らないという回答が 84%で、大半が知らないことがわかった。また、「総合計画」についても知らないという回答が 71%で、かなり認知度が低い。

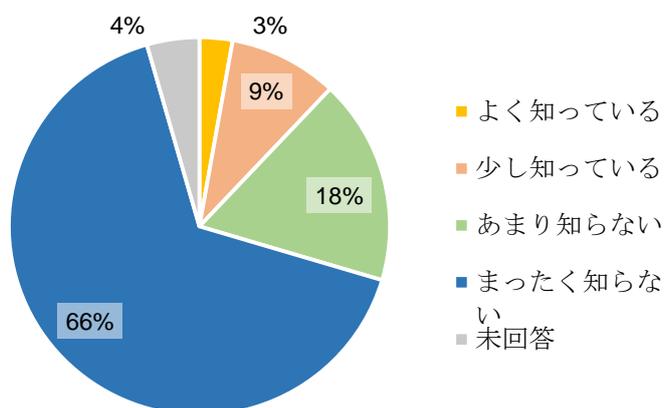


図2-2-4-3 FMの認知度

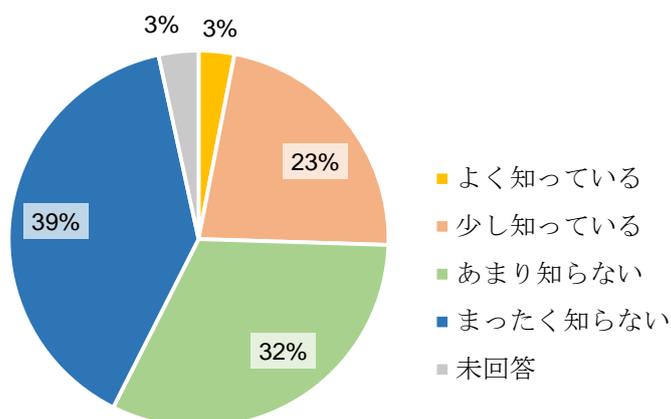


図2-2-4-4 「総合計画」の認知度

図 2-2-4-5 は、天理市の財政状況に対する関心度を調査した結果である。回答者の 73% が財政状況に関心があると回答しており、関心度はかなり高い。また、図 2-2-4-6 は天理市の今後に不安があるかを調査した結果である。回答者の半数以上が、不安があると回答している。

図 2-2-4-5、図 2-2-4-6 の結果から、市民の市政への関心度は比較的高いと考えられるが、一方で、図 2-2-4-3、図 2-2-4-4 の結果からも読み取れるように今までの市での取組みに対する認知度は低いことがわかった。

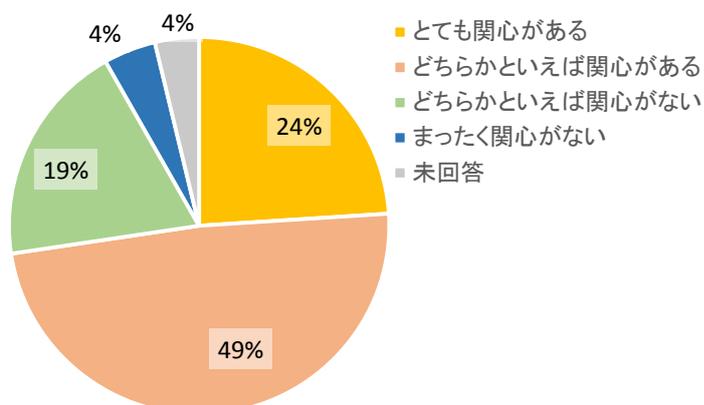


図2-2-4-5 市の財政状況への関心度

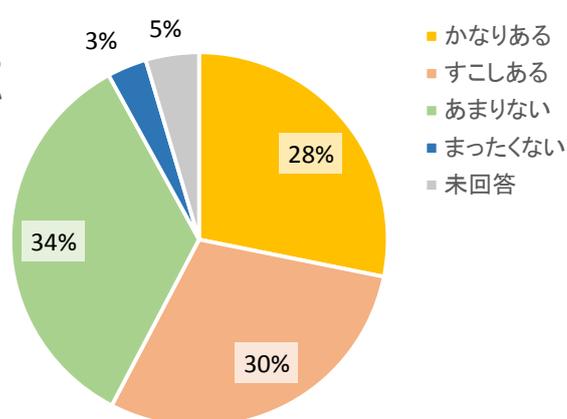


図2-2-4-6 市の今後に対する不安度

図 2-2-4-7 は市の今後に不安があると回答した住民に対して、どのような点で不安だと感じるかを調査した結果である。天理市の財政状況に対して、不安に感じている回答者が最も多く、それ以外には少子高齢化や人口減少などが不安な点として挙げられた。また、行政サービスの低下や建物の老朽化など、今後の公共施設の維持管理を進めるにあたり、考えていかなければいけない問題点も明確になった。

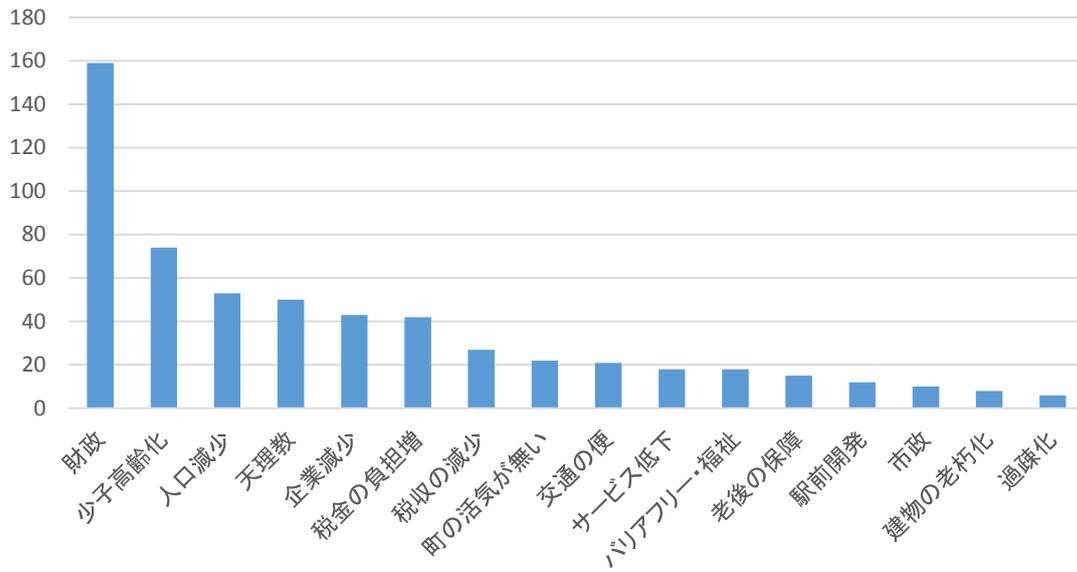


図2-2-4-7 不安だと感じる点

2-3 アンケート分析

施設再編に関する分析

2-3-1 他自治体との比較

本アンケートの問1施設の現状に関する意識調査と東洋大学PPP研究センターで過去に調査が行われた自治体（深谷市、武蔵野市）を対象に比較分析を行った。図2-3-1-1は「実施すべき（積極的賛成）」「どちらかといえば実施すべき（消極的賛成）」と回答した人の全体に占める割合を表したものである。「賛成率=(積極的賛成+消極的賛成)÷全体×100」とする。図2-3-1-1から賛成率は他自治体とほとんど差は見られず、似たような結果が得られた。

参考：武蔵野市公共施設再編に関する研究報告書（東洋大学PPP研究センター）

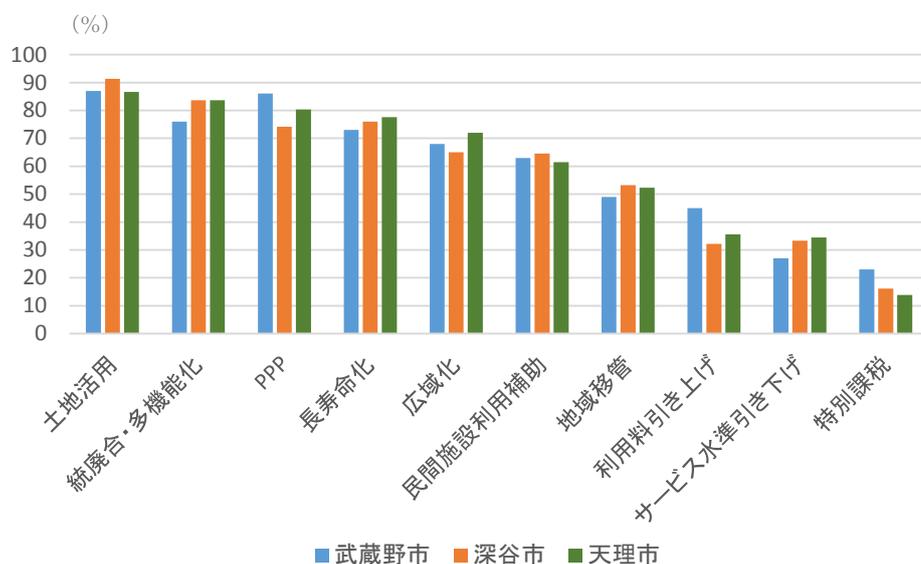


図2-3-1-1 賛成率の他自治体との比較

深谷市公共施設の在り方に関する研究報告書（東洋大学PPP研究センター）

図 2-3-1-2、図 2-3-1-3 はそれぞれ土地活用、統廃合・多機能化に対する世代別の積極的賛成/反対比率を表したものである。図 2-3-1-2 から土地活用に関して、30 歳代、70 歳代以上で積極的反対に対する積極的賛成の比率が高いことがわかる。また、図 2-3-1-3 から統廃合・多機能化に関しては、30 歳代から 50 歳代で積極的反対に対する積極的賛成の比率が高いとわかった。

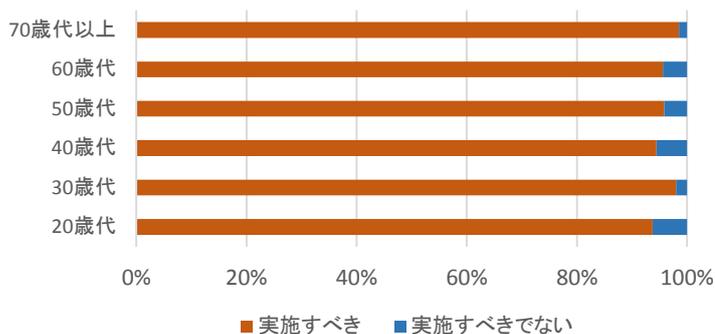


図2-3-1-2 土地活用に対する世代別積極的賛成/反対比率

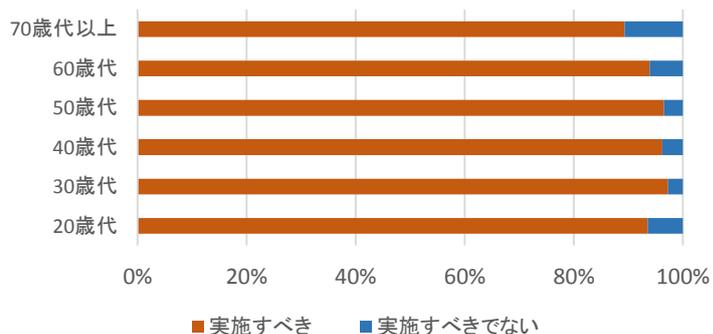


図2-3-1-3 統廃合・多機能化に対する世代別積極的賛成/反対比率

2-3-2 世代別・小学校区別分析

本節では、公共施設の再編に関する取組みに対する住民の意見を世代別・小学校区別に分析を行った。以下、取組みごとの分析結果である。

(1) 土地活用

図 2-3-2-1 は土地活用に対する世代別賛否の割合を表している。世代別の賛否はそれほど大きな差は見られず、どの世代も土地活用に対する賛成意見が 9 割近い結果となった。

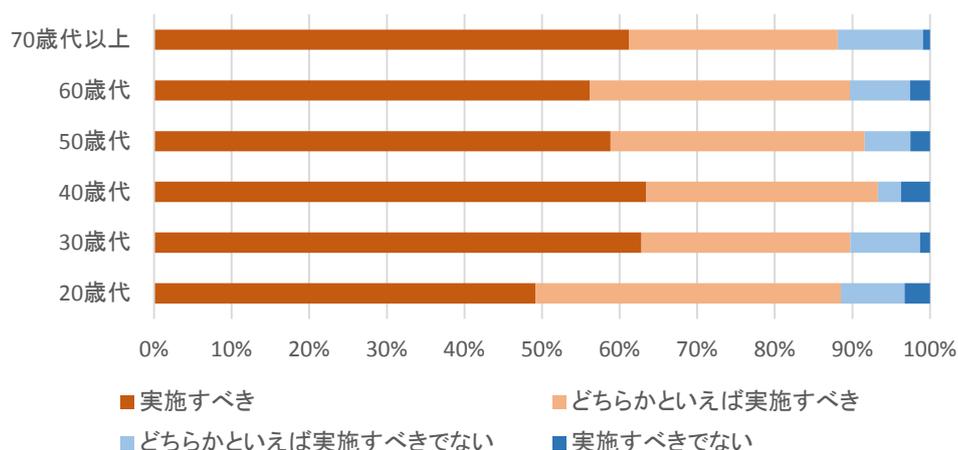


図2-3-2-1 土地活用に対する世代別賛否の割合

図 2-3-2-2 は土地活用に対する小学校区別賛否の割合を表している。「実施すべき」「どちらかといえば実施すべき」と回答した割合は、9 校区とも 9 割前後であった。

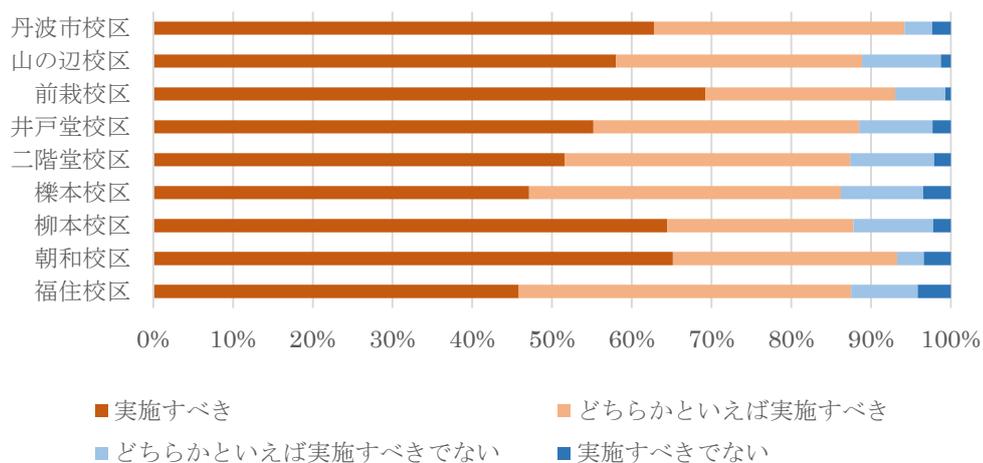


図2-3-2-2 土地活用に対する小学校区別賛否の割合

(2) 統廃合・多機能化

図 2-3-2-3 は統廃合・多機能化に対する世代別賛否の割合を表している。どの世代も賛成の割合は 9 割前後であった。

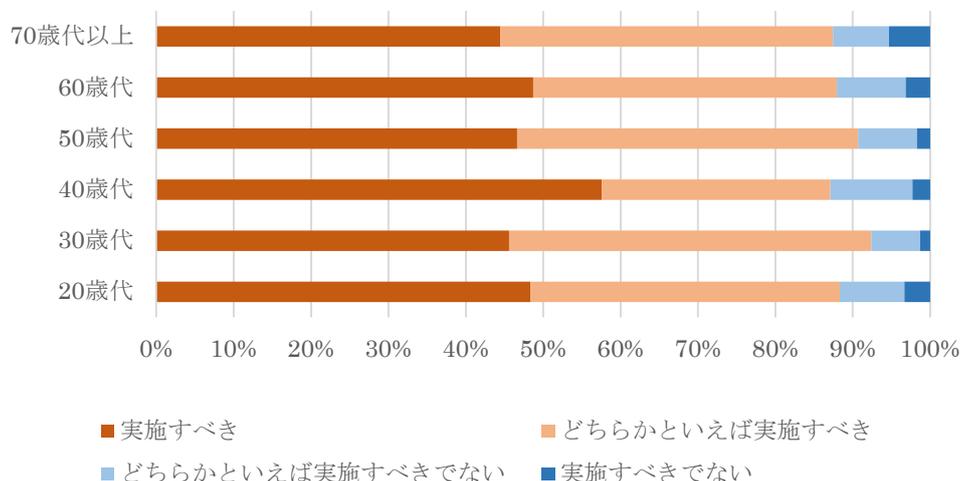


図2-3-2-3 統廃合・多機能化に対する世代別賛否の割合

図 2-3-2-4 は統廃合・多機能化に対する小学校区別賛否の割合を表している。統廃合・多機能化について小学校区別に見ても、9校区とも賛成の割合が9割前後で賛成の意見が多く、世代、居住地区に関わらず、統廃合・多機能化に関して市民が前向きな意見を持っていることが分かった。

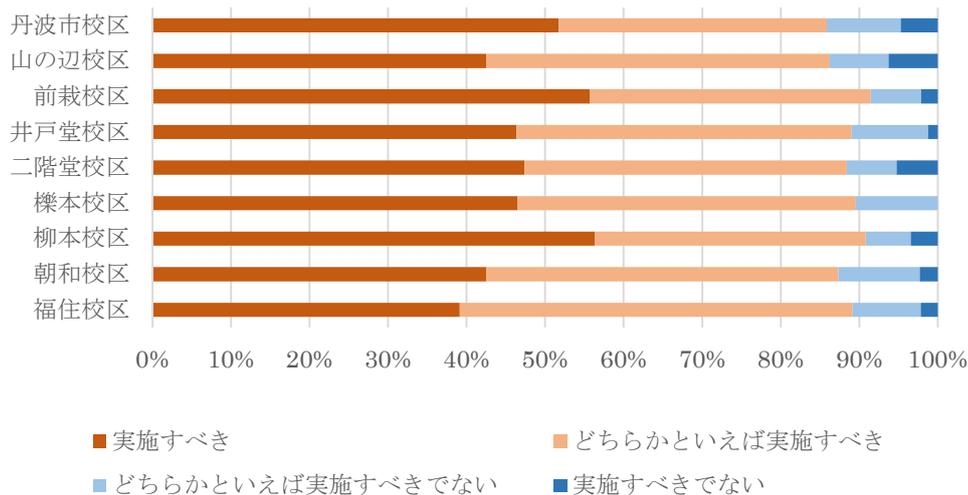


図2-3-2-4 統廃合・多機能化に対する小学校区別賛否の割合

(3) PPP

図 2-3-2-5 は PPP に対する世代別賛否の割合を表している。世代を問わず、賛成の割合が 80%から 90%で民間の技術やノウハウを活用することに対して、前向きな意見が多かった。

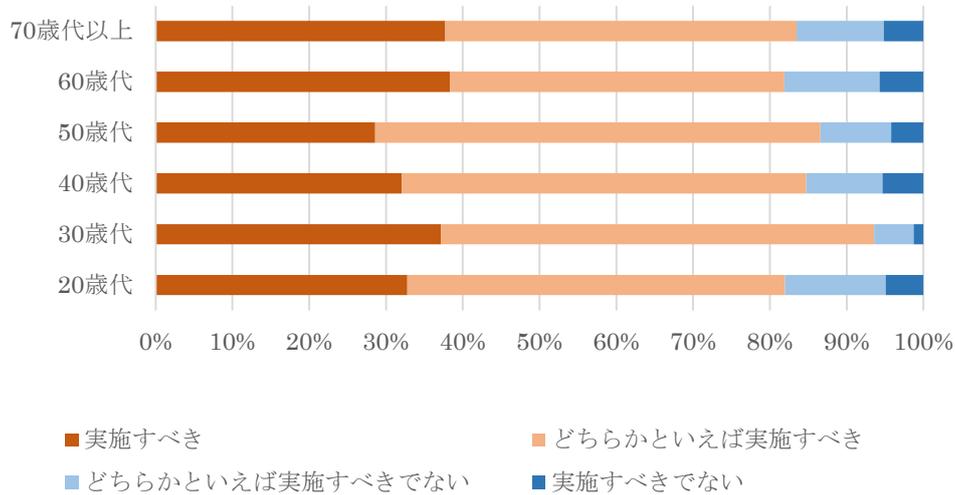


図2-3-2-5 PPPに対する世代別賛否の割合

図 2-3-2-6 は PPP に対する小学校区別賛否の割合を表している。樺本校区のみ賛成の割合が 8 割以下となったが、その他の校区では 8 割から 9 割で、PPP に関しても比較的賛成意見が多かった。

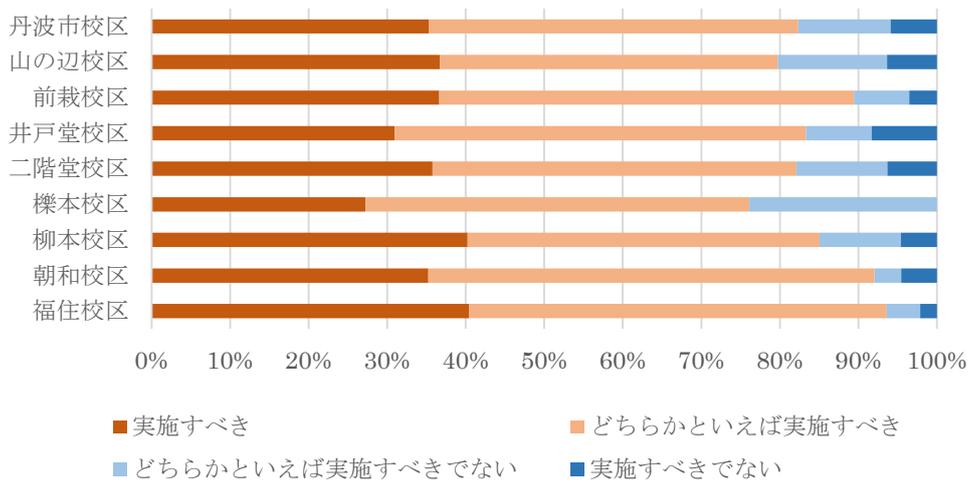


図2-3-2-6 PPPに対する小学校区別賛否の割合

(4) 長寿命化

図 2-3-2-7 は建物の長寿命化に対する世代別賛否の割合を表している。高齢者ほど長寿命化に対して賛成の意見が多く、施設に対して愛着のある市民が多いのではないかと考えられる。

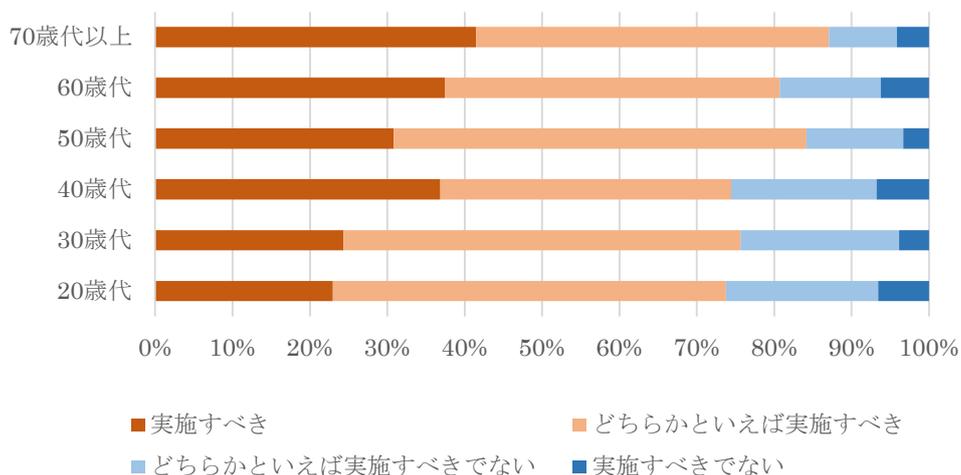


図 2-3-2-7 長寿命化に対する世代別賛否の割合

図 2-3-2-8 は建物の長寿命化に対する小学校区別賛否の割合を表している。朝和校区、福住校区は他校区に比べ、賛成意見が多かった。福住校区に関しては、山間部かつ公共施設が少ないので、施設の存続を考え、このような結果となったのではないかと考えられる。

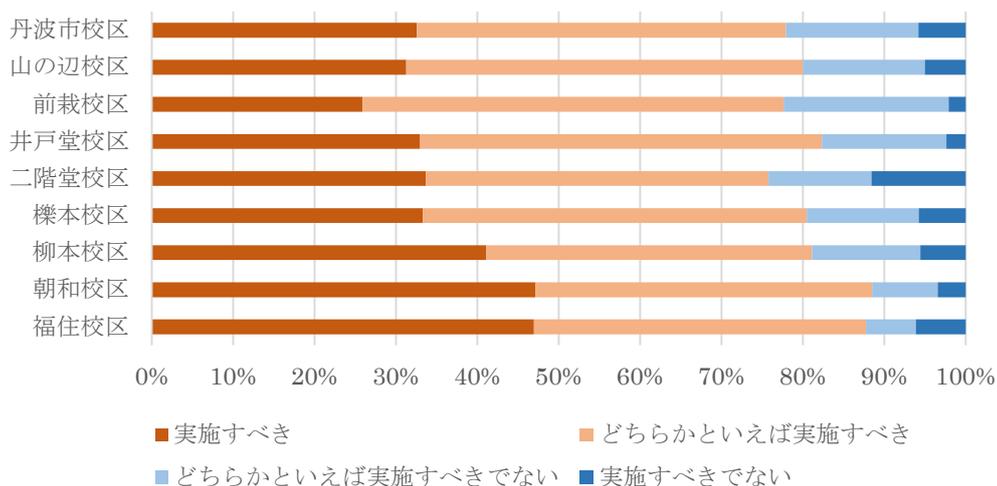


図 2-3-2-8 長寿命化に対する小学校区別賛否の割合

(5) 広域化

図 2-3-2-9 は広域化に対する世代別賛否の割合を表している。広域化に対して世代間での差はそれほど見られなかった。どの世代も賛成の割合が 8 割前後であった。

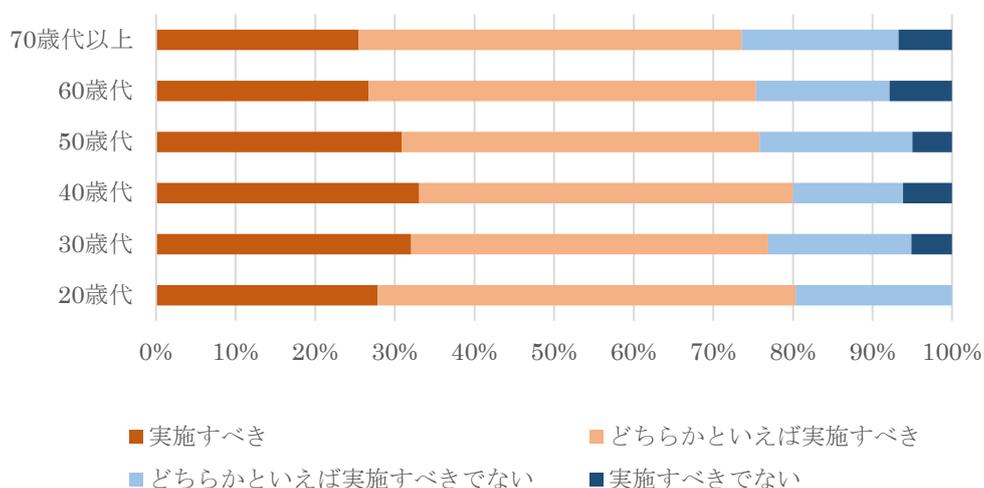


図2-3-2-9 広域化に対する世代別賛否の割合

図 2-3-2-10 は広域化に対する小学校区別賛否の割合を表している。どの小学校区も賛成の割合は 7 割から 8 割前後であった。

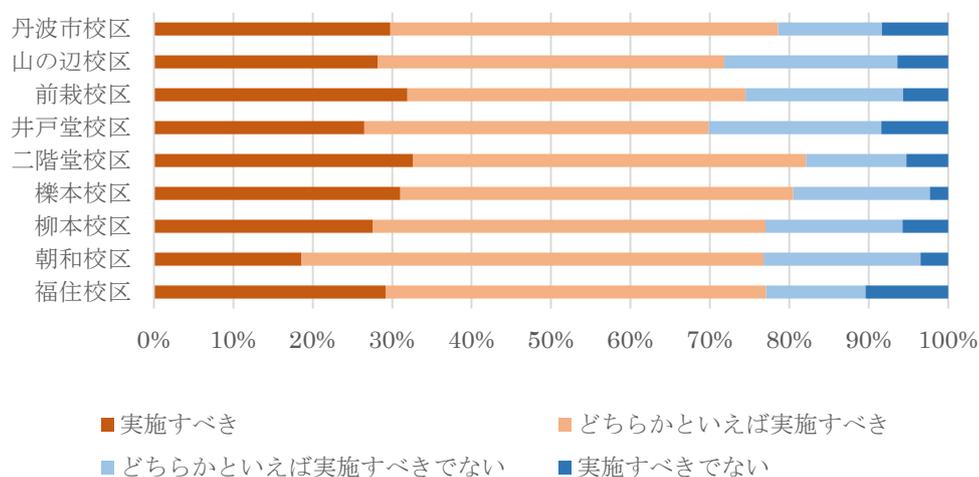


図2-3-2-10 広域化に対する小学校区別賛否の割合

(6) 民間施設利用助成

図 2-3-2-11 は民間施設利用助成に対する世代別賛否の割合を表している。世代間での意見の差はほとんど見られなかった。どの世代も賛成の割合は6割から7割程度であった。

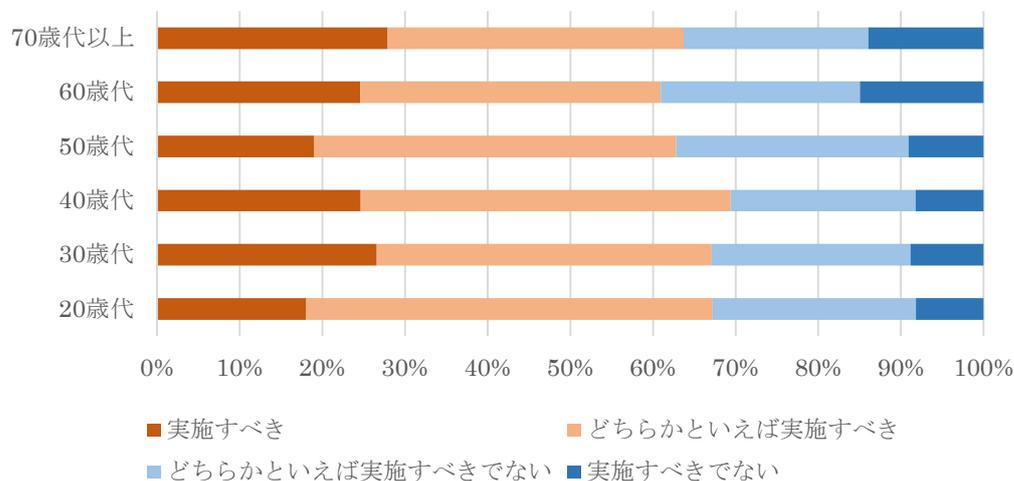


図2-3-2-11 民間施設利用助成に対する世代別賛否の割合

図 2-3-2-12 は民間施設利用助成に対する小学校区別賛否の割合を表している。どの校区も賛成の割合は6割から7割程度で、ほとんど差は見られなかった。

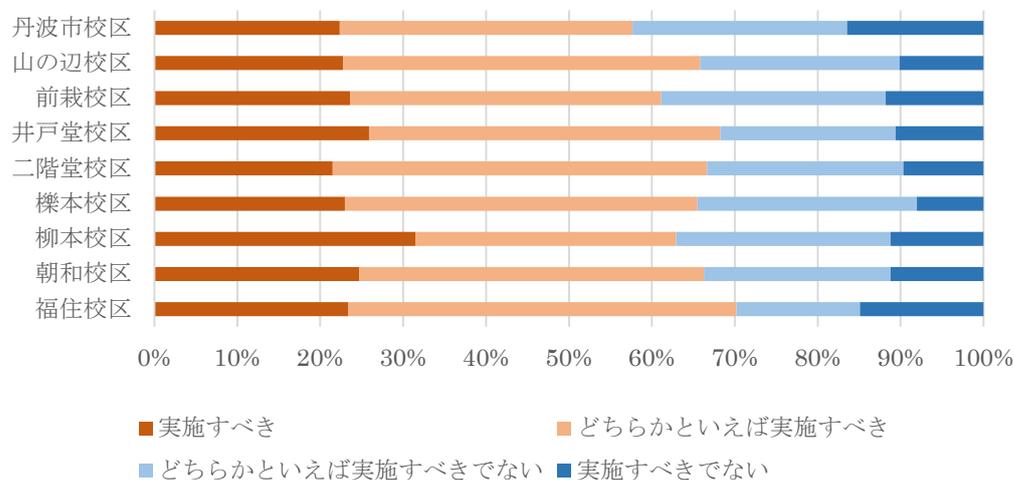


図2-3-2-12 民間施設利用助成に対する小学校区別賛否の割合

(7) 地域移管

図 2-3-2-13 は地域移管に対する世代別賛否の割合を表している。30 歳代から 50 歳代までの働いている世代は否定的な意見が半数近い結果となったが、20 歳代と 60 歳代以上は賛成の意見が 6 割前後であった。

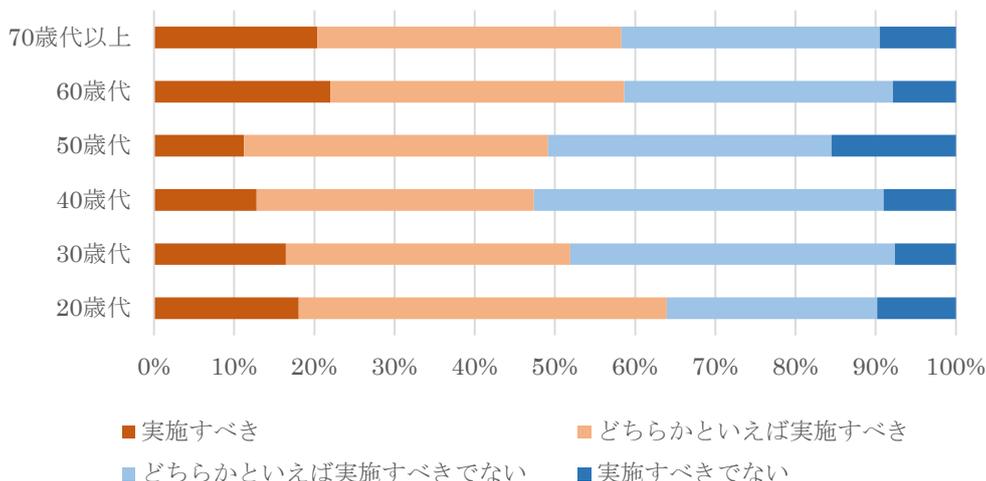


図2-3-2-13 地域移管に対する世代別賛否の割合

図 2-3-2-14 は地域移管に対する小学校区別賛否の割合を表している。福住校区、柳本校区は賛成意見が 6 割前後で、他校区も賛成の割合が 5 割前後であった。

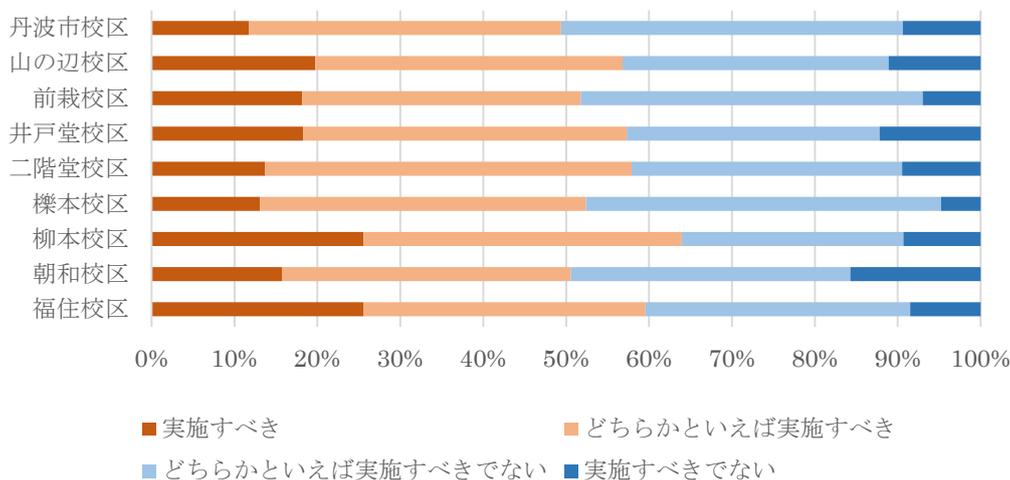


図2-3-2-14 地域移管に対する小学校区別賛否の割合

(8) 利用料金引き上げ

図 2-3-2-15 は料金引き上げに対する世代別賛否の割合を表している。どの世代も反対意見の方が多い。特に 20 歳代、30 歳代は「実施すべき」という回答が 10%に満たなかった。

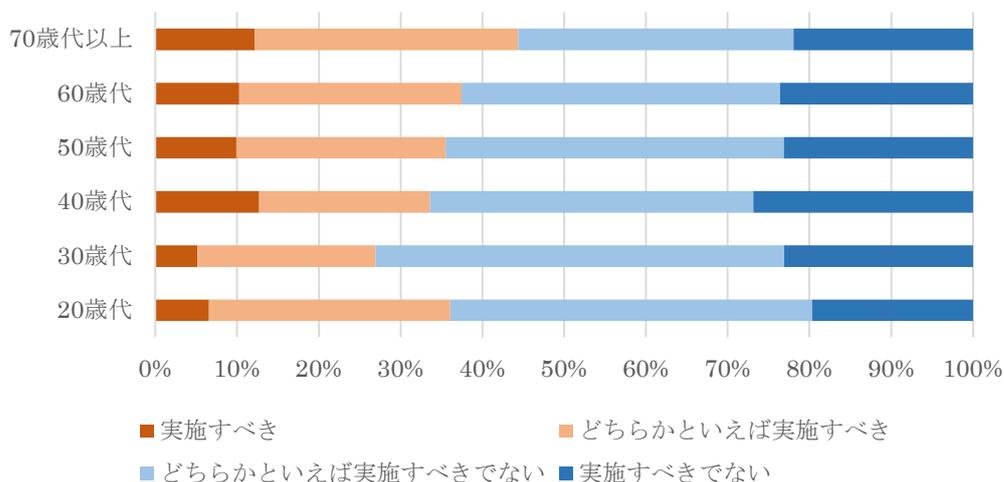


図2-3-2-15 利用料金引き上げに対する世代別賛否の割合

図 2-3-2-16 は利用料金引き上げに対する小学校区別賛否の割合を表している。どの小学校区も反対意見が半数以上を占めた。

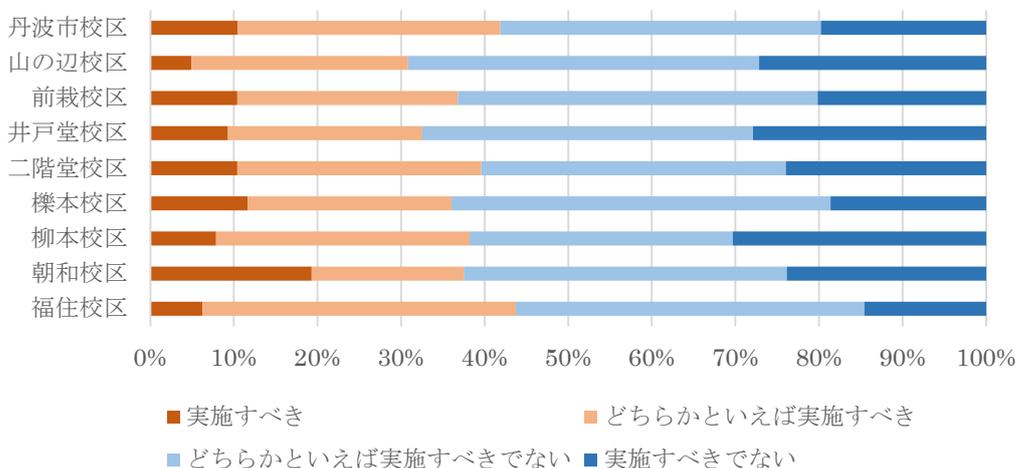


図2-3-2-16 利用料金引き上げに対する小学校区別賛否の割合

(9) サービス水準引き下げ

図 2-3-2-17 はサービス水準引き下げに対する世代別賛否の割合を表している。各世代とも半数以上が反対しているが、特に 20 歳代は 7 割が反対しており、他世代に比べ、反対意見が多い結果となった。

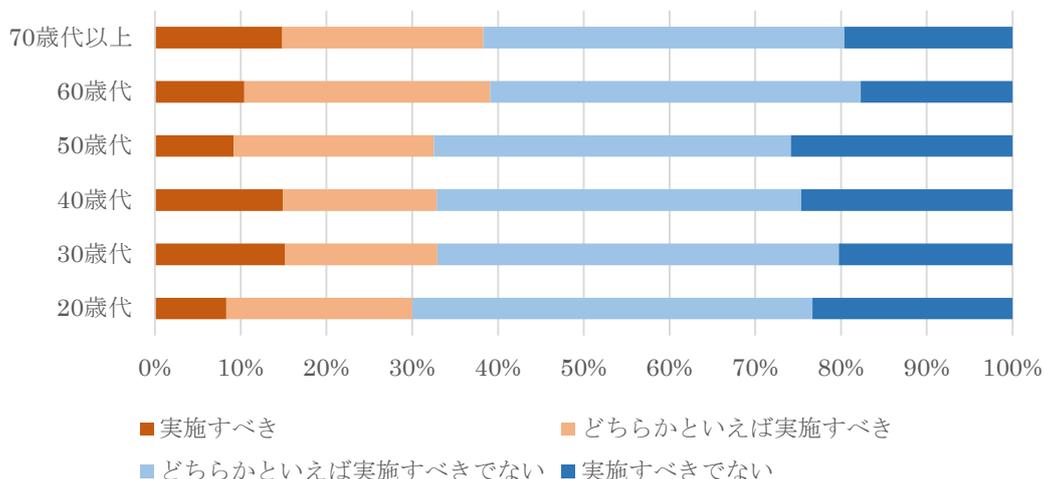


図2-3-2-17 サービス水準引き下げに対する世代別賛否の割合

図 2-3-2-18 はサービス水準引き下げに対する小学校区別賛否の割合を表している。福住校区のみ賛成意見が半数を超えた。一方で、他校区は反対意見の方が多く結果となった。

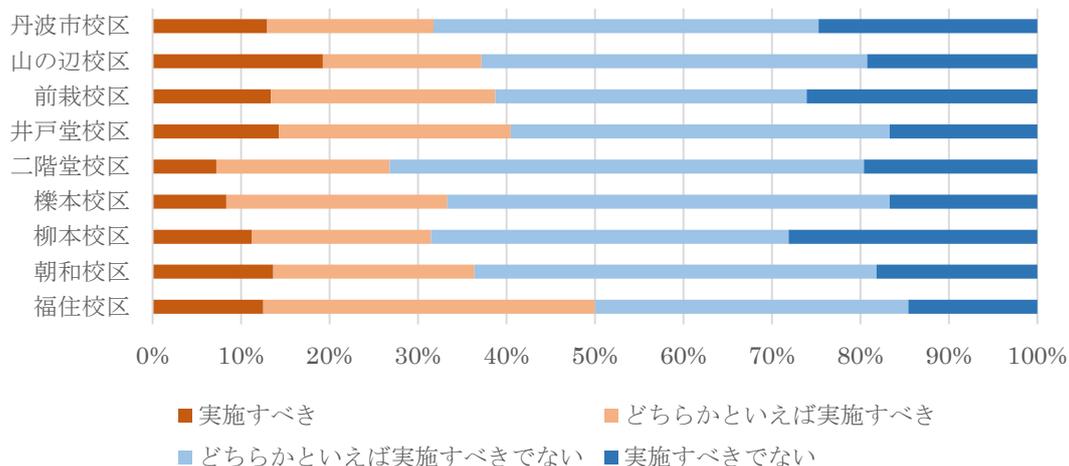


図2-3-2-18 サービス水準引き下げに対する小学校区別賛否の割合

(10) 特別課税

図 2-3-2-19 は特別課税を設置することに対する世代別賛否の割合を表している。どの世代も 8 割から 9 割が反対意見であることが分かった。特に 30 歳代、40 歳代では「実施すべきでない」という回答が半数以上を占めた。

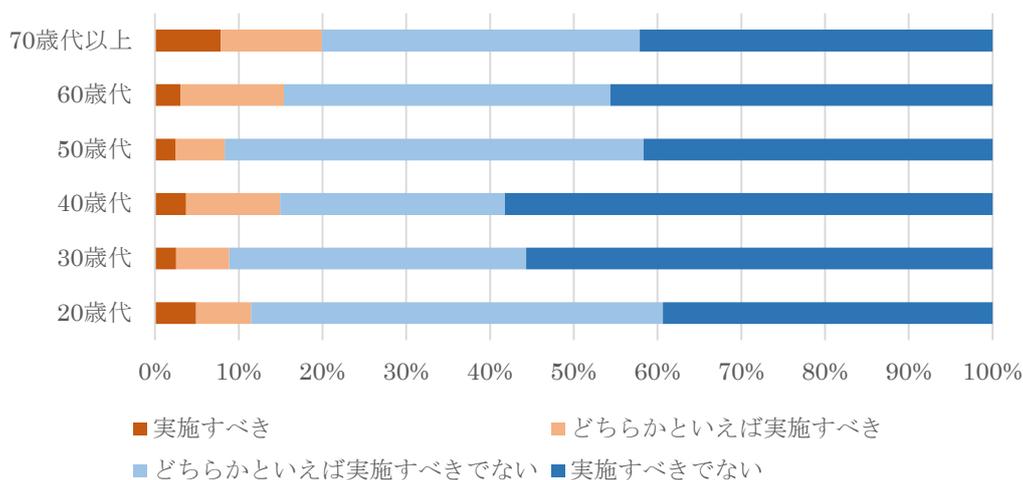


図2-3-2-19 特別課税に対する世代別賛否の割合

図 2-3-2-20 は特別課税を設置することに対する小学校区別賛否の割合を表している。9 校区とも 7 割以上が反対しているが、特に朝和校区、山の辺校区、柳本校区で反対意見が多かった。

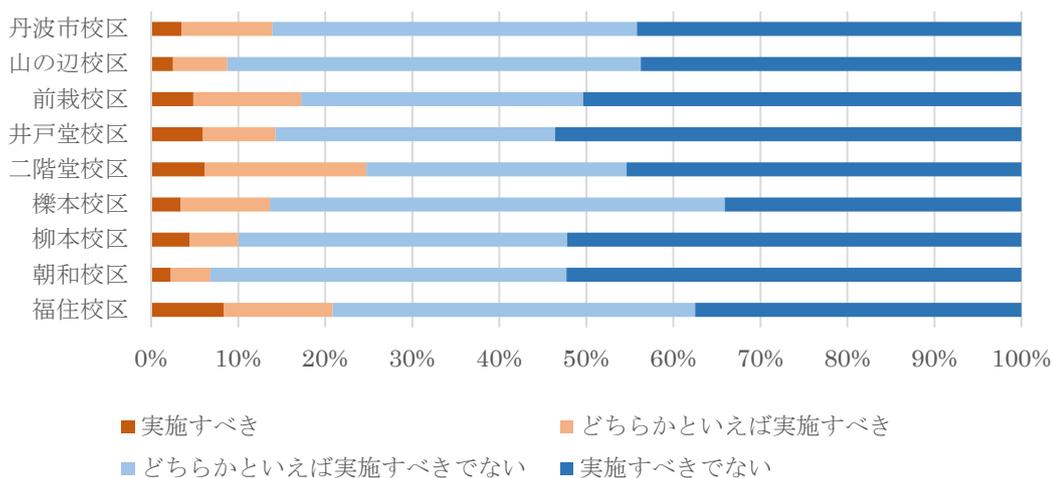


図2-3-2-20 特別課税に対する小学校区別賛否の割合

2-3-3 公共施設に対して重要視するものに関する分析

本節では公共施設全般に対して何を重視するかを調査したものを、世代別、小学校区別に分析を行った。

●世代別分析

図 2-3-3-1 は公共施設に対して最も重視するものを世代別に表したものである。全体として施設の立地を重視するという回答が多かったが、その中でも年齢が上がるほど施設の立地を重視する事が分かった。一方で、20 歳代、30 歳代は施設の利用料金の安さを重視している。

図 2-3-3-2 は公共施設に対して 2 番目に重視するものを世代別に表したものである。2 番目に重視するものでも、20 歳代は施設の立地という回答が他世代に比べて圧倒的に少なかった。

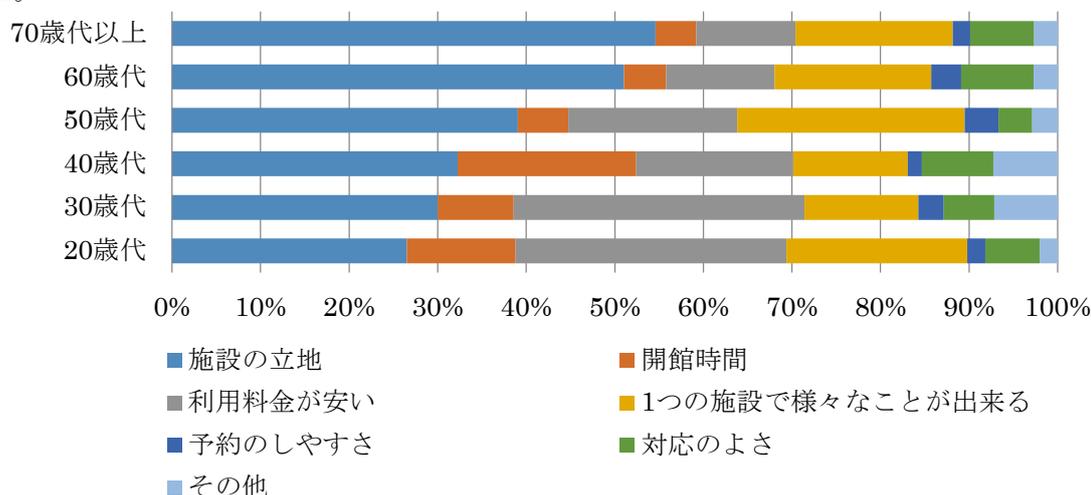


図2-3-3-1 世代別公共施設に最も重視するもの

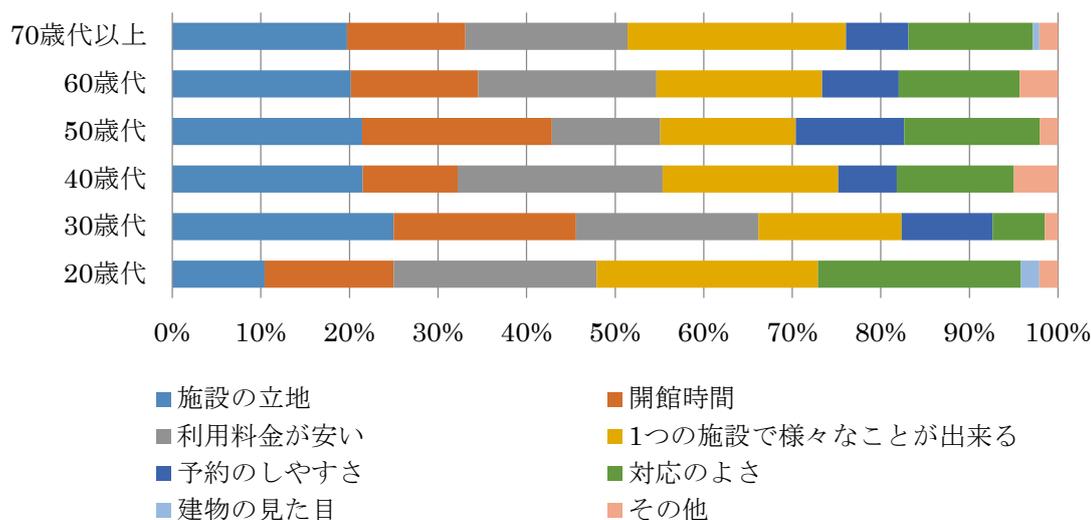


図2-3-3-2 世代別公共施設に2番目に重視するもの

●小学校区別分析

図 2-3-3-3 は公共施設に最も重視するものを小学校区別に表したものである。どの校区も施設の立地を重視している割合が最も高いが、福住校区に関しては 1 つの施設で様々な事ができるという回答も他校区に比べて多かった。

図 2-3-3-4 は公共施設に 2 番目に重視するものを小学校区別に表したものである。福住校区のみ利用料金の安さを重視するという回答が少なかった。他校区は回答にあまり偏りがなかった。

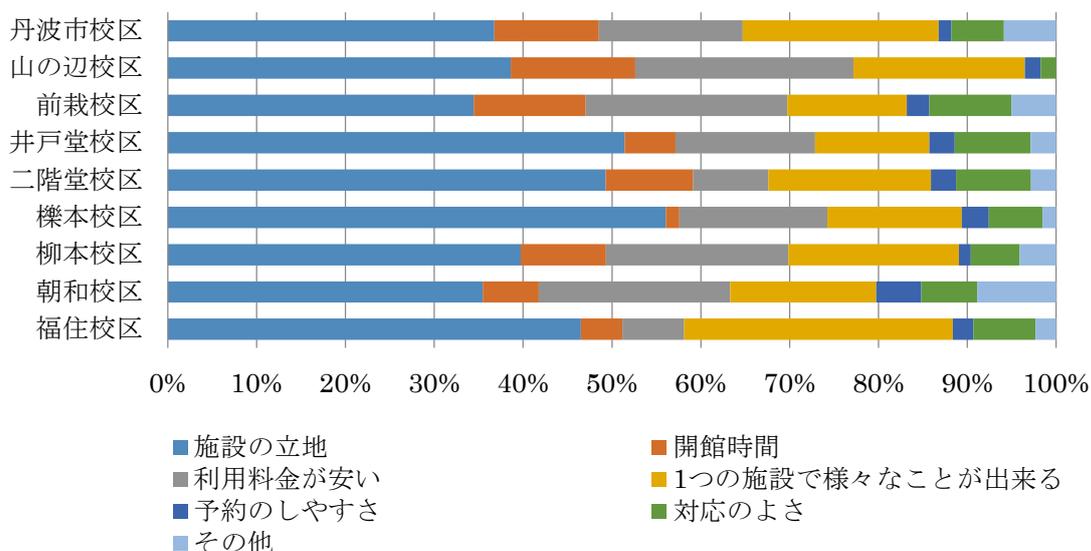


図2-3-3-3 小学校区別公共施設に最も重視するもの

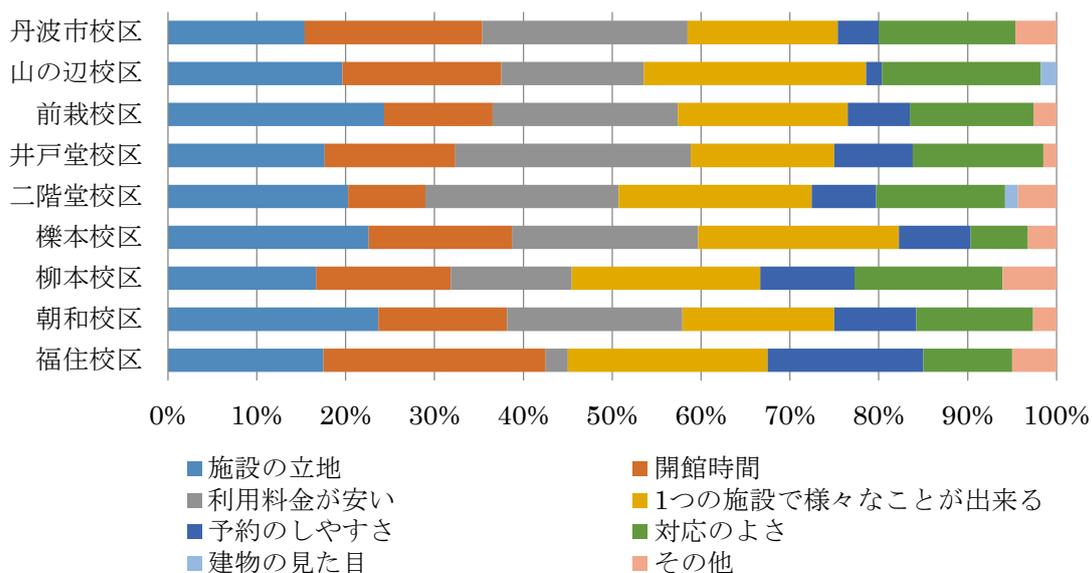


図2-3-3-4 小学校区別公共施設に2番目に重視するもの

表 2-3-3 は天理市の今後に対する不安度と市の財政状況に対する関心度の関係性を表したものである。不安がかなりあると回答している市民ほど、財政状況に対しても関心があることがわかった。一方で、不安がまったくないと回答している市民ほど財政状況に対しても関心がないと言える。

表 2-3-3 今後への不安度と財政状況への関心度の関係性

		天理市の今後に対する不安				
		かなりある	すこしある	あまりない	まったくない	未回答
財政状況への 関心度	とても関心がある	57.1%	24.4%	16.6%	1.0%	1.0%
	どちらかといえば関心がある	22.4%	39.2%	34.1%	2.2%	2.2%
	どちらかといえば関心がない	11.6%	20.7%	64.0%	3.0%	.6%
	まったく関心がない	23.7%	7.9%	31.6%	34.2%	2.6%
	未回答	9.4%	6.3%	3.1%		81.3%

2-4 二章まとめ

市民に直接負担のかかる、「利用料金の引き上げ」や「特別課税の設置」については反対意見が多数であったため、金銭的負担のかからない手段で、今後は公共施設再編について考えていく必要があると言える。

施設利用に関して、天理市内の公共施設の中にはほとんど利用されていない施設がかなり多いという実態が明らかになった。こうした施設に対して、財政状況が厳しい中で維持管理費を費やしていくのではなく、財源を確保するためにも施設の統廃合や多機能化、集約化等を考えていくことが求められる。また、公共施設に対して重要視するものとして、最も多く挙げられた「施設の立地」を考慮し、こうした施設再編の取り組みを行っていく必要があるとわかった。特に施設の利用頻度の高い高齢者にとって、施設の立地、つまり施設への行きやすさ、交通手段が整っていることが非常に重要となってくる。このような実態も踏まえ、公共施設の在り方を考えていくことが今後、重要となってくるといえる。

市民の市政への関心度に関して、若い世代では非常に関心度が低いという現状が明らかになった。自らが居住している地域の政治に関心がない人が多いという実態は、社会的にも問題である。本アンケート調査を行ったことにより、このような新たな問題点も明らかとなった。

こうした現状を踏まえ、今後も公共施設マネジメントを進めていく手段を検討していく必要がある。

第三章 天理市連携自治体 川西町、三宅町、山添村

3-1 連携自治体アンケート

3-1-1 川西町、三宅町、山添村について

天理市では、平成 26 年度より新たな広域連携の取組みである「定住自立圏構想」を推進している。定住自立圏（構想）とは、中心となる市と近隣の市町村とが相互に役割分担することで、生活に必要な機能を確保し、地域の魅力の向上を図ることを目的とする取組みである。天理市は、近隣町村である山添村、川西町、三宅町と定住自立圏の形成に関する協定を締結し、「大和まほろば広域定住自立圏」を形成し、連携・協力してそれぞれの特性を活かした魅力ある地域づくりを目指して取組んでいる。

今回、この連携 3 町村との公共施設に関する新たな連携の可能性等について検討を行った。

表 3-1-1 では川西町、三宅町、山添村の基本情報を表している。

表 3-1-1 川西町、三宅町、山添村の基本情報

	川西町	三宅町	山添村
人口(平成27年度)	8,784	7,093	3,676
経常収支比率(平成25年度)	83	88	89
歳入総額(平成25年度)	5,800,616	3,397,402	3,096,775

(1) 生産人口の将来推計

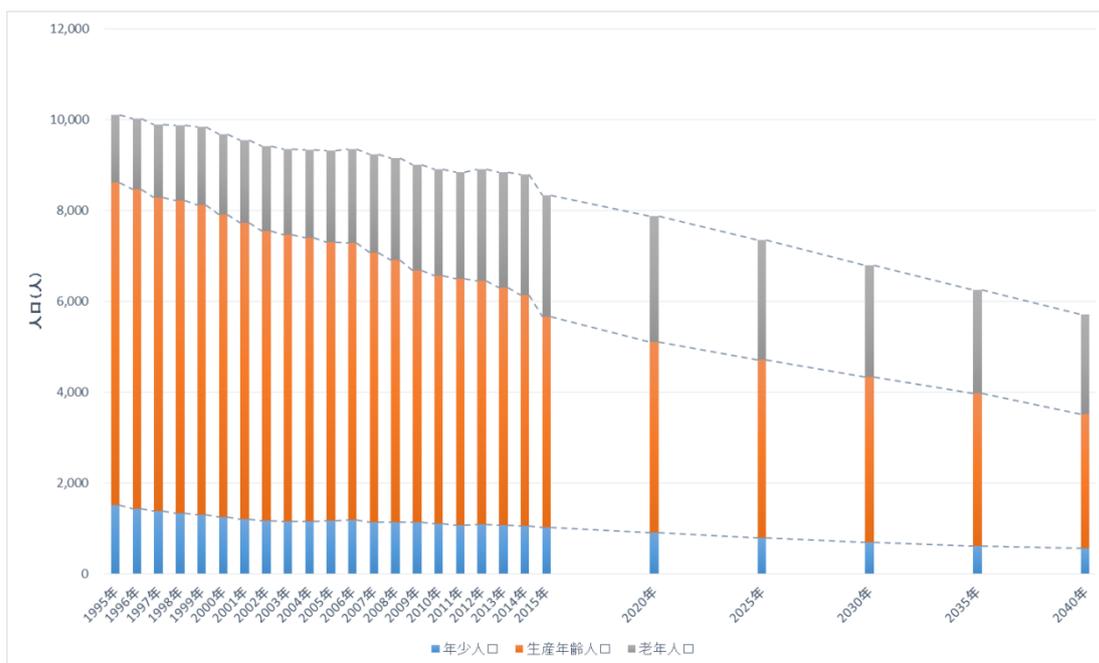


図 3-1-2 川西町生産人口将来推計

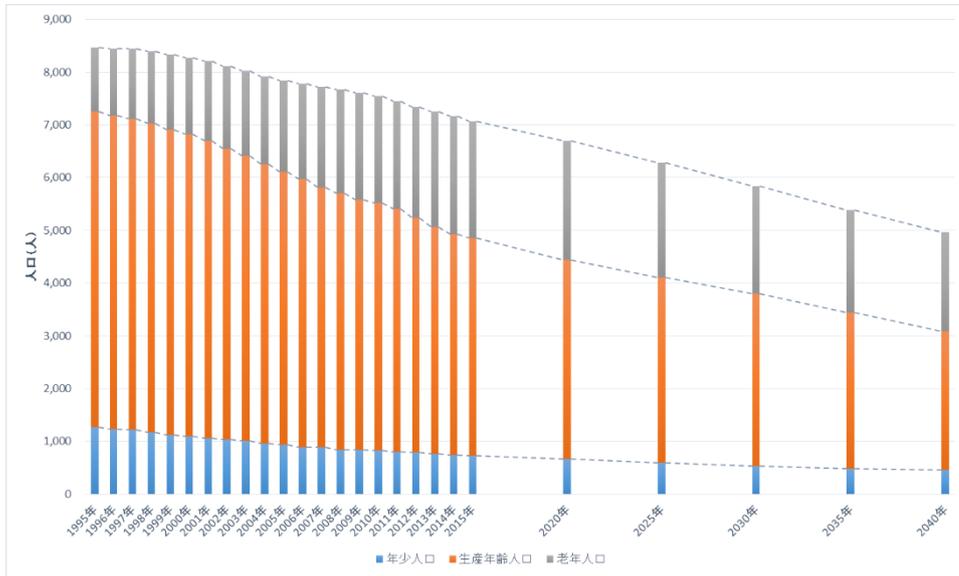


図 3-1-3 三宅町生産人口将来推計

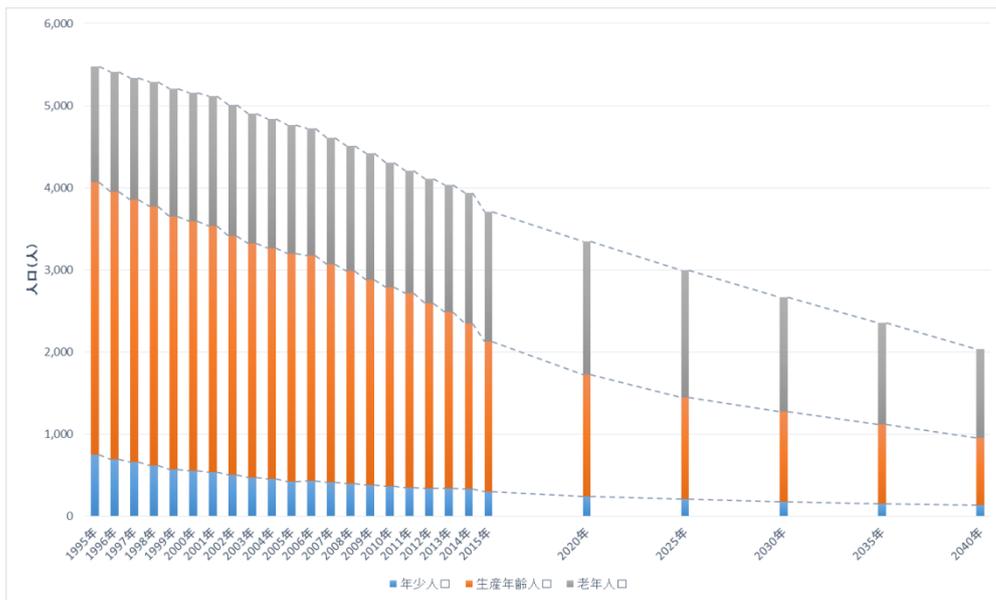


図 3-1-4 山添村生産人口将来推計

上記の3つの図は、3町村の生産人口の将来推計を表している。2015年と2040年と比較すると、各自治体は2040年には、2015年の約7割になる結果が出た。山添村は人口2000人を下回り、自治体運営はきびしくなる可能性が高い。

(2) 經常収支比率

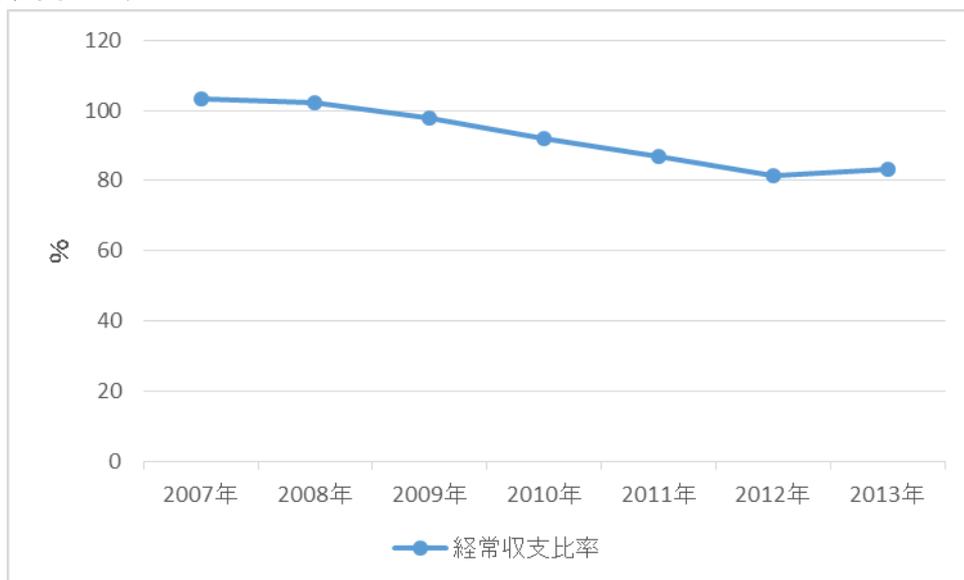


図 3-1-5 川西町 經常収支比率

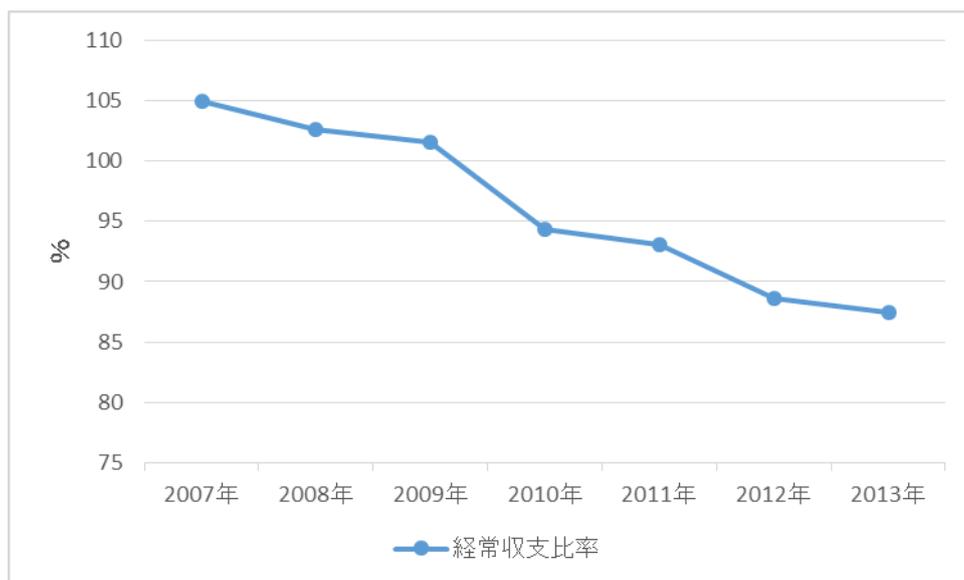


図 3-1-6 三宅町 經常収支比率

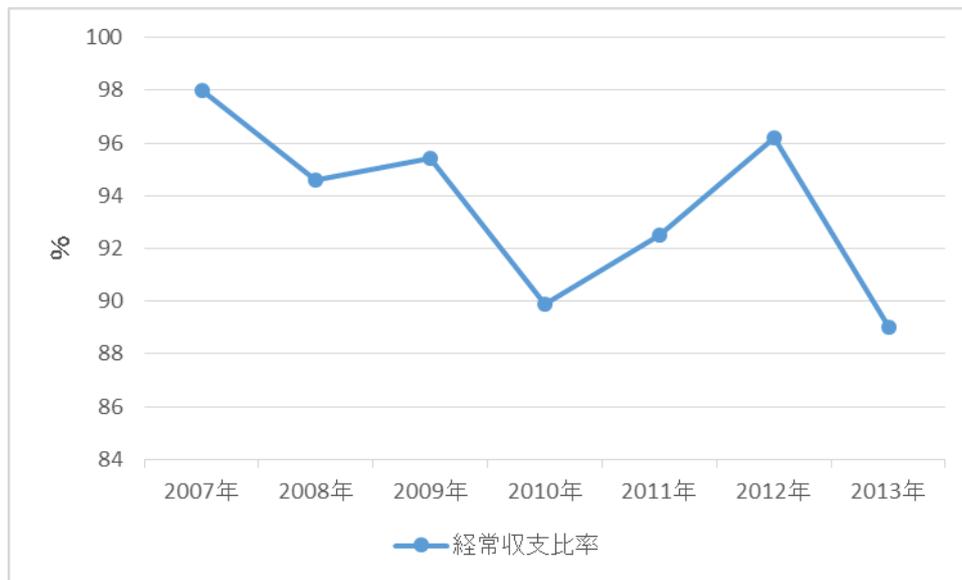


図 3-1-7 山添村 経常収支比率

上記の 3 つの図は、3 町村の経常収支比率を表している。町村だと、75%を上回らないことが望ましいとされている。各町村ともバラつきはあるが、近年で見ると減少傾向になっているが、未だ高い比率なので、財政の健全化のために改善が求められる。

3-1-2 アンケート調査

●アンケート調査概要

今回は、連携自治体の取り組みの初期段階として、各自治体の公共施設について住民の意見を把握するため、3町村の住民アンケートを行った。

(1) 調査対象

平成27年12月1日現在、20歳以上の川西町、三宅町、山添村の中から無作為に抽出した3742名

(2) 実施期間

平成27年12月上旬にアンケートを送付し、12月31日までに回収を行った。

(3) 回収状況

表 3-1-2-1 回収状況

	送信数	回答数	回答率
川西町	1700	371	22%
三宅町	1400	346	25%
山添村	642	156	24%
計	3742	873	

(4) 調査項目

調査項目は以下に示す通りである。

表-3-1-2-2 アンケート調査項目

項目	問番号	内容
施設の現状に関する意識調査	問1	今後の維持・管理に関する意見
施設の利用に関する調査	問2	重視すること
町村への関心度に関する調査	問3	居住する理由
	問4	公共施設か民間施設かを意識しているか
	問5	自治体が建てたか
	問6	FM認知度
	問7	財政状況についての関心
	問8	今後の不安
回答者情報	問9	回答者様に関する質問

3-1-3. アンケート集計結果・分析

3-1-3-1. 施設再編に関する意識調査

※設問項目については P7 の「表 2-2-2」と同じ内容である。

(1) 統廃合・多機能化

3 町村とも 80%の住民が肯定的である。特に山添村は 50%の住民が「実施すべき」と回答しており、積極的な賛成意見が多い。

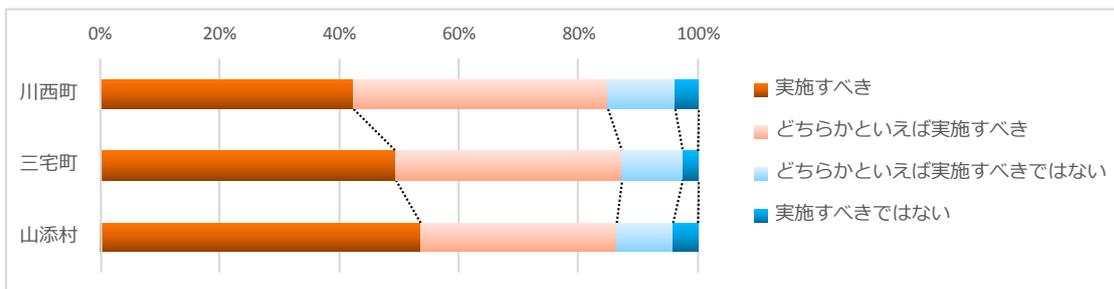


図 3-1-8 統廃合・多機能化に対する賛否 (3 町村比較)

(2) 広域化

3 町村とも 80%前後の住民が肯定的である。特に三宅町は 90%の住民が「実施すべき」「どちらかといえば実施すべき」の肯定的回答をしており、半数以上が「実施すべき」と積極的な賛成意見である。

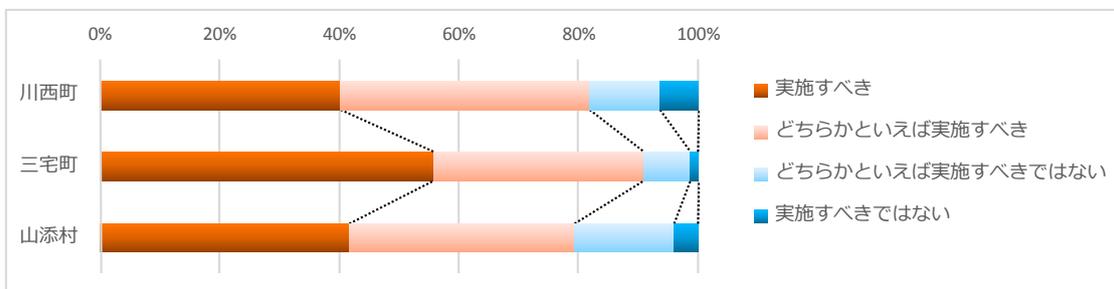


図 3-1-9 広域化に対する賛否 (3 町村比較)

(3) PPP

3 町村とも 80%の住民が肯定的であるが、20%の住民は否定的である。

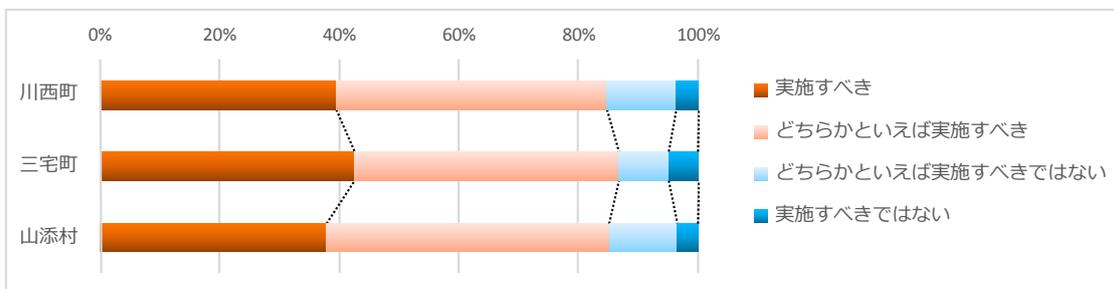


図 3-1-10 PPP に対する賛否 (3 町村比較)

(4) 地域移管

3 町村とも 60%の住民が肯定的であるが、「実施すべき」と積極的な賛成意見は 20%程度に止まっている。一方で、「実施すべきではない」という回答も 10%前後あり、否定的な意見も 30%前後ある。

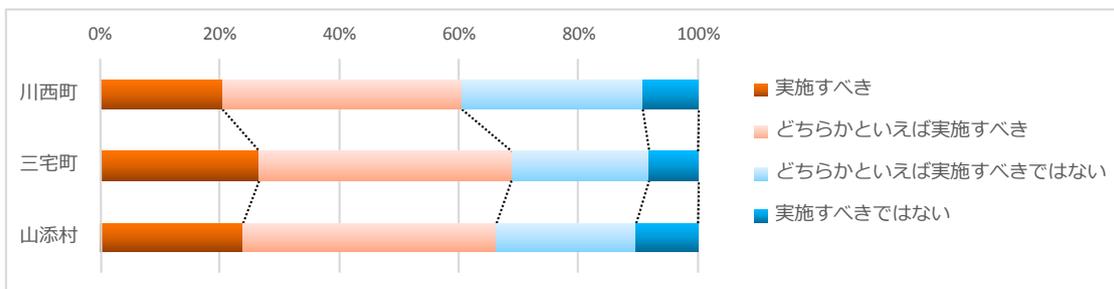


図 3-1-11 地域移管に対する賛否 (3 町村比較)

(5) 長寿命化

3 町村とも 80%~90%近くの住民が肯定的である。特に山添村は半数近くの住民が「実施すべき」と回答している。

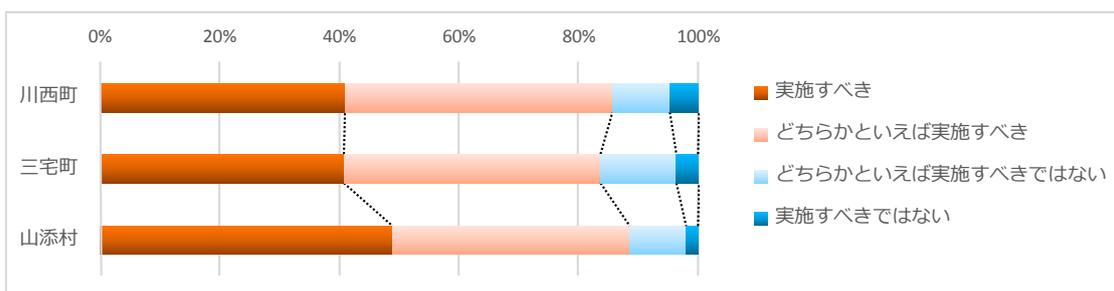


図 3-1-12 長寿命化に対する賛否 (3 町村比較)

(6) 民間施設利用助成

3 町村とも 60%前後の住民が肯定的であるが、「実施すべき」と積極的な賛成意見は 20%程度に止まっている。また、川西町は 40%が否定的な意見を持っている。

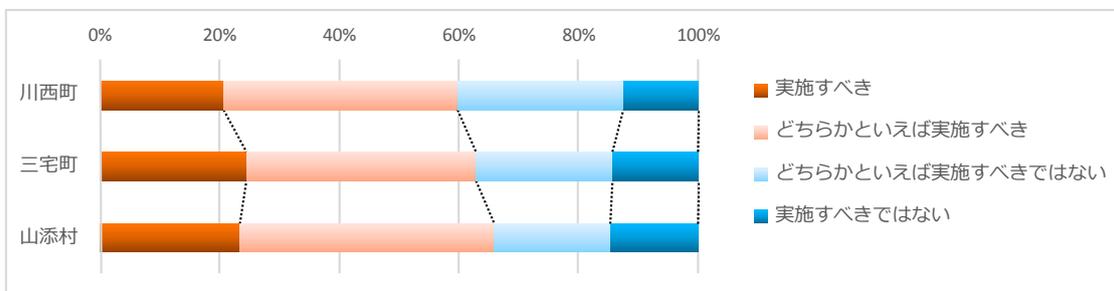


図 3-1-13 民間施設利用助成に対する賛否 (3 町村比較)

(7) 土地活用

川西町、三宅町は90%の住民が肯定的であるが、山添村は80%程度だった。さらに、「実施すべき」という回答は、川西町、三宅町は60%前後であるのに対し、山添村では50%にも満たない比率と未利用地に対する考え方に差が見られる。

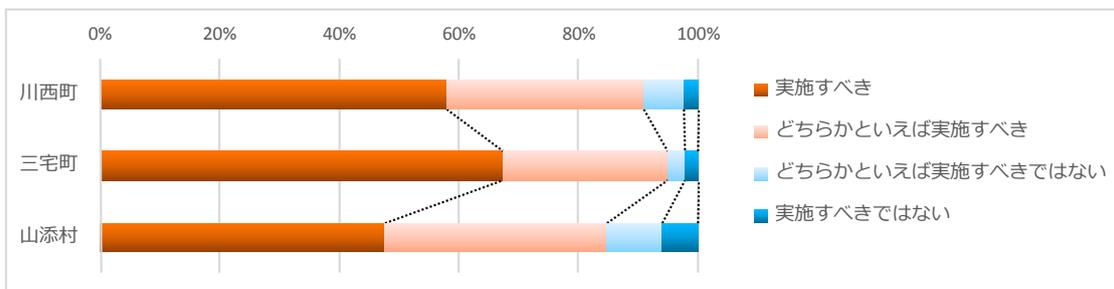


図 3-1-14 土地活用に対する賛否 (3 町村比較)

(8) サービス水準引き下げ

3 町村とも 60%から 70%の住民が否定的だった。特に川西町、三宅町は「実施すべきではない」という明確な否定的意見が 20%を超えた。

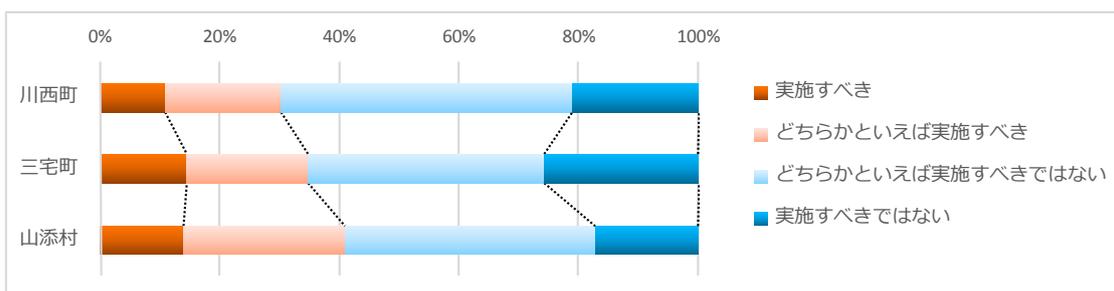


図 3-1-15 サービス水準引き下げに対する賛否 (3 町村比較)

(9) 利用料金引き上げ

3 町村とも 60%から 70%近くの住民が否定的だった。また(8)と並べてみると、サービス水準引き下げと利用料金の引き上げの賛成・反対比率はほぼ同程度だった。

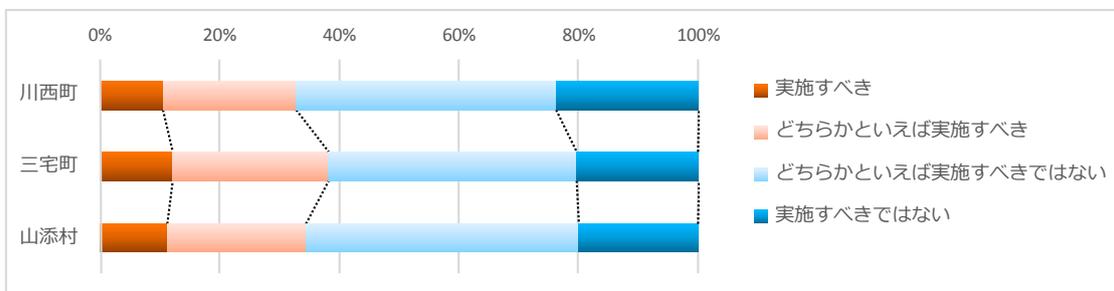


図 3-1-16 利用料金引き上げに対する賛否 (3 町村比較)

(10) 特別課税

3 町村とも 80% から 90% の住民が否定的だった。「実施すべきではない」という明確な否定意見も 40% 前後で多数だった。一方、少数ながら肯定的意見も見受けられ、町村に対する危機意識の表れだと考えられる。

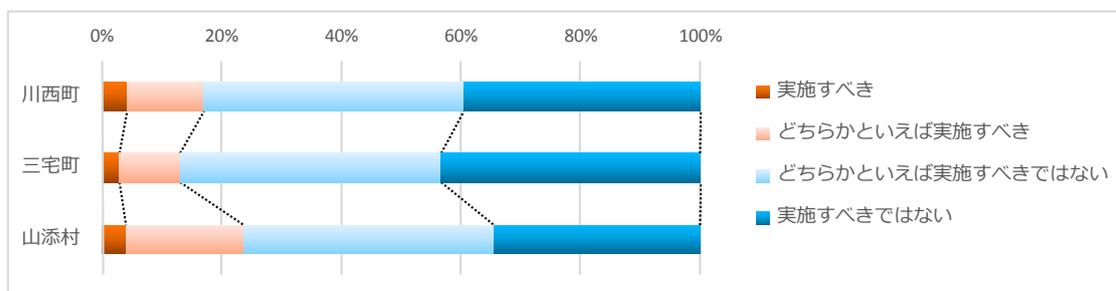


図 3-1-17 特別課税に対する賛否 (3 町村比較)

3-1-3-2. 施設の利用に関する調査

図 3-1-18 は公共施設に対して最も重視するもの、図 3-1-19 は公共施設に対して 2 番目に重視するものの調査結果である。図 3-1-18 より、川西町、三宅町では「施設の立地」「多機能性」「利用料金」の 3 項目が重視されていることが分かる。この 3 項目で全体の約 80% を占めている。また、山添村は「施設の立地」「多機能性」の 2 項目が特に重視されており、山間部地域で交通の便が悪いことが理由として考えられる。また図 3-1-19 より、3 町村とも「利用料金」が次に重視する項目で最も回答が多いことが分かった。図 3-1-18 の最も重視する項目では「利用料金」の割合が低かった山添村も、「施設の立地」「多機能性」に次いで、「利用料金」を重視している。次に重視するものでは最重視するものと比べると、各項目の比率にそれほど差はなかった。またいずれにおいても「建物の見た目」はほとんど重視されていない。

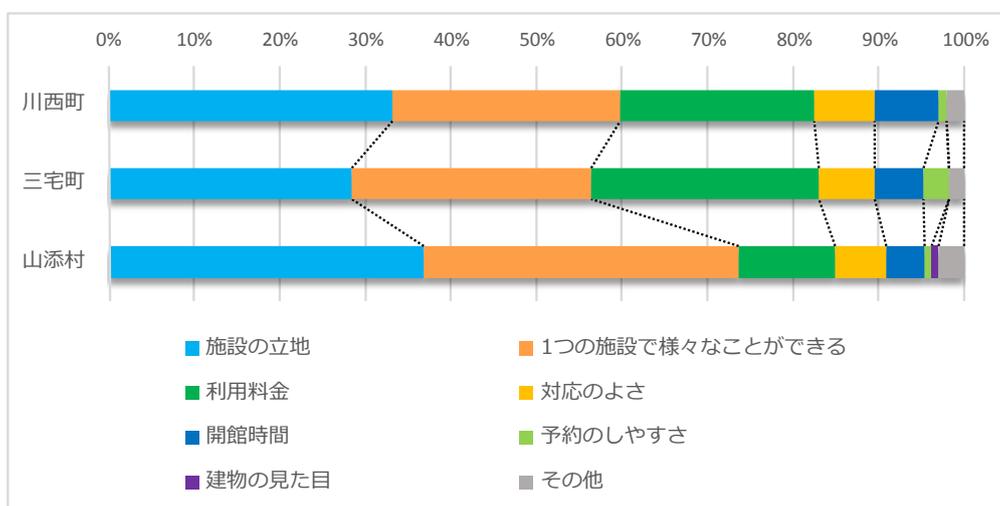


図 3-1-18 施設に最も重視するもの

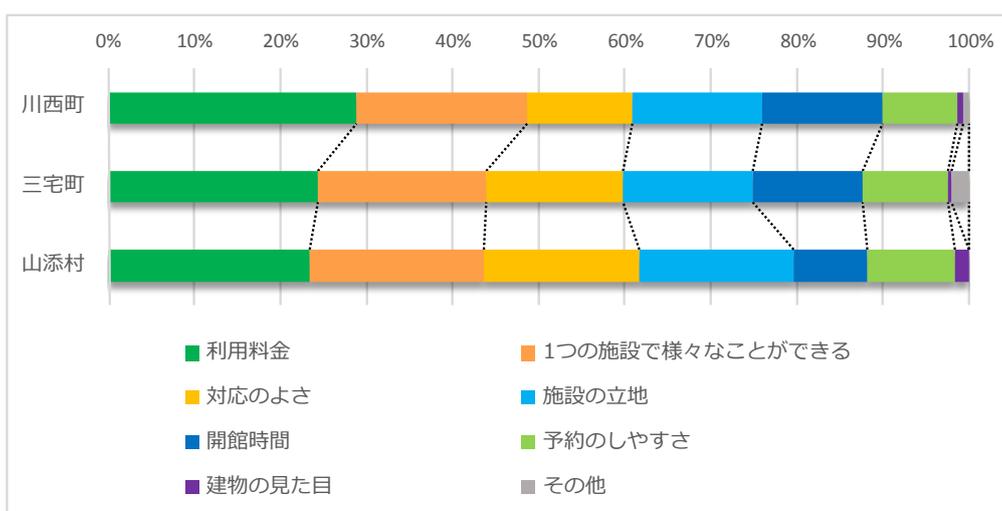


図 3-1-19 施設に次に重視するもの

3-1-3-3. 町村への関心度に関する調査

(1) 居住理由

図 3-1-20 は居住理由の調査結果である。3 町村とも「長く住んでいる」が最も多い理由として挙げられた。川西町、三宅町は次いで「交通の便が良い」が挙げられているが、山添村は交通の便を理由とする割合は 10%にも満たなかった。その一方で、山添村は「自然環境・教育環境が良い」が他 2 町に比べて、全体に占める割合が高い。また、川西町は他 2 町村より比較的、「町並みや町の雰囲気」が好印象で、「公共施設の充実」も認識されていることが分かった。

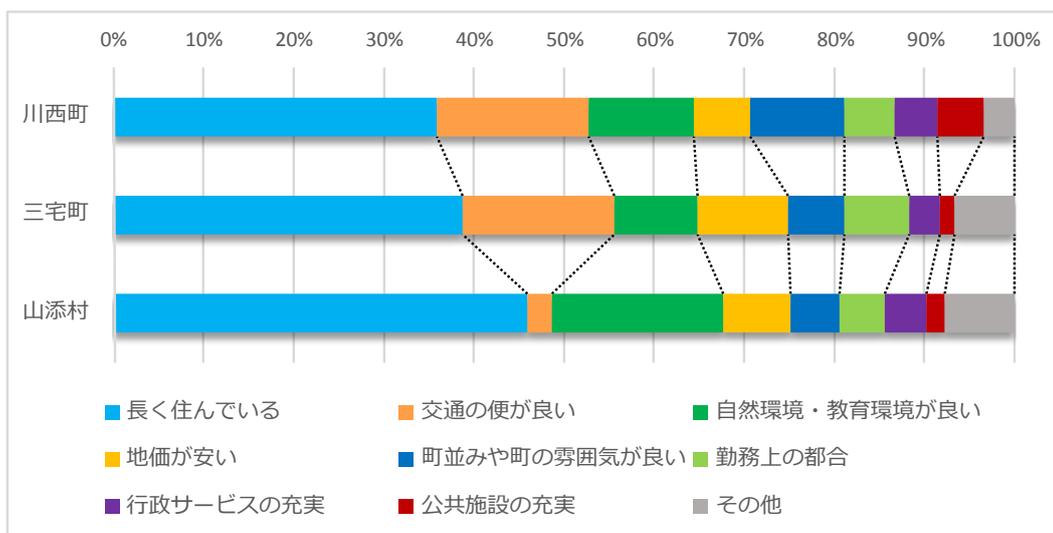


図 3-1-20 居住理由

(2) 公共施設か民間施設かの意識

3 町村とも、「意識している」住民の割合は 40%前後だった。川西町は他 2 町村より、意識して利用している住民の割合がやや高く、理由として施設数が比較的多いことが考えられる。

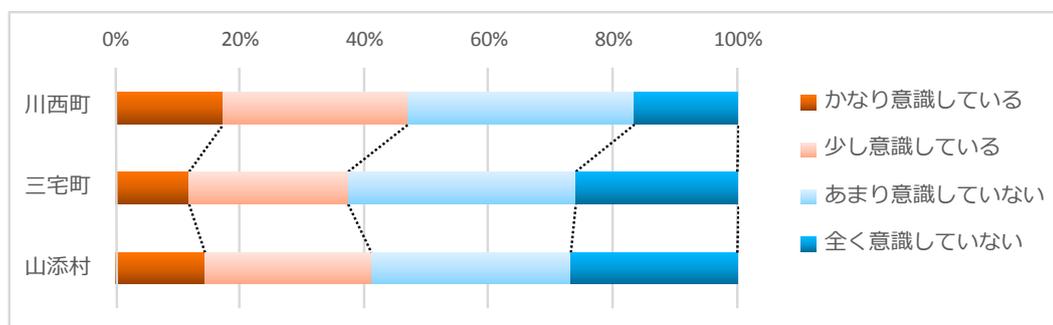


図 3-1-21 公共施設か民間施設かの意識

(3) 町村立か県立・国立の施設かの意識

3 町村とも、「意識している」住民の割合は 30%前後だった。(2)と同様に、川西町は他 2 町村より意識して利用している住民の割合が高い結果となった。

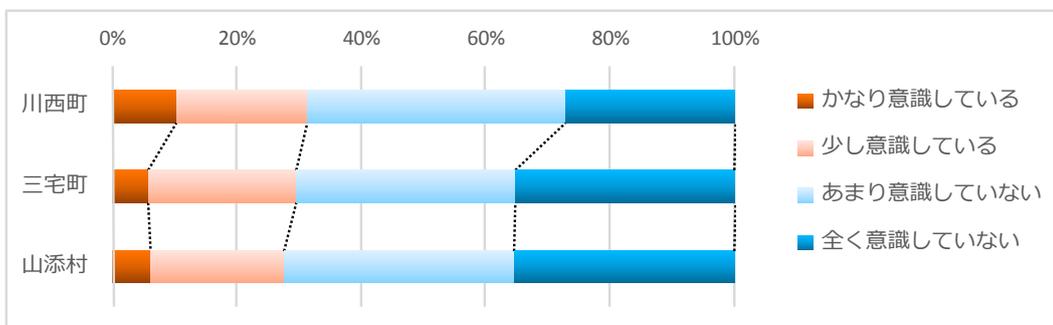


図 3-1-22 町村立か県立・国立施設かの意識

(4) 「FM」の認知度

3 町村とも、FM を「知っている」住民の割合は 10%前後、「全く知らない」という回答が全体の約 70%を占めており、かなり認知度が低いことが分かった。

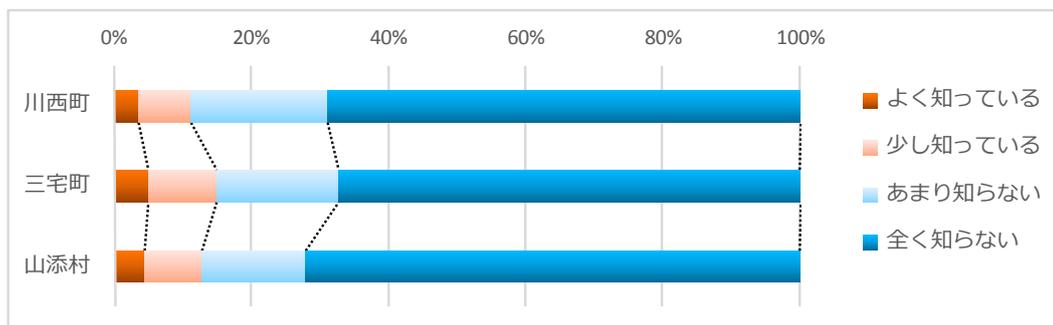


図 3-1-23 「FM」の認知度

(5) 町村の財政状況への関心度

3町村とも、80%から90%の住民が町村の財政状況に関心を示している。「全く関心がない」と回答した住民の割合は10%未満だった。

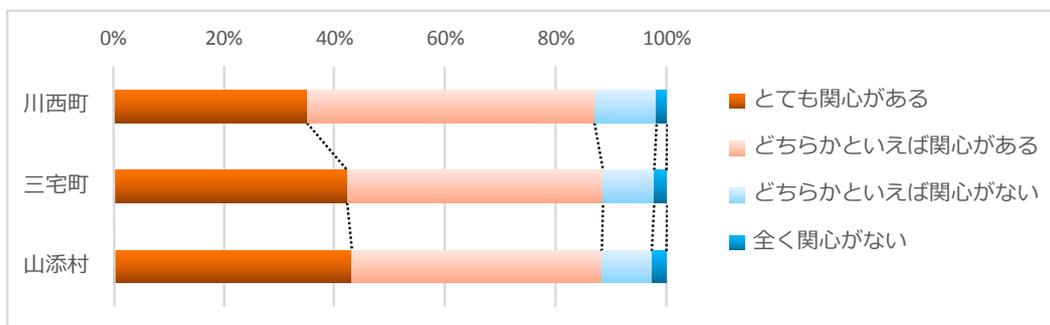


図 3-1-24 町村の財政状況への関心度

(6) 町村の今後に対する不安度

3町村とも不安が「かなりある」「すこしある」の合計比率が70%から80%を占めている。3町村の中で川西町は他2町村と比べて、不安を持つ住民が少なく、特に「かなりある」の割合が低いことが分かる。

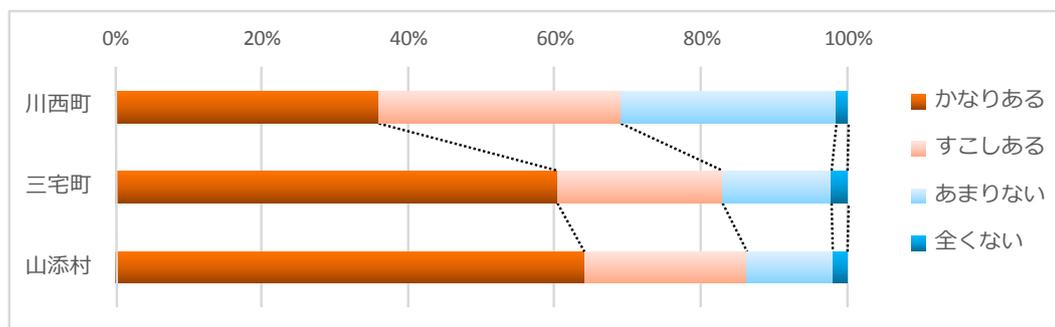


図 3-1-25 町村の今後に対する不安度

3-1-4 連携町村と天理市との比較

3-1-4-1. 回答者属性

図 3-1-26 は性別の回答者割合を 4 市町村で比較した結果である。天理市以外の 3 町村は男性の方が多く、60%から 70%を占めている。天理市は女性の回答者のほうが多く、60%だった。

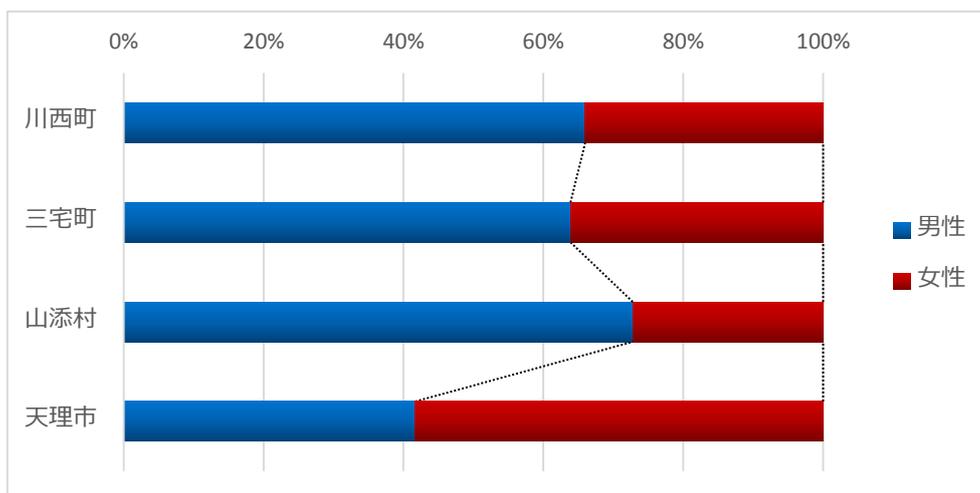


図 3-1-26 性別の回答者割合 (4 市町村比較)

図 3-1-27 は年代別の回答者割合を 4 市町村で比較した結果である。天理市以外の 3 町村は 60 代・70 代が全体の約 65%を占めている。天理市は他町村と比べると 20 代・30 代の回答者も比較的多いが、やはり 60 代・70 代の回答が多く、60 代・70 代が半数以上を占めている。

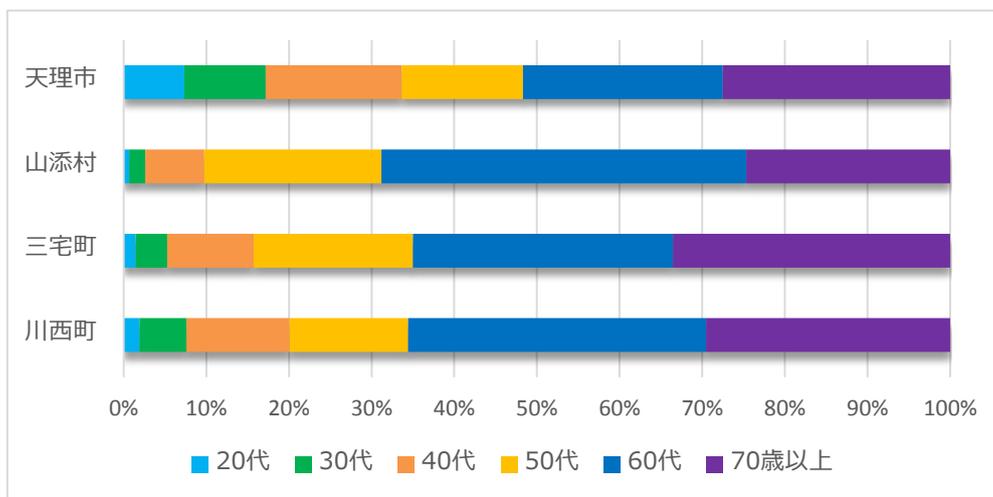


図 3-1-27 年代別の回答者割合 (4 市町村比較)

図 3-1-28 は居住年数別の回答者割合を 4 市町村で比較した結果である。4 市町村の中で山添村が「20 年以上」と回答した割合が最も高く、90%以上を占めている。他 3 市町は「20 年以上」が 80%前後であるが、「10 年未満」と回答した人も 10%前後おり、新たな住民の流入も少ないながらもあることが分かる。

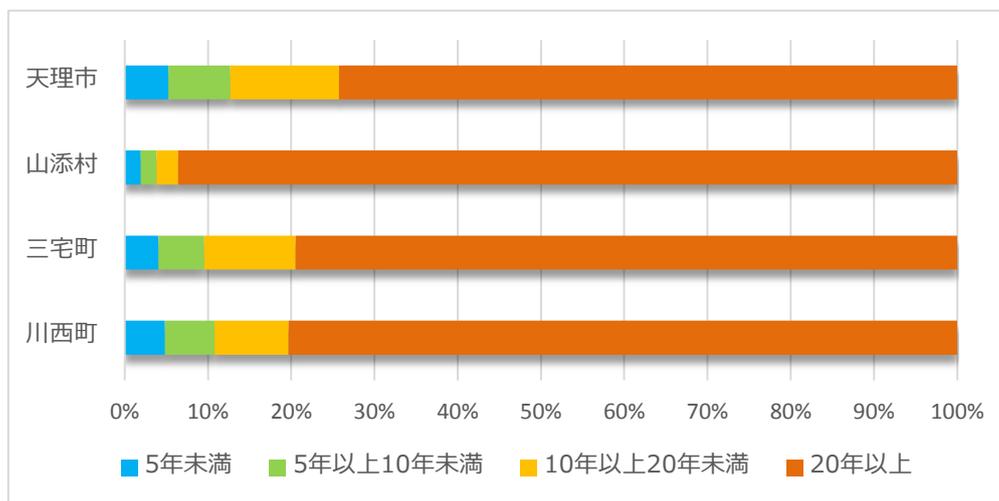


図 3-1-28 居住年数別の回答者割合 (4 市町村比較)

図 3-1-29 は世帯構成別の回答者割合を 4 市町村で比較した結果である。山添村は他 3 市町と比べて「三世帯世帯」が多いことが分かった。図 3-1-28 の居住年数の比較でも山添村は「20 年以上」居住している人が多いことから、親世代から孫世代まで長年住み続けている人が多いのではないかと考えられる。また天理市は他 3 市町村と比較すると一人世帯の割合が高いことが見て取れる。

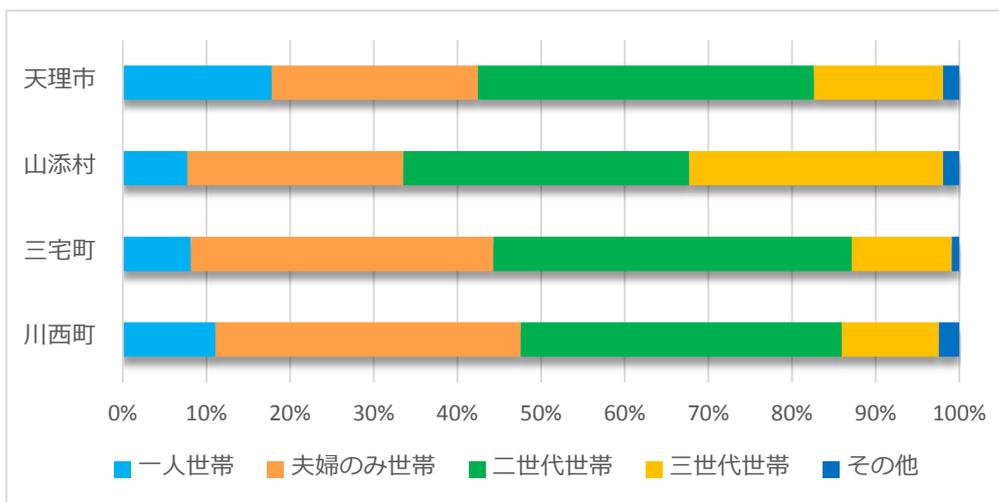


図 3-1-29 世帯構成別の回答者割合 (4 市町村比較)

図 3-1-30 は家族構成で 15 歳以下の方がいるかを 4 市町村で比較した結果である。4 市町村とも「15 歳以下有」と回答した人は 20%前後で、それほど大きな差は見られなかった。

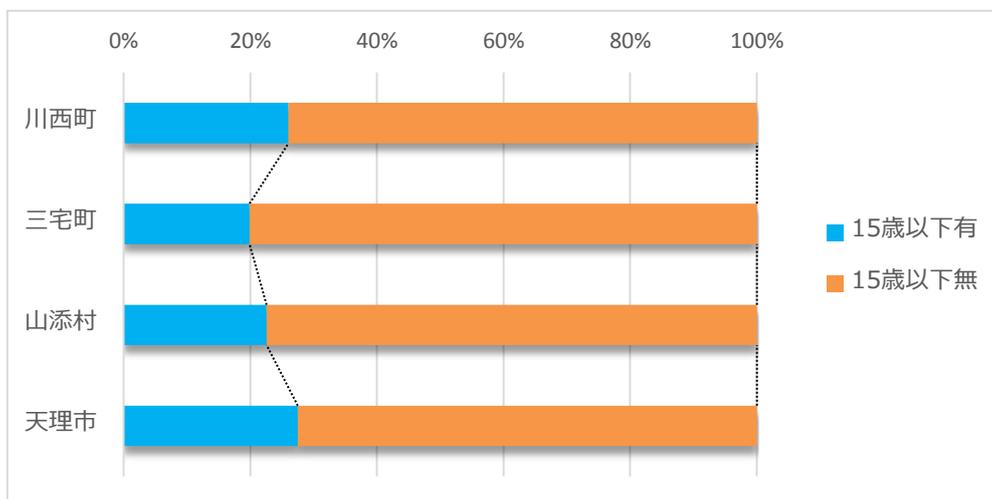


図 3-1-30 15 歳以下の有無別の回答者割合 (4 市町村比較)

3-1-4-2. 施設再編に関する意識調査

(1) 統廃合・多機能化

4市町村とも80%から90%の住民が肯定的である。「実施すべき」という回答は、4市町村のなかでも山添村が多く、全体の50%を占めている。天理市は他町村と比較してもそれほど大きな差は無いが、「実施すべき」「どちらかといえば実施すべき」と回答した割合は4市町村の中で最も高いことが分かった。

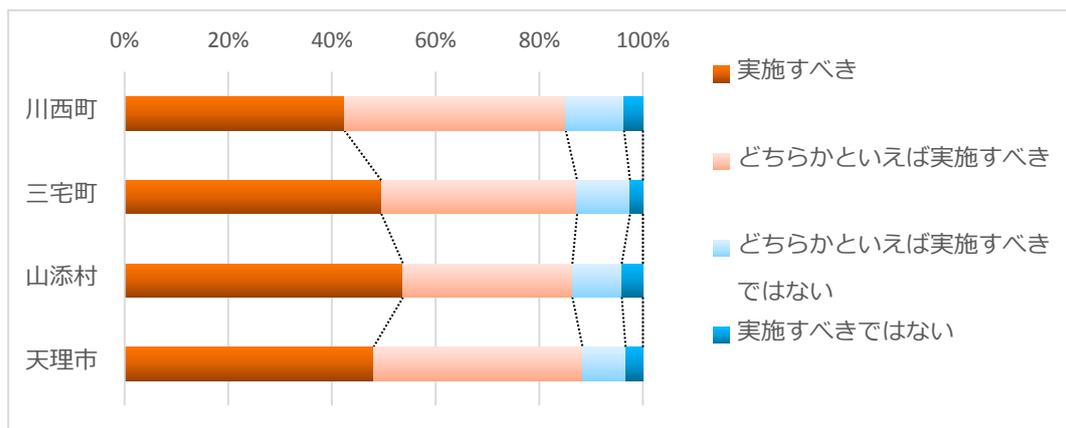


図 3-1-31 統廃合・多機能化に対する賛否 (4市町村比較)

(2) 広域化

4市町村とも肯定的な意見が多いが、天理市は他町村と比べると「実施すべき」という回答が少なく、30%に満たない結果となっており、4市町村の中では施設の共同運営・共有に対して否定的である。一方で、三宅町は50%以上が「実施すべき」と回答し、「実施すべきではない」という回答は5%未満で、かなり肯定的な意見が多いことが分かった。

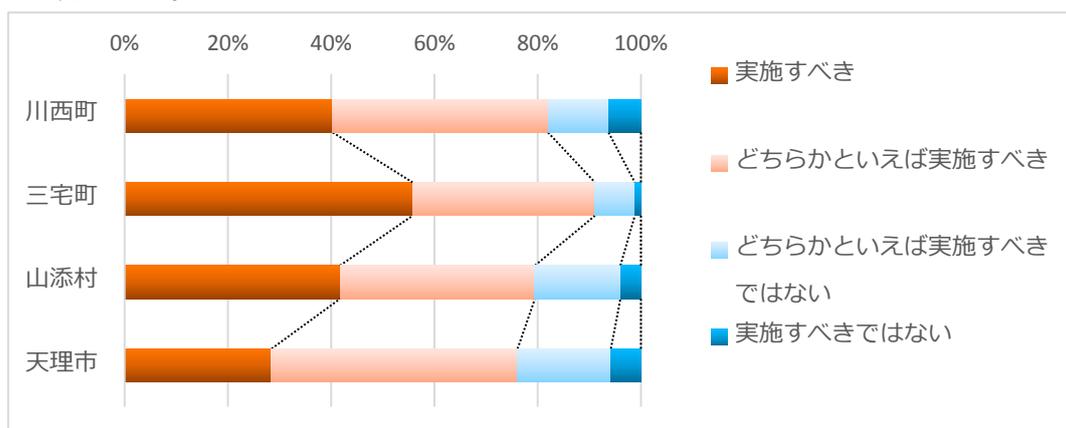


図 3-1-32 広域化に対する賛否 (4市町村比較)

(3) PPP

4市町村とも約80%が肯定的である。しかし、(2)と同様に、「実施すべき」という回答は天理市が最も少なく、4市町村の中では否定的である。一方で、川西町・三宅町は「実施すべき」の割合が約40%で、肯定的な意見が多いことが分かった。

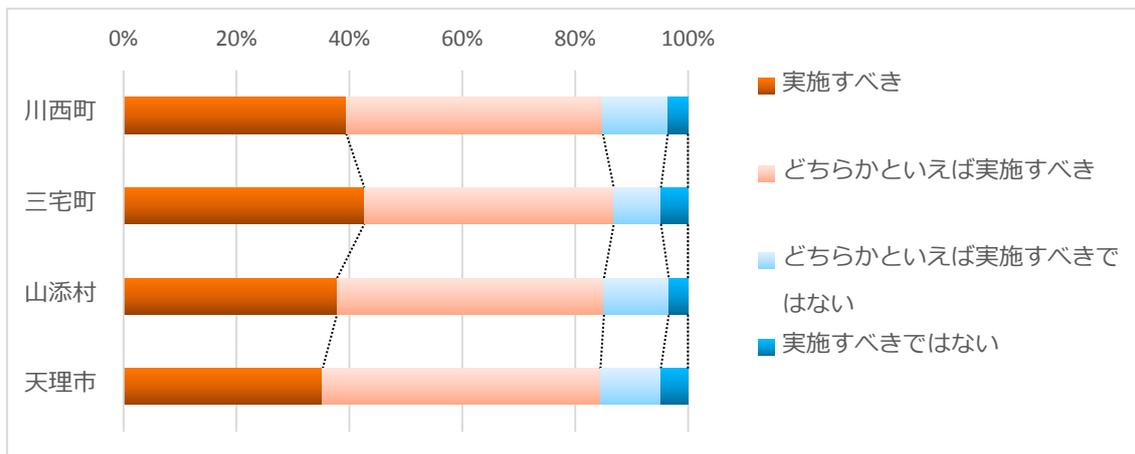


図 3-1-33 PPP に対する賛否 (4市町村比較)

(4) 地域移管

天理市以外の3町村は60%から70%の住民が肯定的である。一方で、天理市は肯定的な意見と否定的な意見が1:1の割合で、他町村と比べると積極的ではないことが分かった。

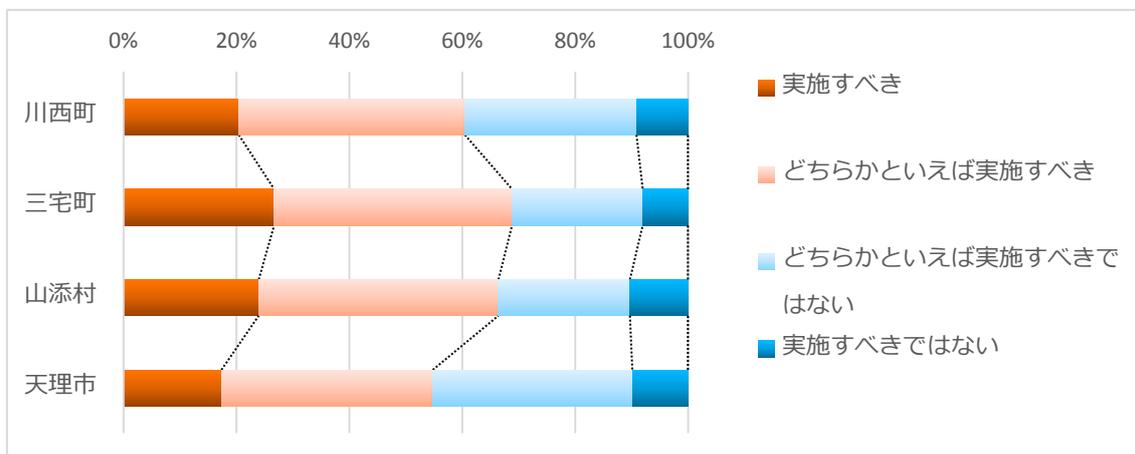


図 3-1-34 地域移管に対する賛否 (4市町村比較)

(5) 長寿命化

4市町村とも80%から90%の住民が肯定的である。しかし、「実施すべき」という回答に着目すると3町村と比べて、天理市は割合が低いことが分かる。一方で、山添村は「実施すべき」という回答が全体の約半数を占めており、施設の存続を望んでいる人が多いと考えられる。

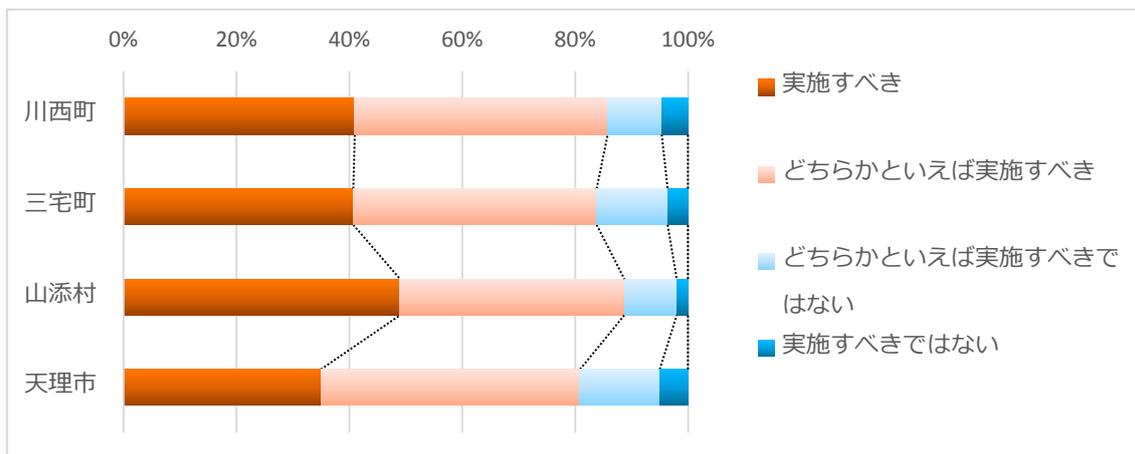


図 3-1-35 長寿命化に対する賛否 (4市町村比較)

(6) 民間施設利用助成

4市町村とも、60%前後の住民が肯定的であるが、「実施すべきではない」と強く否定する回答が15%程度と、否定的な意見も比較的多い結果となった。また、この項目では4市町村での差はあまり見られなかった。

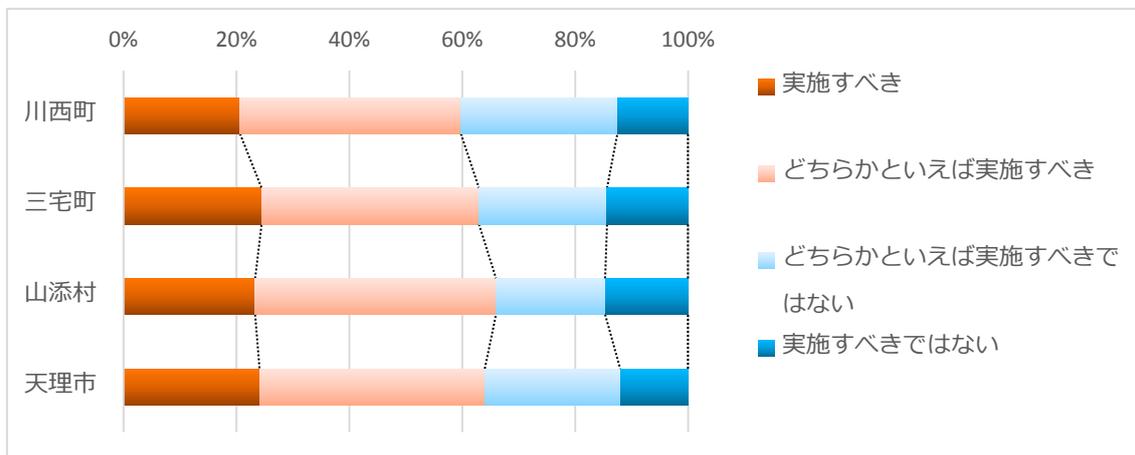


図 3-1-36 民間施設利用助成に対する賛否 (4市町村比較)

(7) 土地活用

肯定的な意見は三宅町が最も多く 90%を超え、次いで川西町、天理市が 90%程度だった。三宅町は「実施すべき」という積極的な肯定意見も多く、約 65%にのぼる。一方で、山添村は他市町に比べて否定的な意見が多く、「実施すべき」という回答も他市町より 10%から 20%少ない結果となった。

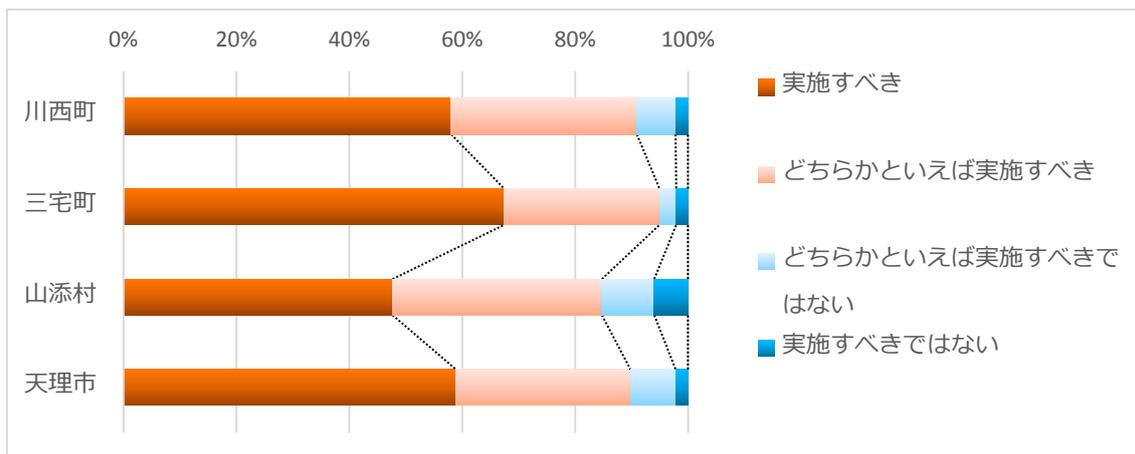


図 3-1-37 土地活用に対する賛否（4市町村比較）

(8) サービス水準引き下げ

4市町村とも、60%から70%が否定的だった。「実施すべきではない」という明確な否定意見も20%前後を占めている。また4市町村の中で川西町が最も否定的であるが、その一方で山添村が4市町村の中では否定的な意見が少ない結果となった。天理市と川西町は似たような比率だった。

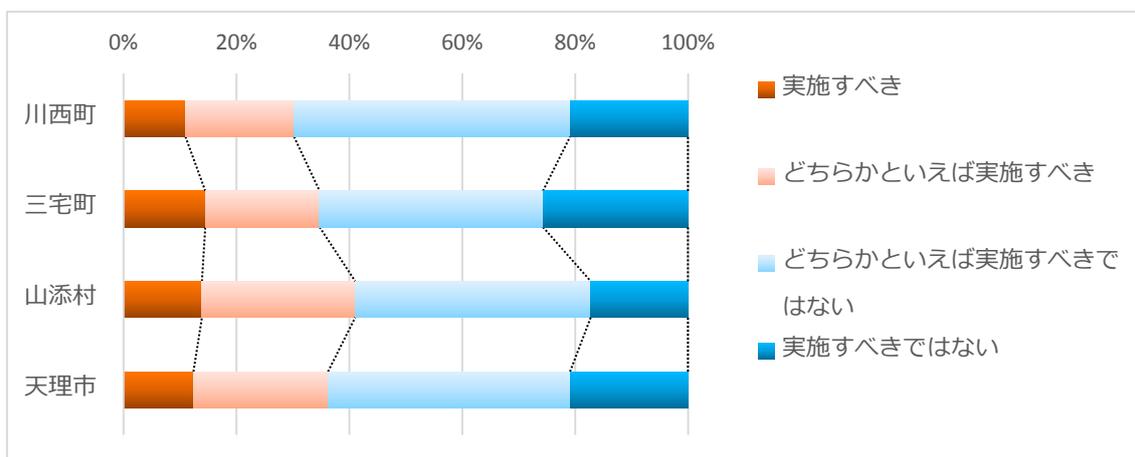


図 3-1-38 サービス水準引き下げに対する賛否（4市町村比較）

(9) 利用料金引き上げ

4市町村とも、60%から70%の住民が否定的だった。4市町村でそれほど大きな差は見られないが、川西町と天理市では「実施すべきではない」という回答が特に多い結果となった。

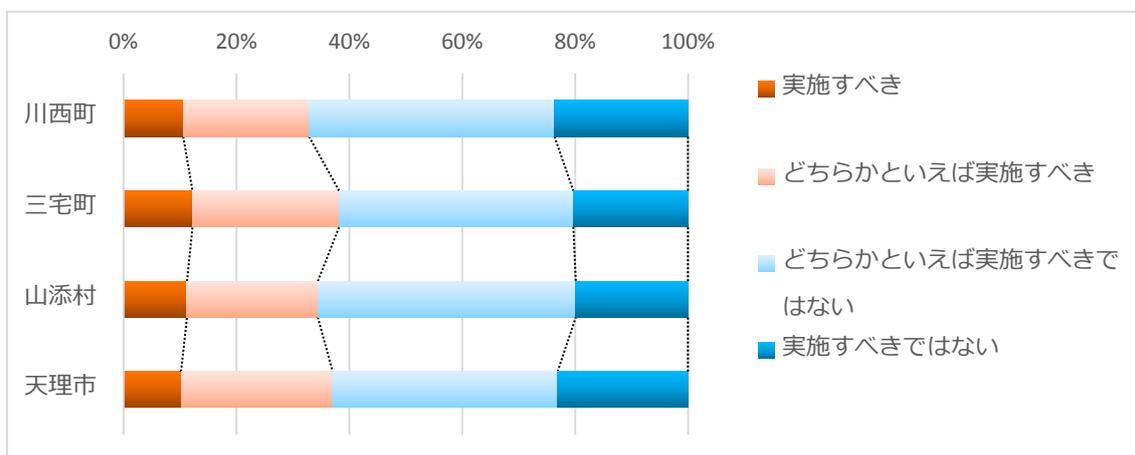


図 3-1-39 利用料金引き上げに対する賛否（4市町村比較）

(10) 特別課税

4市町村とも、80%から90%の住民が否定的だった。山添村は4市町村の中では比較的肯定的な意見もあり、約20%が肯定的だった。他3市町はかなり否定的であり、天理市においては約半数の住民が「実施すべきではない」と強い否定的回答をした。

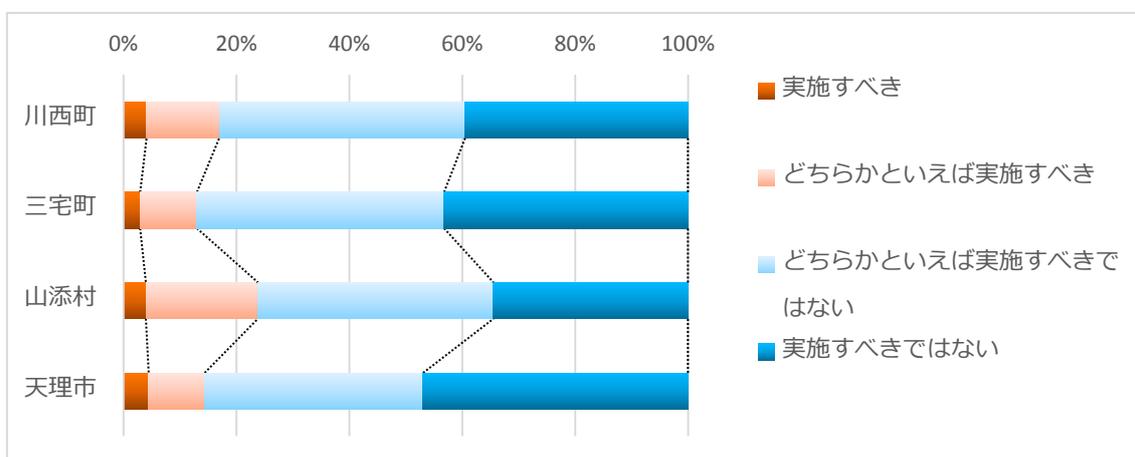


図 3-1-40 特別課税に対する賛否（4市町村比較）

3-1-4-3. 市町村への関心度に関する調査

(1) 居住理由

図 3-1-41 は居住理由の調査結果である。4 市町村とも「長く住んでいる」が最も多い理由として挙げられた。天理市は他町村に比べて、「町並みや町の雰囲気が良い」「勤務上の都合」と回答した割合が高い。一方で、「行政サービスの充実」「公共施設の充実」という点で他町村よりやや低い結果となった。

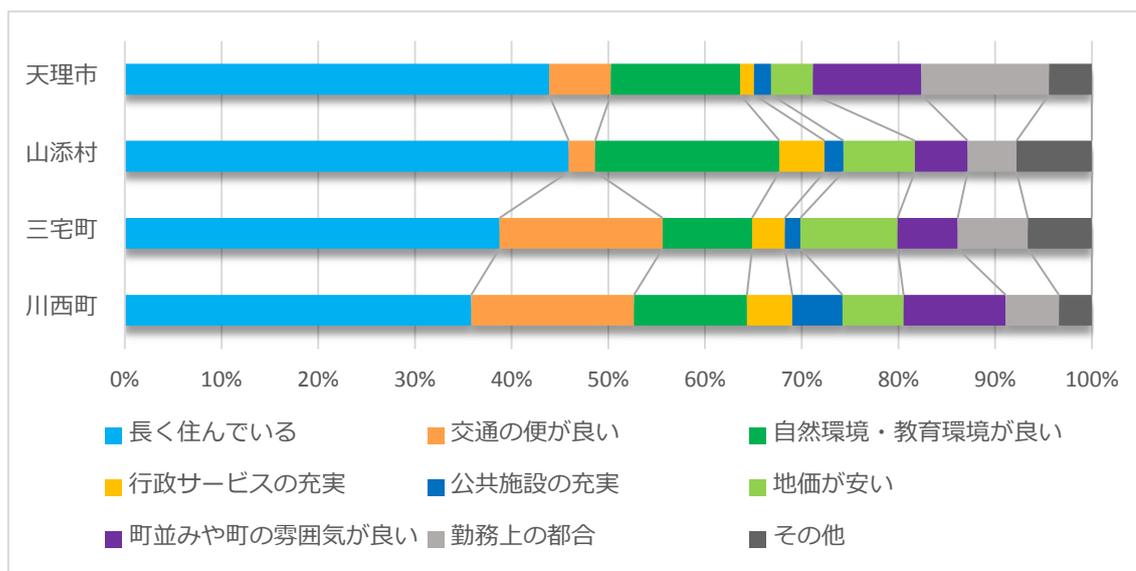


図 3-1-41 居住理由 (4 市町村比較)

(2) 公共施設か民間施設かの意識

4 市町村の中で意識している人の割合は、川西町が最も高い。一方で、意識していない人の割合は、天理市が最も高い結果となった。特に「かなり意識している」人の割合は 10%程度で、「全く意識していない」人の割合が 30%近くと 4 市町村の中で天理市民が最も意識せずに利用していることが分かった。

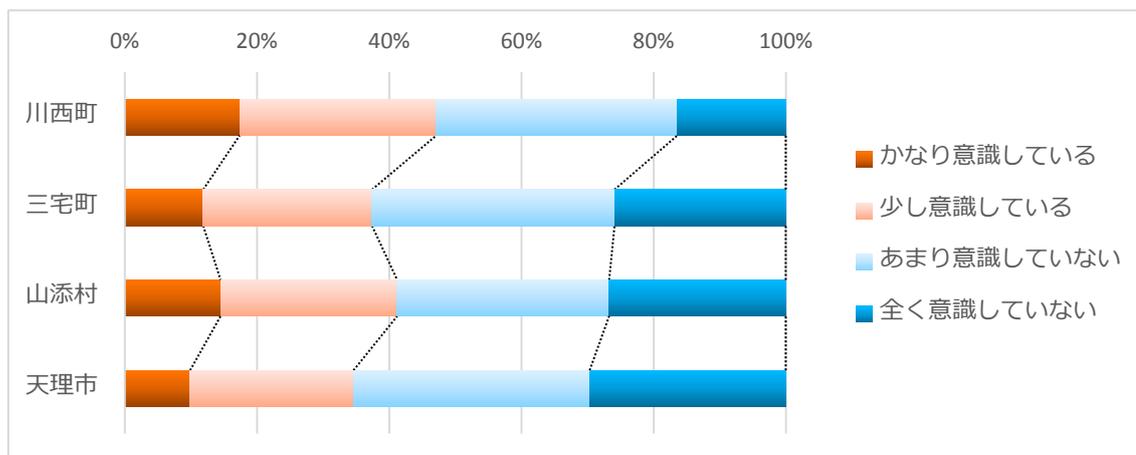


図 3-1-42 公共施設か民間施設かの意識 (4 市町村比較)

(3) 市町村立か県立・国立の施設かの意識

天理市以外の3町村は「意識している」人が30%前後いたが、天理市は「意識している」人の割合は10%程度とかなり低い結果となった。特に「全く意識していない」人の割合が全体の70%を占めた。

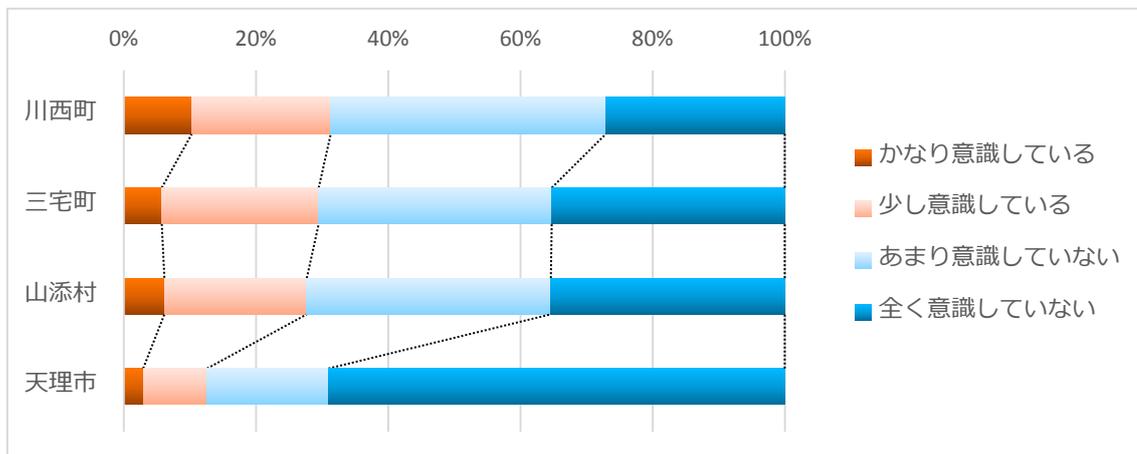


図 3-1-43 市町村立か県立・国立施設かの意識 (4市町村比較)

(4) 「FM」の認知度

天理市以外の3町村はFMを「知っている」人の割合が10%前後で低いのに対し、天理市は20%で他町村と比べると認知度が高いことが分かった。「全く知らない」と回答した割合も他町村より約30%低く、全体の40%程度だった。

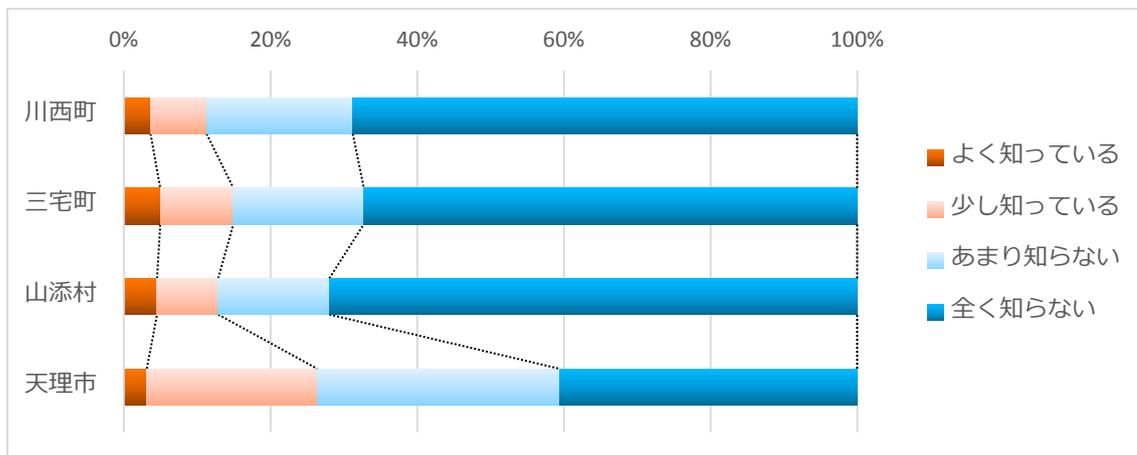


図 3-1-44 「FM」の認知度 (4市町村比較)

(5) 市町村の財政状況への関心度

天理市以外の3町村では「関心がある」人が約90%いるのに対して、天理市は80%に満たない結果となった。特に「とても関心がある」と回答した人は天理市では約20%で、他町村より10%~20%低い。しかし、最も関心度の低い天理市でも約75%の人が関心を示しており、全体的に財政状況への関心度は高いことが分かった。

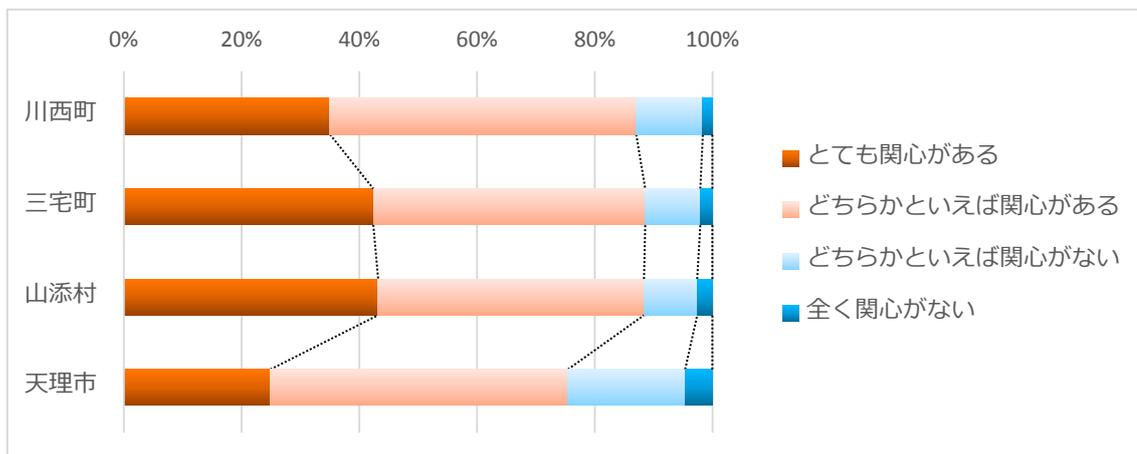


図 3-1-45 市町村の財政状況への関心度 (4市町村比較)

(6) 市町村の今後に対する不安度

4市町村を比較すると、三宅町、山添村は不安があると回答した人が80%を超えている。特に不安が「かなりある」と回答した人が60%超と半数以上を占めている。天理市は4市町村の中で不安があると回答した人の割合が最も低く、60%程度だった。

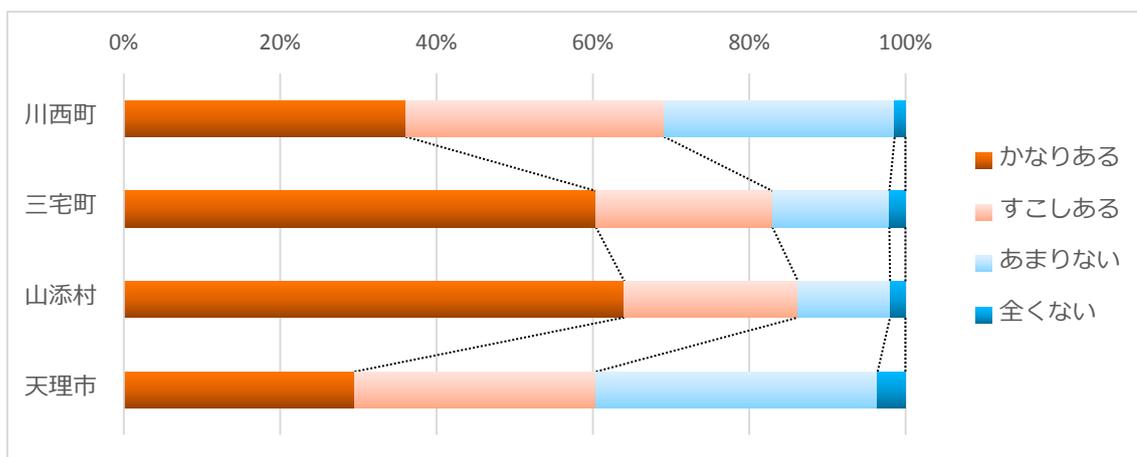


図 3-1-46 市町村の今後に対する不安度 (4市町村比較)

3-1-5. アンケートまとめ

〈施設編について〉

- 施設の共同運営・共有に対して、天理市は近隣町村と比較すると消極的な傾向にあった。その一方で、三宅町は積極的な傾向となった。この傾向は公共施設の地域移管に対する賛否についても同様であった。
- 長寿命化について、山添村では高齢者ほど賛成多数であることがわかった。高齢者が比較的多く、施設への愛着や他に変わる施設がないことが理由にあるのではないかと思われる。
- 土地活用について、山添村が比較的反対気味であった。村の今後に不安を感じている住民が多数いる中、外部から進出には否定的であると考えられる。

〈施設利用〉

- 3 町村の最重視の項目が山添村だけ異なる結果となった。立地と多機能性を最重視しており、居住理由からも山間部で交通の便が整っていないことが読み取れる。

〈関心度〉

- 居住理由について、天理市は交通の便、行政サービスの充実、公共施設の充実の回答率が低い。公共・民間施設の意識についても、天理市は意識している人が少ない。また財政状況への関心度も連携自治体の中で一番低い。天理市は他町村に比べて、公的なものに対する関心が低い結果となった。これは、4 自治体の中で今後に対する自治体への不安度が最も低いことが理由に考えられる。
- 一方で、天理市は FM の認知度は他町村と比べて高い。それでも 25%程度に留まった。
- 山添村・三宅町は今後に不安を感じている人が多いことがわかった。

3-2 天理市と近隣自治体の所有する公共施設

3-2-1 天理市と近隣自治体の人口分布

- : 人口 50 人/1 プロット
- 🚌 : バス停
- : 鉄道路線
- (自治体毎に色分け)
- 🛣️ : バスルート

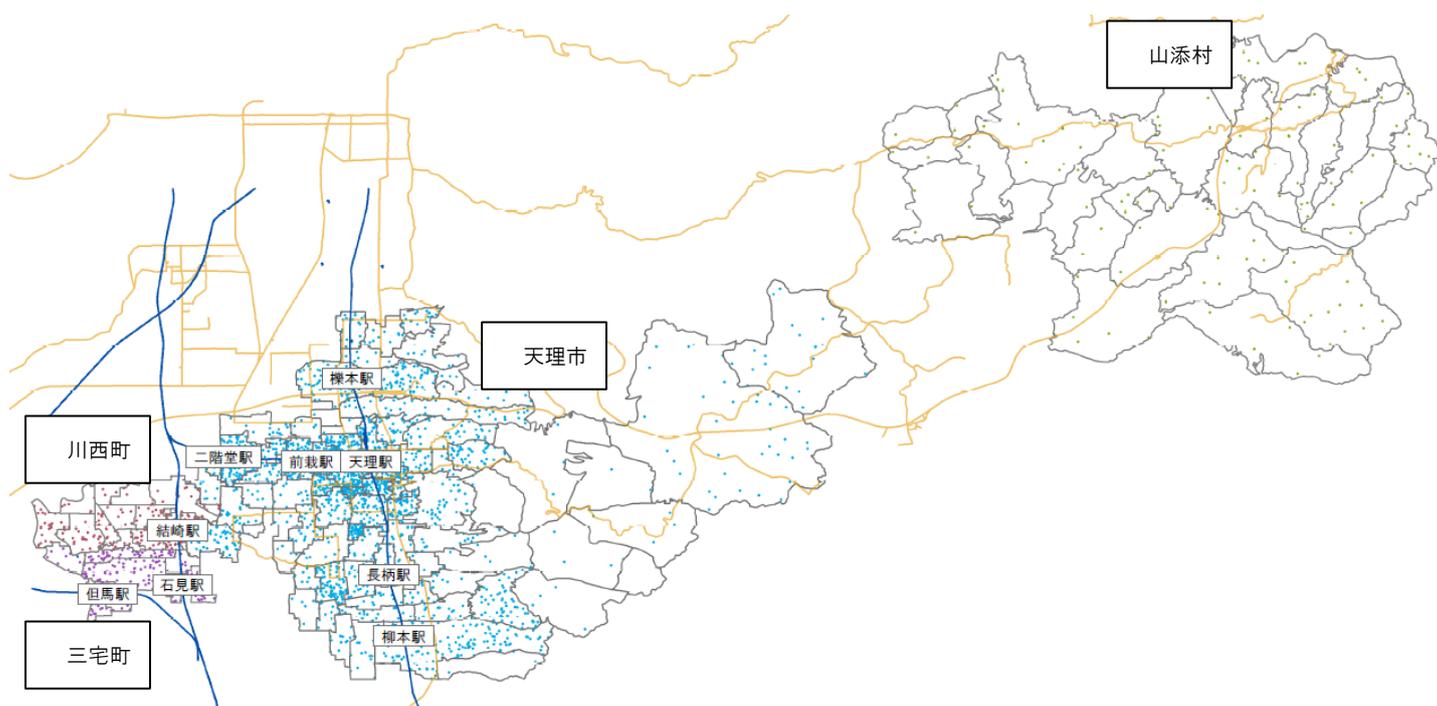


図 3-2-1 天理市と近隣自治体の人口分布

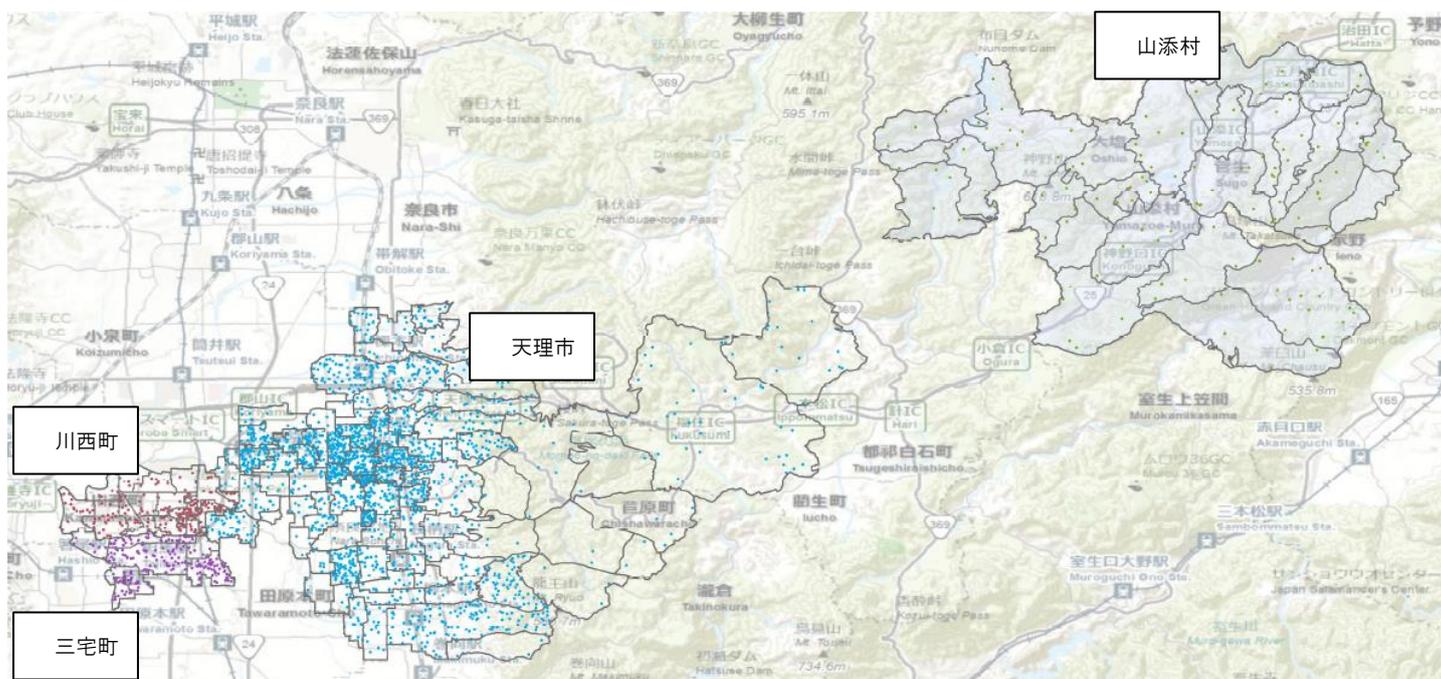


図 3-2-2 天理市と近隣自治体の人口分布（地形情報あり）

交通の利便性の観点から人口の分布を見ると、鉄道駅周辺に人口が集まっていることが分かる。一方でバスに関してはバスルート沿いに局所的に人口が増加するといった現象は見られなかった。

天理市と近隣自治体との人口の比較では

天理市が JR 桜井線や近畿日本鉄道天理線の鉄道駅の存在もあってか、自治体規模は近隣自治体と比較して最も大きい。しかし、天理市内を見てみると、人口の分布に大きな偏りが出来ている。西側に人口が集中し、東側の人口がとても少ないということが分かった。これは、天理市西側に鉄道路線が集中し東側には鉄道が走っておらず、加えて天理市西側は平野なのに対し、東側は山岳地形となっていることが、人口の偏りを発生させている大きな要因だと考えられる。

川西町に関しては近畿日本鉄道橿原線の鉄道駅周辺に人口が集中しており、川西町北側は住宅の少ない地域となっている。

三宅町に関しては鉄道駅が東西で 2 つ、近畿日本鉄道橿原線と近畿日本鉄道田原本線があり、行政区画内での人口の偏りは小さい。

山添村に関しては鉄道路線が走っていないこと、山岳地帯であることが起因してか、村全体の人口が少ない地域となっている。公共交通機関としてバスが通っている。

天理市と近隣自治体の所有する公共施設（公営住宅を除く）

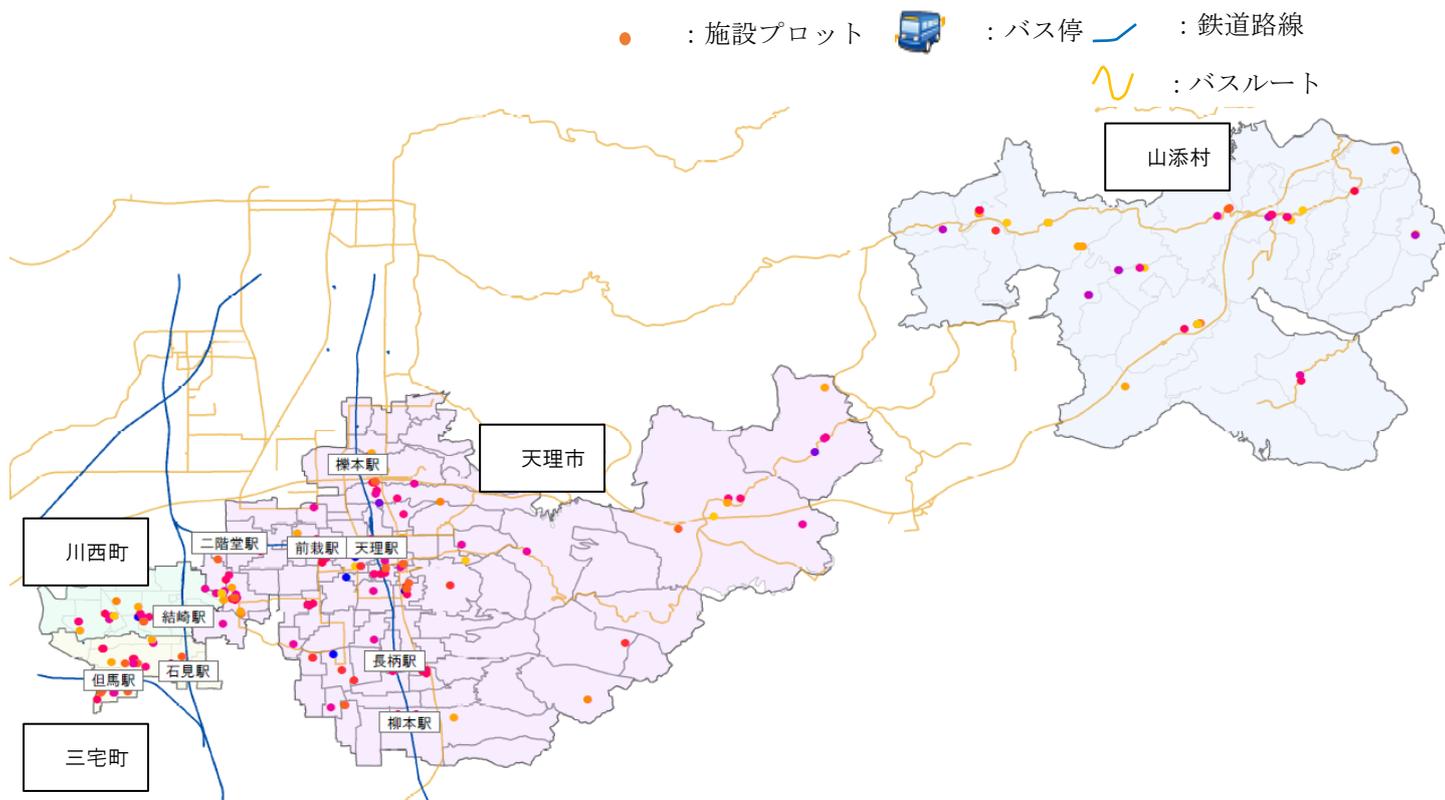


図 3-2-3 天理市と近隣自治体の所有する公共施設分布（公営住宅を除く）

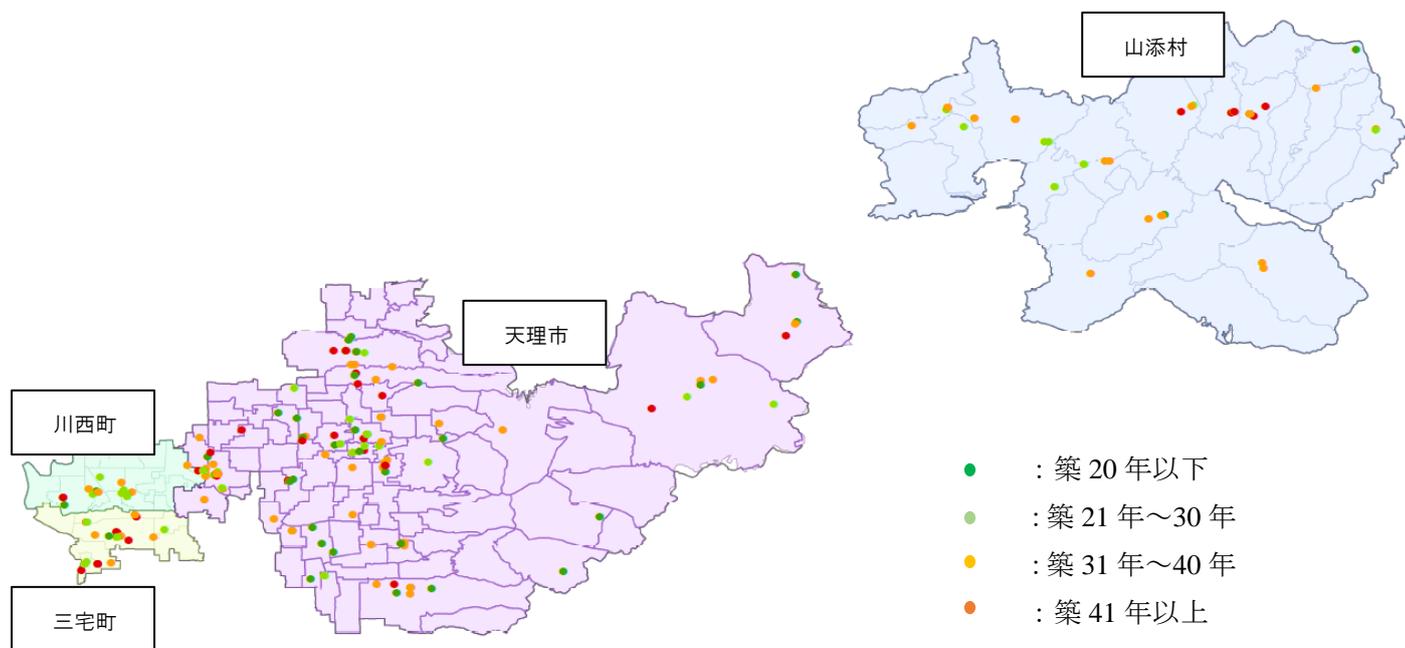


図 3-2-4 天理市と近隣自治体の所有する公共施設分布（公営住宅を除く、交通路線無し）

*公共施設のうち公営住宅に関しては用途の性質から他公共施設と区別し次の節に別途まとめた。

公共施設の多くは鉄道駅やバスルート沿いに多く分布している。鉄道駅周辺は人口が多い地域であるため駅に隣接している公共施設は少なく人口の多い地域内に点在している。また、人口の少ない地域の公共施設の多くが利便性をあげるためにバスルート沿いに建てられている。天理市と川西町は地域内で施設の配置に大きく偏りがある。天理市の場合、人口に偏りがあったため（図 3-2-1）人口に合わせた配置とも考えられ、人口が西側に集中しているため施設の多くが西側に建てられている。川西町では人口の観点から考察すると、川西町東側が最も多く人口が分布し、次いで南側に広く人口が分布していた。しかし、施設配置では公共施設の多くは南側に集中し、人口の最も多かった東側では天理市との境界付近にしか配置されていない。人口の集中している要因のひとつであろう近畿日本鉄道橿原線結崎駅周辺では公共施設が配置されていなかったことが分かった。

3-2-2 天理市と近隣自治体の所有する公営住宅

- : 施設プロット
-  : バス停
-  : 鉄道路線
-  : バスルート

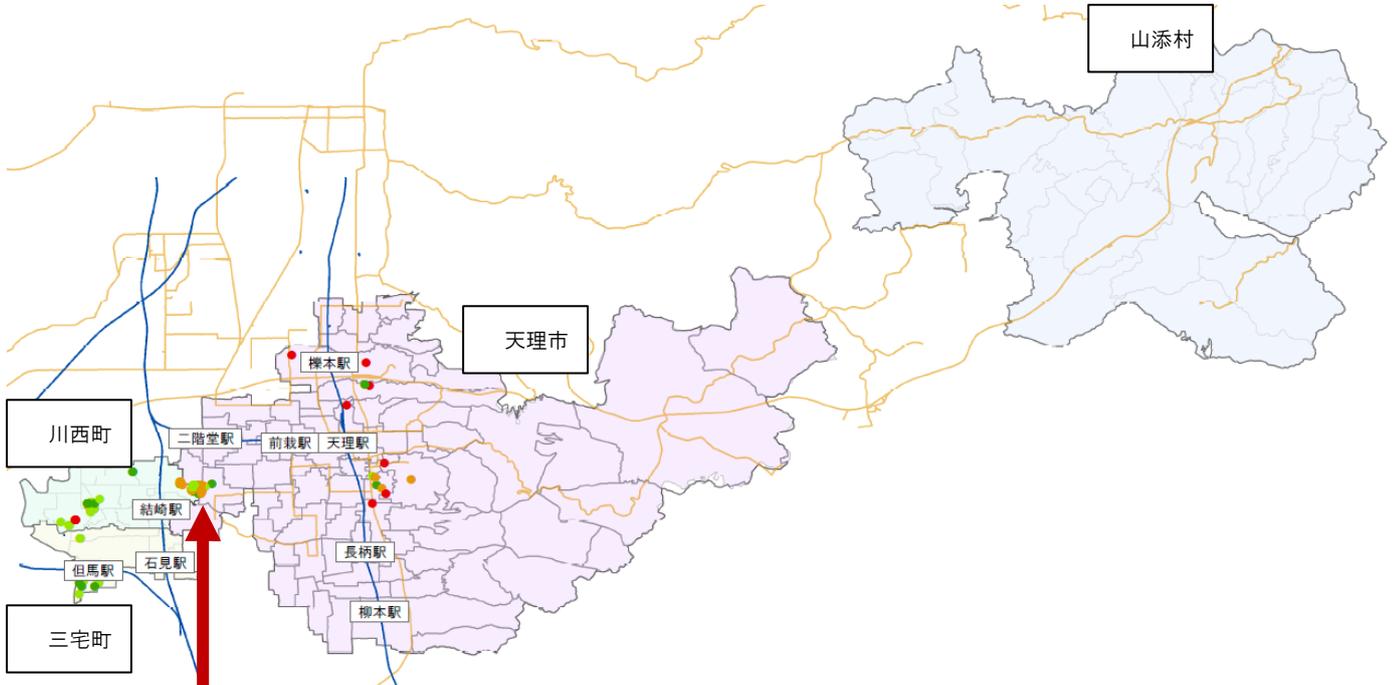


図 3-2-5 天理市と近隣自治体の所有する公営住宅

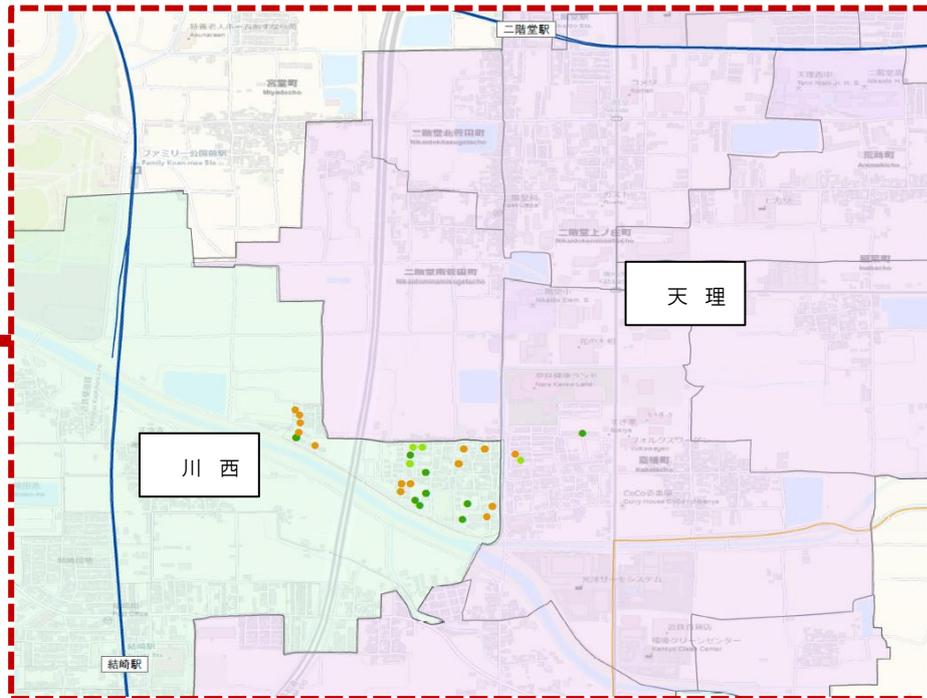


図 3-2-6 川西町の所有する公営住宅（東側天理市との境界線付近）の拡大図

天理市の公営住宅は鉄道沿いに集中して建てられている。そして、多くの公営住宅の築年数が 30 年を超えている。特に築 40 年を超えている施設の多さが目立つ。

川西町は多くの公営住宅を所有しており、他の公共施設に近い場所に配置されている。

三宅町の公営住宅は近畿日本鉄道田原本線但馬駅近くに建てられている。

なお、山添村は公営住宅を所有していない。

3-2-3 天理市と近隣自治体（川西町、三宅町）境界付近の施設
 川西町・三宅町の公共施設の分布を以下に示す

- : 施設プロット
-  : バス停
-  : 鉄道路線
-  : バスルート

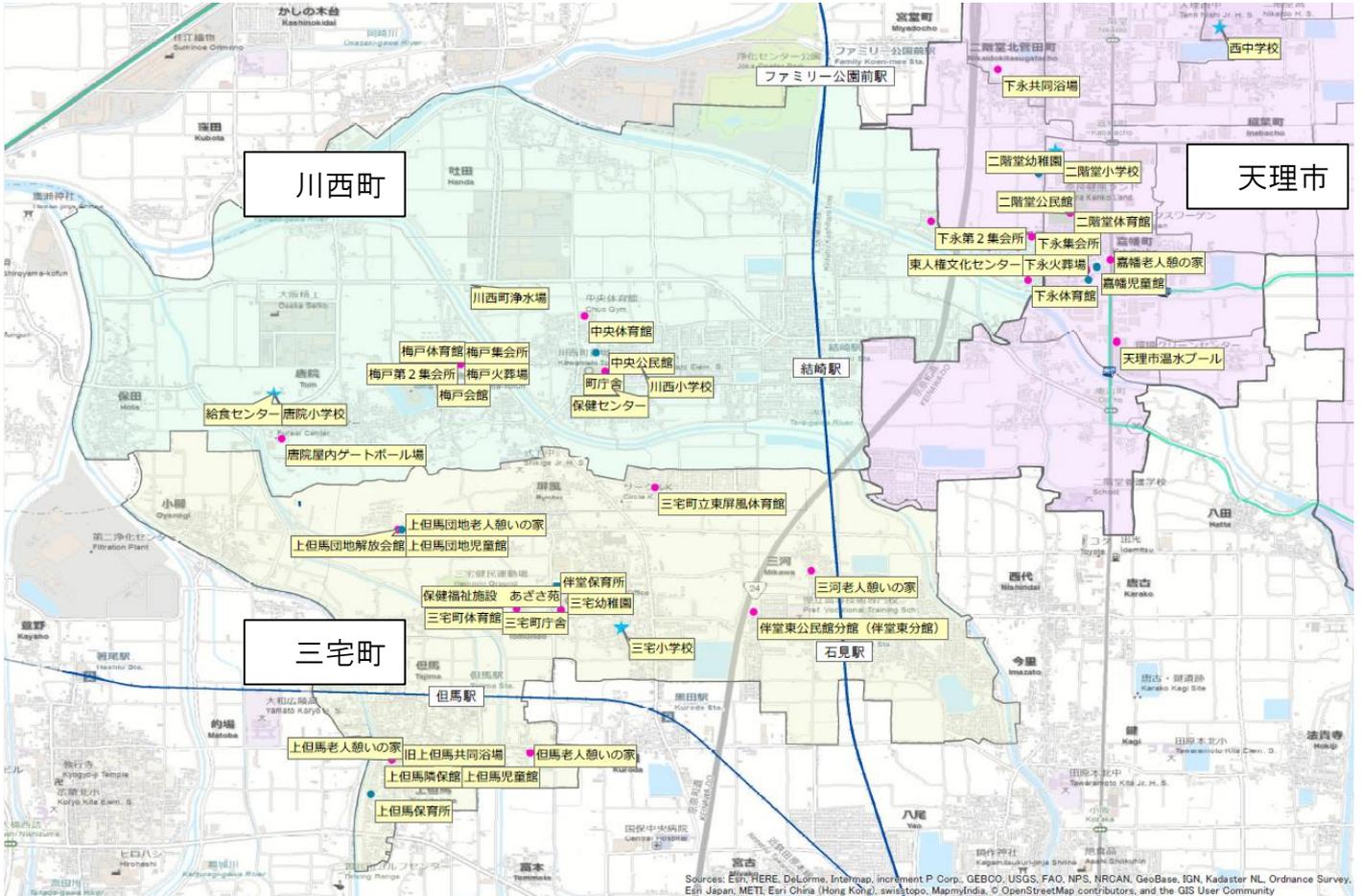


図 3-2-7 川西町・三宅町が所有する公共施設と天理市が所有する境界付近の公共施設の分布

- : 施設プロット
-  : バス停
-  : 鉄道路線
- : 公営住宅
-  : バスルート

メッシュ内数字 : 500mメッシュ内の人口

人口総数

	1.000000 - 100.000000
	100.000001 - 200.000000
	200.000001 - 300.000000
	300.000001 - 400.000000
	400.000001 - 500.000000
	500.000001 - 99999.000000

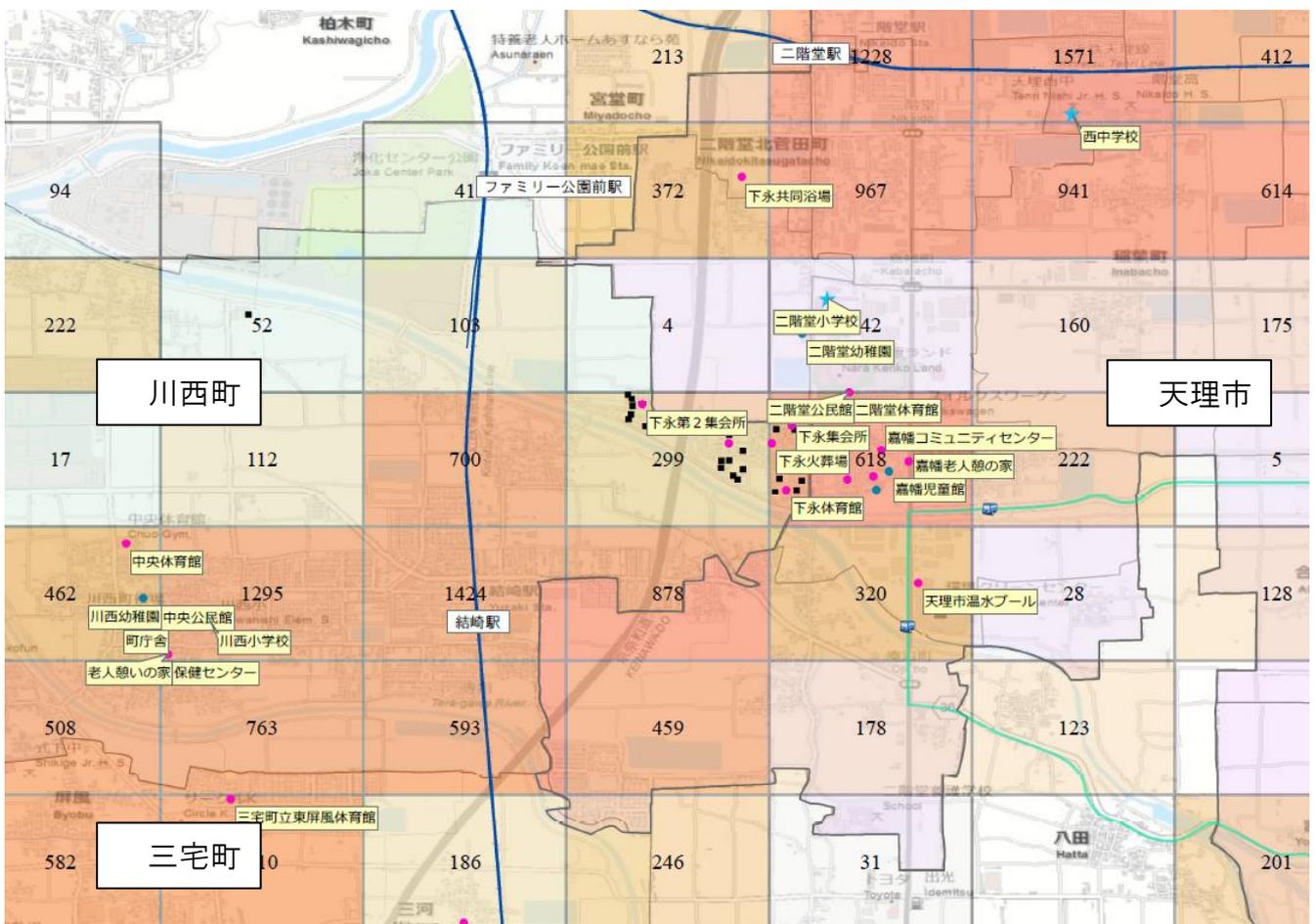


図 3-2-8 天理市と近隣自治体（川西町、三宅町）境界付近の施設分布

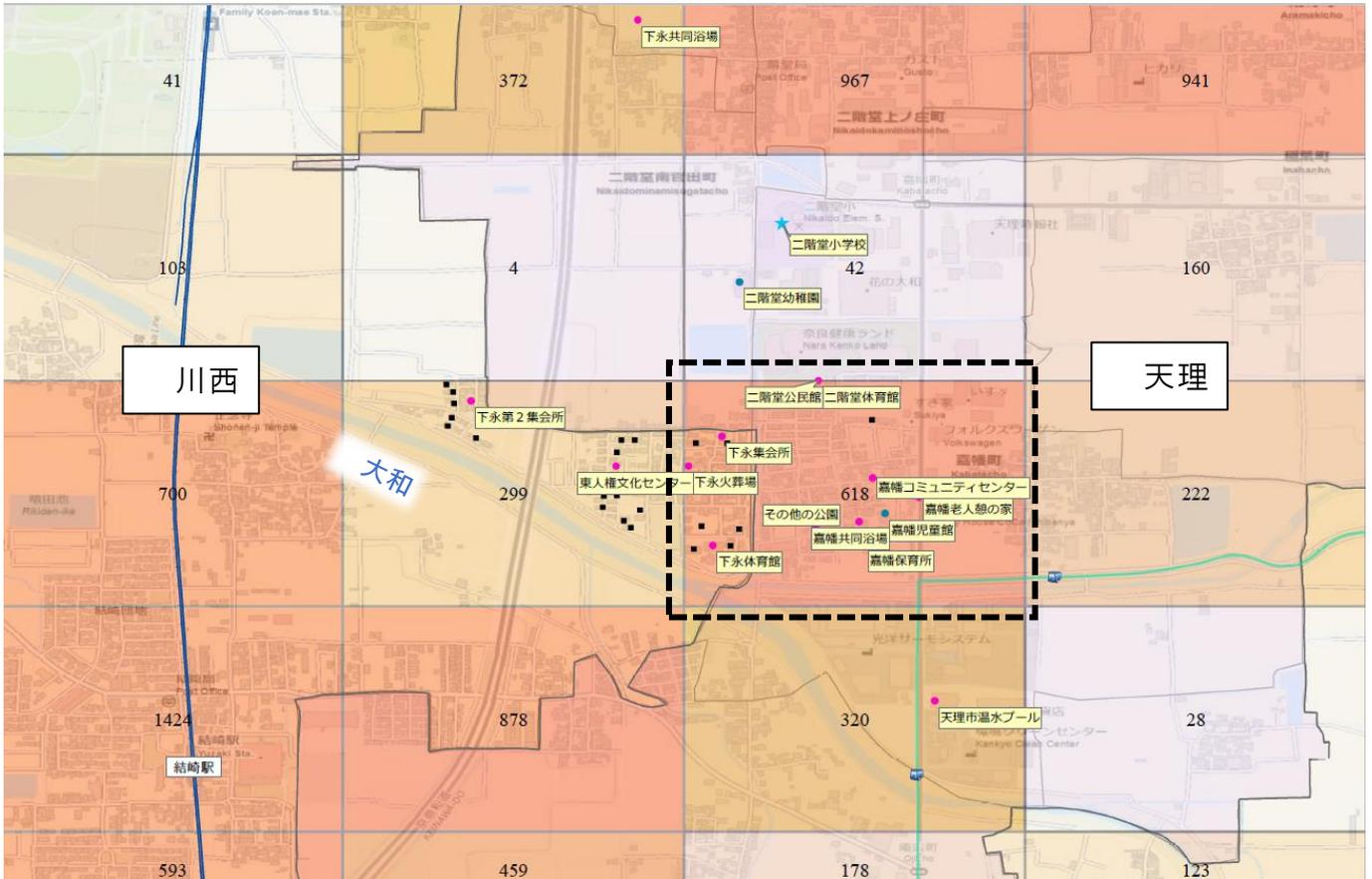


図 3-2-9 天理市と近隣自治体（川西町）境界付近の施設分布拡大

川西町と天理市の境界には施設が多く建てられている。特に500mメッシュごとに人口を色分けた人口メッシュと照らし合わせると嘉幡町の人口が周辺と比較して多く、公共施設が集まっている。川西町東側はあまり多くの公共施設が建てられていなかったが、天理市西側の多くの公共施設の利用圏を広げ、川西町住民の公共サービス利用の充実度を向上させる余地が十分にある。特に大和川を挟んで結崎駅東側の地域において施設共同利用による、公共サービスの充実を図りたい。

その場合、施設の用途の幅を広げて、充実を図るのであれば、川西町東側には市民文化施設とスポーツレクリエーション施設が既に建てられているため、これら2つの用途以外の施設の利用圏拡大が望ましい。天理市側で境界付近かつ川西町に無い用途という条件に当てはまる公共施設を挙げると、学校教育系施設の「二階堂小学校」、子育て支援施設の「嘉幡保育所」「嘉幡児童館」になる。

また、用途が天理市と川西町で重複している市民文化施設とスポーツレクリエーション施設については各施設の利用状況や距離、規模を見て、施設を統合し、共同利用することも出来る。施設統合のメリットに、施設管理の負担が減ることがまず挙げられる。他にも、利用者の増加が利用率の向上に繋がり、サービスの質を上げる際の効果、効率性にも影響する。一方で、デメリットとして利用者側からすると今まで利用していた施設が移動するため、利用に不便になってしまう人が現れる可能性がある。そのため、施設統合の際の施設選定は慎重に行う必要がある。

第四章 福住地区住民へのヒアリング・現地調査

中山間地域の住民が公共施設や公共サービスをどのように捉えているのか、また中山間地域の住民の普段の生活などを知るため、天理市福住地区の住民を対象としたヒアリング調査及び、現地調査を行った。

4-1 ヒアリング調査概要

ヒアリング調査にあたって、質問項目は「①福住地区の居住理由や生活の様子」「②天理市の公共施設について」「③中山間地域の学校の現状」「④公共施設・公共サービス施策の今後」の大きく分けて四つの内容に分類して作成した。質問項目の詳細は 4-2 のヒアリング調査用紙に記述する。

なお、ヒアリングにあたっては、「福住校区郷土活性化プロジェクト協議会」代表の 70 代男性、福住中学校に通うお子さんのいる 40 代女性、福住小学校に通うお子さんをお持ちの 30 代女性の計三名の住民の方に協力を頂いた。

・ヒアリング実施日

2016 年 1 月 14 日 10:00～12:00

・ヒアリング場所

福住公民館会議室

4-2 ヒアリング調査用紙

ヒアリング概要

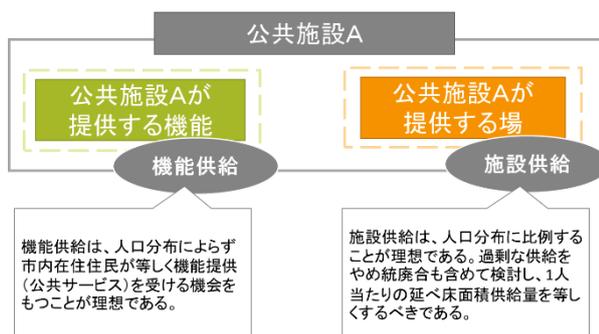
2016.1.07

【 研究内容 】

テーマ：山間部の公共施設配置計画に関する研究

現在、私は「公共サービス」の供給と「公共施設」の供給が、どちらも市全体を通し平等になる公共施設配置計画の研究を行っている（右図）。

山間部においては特に、公共サービスの不足と公共施設の供給過多がおきやすく、山間部に特化した解決策が必要であると考え、研究協力を頂いている天理市を事例とした調査をしている。



【 今回の目的 】

実際に福住地区に住まわれている方の実生活を把握するとともに、公共施設に関する率直なご意見を聞く。

【 質問項目 】

質問内容

福住地区に住む理由

住む上で感じているメリット/デメリット

周りの住民との交流具合

市内中心部への交通手段(自家用車/バス/タクシー等)とその利便性、所感

市内の公共施設の利用具合

福住地区は他の地区に比べ地元の公民館利用度が高いがその理由に心当たりはあるか

福住地区(市東部)公共施設に関して思うところはあるか

福住小学校・中学校への児童の通学方法

少人数になっている小学校・中学校について、教育方法への要望などはあるか

一部の自治体では小中学校を統合、または他の公共施設と統合する例もあるが、「保護者」としてどのように考えているか

少子高齢化が進むに当たり「スマートシティ化」ということで、市が費用を負担し市内中心部への移住を進める自治体もあるが、施策としてどのように考えるか

など

4-3 ヒアリング結果

ヒアリング調査結果を下記のようにまとめる。

(1) 福住地区の居住理由や生活の様子

	「郷土活性化プロジェクト協議会」代表 70代男性	福住中学校に通うお 子さんをお持ちの 40代女性	福住小学校に通うお 子さんをお持ちの 30代女性
福住地区に住む理由	昔から住んでいる。	嫁いで福住地区に住み始めた。	嫁いで福住地区に住み始めた。
福住地区に住む上で感じているメリットデメリット	地域のつながりが強く自然が豊かである。		人が少ないので、1人で夜道を歩くのは不安である。
周りの住民との交流について		ご近所づきあいが良好である。	外出中の子供の面倒などを近所の人に頼めるなど、安心感がある。
市内中心部への交通手段と日々の生活	奈良交通やデマンドタクシーなどが福住地区も走っているが、老人はまずバス停留所まで行けず、デマンドタクシーについてもフルデマンドではない場合があるため、その停留所まで行けず、結局自家用車の利用になる。運転が出来ない場合は若い家族が休みに合わせて帰省した際に車に同乗して市内に出る。	自家用車があるため、不便はしていない。買い物も日用品ぐらいなら歩いていける場所に店があるが、大量の買い物などは市内にでる。住民によっては生協の配達を利用する場合や、商店の人に電話をして品物を届けてもらうこともある。	自家用車があり、福住地区には名阪国道が走っているので、それを使えば15分で市内中心部に行けるため特に不便はない。バスやデマンドタクシーはあまり利用しない。

(2) 天理市の公共施設について

	「郷土活性化プロジェクト協議会」代表 70代男性	福住中学校に通うお 子さんをお持ちの 40代女性	福住小学校に通うお 子さんをお持ちの 30代女性
福住地区の公共 施設の利用につ いて	住民からの要望で、住 民票と印鑑証明が福 住公民館でも発行が 可能になった。	特に困っていること もない。	福住地区にある公民 館で規模的には困っ ていない(ため市内中 心部にわざわざ出る ことはない)
他の地区に比べ て「公民館」の利 用頻度が高い理 由	公民館は会議に利用 をしている。	公民館は子供の行事 に利用をしている。 朝の7:30から夜の 9:30まで開放されて いるので、若い人は 仕事終わりに公民館 に集まって利用す る。福住地区内に他 に集まれるスペース がそうないため、近 所で集まるとなると 利用するのは公民館 になる。	公民館は子供の行事 に利用をしている。そ れ以外にも授業参観 の後などに母親同士 で集まって次の予定 を決める話し合いに 利用することもある。

(3) 中山間地域の学校の現状

	「郷土活性化プロジェクト協議会」代表 70代男性	福住中学校に通うお 子さんをお持ちの 40代女性	福住小学校に通うお 子さんをお持ちの 30代女性
福住小学校・中学校への児童の通学方法	遠ければ奈良交通のバスを利用している児童もいる。交通費は支給制である。	中学生になってからは自転車の通学も可能になって、利用する学生も多い。徒歩圏内の場合は徒歩。自家用車の送迎もある。	学校から離れている所に住んでいる場合は親の出勤と一緒に車で家を出て、他の場所から来る児童との合流地点まで送迎し、そこから徒歩という人もいる。
生徒数が少ない中で、学校に対する要望など	生徒数は少ないが、この地域に学校があることは、自然の豊かさなどの面でメリットがあると思う。校区制度をなくし、特色で学校を選ぶ事ができるのも良いのではないか。	そもそも子供が少ないため、公民館で企画をしても、市内中心部よりも盛り上がりかける。また、クラブ活動も人数が必要な運動クラブなどは活動できないので、市内のクラブに所属するなどしなければならない。人数が少ないため運動会も地域合同で行う（保育園、幼稚園、小中学校、消防、老人会）がそれはそれで楽しいと思っている。	嫁ぐ前にいた地域の学校と規模が大きく異なるので、全校生徒40名弱の学校での過ごし方があまり想像できなかった。イベントは人数が少ないと内容に限りが出てしまうので、もう少し考えてほしい。みんな仲良くという意識は強いが、競争意識という面では今後不安を感じる。人数が少ないために教師の目がとても行き届いていて安心感がある。
小中学校と他用途の公共施設の統合についてどのように思うか	福住地区は所謂限界集落であるので、統廃合は仕方ないと思う。	学校と公民館などが同じ施設になるのは抵抗がある。人の出入りに抵抗はないが、距離が近すぎてしまうのは不都合が出ると思う。今の距離が適切である。	

<p>小中学校の統合などについて、保護者としてどのように思うか</p>	<p>一つにして考えるのは必要だと思う。</p>	<p>小中学校が一貫になる、もしくは統合されるというのは賛成である。本来なら中学校にあがる時に、いくつかの小学校からまとめて生徒がくるが、福住地区は1つの小学校しかないため、現状小学校と中学校で特に変化はない。教師の顔を予め見知っている事は子供にとっても安心であると思う。また、小学校は全教科を一人の先生が担当するが、中学校のように科目ごとに先生がいれば、その先生にも見てもらえることができより教育性があがるのではないか。</p>
-------------------------------------	--------------------------	---

(4) 公共施設・公共サービス施策の今後

<p>スマートシティ化や、公共施設の統廃合についてどう思うか</p>	<p>仕方がない事。地域で生き残るには、新しい産業づくりなどをして内発的に努力をしなければならない。</p>	<p>「郷土活性化プロジェクト協議会」代表 70代男性</p>	<p>福住中学校に通うお子さんをお持ちの 40代女性</p>	<p>福住小学校に通うお子さんをお持ちの 30代女性</p>
------------------------------------	--	-------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------

(5) その他

<p>自家用車での移動について</p>	<p>20分~30分で行ける場所なら遠いとは思わない。</p>	<p>「郷土活性化プロジェクト協議会」代表 70代男性</p>	<p>福住中学校に通うお子さんをお持ちの 40代女性</p>	<p>福住小学校に通うお子さんをお持ちの 30代女性</p>
---------------------	---------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------

4-4 ヒアリングまとめ

今回のヒアリング調査は、施設供給度を見た結果、立地的に不便と考えられる福住地区の住民に実感を聞くことを目的としていた。山間部での不便が多いことを予想してのものであった。しかしヒアリングをした結果、若い世代はあまり立地的な不便さを感じておらず、むしろ自然が豊かで、近所の顔がわかる土地に、子育てのしやすさなども感じていることがわかった。生徒数が少ないことで出来るイベントが限られていることや、競争心の育成などの不安はあったが、それに我慢ならないという認識はなかった。子供については「高校や大学に通うようになって市外に出て便利さを覚えてしまうと、この地域は物足りなく思えてしまうようだけれど」と話した。

また印象的であったのは、交通の便に対する所感であった。特に女性二名は「車で行けるなら遠近の感覚がない」と、施設の距離に対し不満を抱いていなかった。中山間地域において施設供給の公平性を考えて施設を設置するという考えもあるが、交通手段がある限りは、必要がないと今回のヒアリングで感じた。逆に、自家用車を扱えなくなった世代に対し、どのように足を提供するのが、施設供給の考え方に重要ではないかと感じた。特に、デマンドタクシーがありながら、その利用について挙げた問題点などを今後解決していくことで、施設供給の問題が解消されるのではないかと考える。

4-5 福住地区現地調査

福住小学校区に位置する福住公民館と山田公民館を視察した。

(1) 福住公民館（築年数 26 年、延べ床面積 566 ㎡）

住民からの要望で2014年から福住公民館において住民票と印鑑証明証の発行ができるようになった。館内には写真 4-5-1 のような活動報告があるが、これを見ると「天理っ子」「成人学級」「女性学級」「高齢者学級」などでそれぞれの活動が行われている様子うかがえるほか、地域の祭りや、公民館祭りなどが行われ、地域に根差して活用されていることがわかる。



写真 4-5-1：福住公民館活動履歴

(2) 山田公民館（築年数 65 年、延べ床面積 770 m² / 旧山田小学校）

山田公民館は福住公民館よりも東部に位置する。小学校の建物を公民館として利用している。古い様式を残した建築である。



写真 4-5-2 : 山田公民館外観



写真 4-5-3 : 山田公民館調理室



写真 4-5-4 : 山田公民館廊下

写真 4-5-5 のように、山田公民館の読書室の本は住民からの寄贈である。福住公民館、山田公民館共に、中心部の図書館から本をまとめて借りて、定期的にその内容を変えて貸出を行っている。小中学校に関しても移動図書がある。常設の本は、写真のように寄贈の本で成り立っている。



写真 4-5-5 : 山田公民館読書室

また写真 4-5-6 は山田公民館の予定表である。上段が午前の予定、中段が午後、下段が夜の予定を示しているが、夜の活動も活発であることが分かる。福住公民館とも合同で催しものを行っているという。



写真 4-5-6 : 山田公民館予定表

活動内容については着つけ教室や華道、茶道など多岐にわたるがその講師は住民からの推薦で、その先生役となる住民(福住小学校区住民)をたて、活動を始めるという。

従来から伝わる味噌づくり製法を住民に教える教室なども公民館主催で行われていた。

4-6 福住地区現地調査まとめ

比較的新しい福住公民館に比べ、小学校を再利用した山田公民館は過去の生徒の持ち物が残っており、記憶を残す建築であるため、案内をしてくれた市の職員も「一概に統廃合を決めるのは難しい建築である」と話した。また、こういった山間部の公民館はその利用度から言っても、住民の集まる場所として活発に利用されており、規模の縮小や統合などは難しいと感じた。こういった施設を維持しながら、どのように市全体で公共施設量の適正化を図るか、公共施設の FM を考える上で重要なポイントである。

第五章 総括

本研究に関しての総括を以下のようにまとめる。

まず、第二章では、天理市の公共施設に関する住民意識調査について取り扱った。

この住民意識調査の結果によると、市民に直接負担のかかる、「利用料金の引き上げ」や「特別課税の設置」に対する反対意見が多数であったことから、金銭的負担のかからない手段で、今後は公共施設再編について考えていく必要があると言える。また、市民が公共施設に対して最も重視するものは「施設の立地」という意見が多数であった一方で、半数以上の市民が施設の利用に際して「公共施設か民間施設かを意識していない」ということも調査結果から明らかになった。このことから、市民は施設そのものよりも提供されるサービスが重要であると考えており、立地条件がよく立ち寄りやすい、つまり交通手段が整っているような場所であることを重視していると言える。

なお、市の今後に対する不安に関する設問では、全体の半数以上が不安を持っていると回答する一方で、世代別にみると 20 歳代についてのみ半数以上が不安はないという結果であったことから、これらの世代にもより強く市政の状況を伝えていく必要があると言える。

次に第三章では、天理市が新たな広域連携の取組みとして推進している「定住自立圏構想」の連携自治体である山添村、川西町、三宅町の 3 町村を対象とした自治体間比較を試みた。

第二章と同様の調査をこの 3 町村で行ったことは、これまでに同様の内容に関する調査を近接する自治体間で実施し比較されるという事例はあまり見られなかったことから、結果はもちろんであるが調査を行えたこと自体が有意義であった。なお、これらの調査結果では、施設の共同運営・共有に関する住民の考え方について、天理市と他の町村で異なる傾向を示した。また、特に山間部が多くを占める山添村でのみ、公共施設に対して最も重視していることに「多機能性」が挙げられたことは特筆すべき点であった。なお、天理市のみ他の町村に比べて「FM の認知度」が高いことは、市政における情報発信や広報力によるものと言える。

さらに第四章では、天理市でも特徴的である福住地区住民へのヒアリング・現地調査について取り扱った。

同じ地域に住む異なる 3 世代からのヒアリングとなったが、特に印象的であったのは「2～30 分程度の車での移動であればあまり遠いとは感じない」ということであった。前述のとおり、住民は公共施設に対して「施設の立地」を最も重視していると考えられるが、地域によって住民の距離感覚に差があるということについては、今後施設の立地計画などの策定にあたり考慮すべき点である。ただ、現時点では、バスやタクシーしか利用できない環境にある高齢者等については、今後の課題を残すところであり、これからの自動車技術の進歩なども注視した上で、施設全体の計画を進めていく必要がある。

以上のように、今年度の研究は、天理市が保有している公共施設に関する情報に加えて、

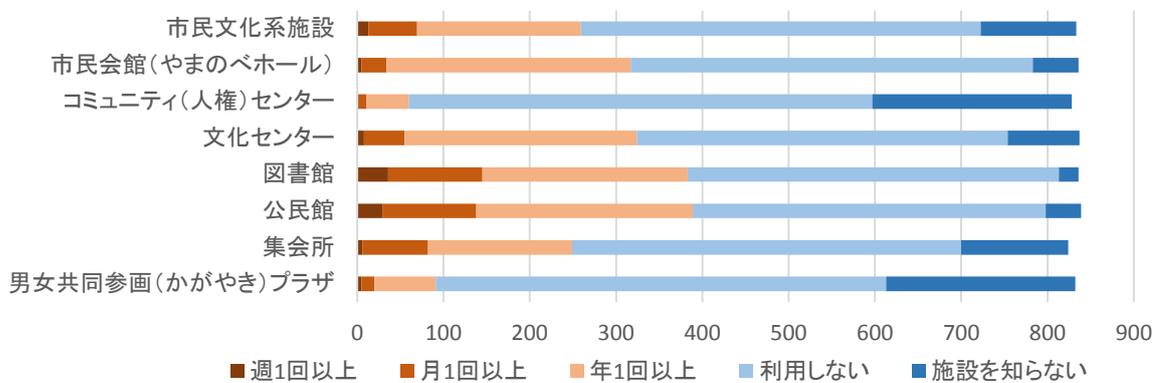
実際に住民からの意見を取り上げ、現状の把握や今後の課題を見出すことについて重点的に取り組んだ。

2カ年間の共同研究において、天理市が保有する公共施設に関する様々な施設情報の整理により現状を把握し、住民の協力のもと公共施設に関する意識調査を行ったことで、天理市の抱える課題の抽出と今後の公共施設マネジメントの進め方について基本的な内容を整理することができた。

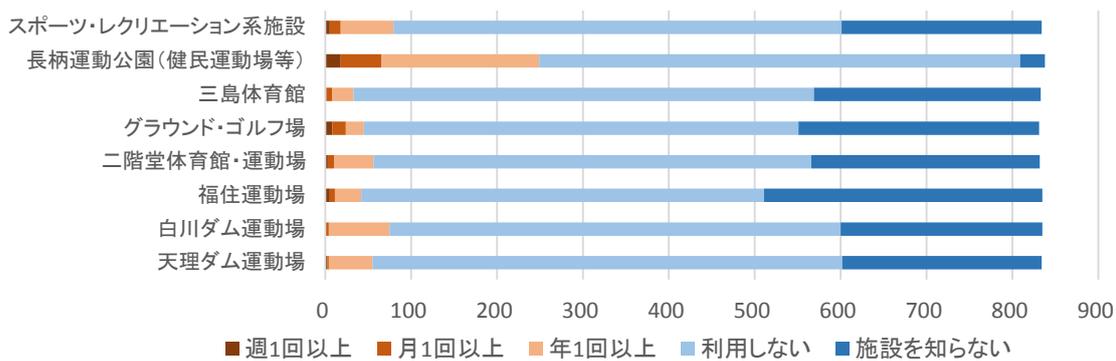
今後の課題としては、本研究からもわかるように、施設の立地と機能についてより詳しく研究分析を行うと共に、行政サービスのあり方についても調査を行う必要があると言える。また、個々の公共施設をどのように運営していくか、建替えを行うか、改修を行うかも含め、費用面や構法面からも検討を進めていく必要があると言える。

付章

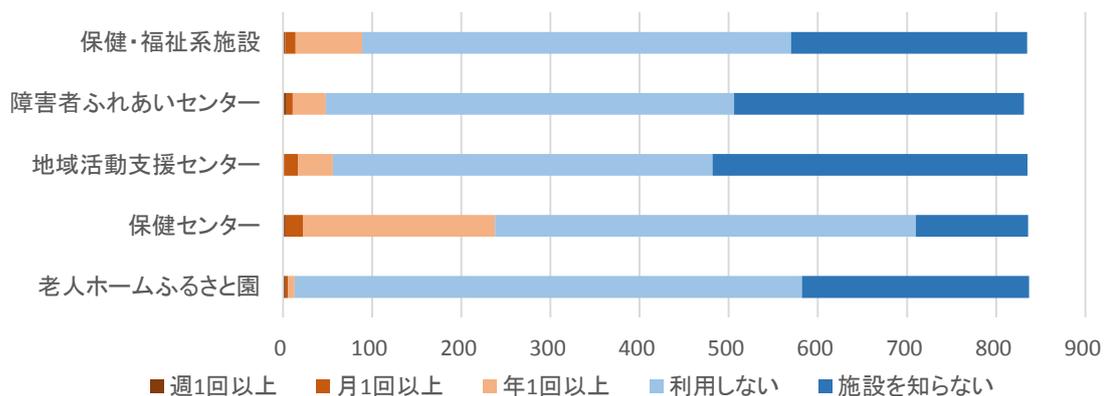
天理市 住民意識調査



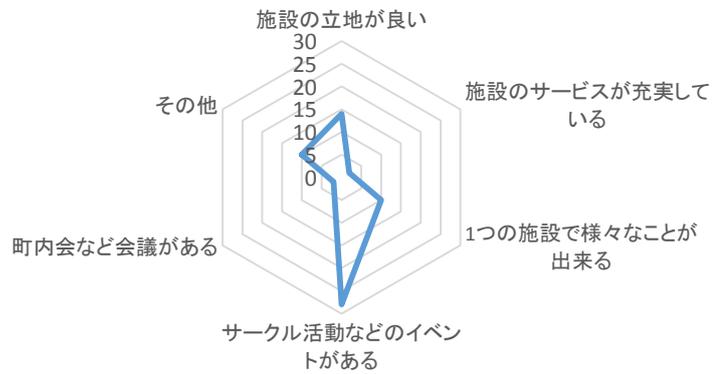
市民文化系施設利用頻度



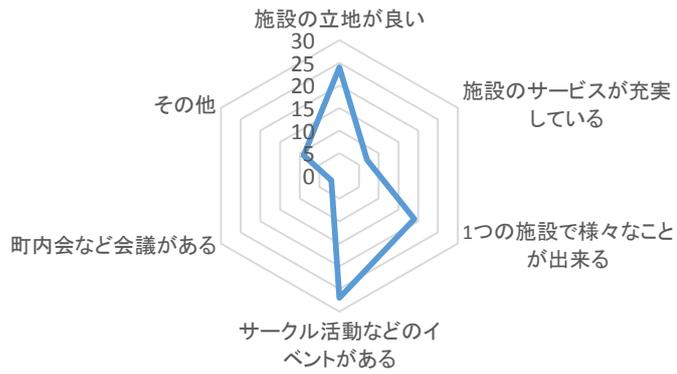
スポーツ・レクリエーション系施設利用頻度



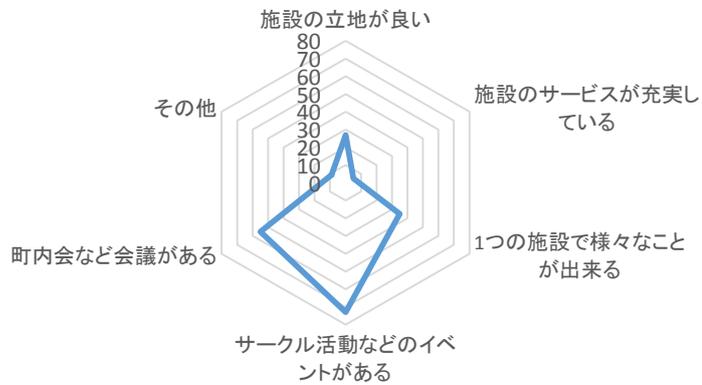
保健・福祉系施設



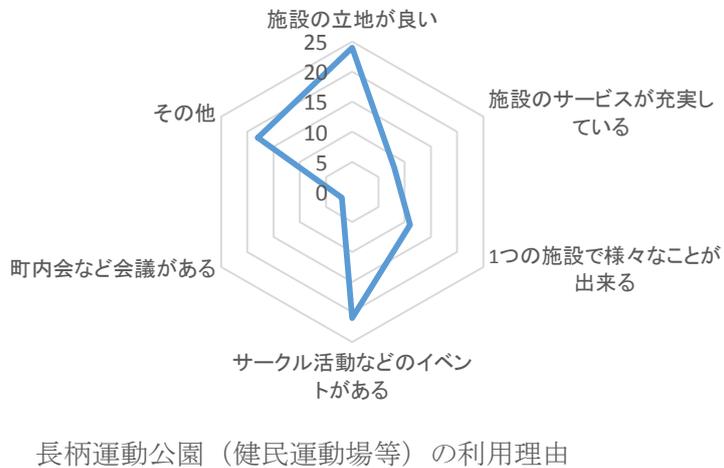
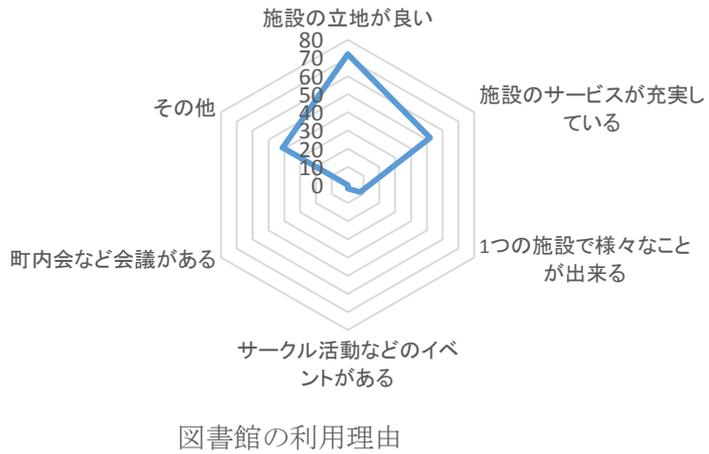
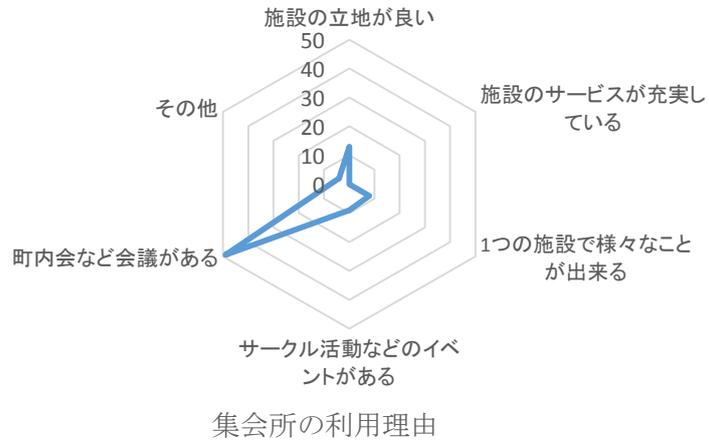
市民会館（やまのべホール）の利用理由

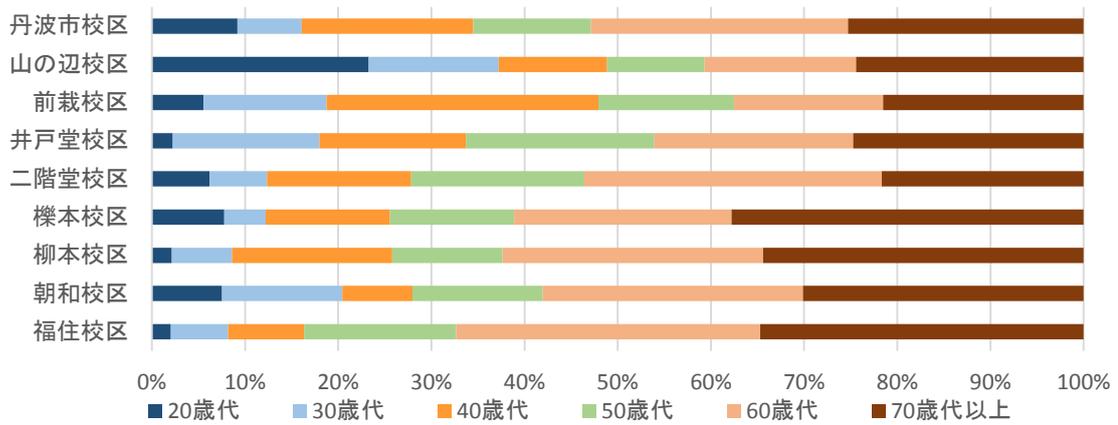


文化センターの利用理由

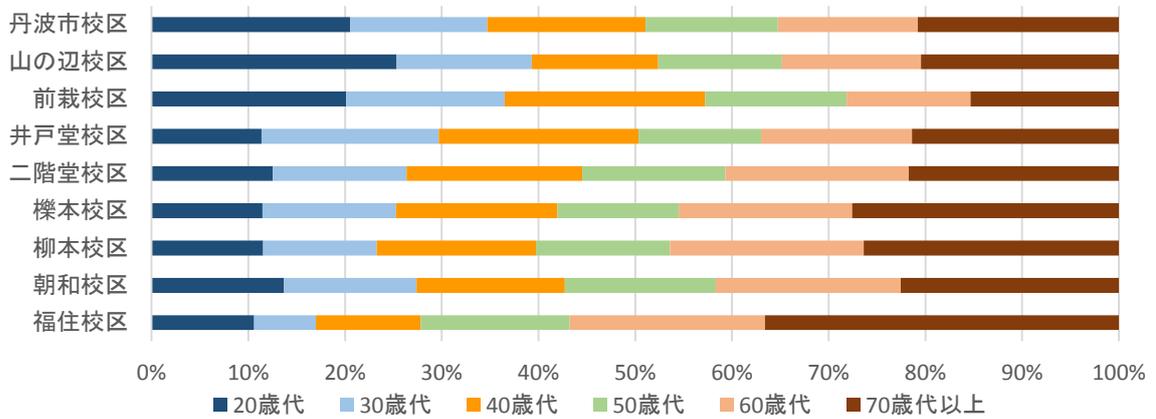


公民館の利用理由

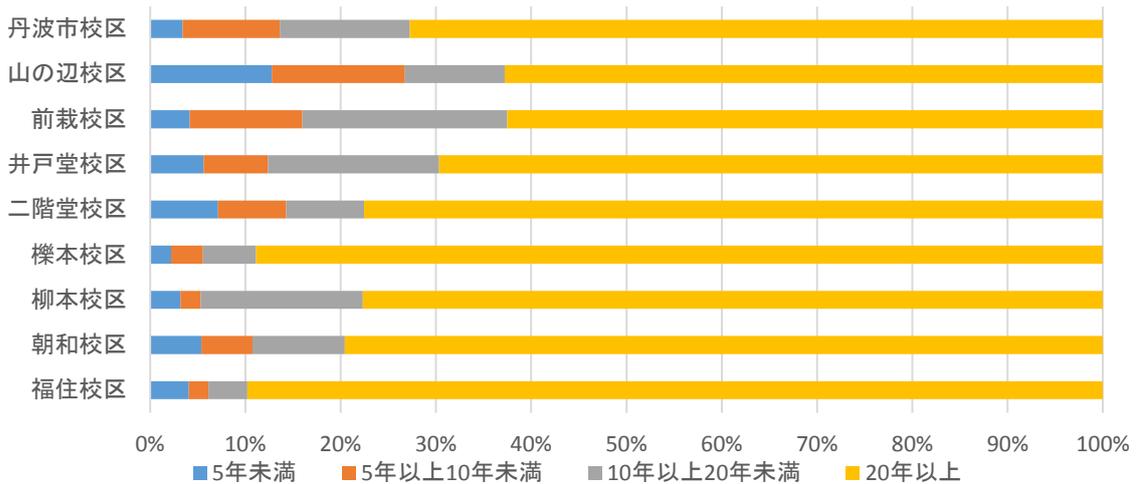




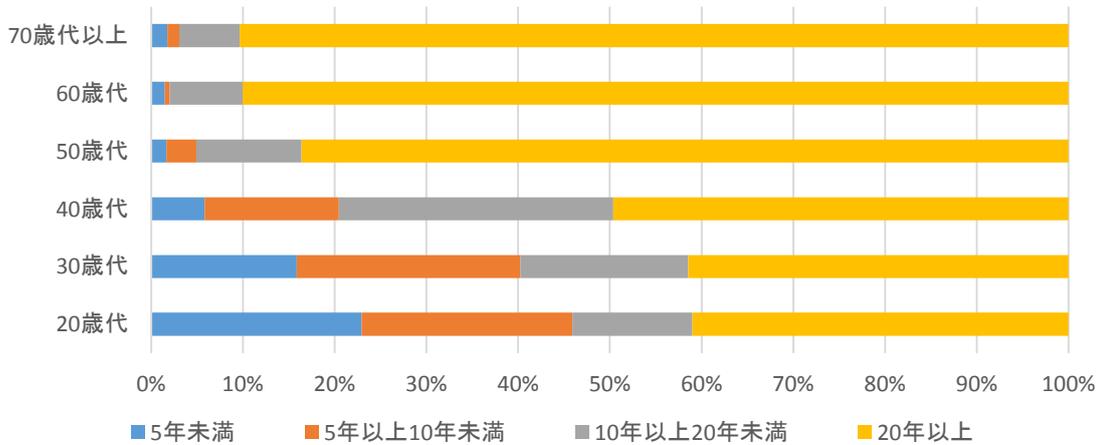
回答者の各小学校区における世代別割合



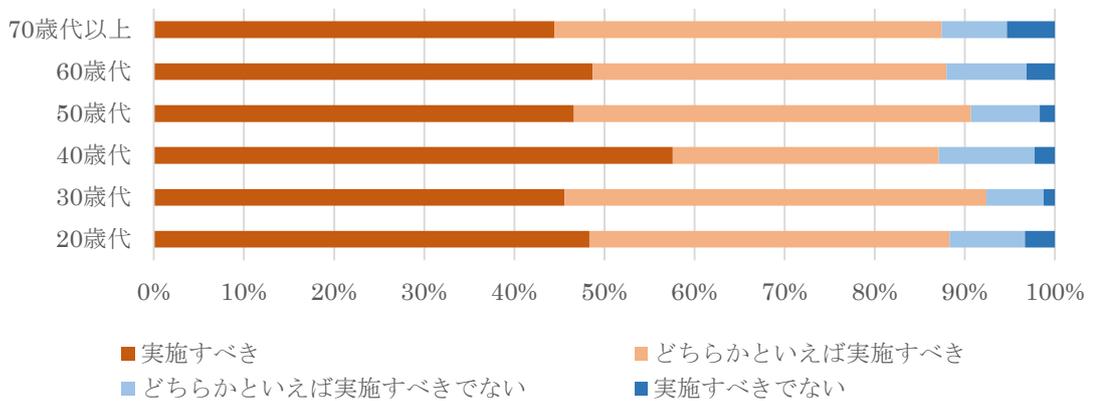
各小学校区における世代別人口割合



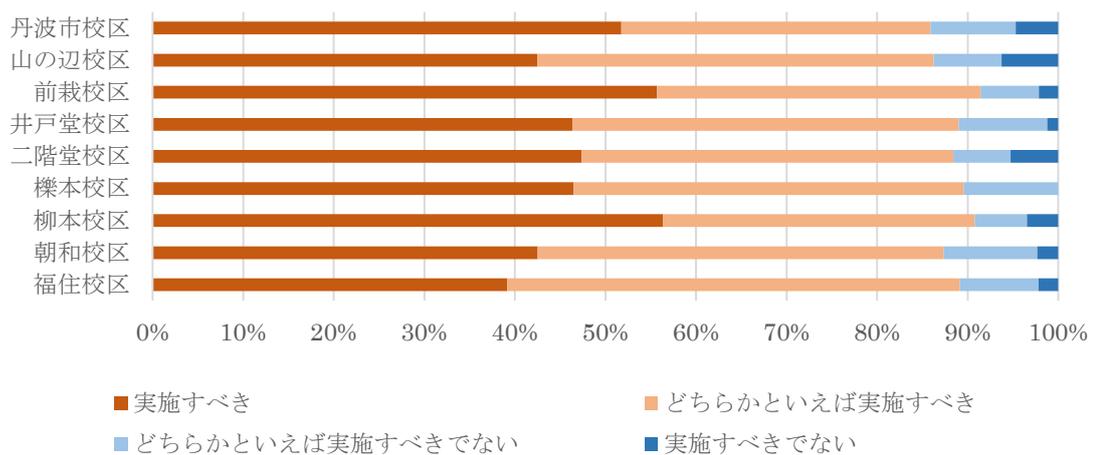
回答者の小学校区における居住年数別割合



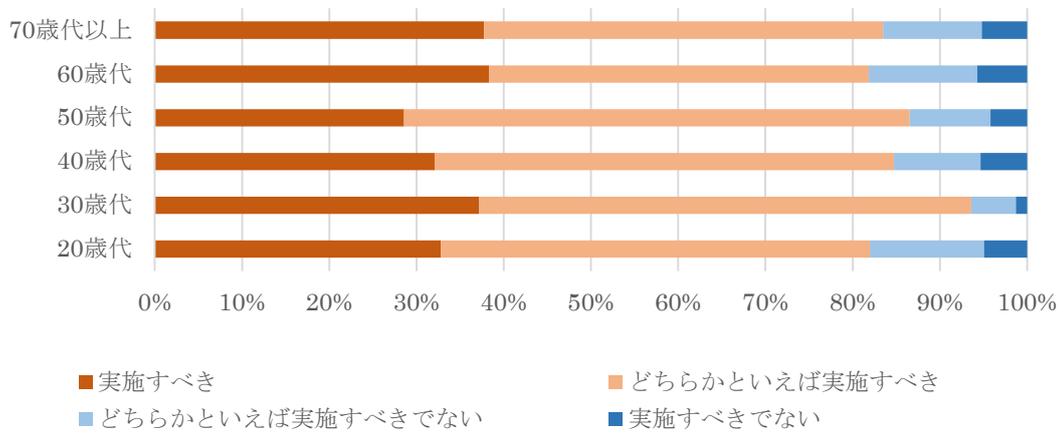
回答者の世代と居住年数の関係



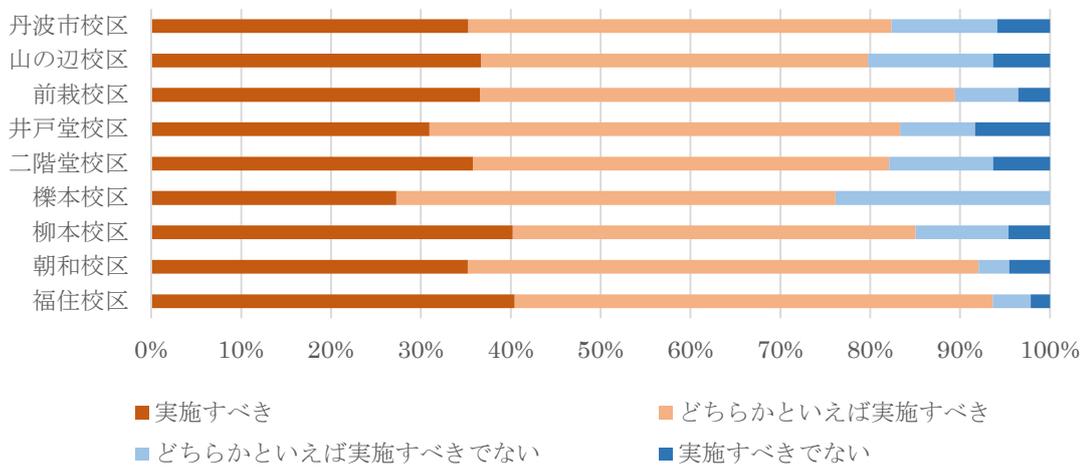
統廃合・多機能化に対する世代別賛否の割合



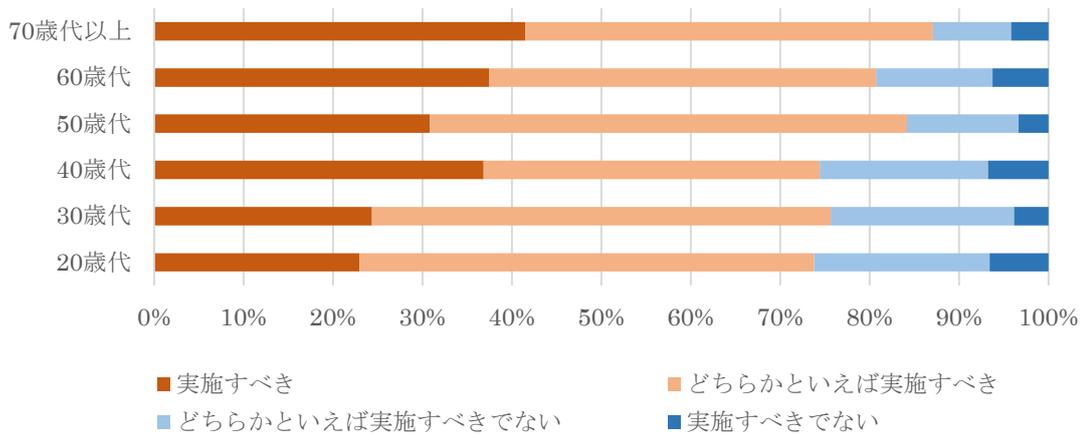
統廃合・多機能化に対する小学校区別賛否の割合



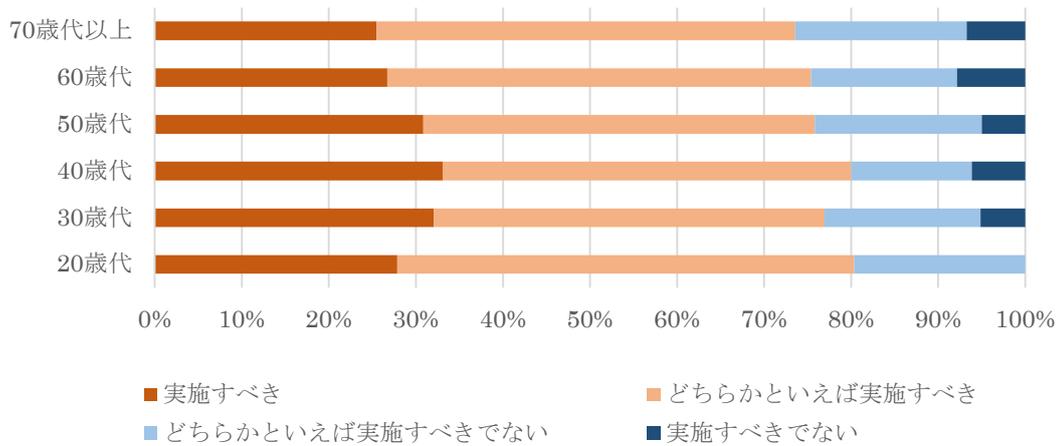
PPPに対する世代別賛否の割合



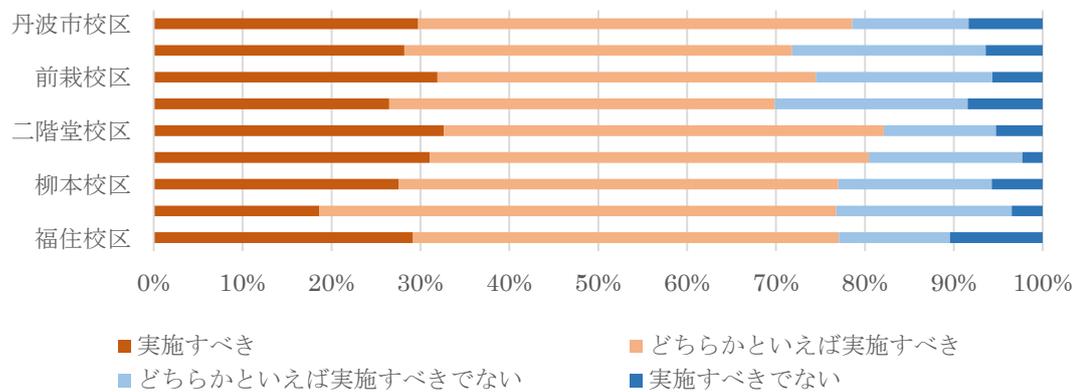
PPPに対する小学校区別賛否の割合



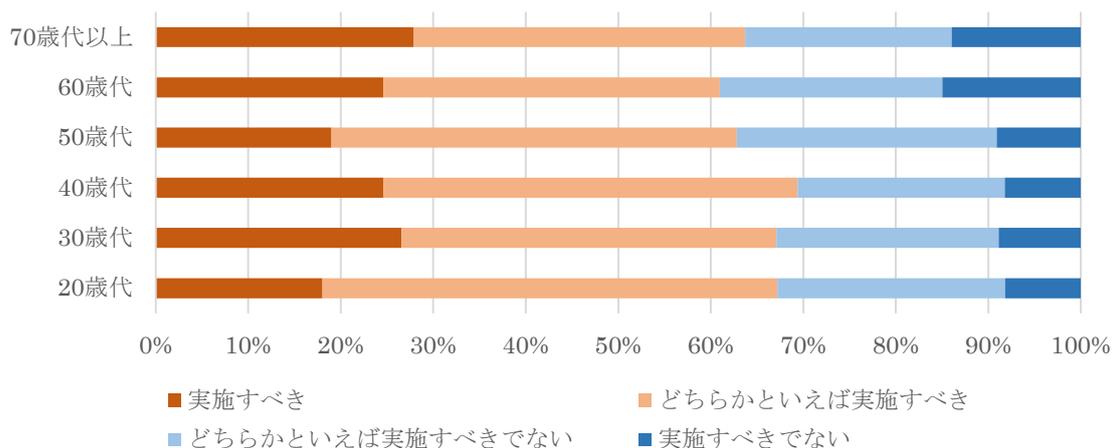
長寿命化に対する世代別賛否の割合



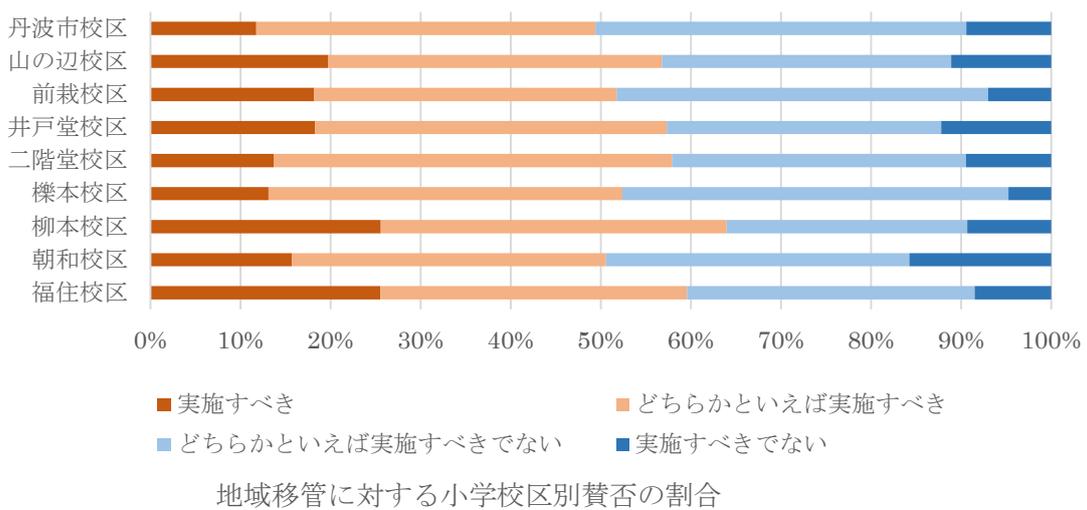
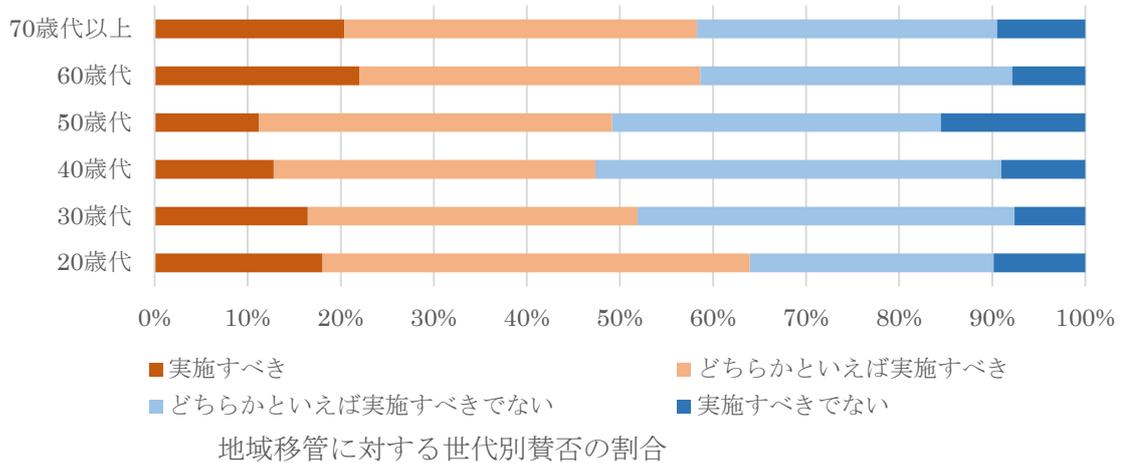
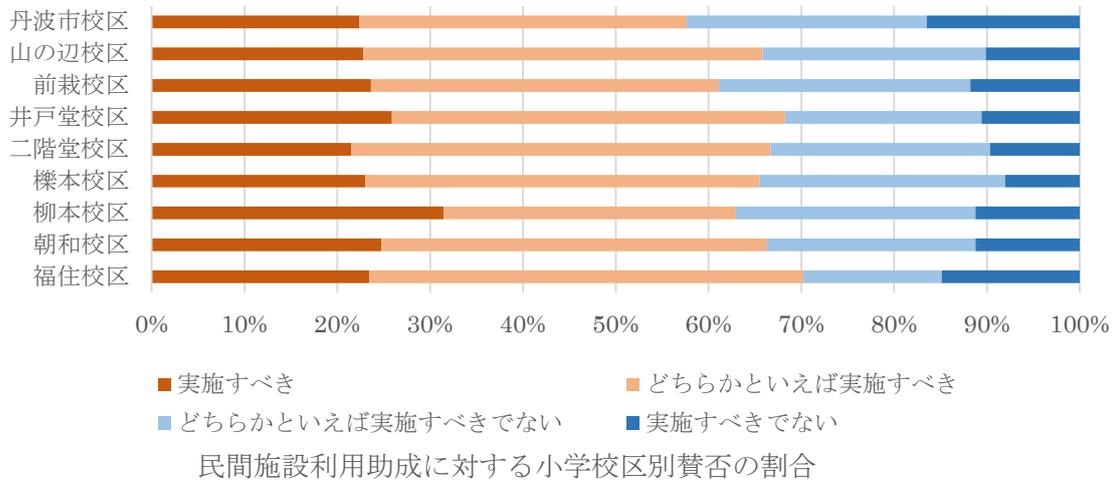
広域化に対する世代別賛否の割合

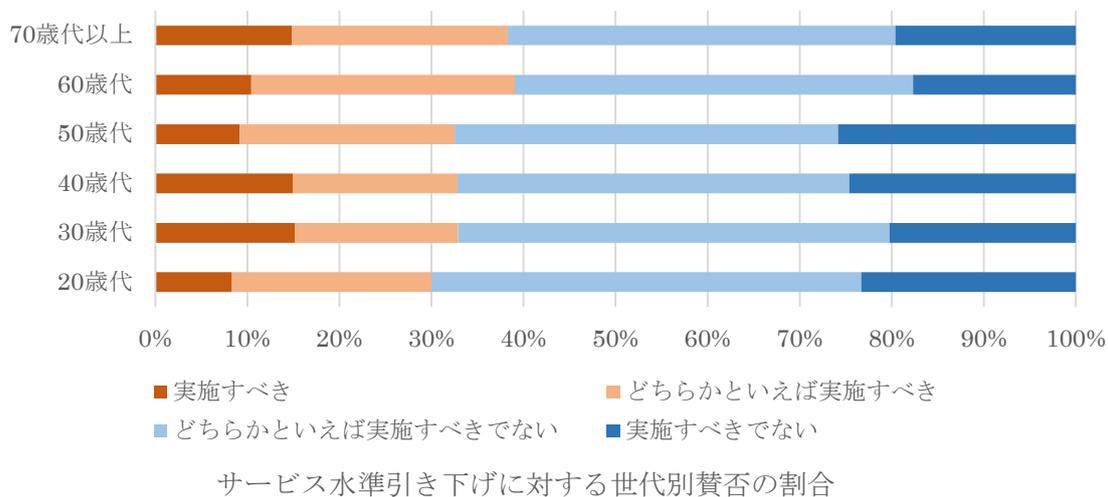
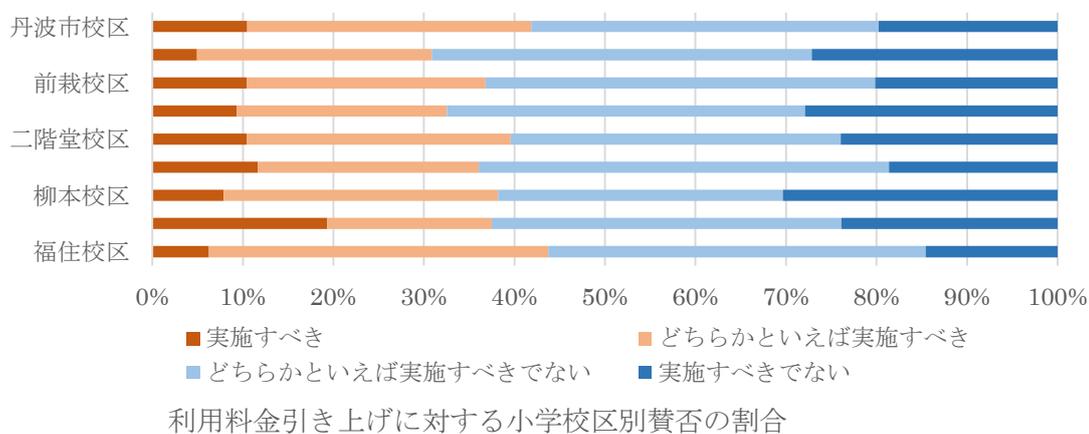
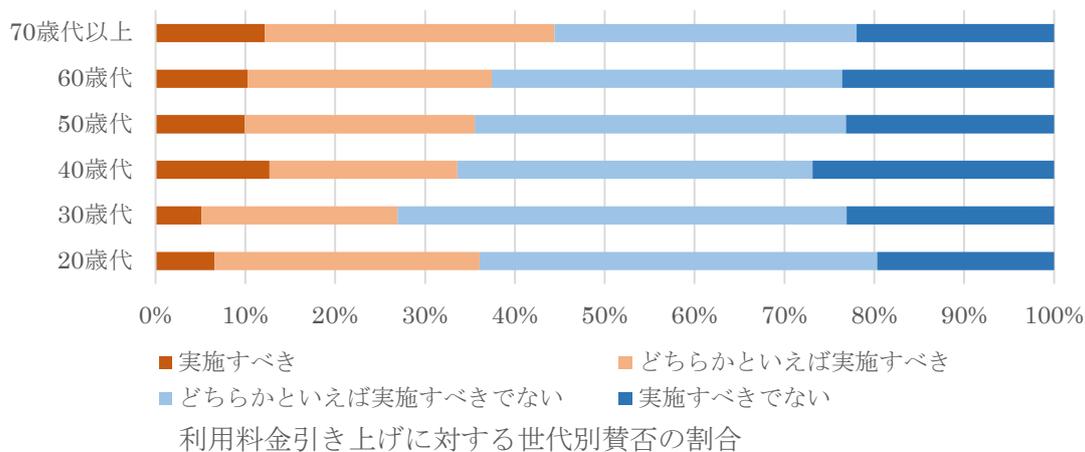


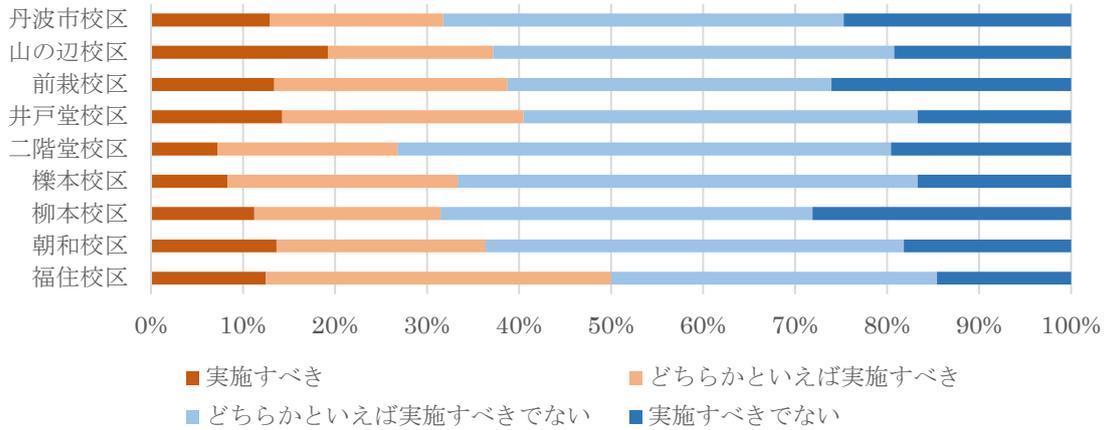
広域化に対する小学校区別賛否の割合



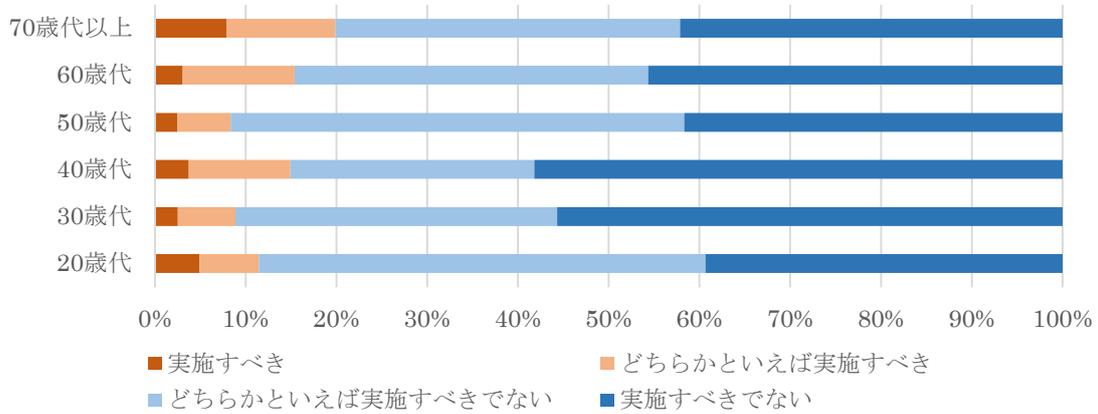
民間施設利用助成に対する世代別賛否の割合



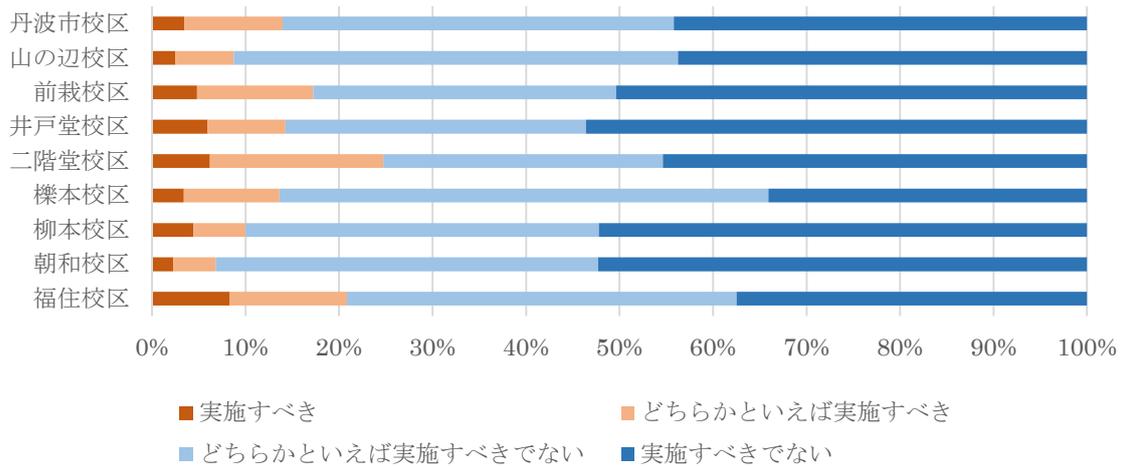




サービス水準引き下げに対する小学校区別賛否の割合



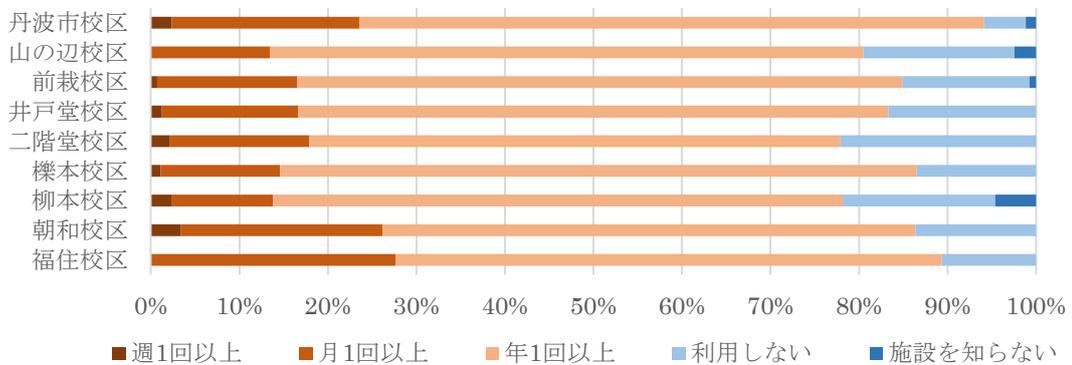
特別課税に対する世代別賛否の割合



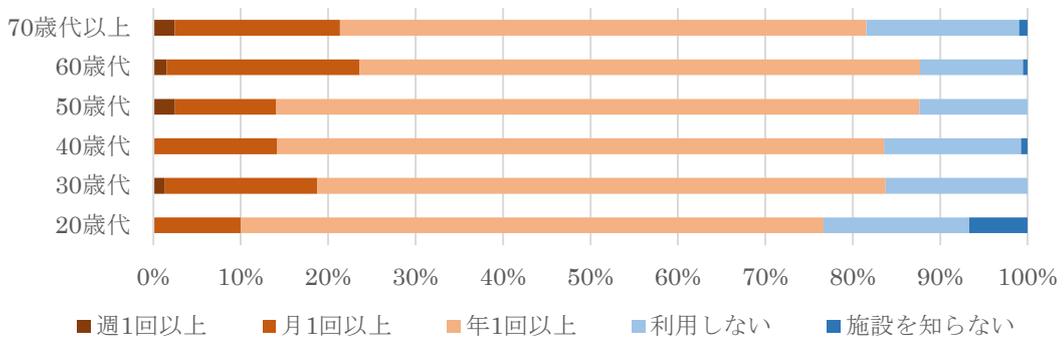
特別課税に対する小学校区別賛否の割合



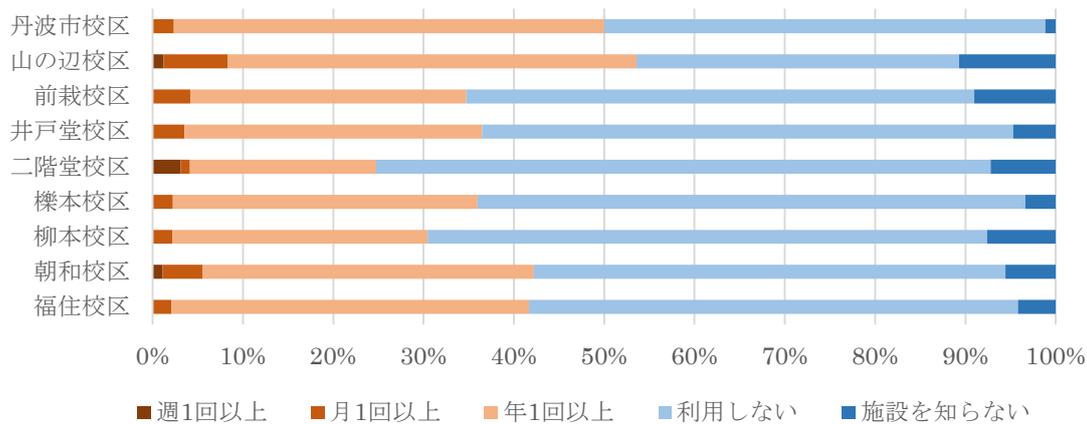
小学校別公共施設配置図



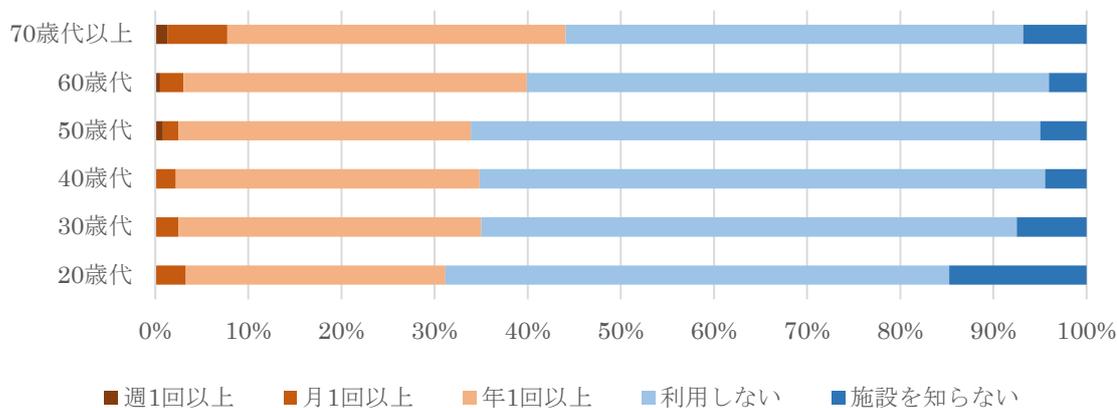
天理市庁舎の小学校区別利用頻度



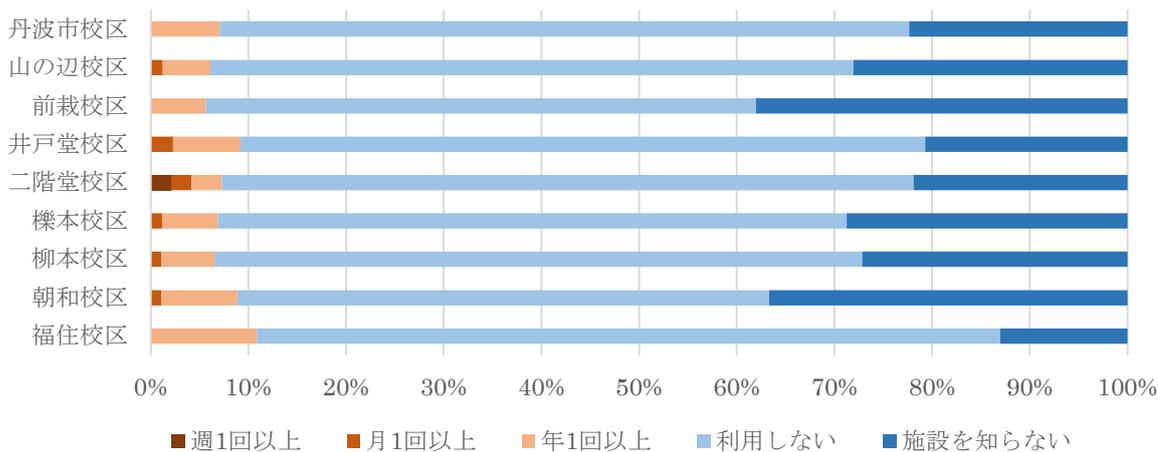
天理市庁舎の世代別利用頻度



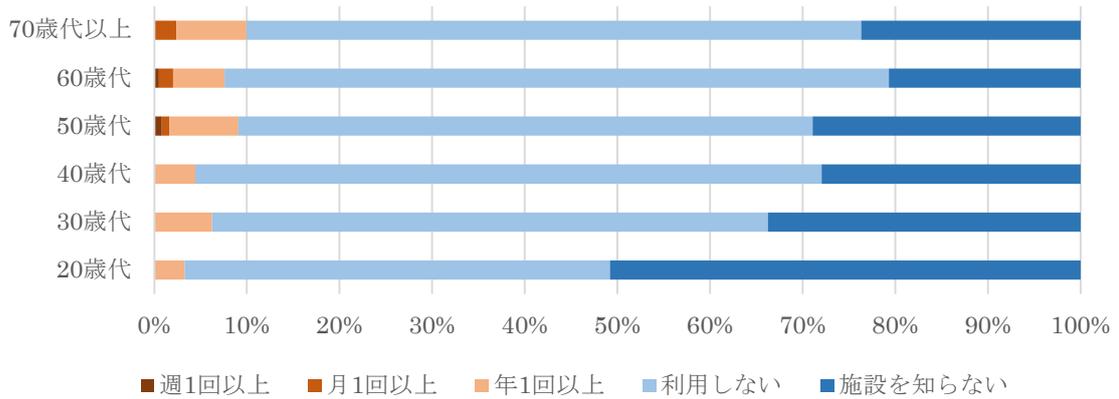
市民会館（やまのべホール）の小学校区別利用頻度



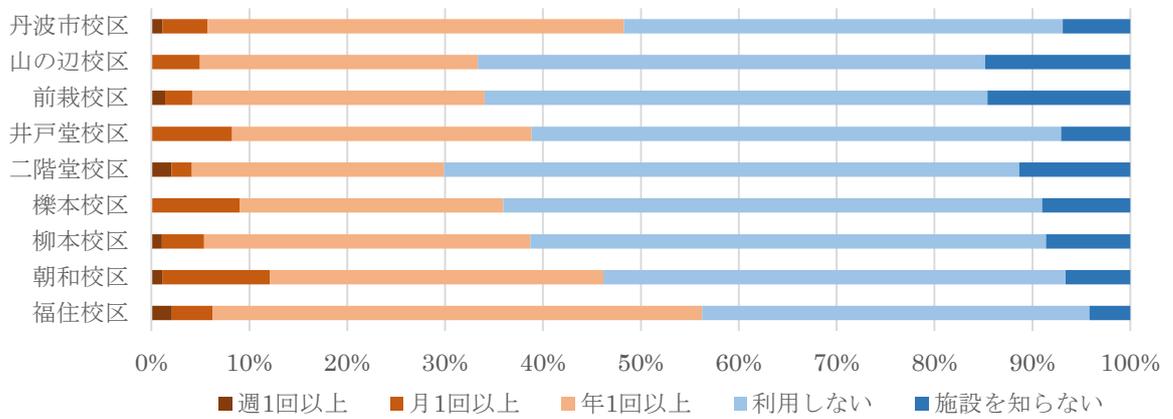
市民会館（やまのべホール）の世代別利用頻度



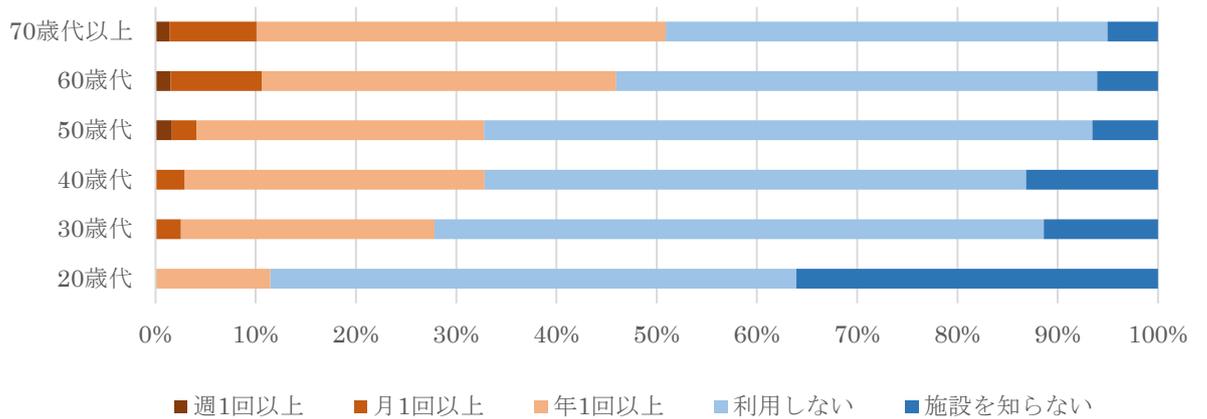
コミュニティ（人権）センターの小学校区別利用頻度



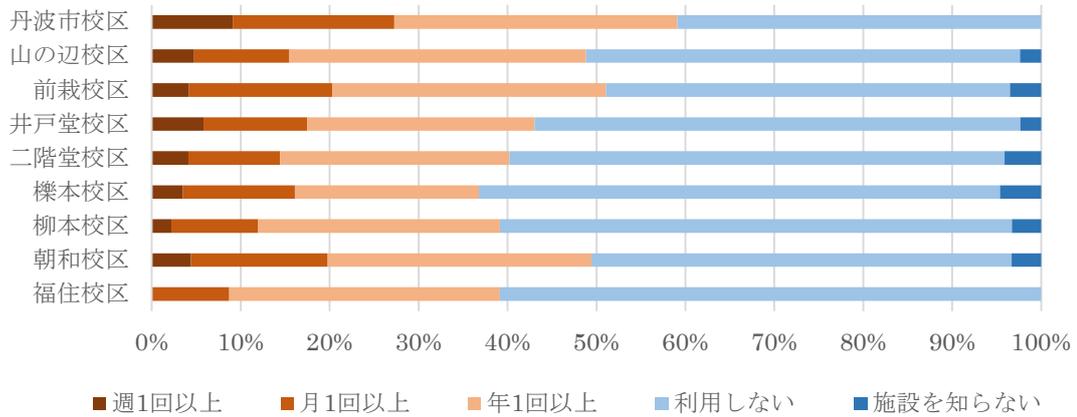
コミュニティ（人権）センターの世代別利用頻度



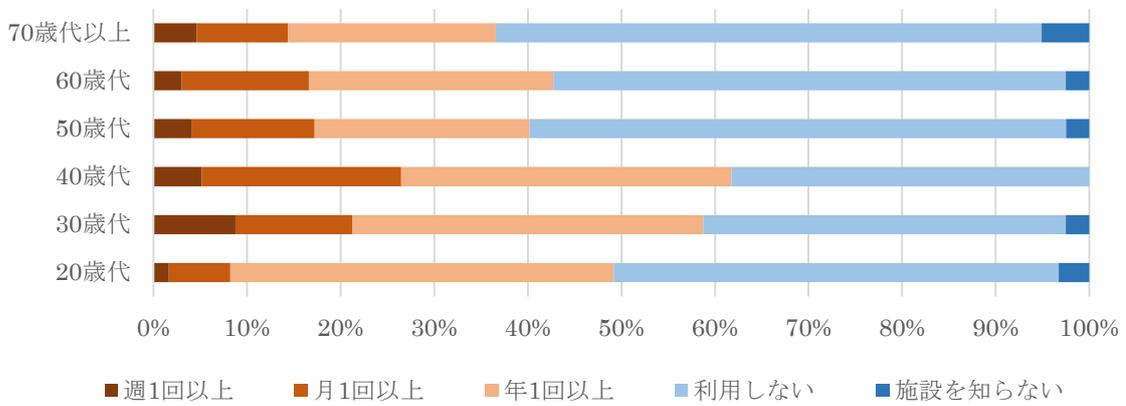
文化センターの小学校区別利用頻度



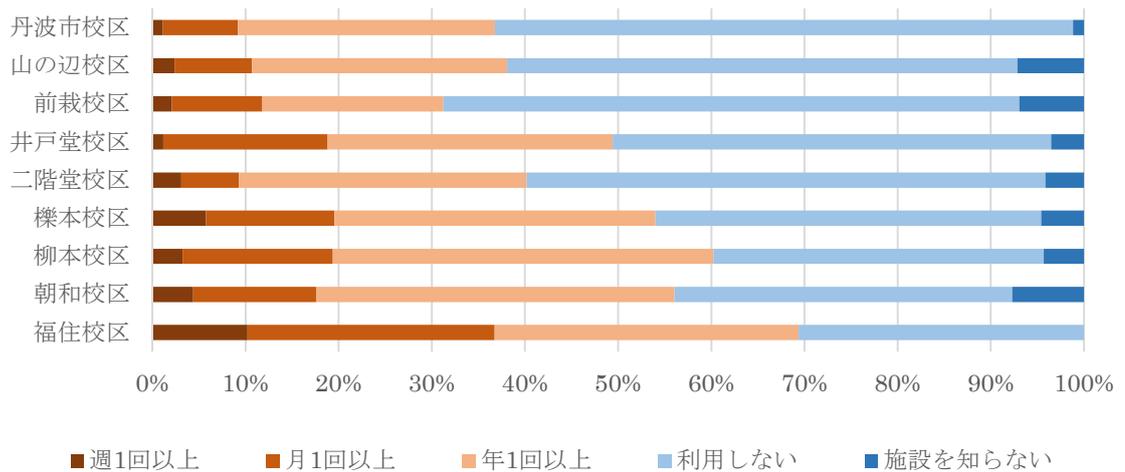
文化センターの世代別利用頻度



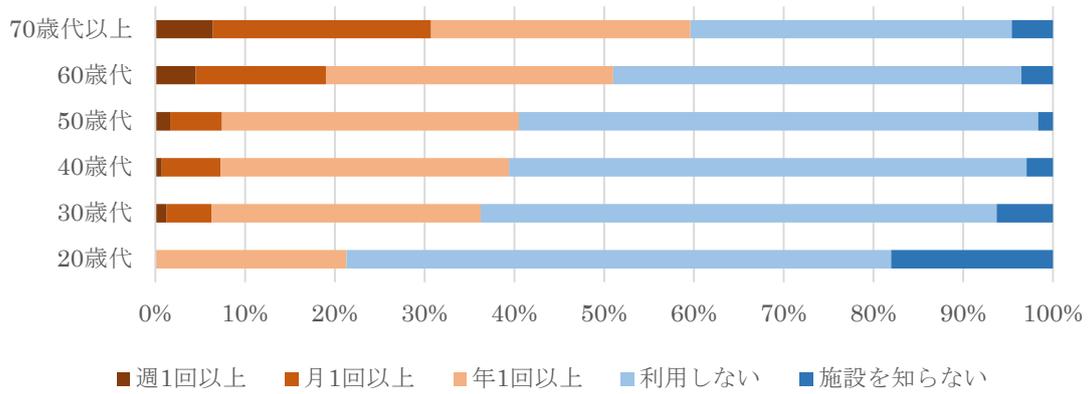
図書館の小学校区別利用頻度



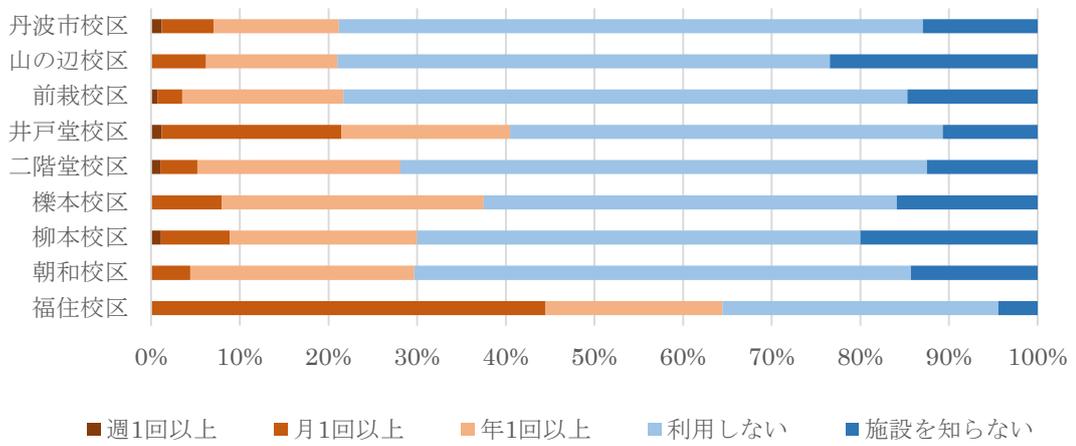
図書館の世代別利用頻度



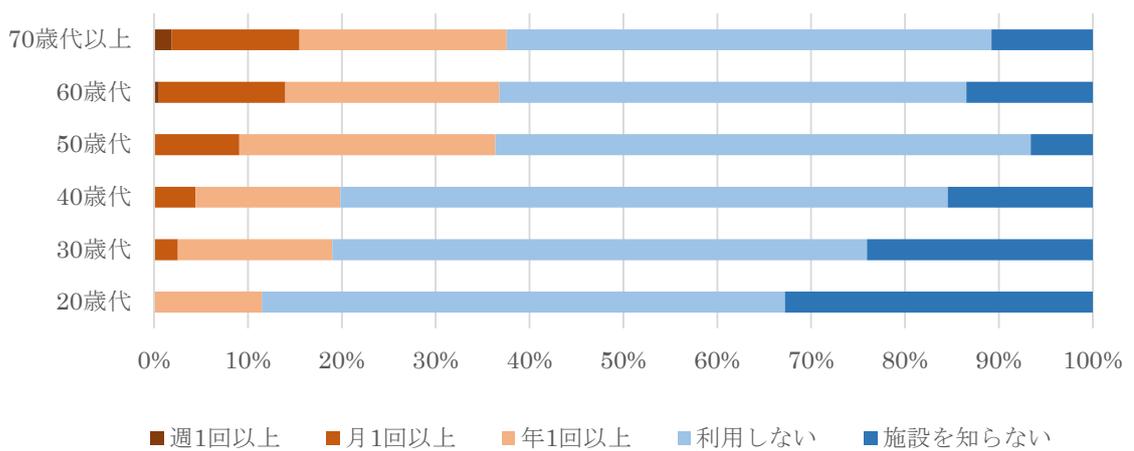
公民館の小学校区別利用頻度



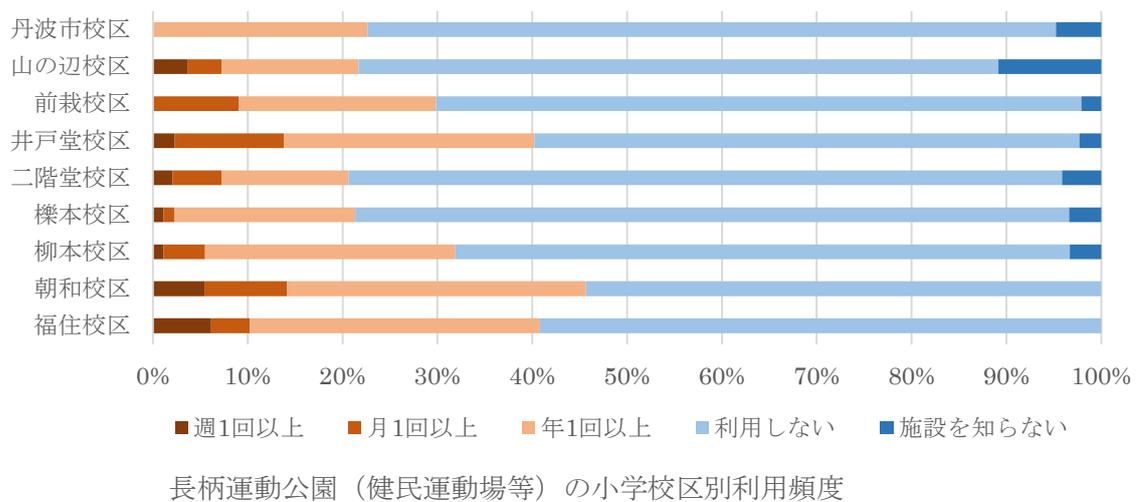
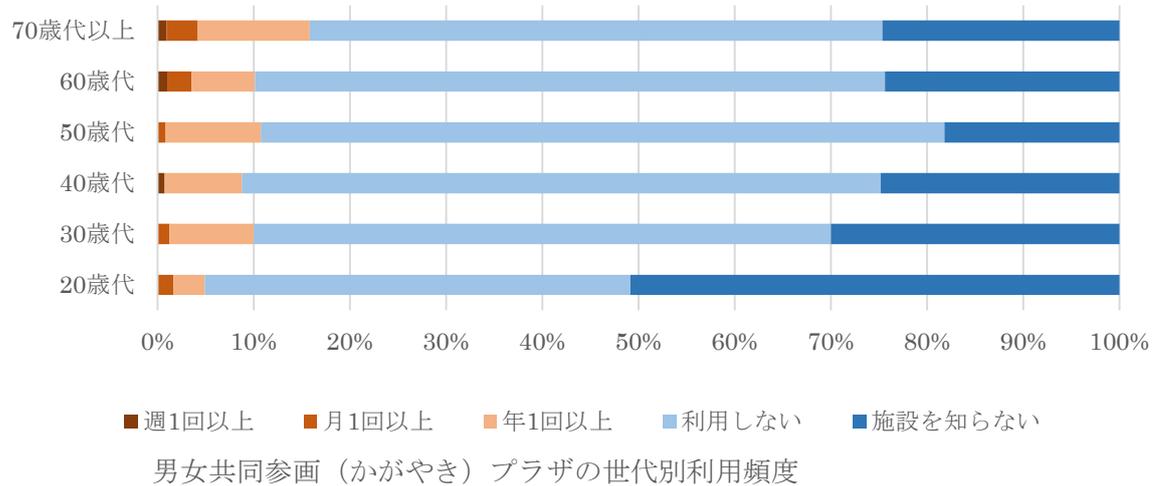
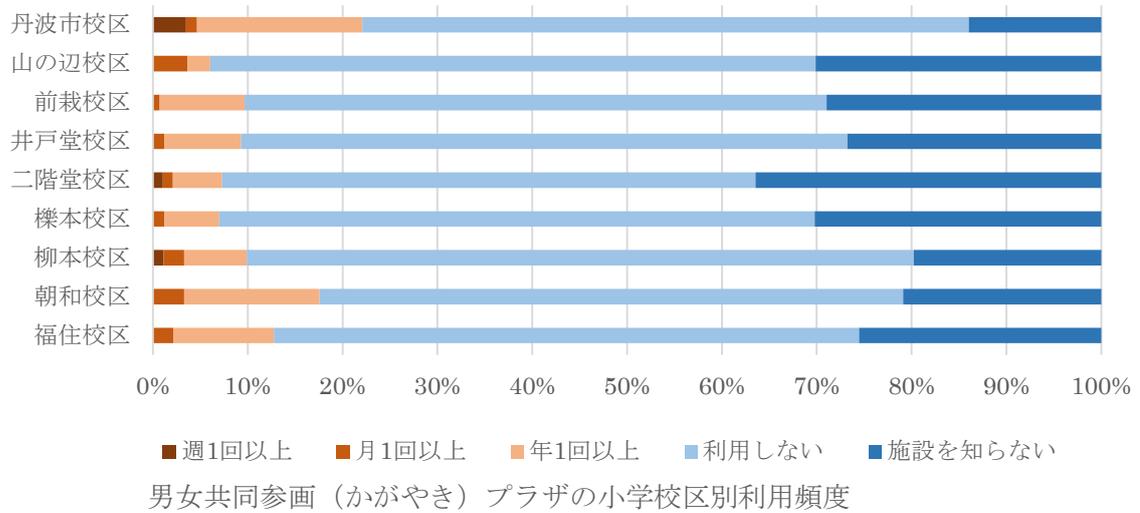
公民館の世代別利用頻度

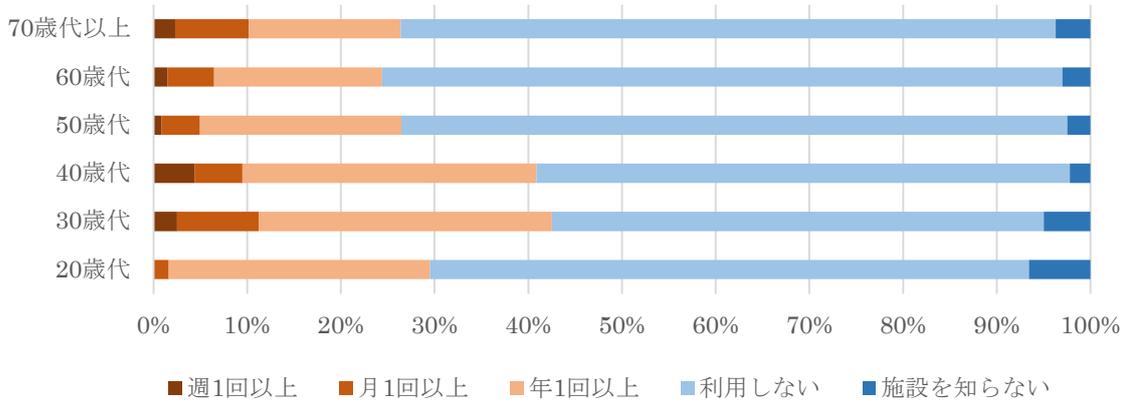


集会所の小学校区別利用頻度

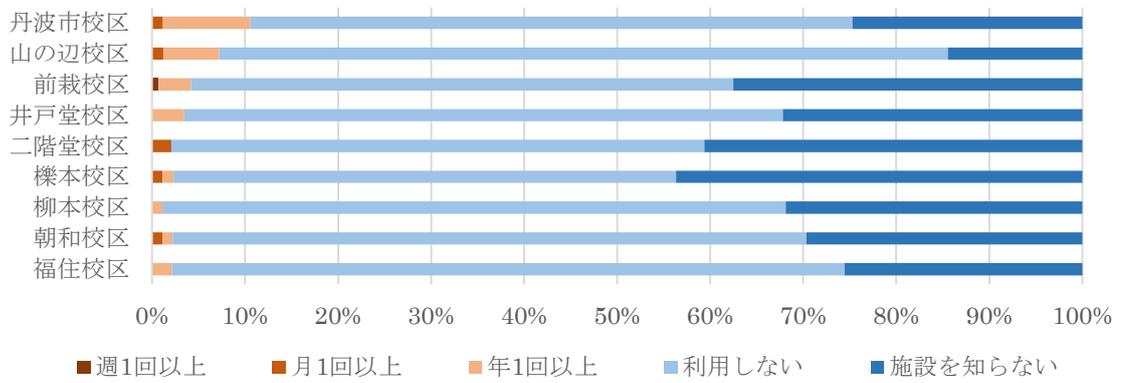


集会所の世代別利用頻度

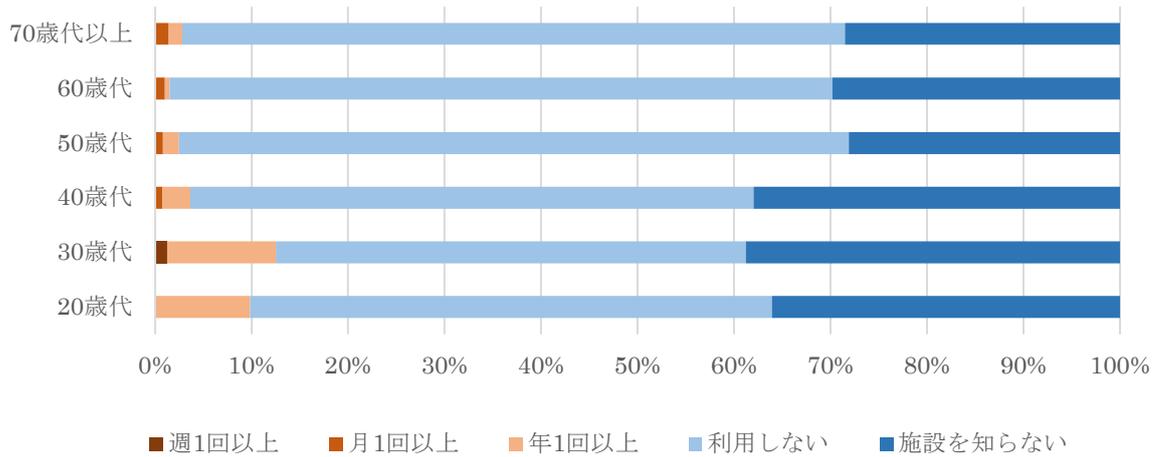




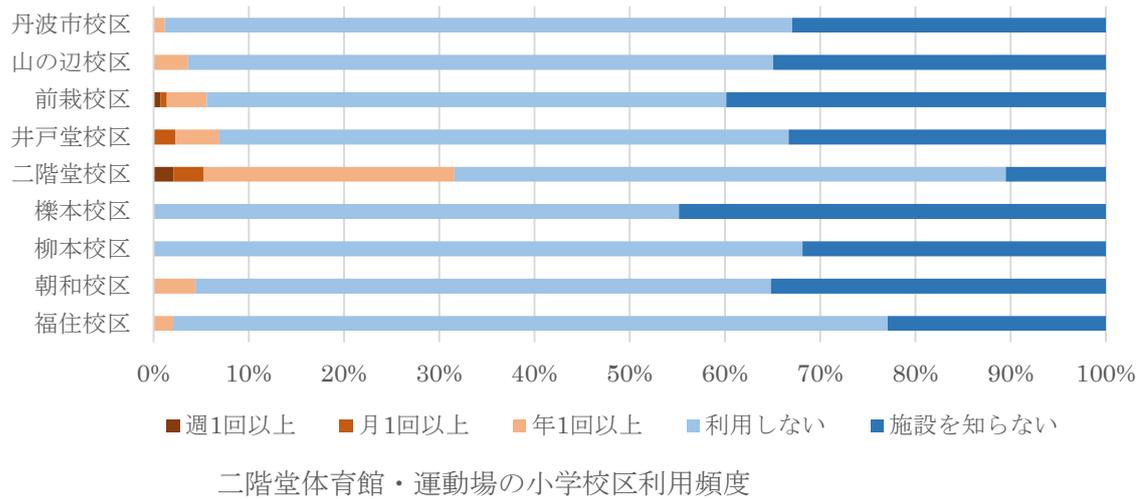
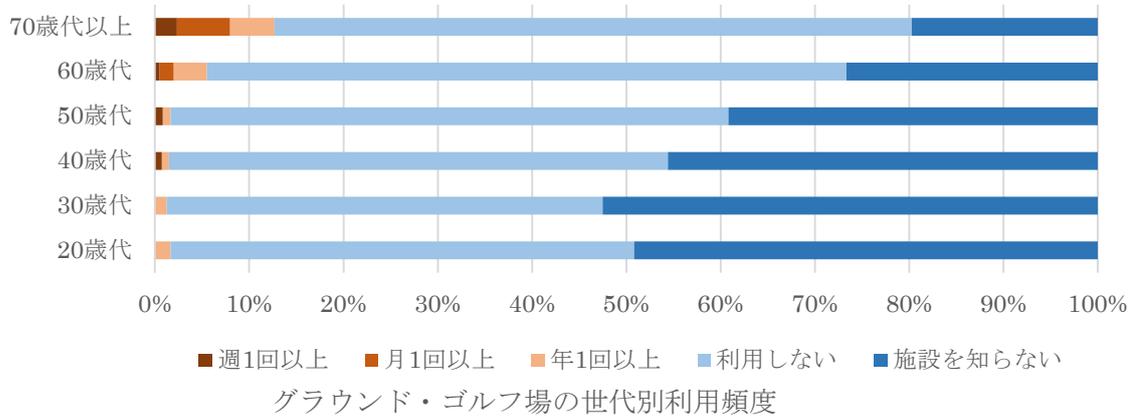
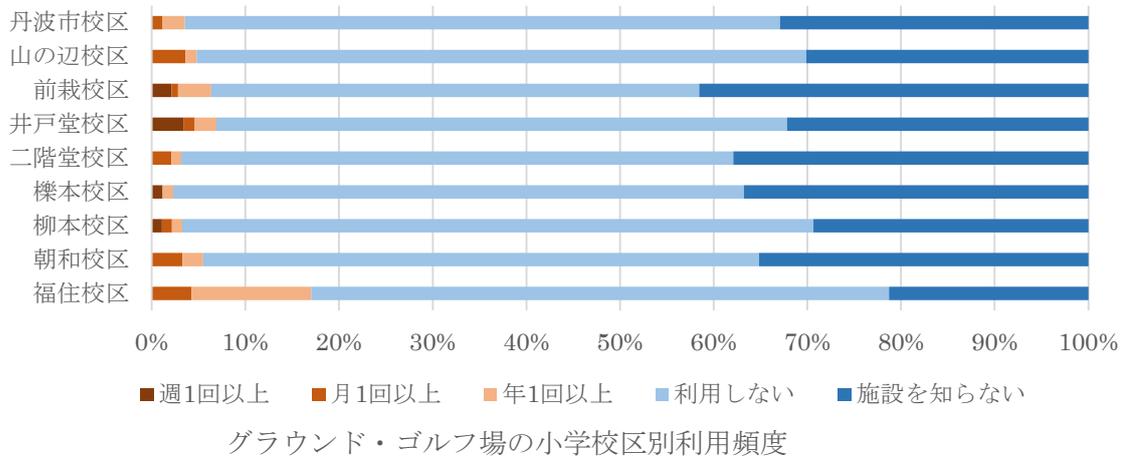
長柄運動公園（健民運動場）の世代別利用頻度

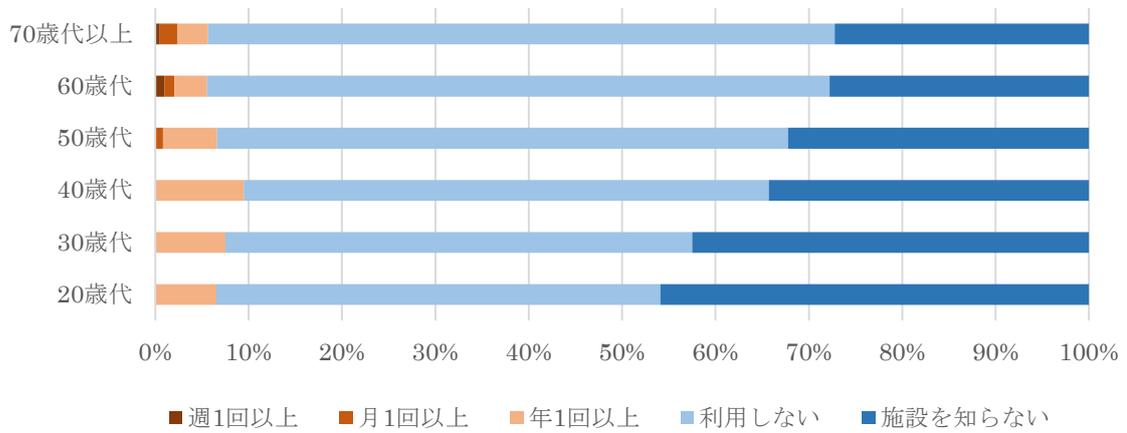


三島体育館の小学校区別利用頻度

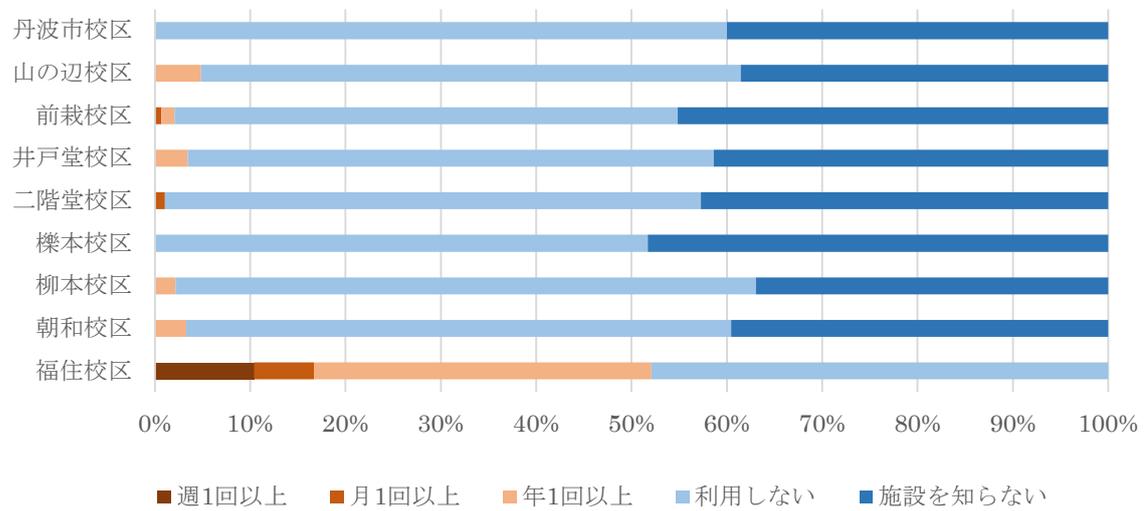


三島体育館の世代別利用頻度

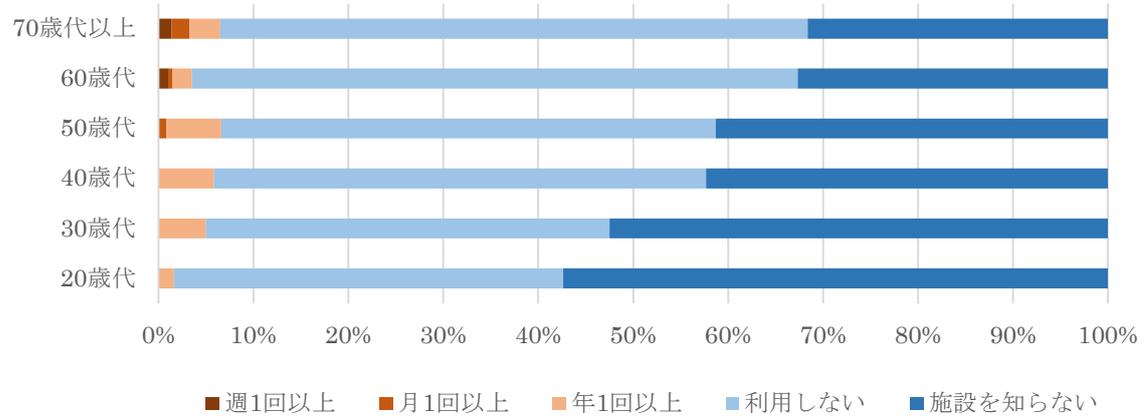




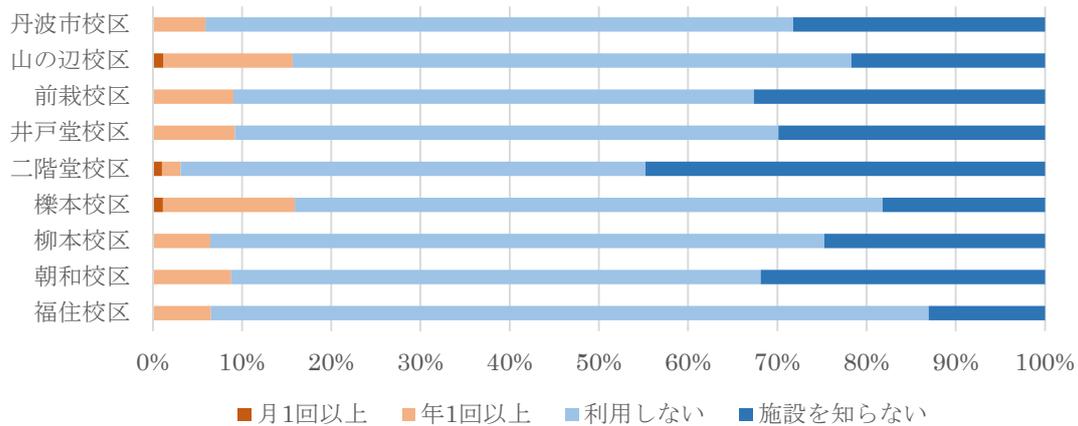
二階堂体育館・運動場の世代別利用頻度



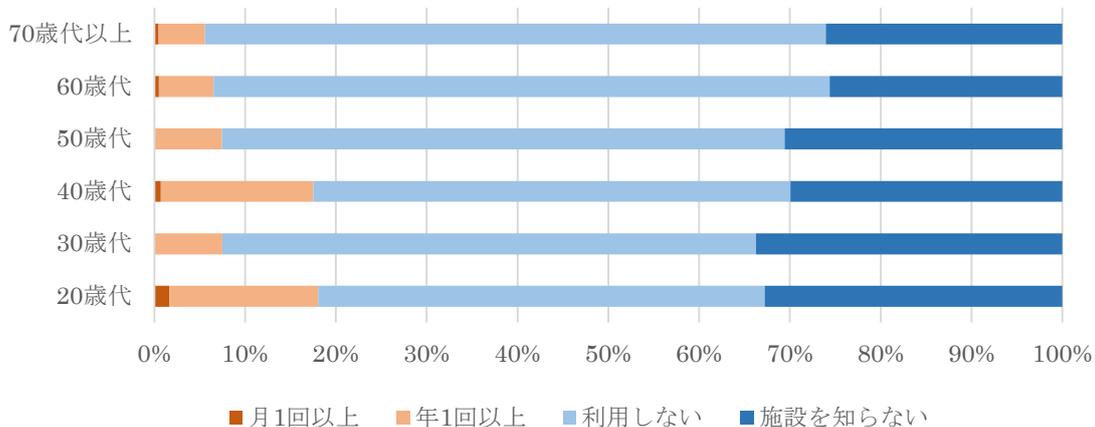
福住運動場の小学校区別利用頻度



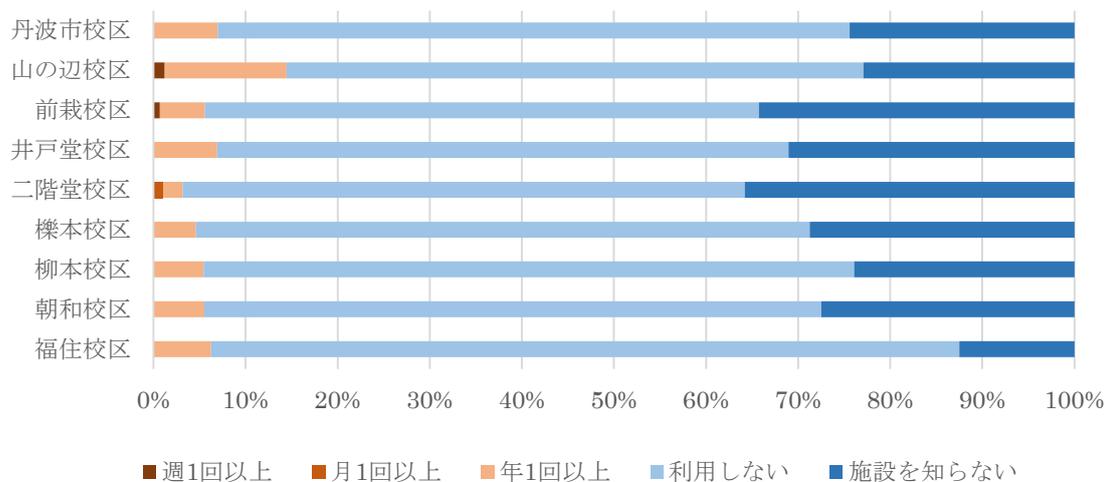
福住運動場の世代別利用頻度



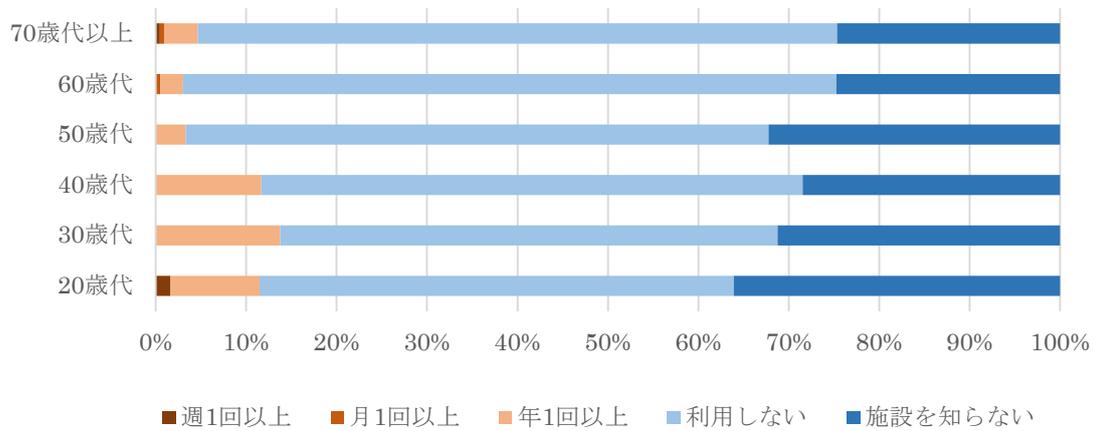
白川ダム運動場の小学校区別利用頻度



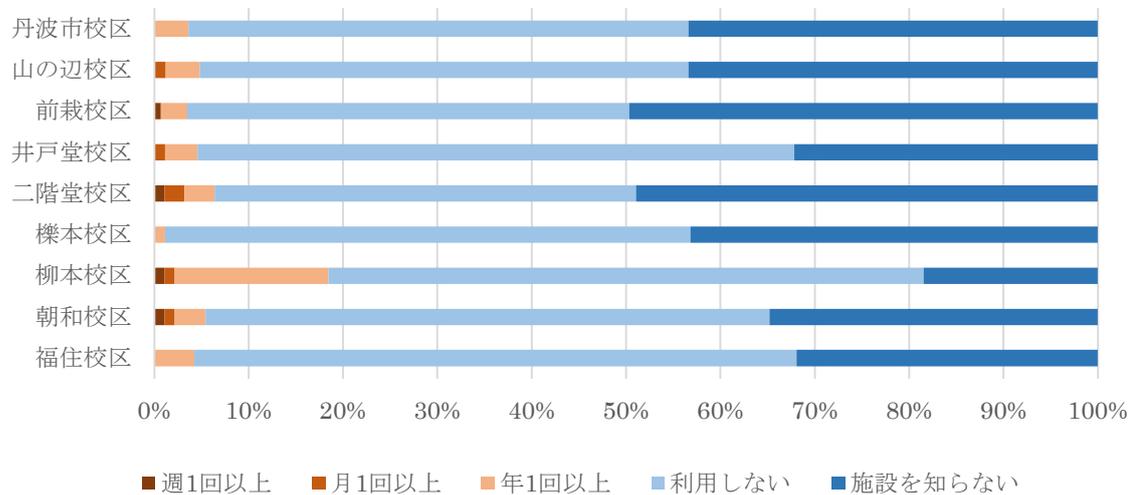
白川ダム運動場の世代別利用頻度



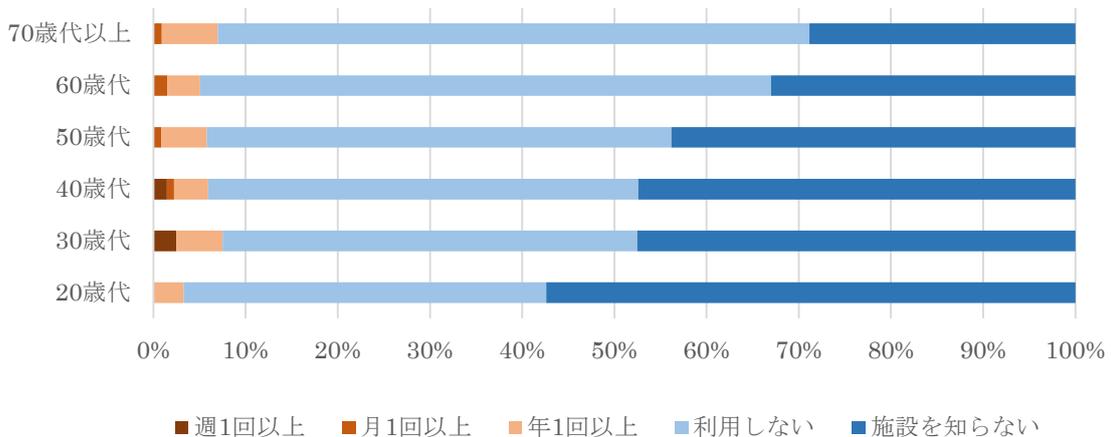
天理ダム運動場の小学校区別利用頻度



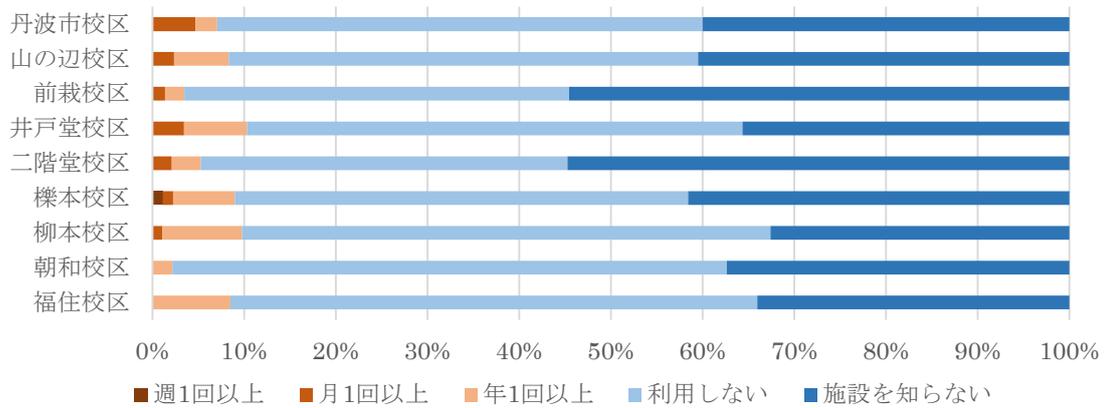
天理ダム運動場の世代別利用頻度



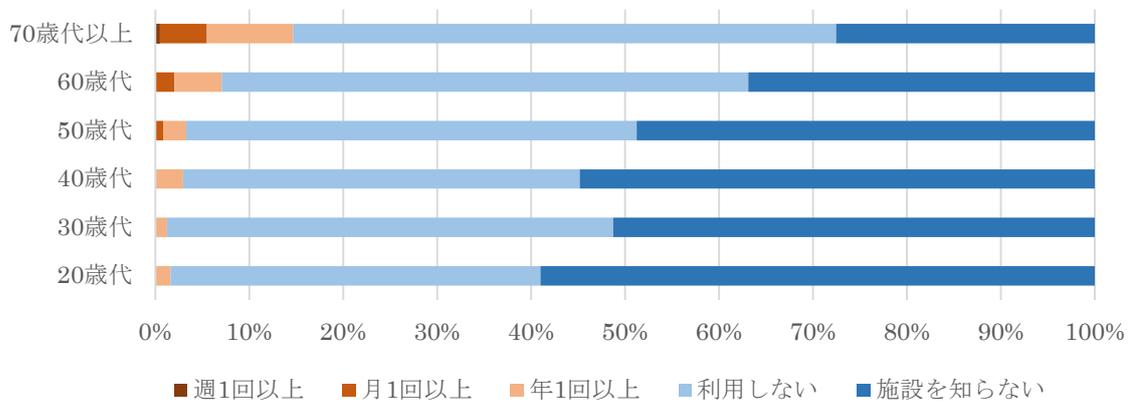
障害者ふれあいセンターの小学校区別利用頻度



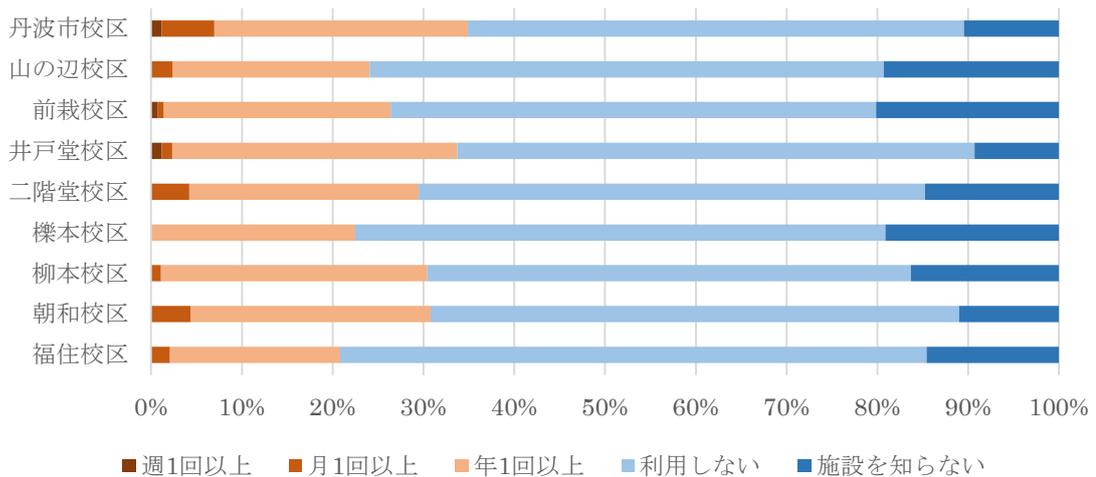
障害者ふれあいセンターの世代別利用頻度



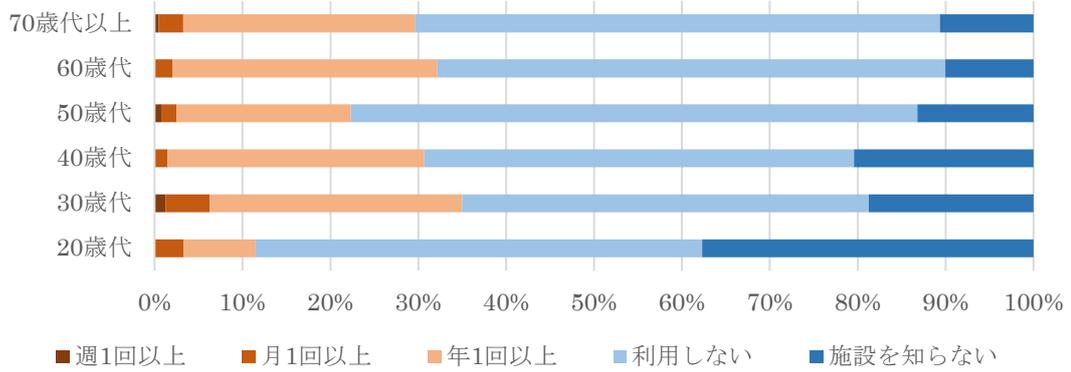
地域活動支援センターの小学校区別利用頻度



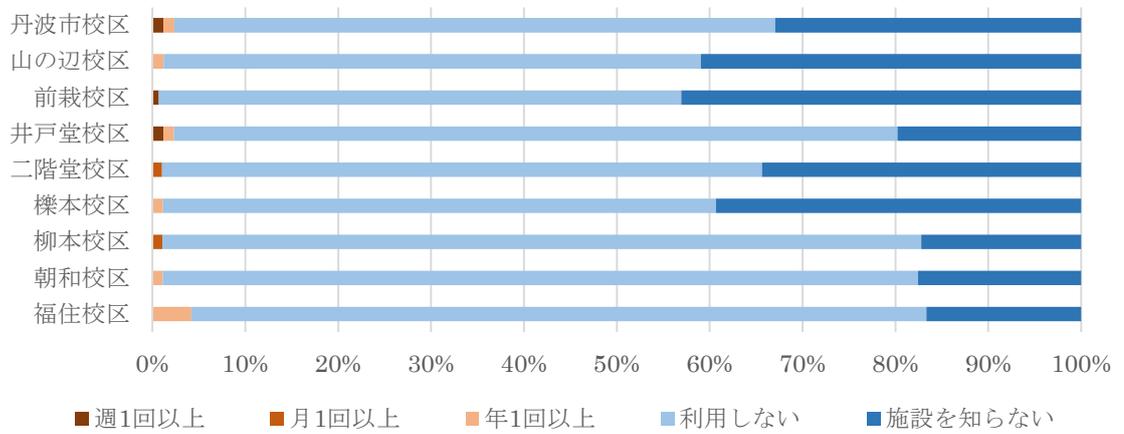
地域活動支援センターの世代別利用頻度



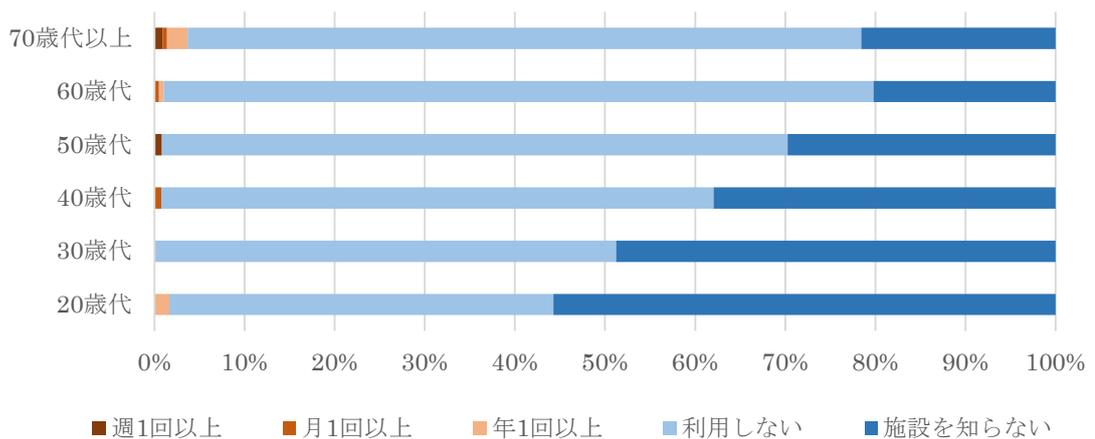
保健センターの小学校区別利用頻度



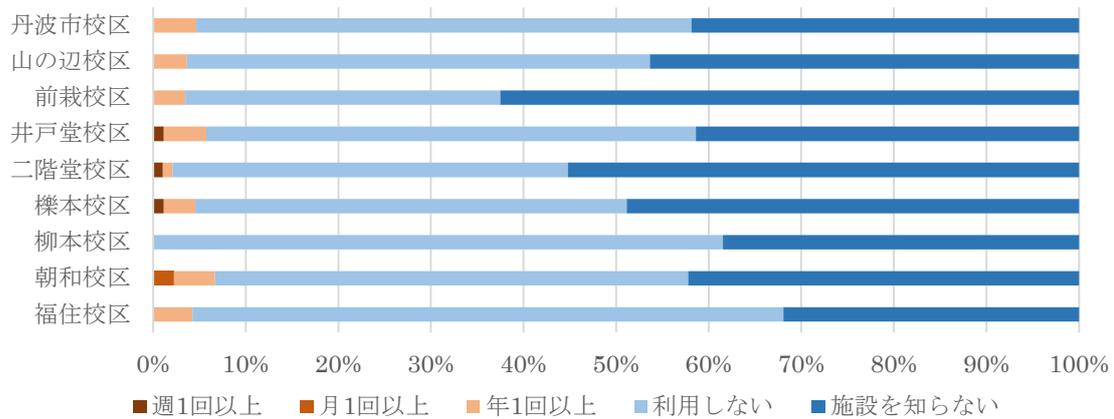
保健センターの世代別利用頻度



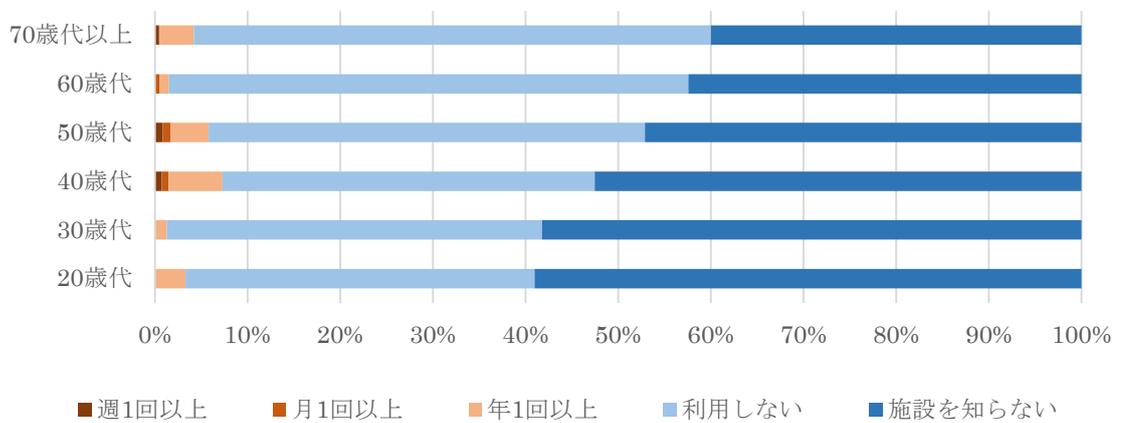
老人ホームふるさと園の小学校区別利用頻度



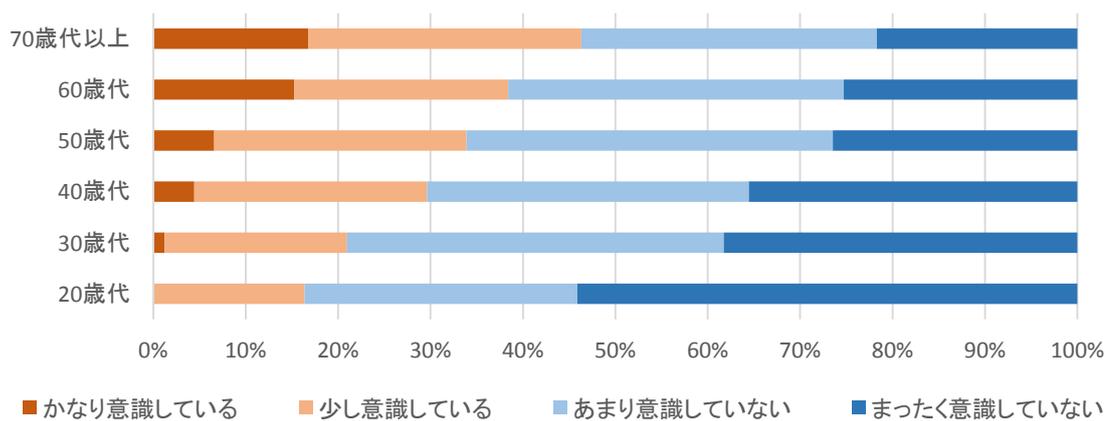
老人ホームふるさと園の世代別利用頻度



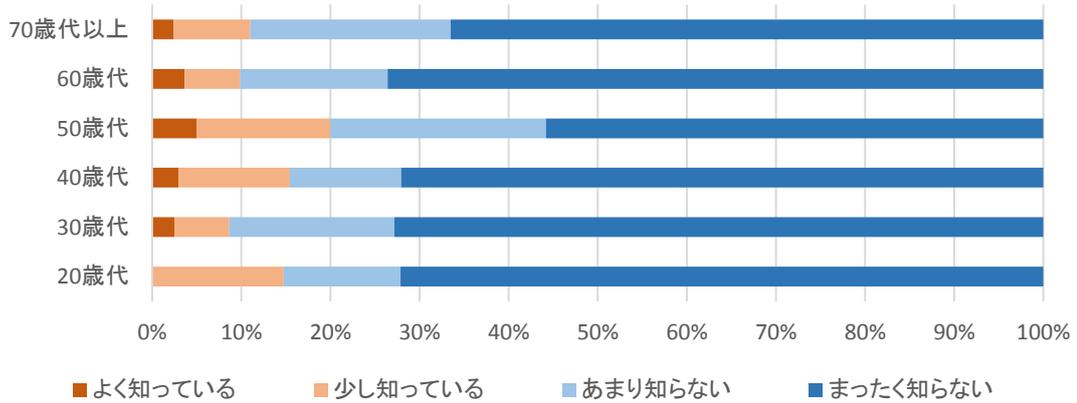
教育総合センターの小学校区別利用頻度



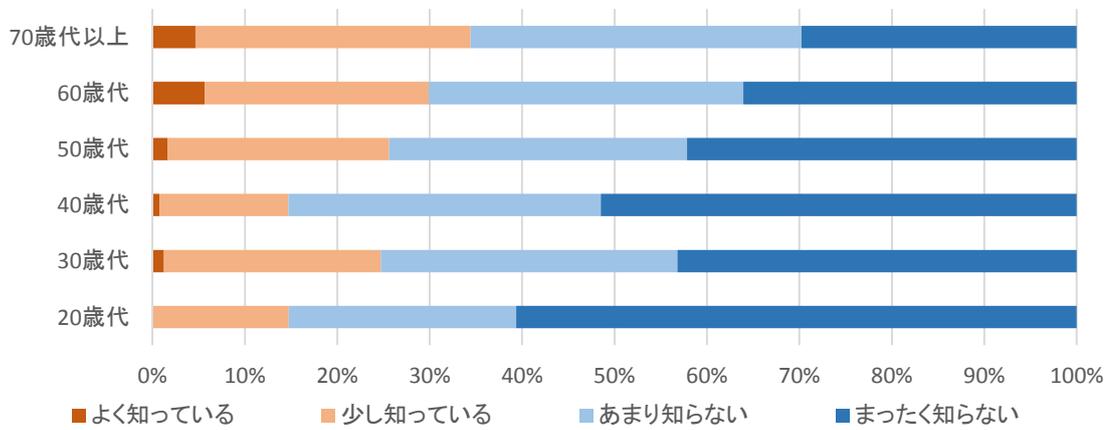
教育総合センターの世代別利用頻度



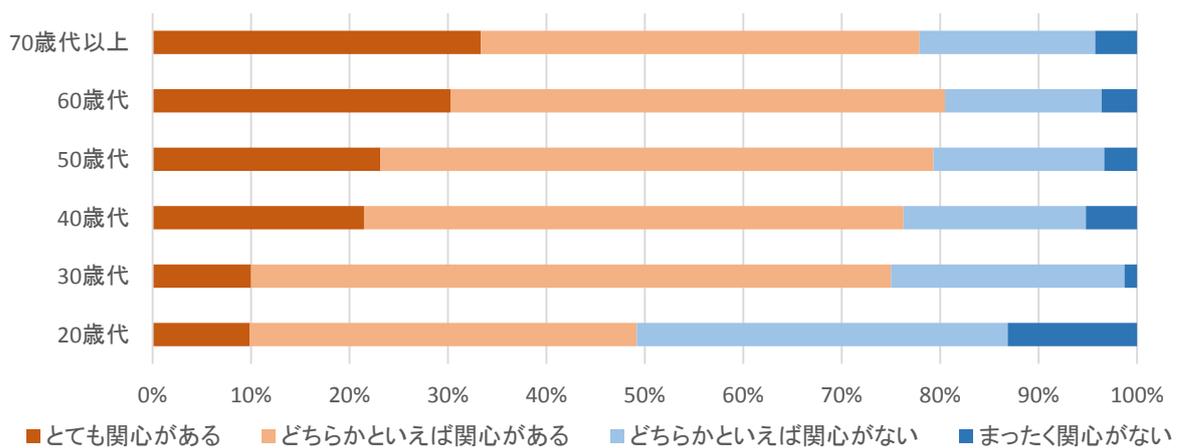
施設利用時の公共施設か民間施設かの世代別意識



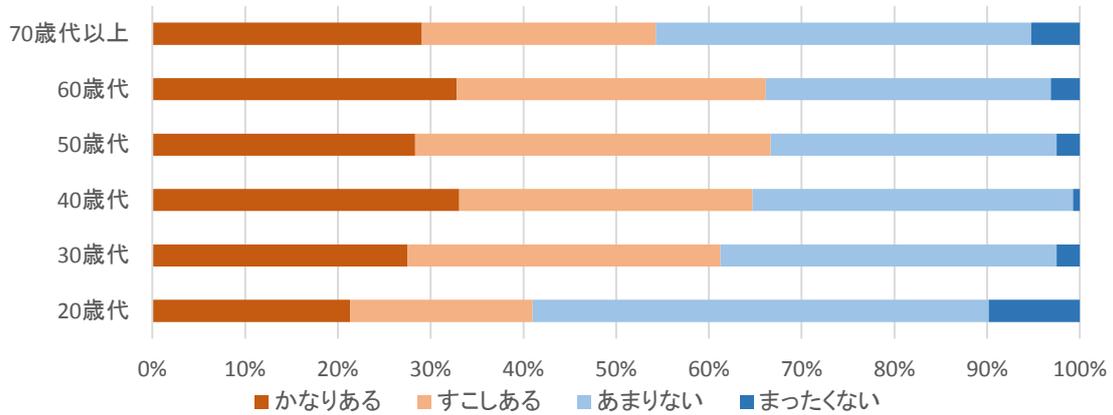
FMの認知度に関する世代別割合



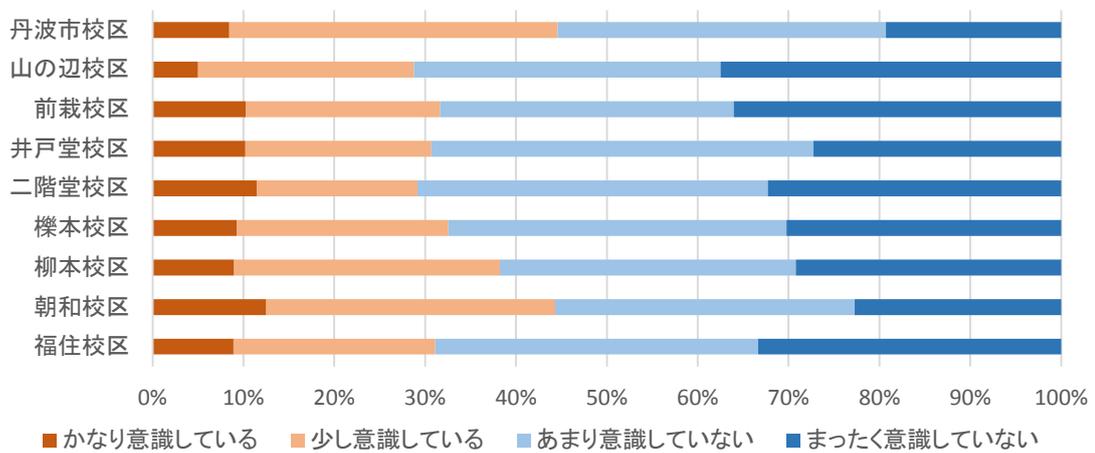
「総合計画」の認知度に関する世代別割合



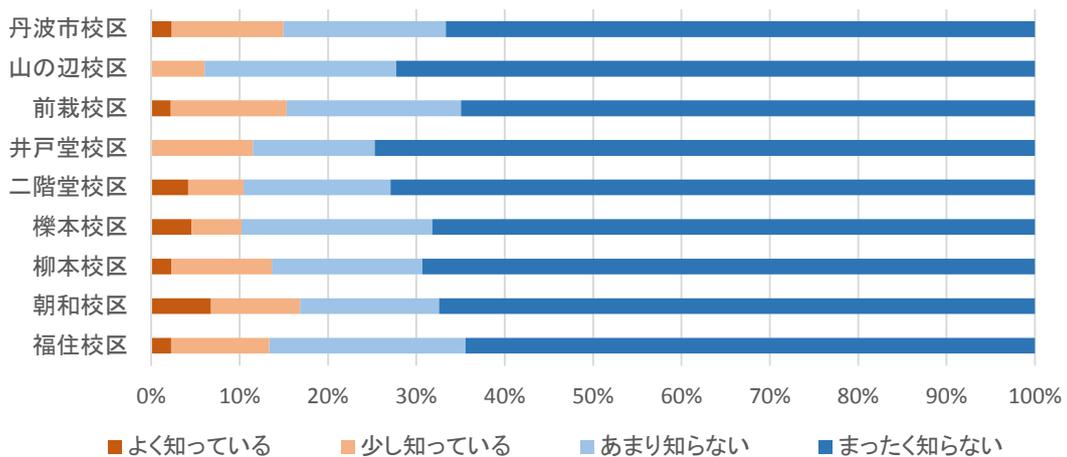
財政状況への関心度に関する世代別割合



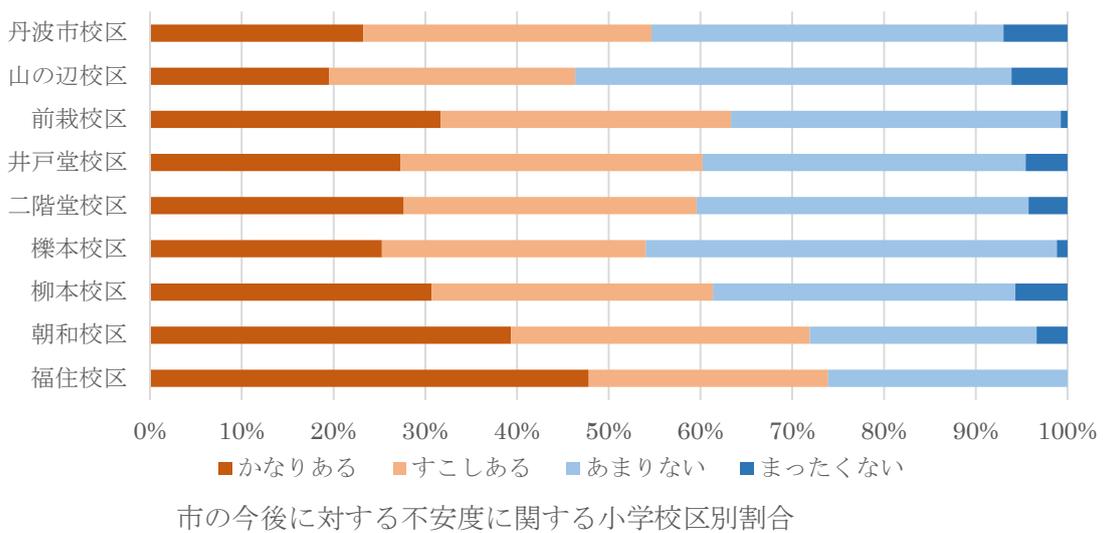
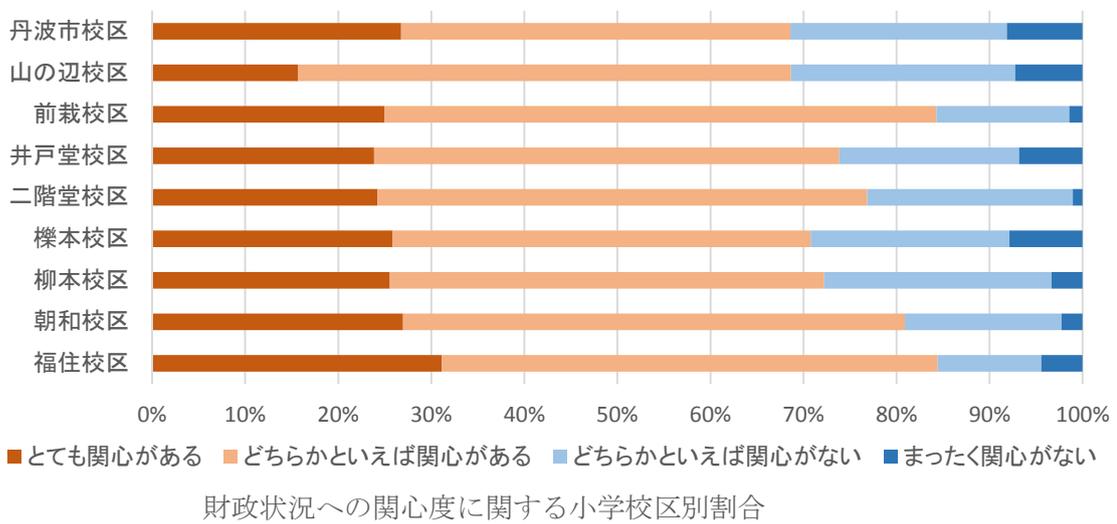
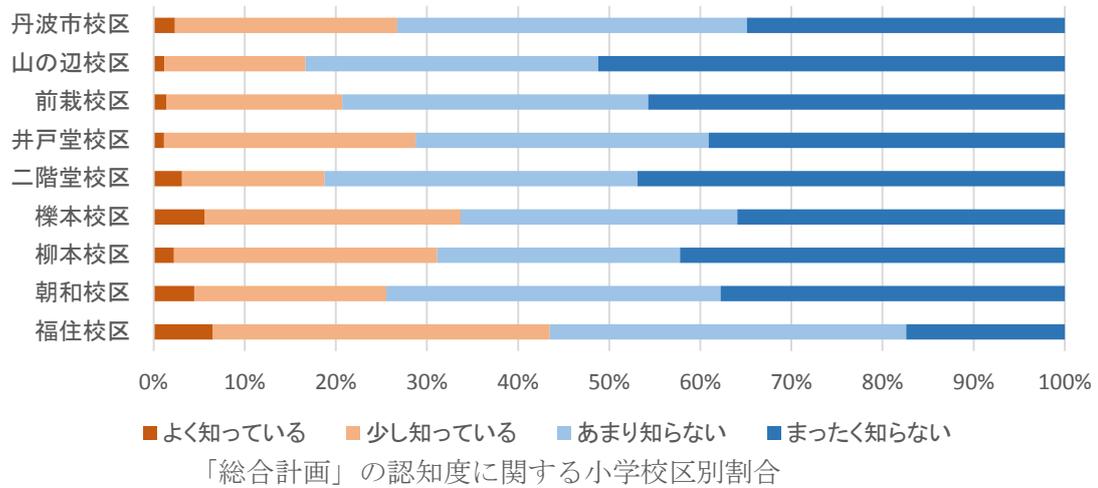
市の今後に対する不安度に関する世代別割合



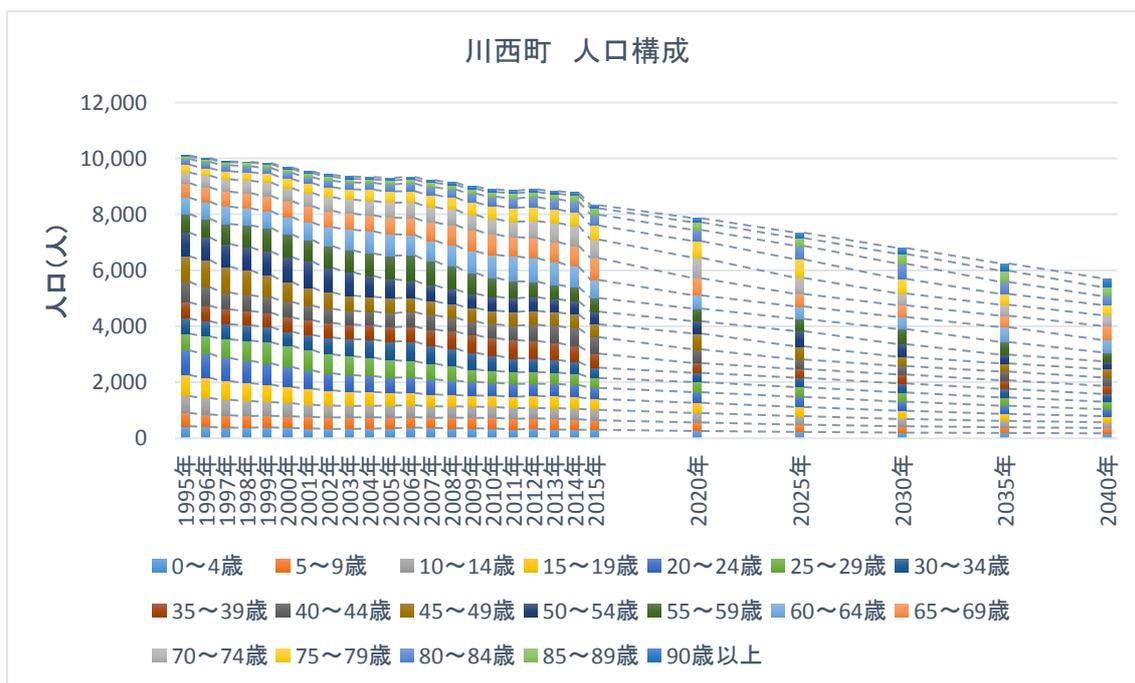
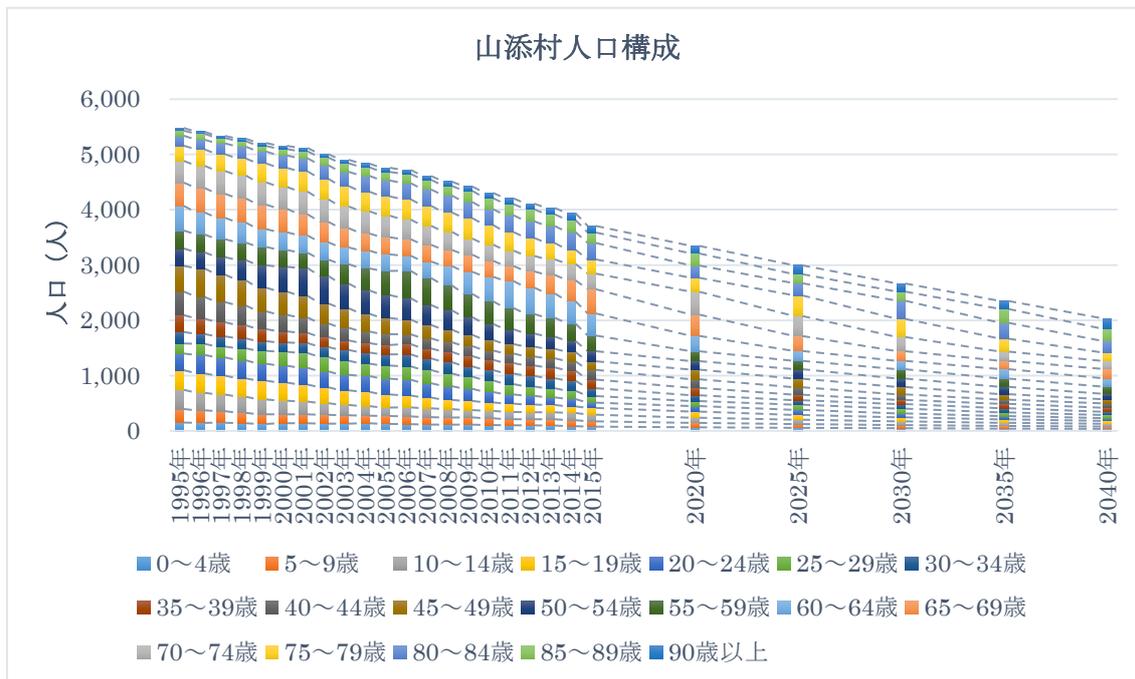
施設利用時の公共施設か民間施設かの小学校区別意識



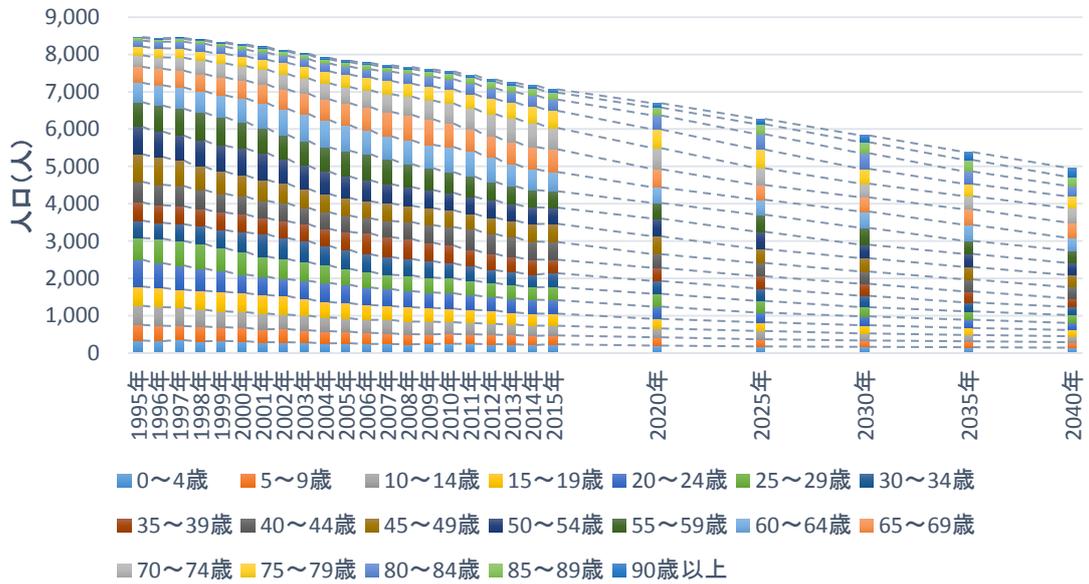
FMの認知度に関する小学校区別割合



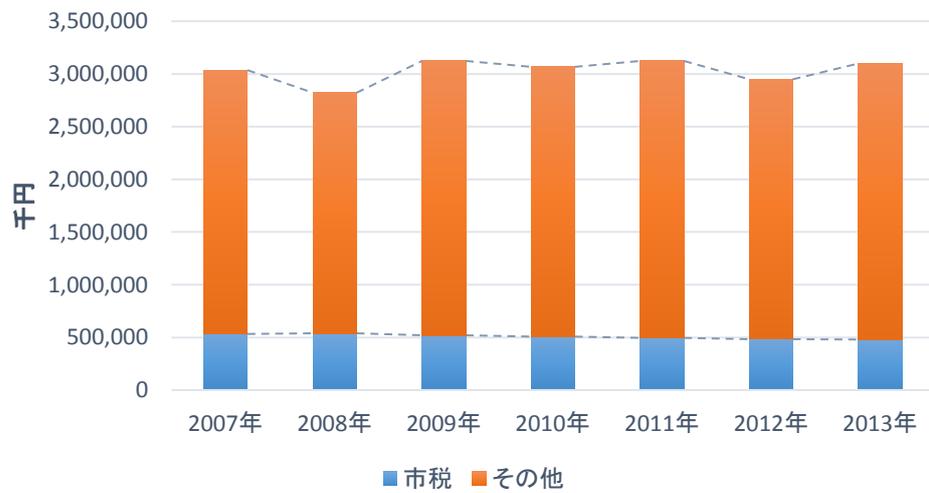
3 町村基本情報

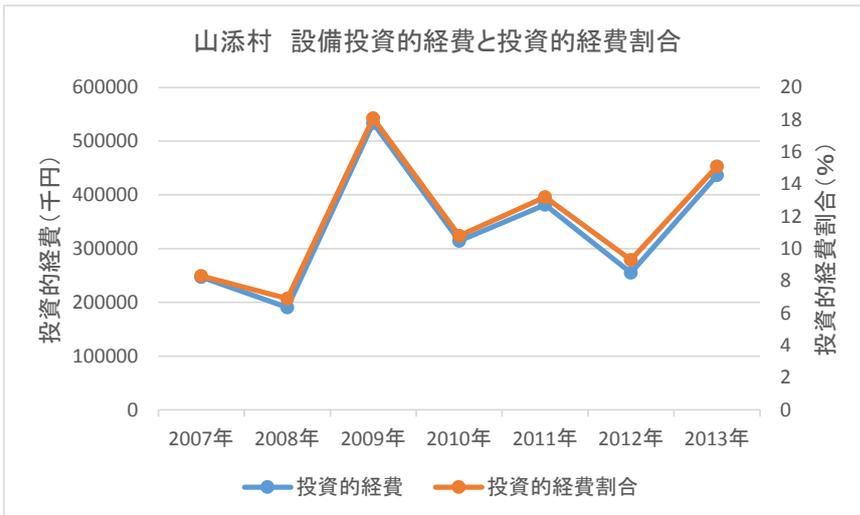
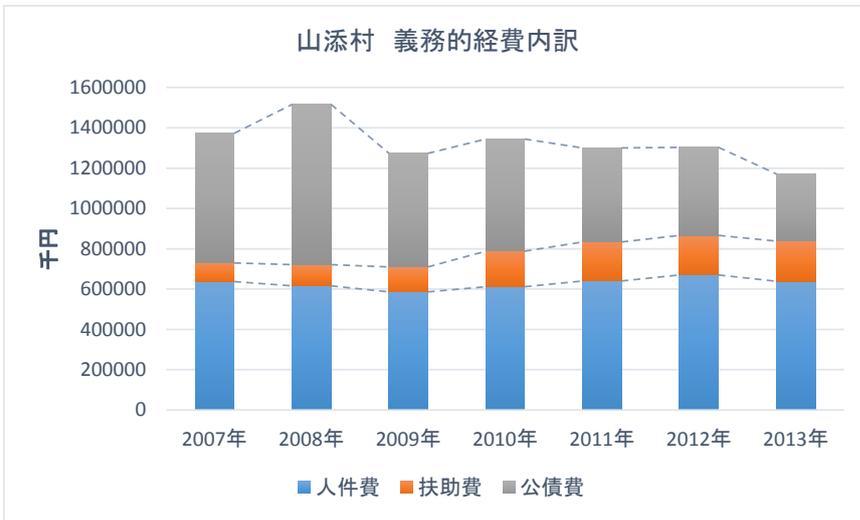
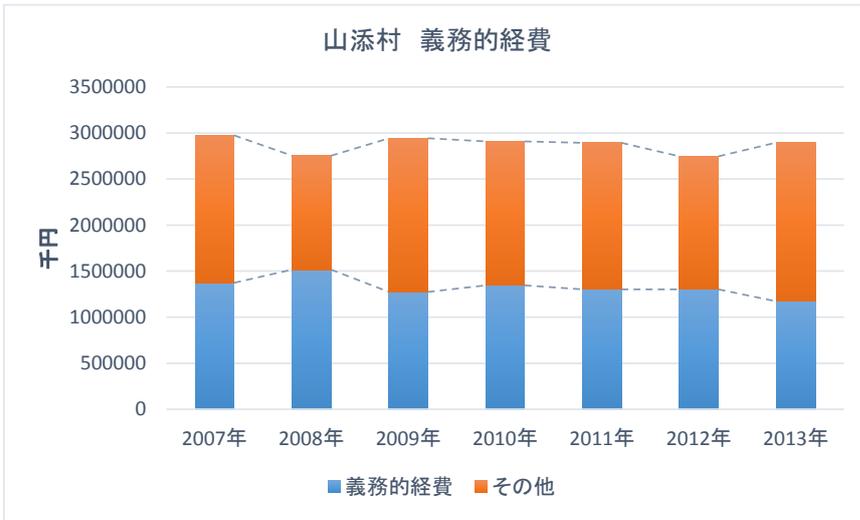


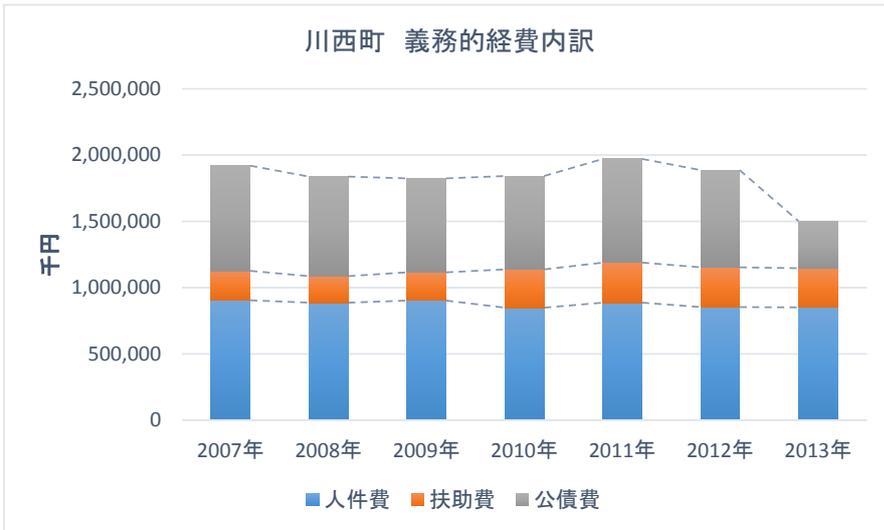
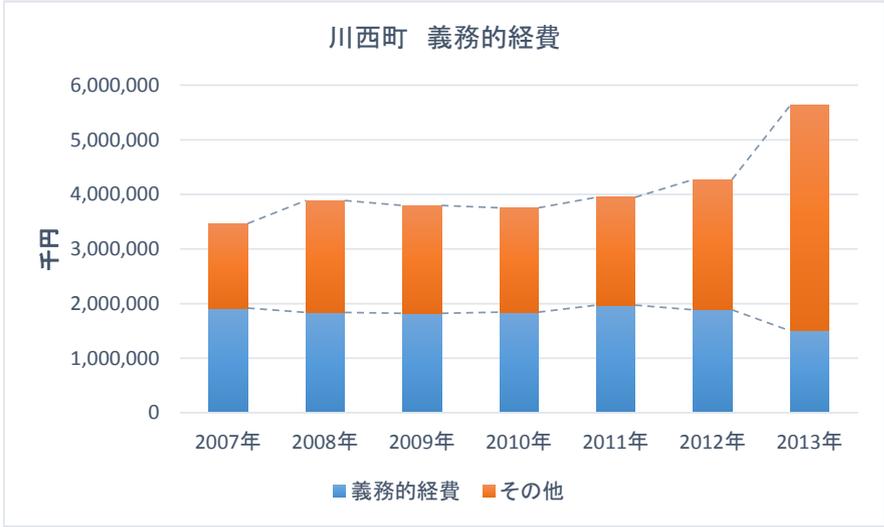
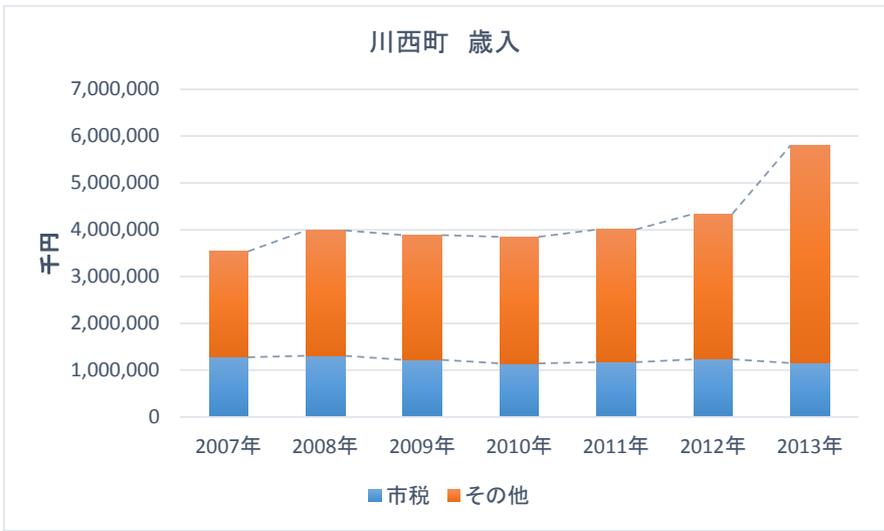
三宅町 人口構成

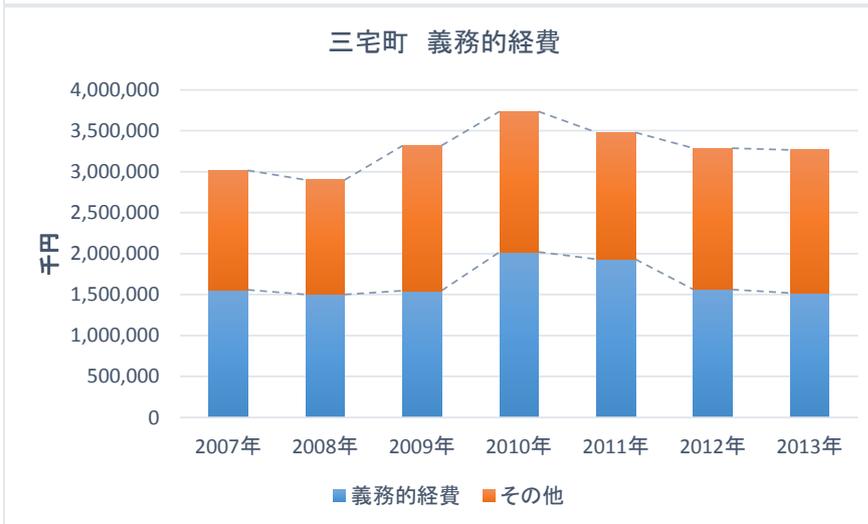
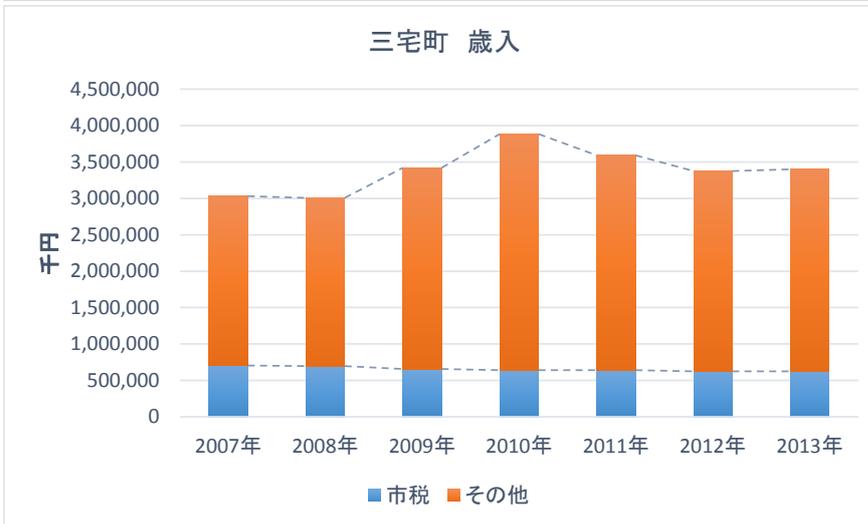
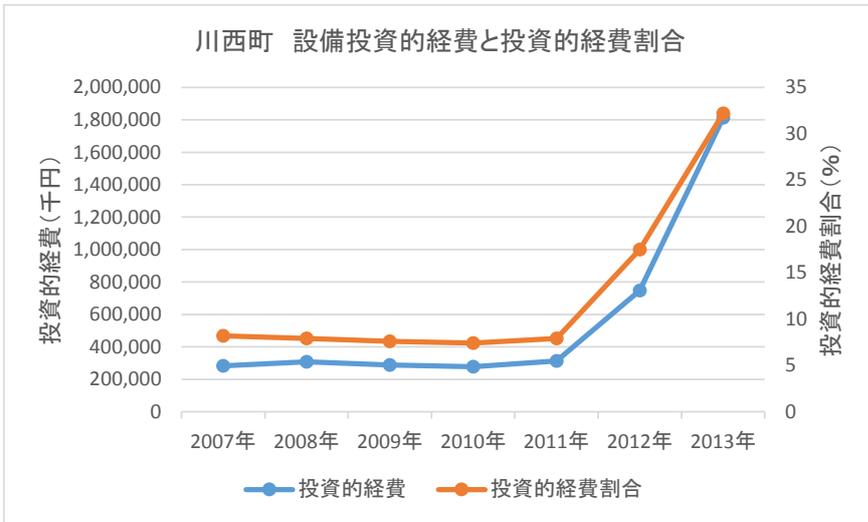


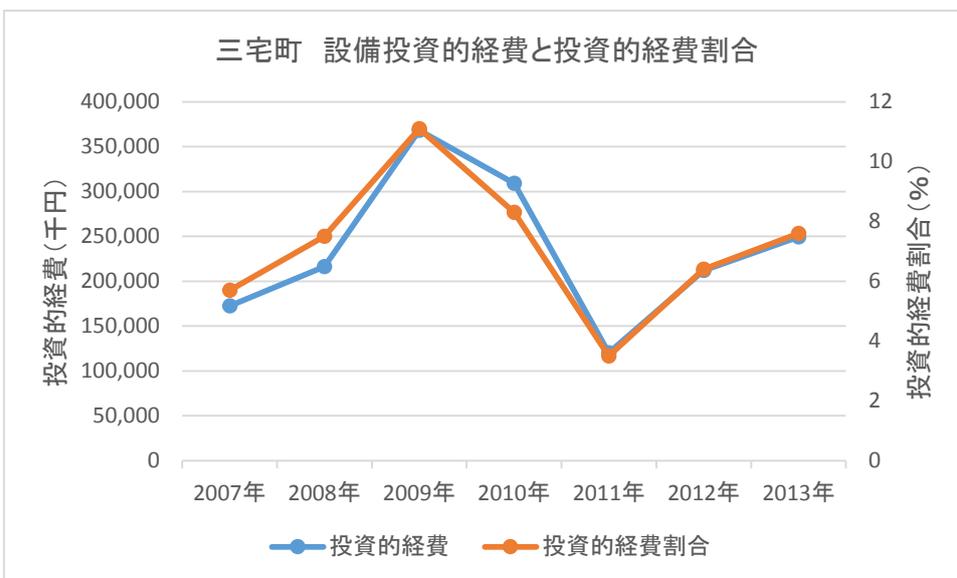
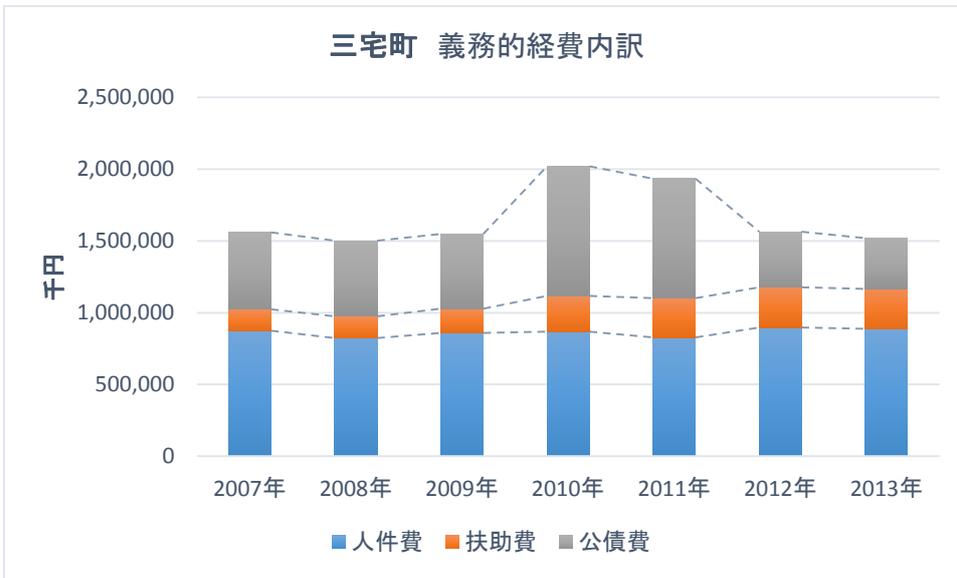
山添村歳入





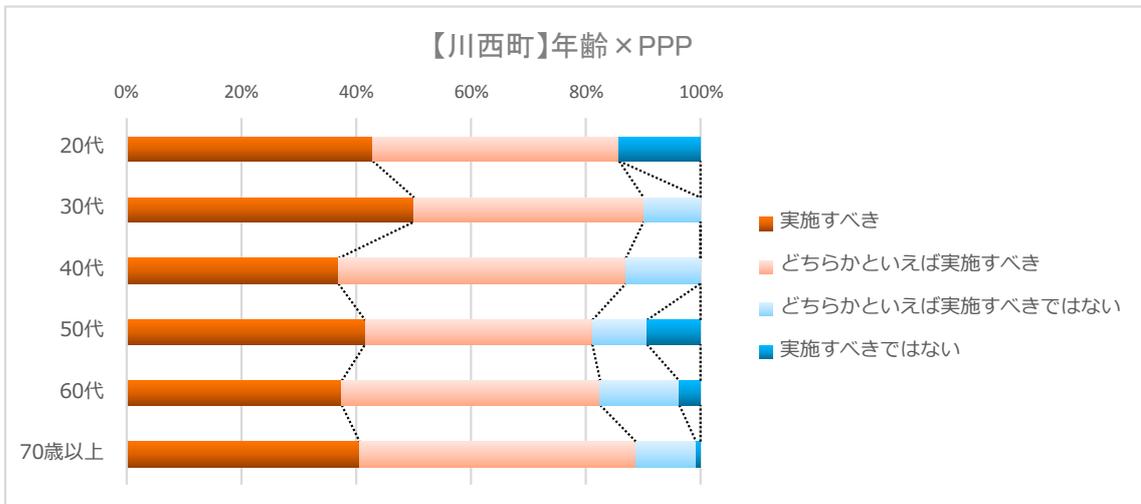
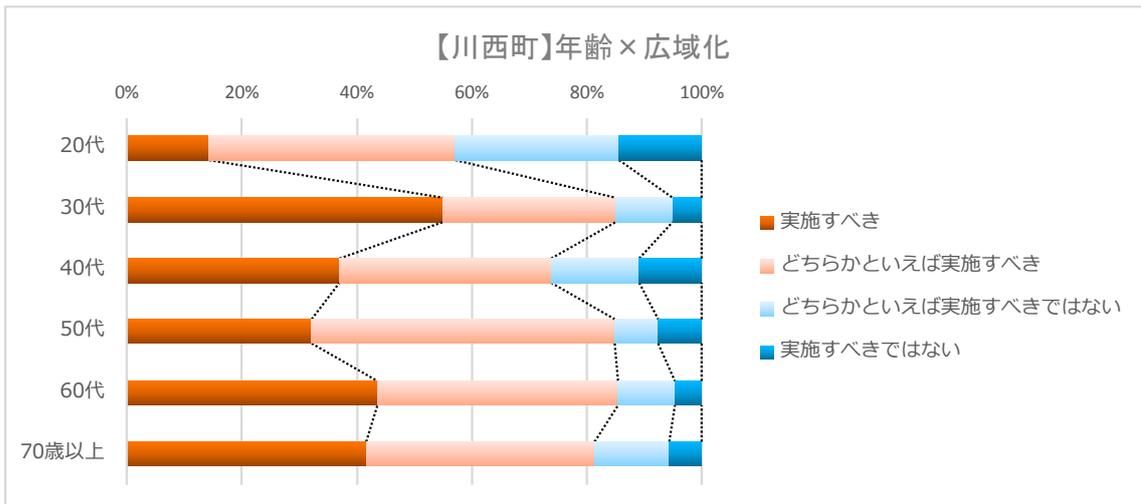
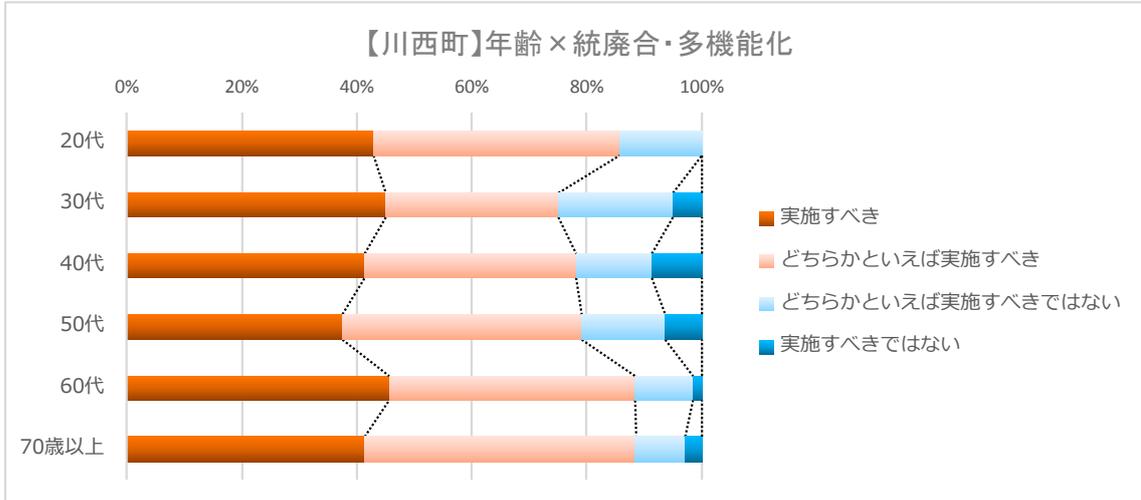


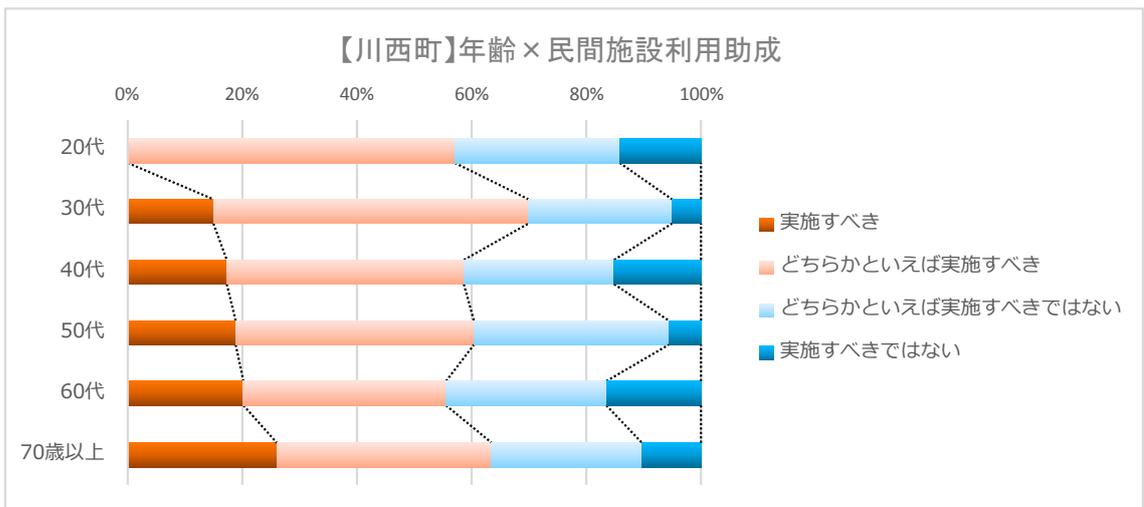
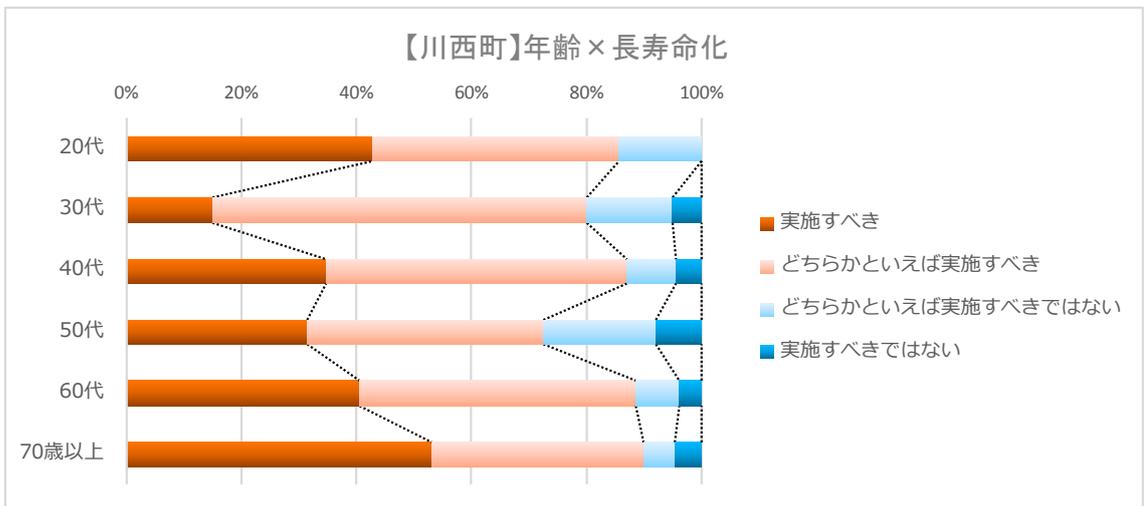
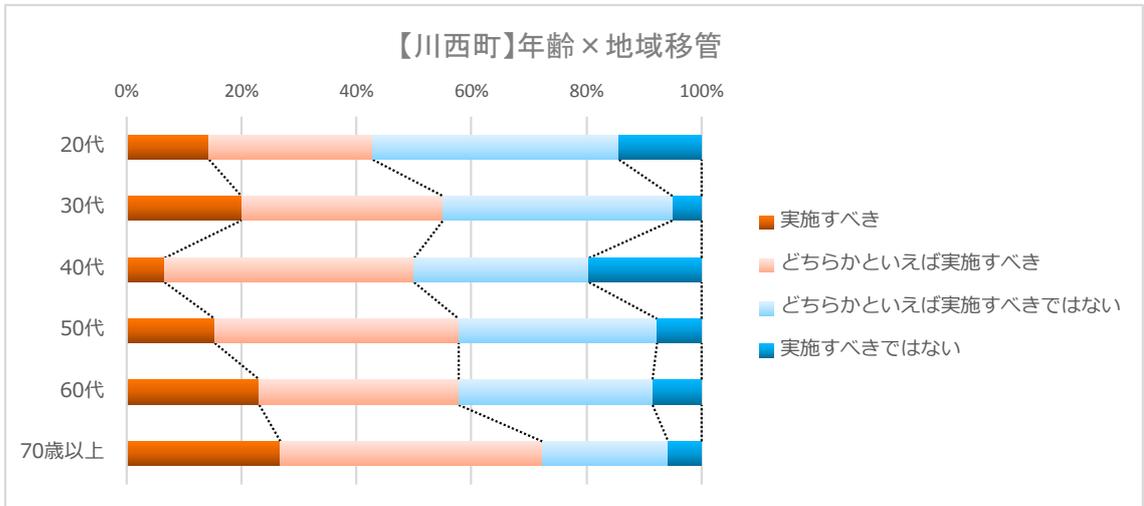


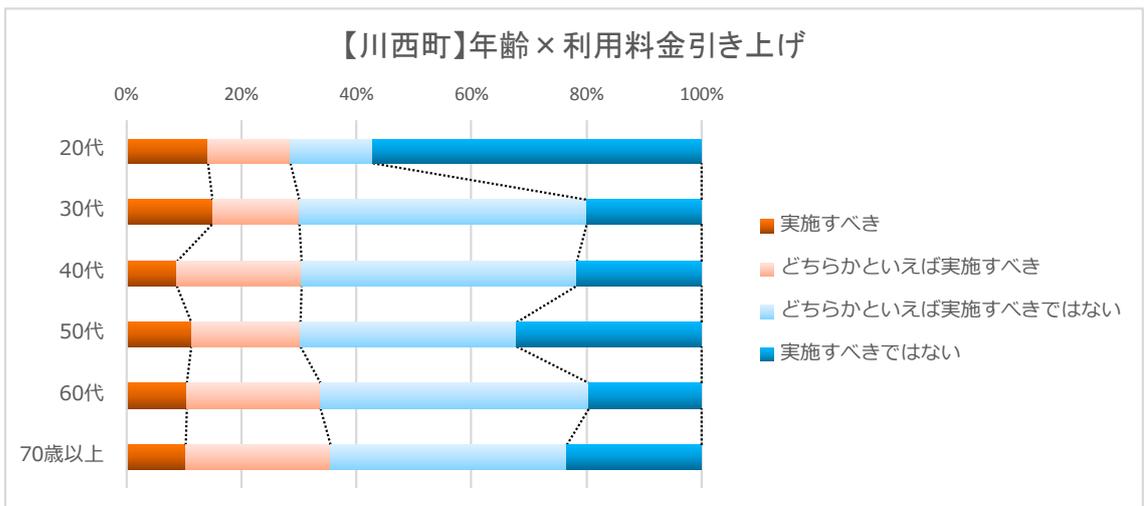
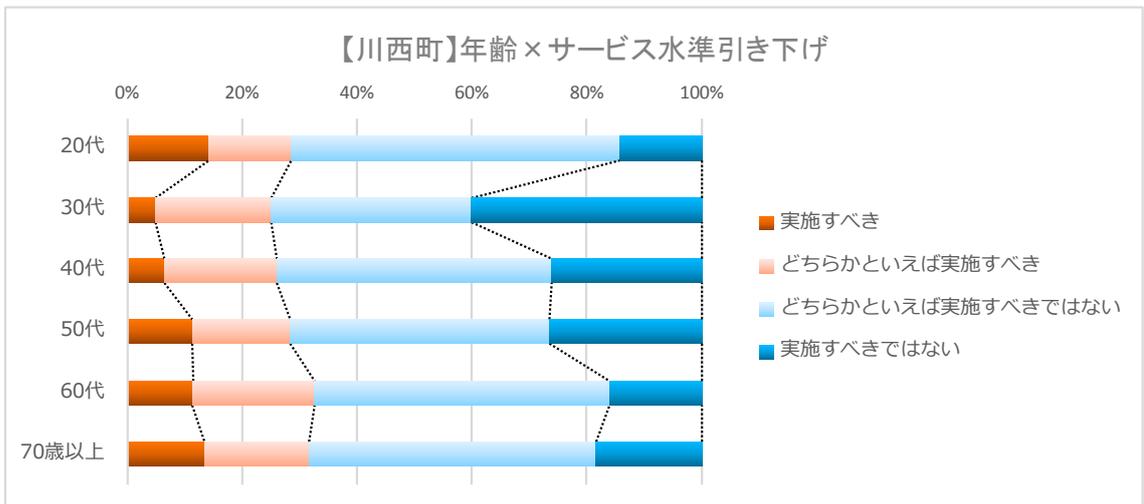
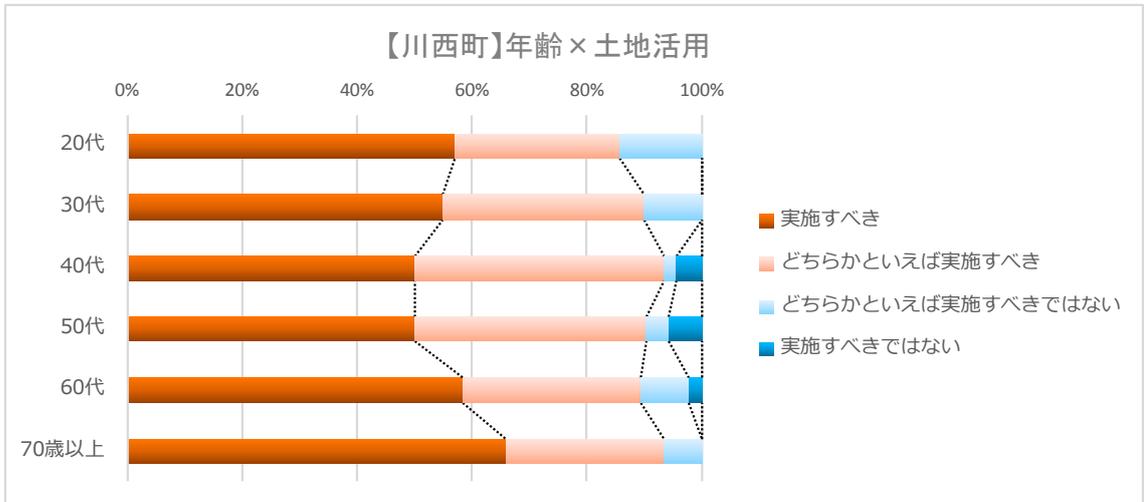


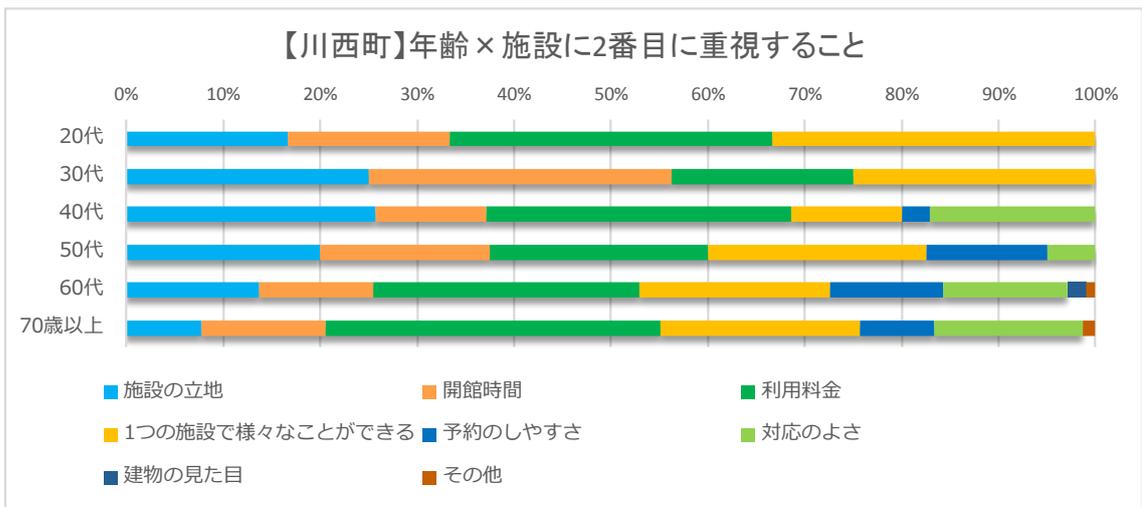
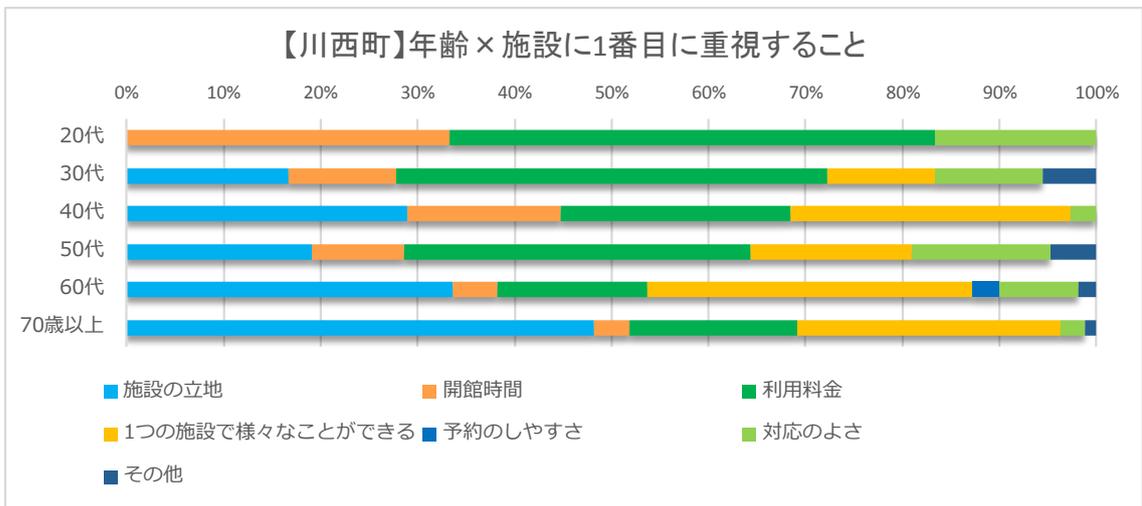
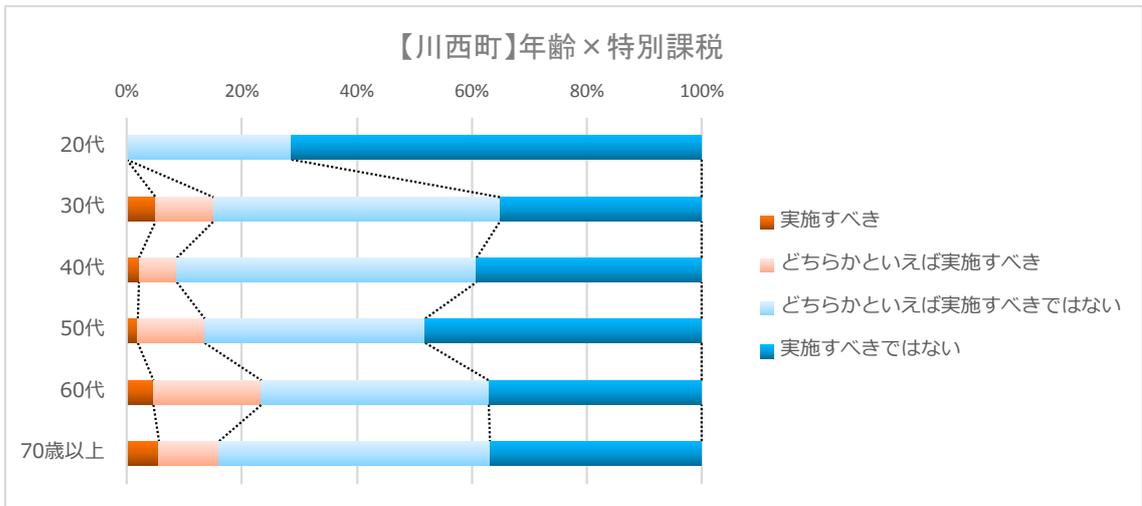
連携自治体アンケート調査

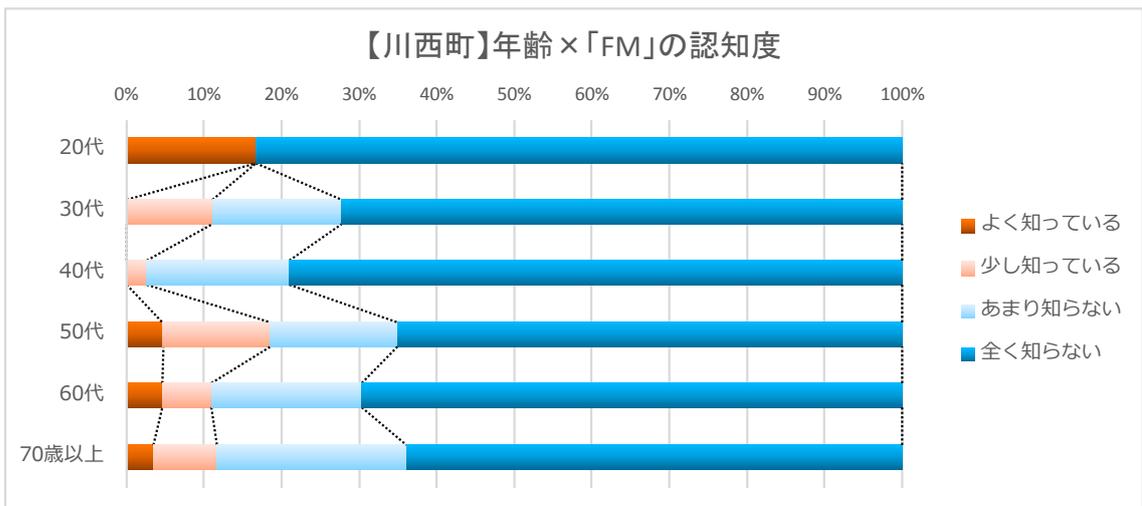
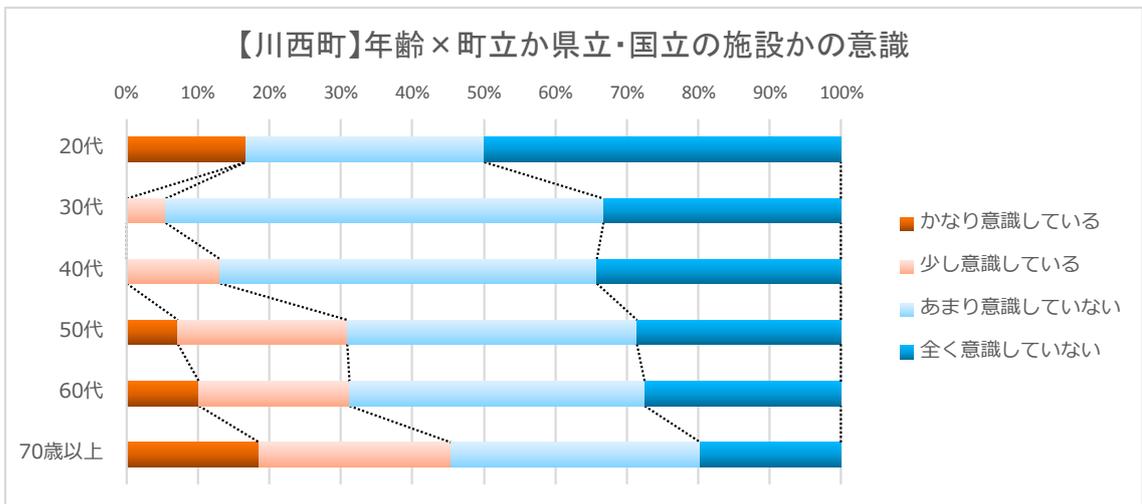
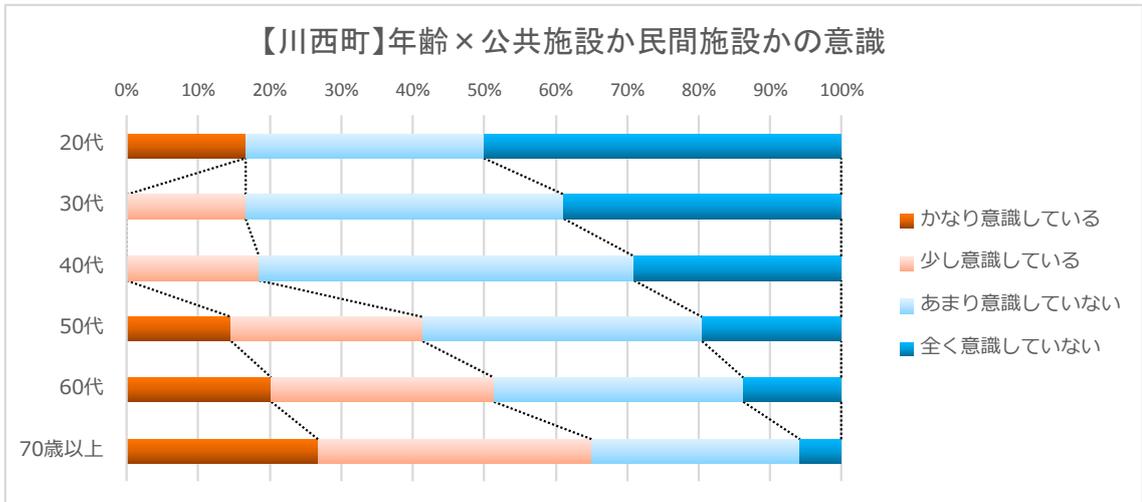
※年齢「20代」「30代」、居住年数「5年未満」「5年以上10年未満」、家族構成「一人世帯」はサンプル数不足のため実態を反映していない場合があります。

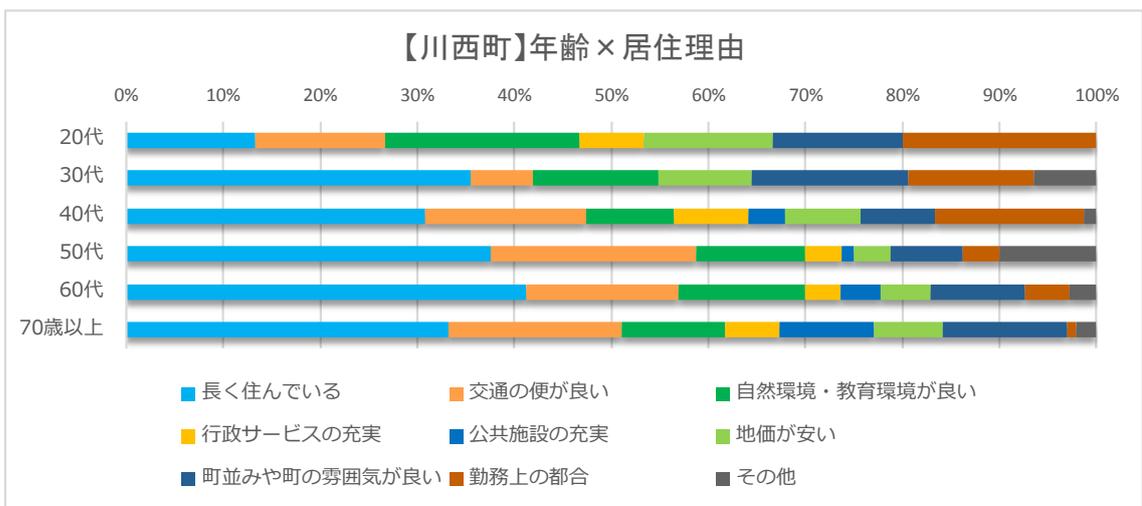
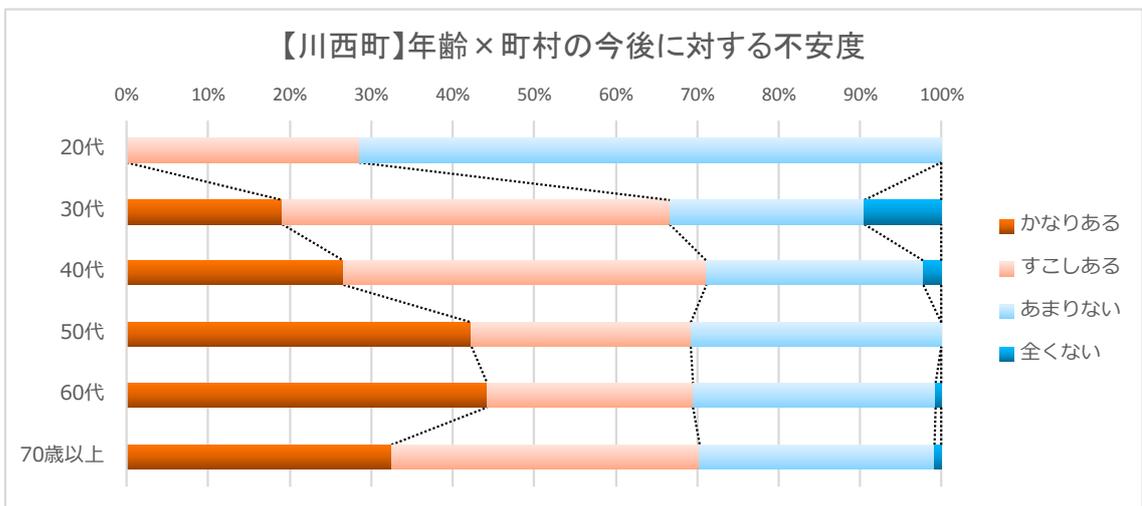
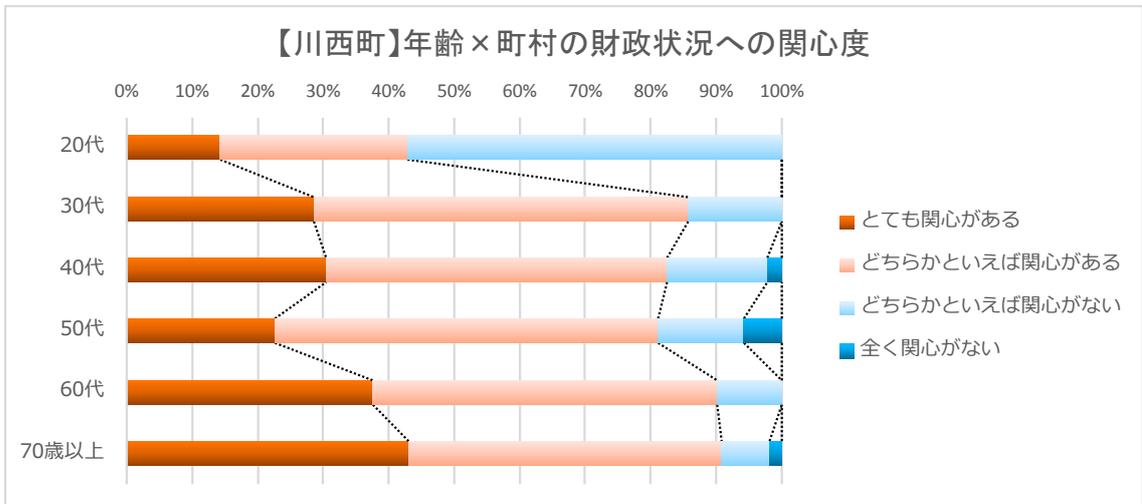


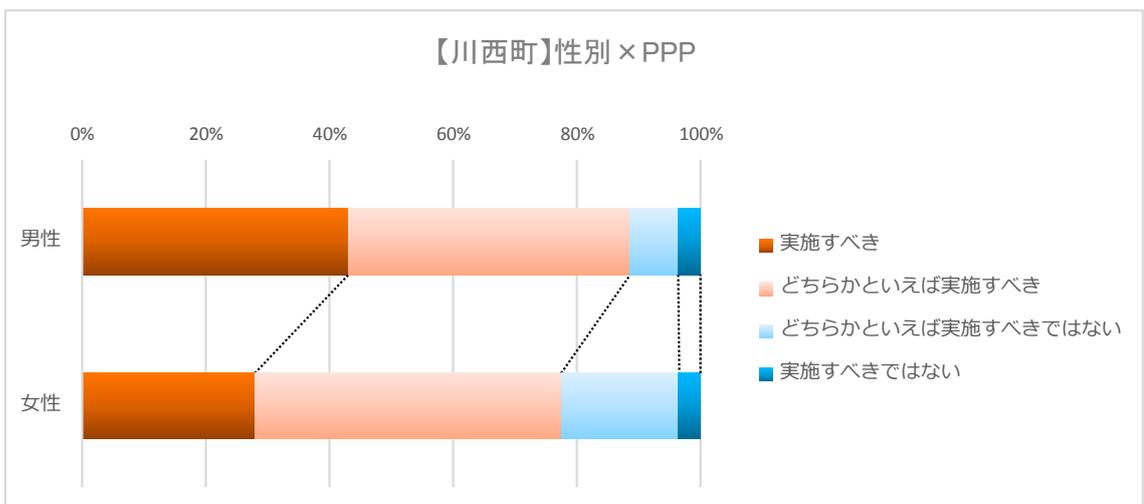
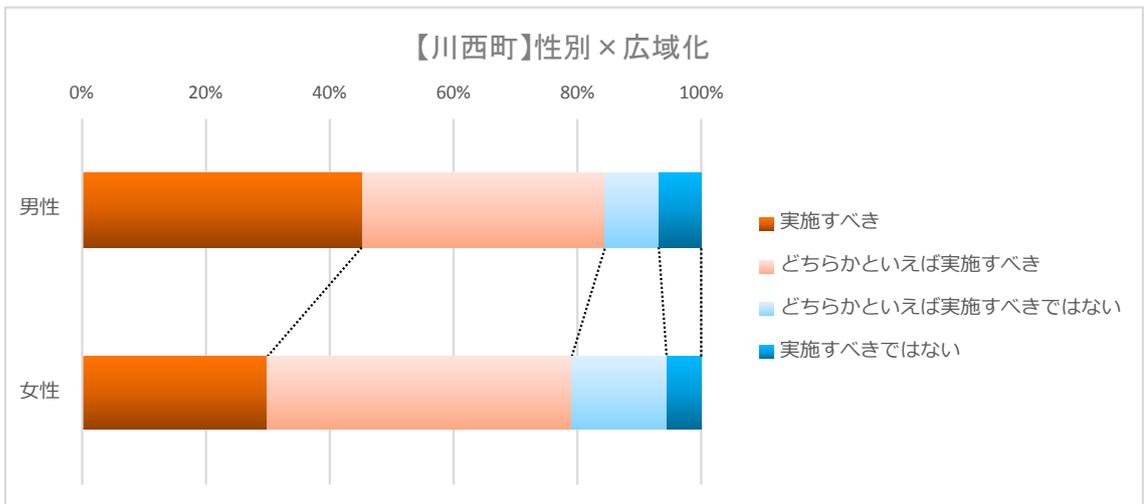
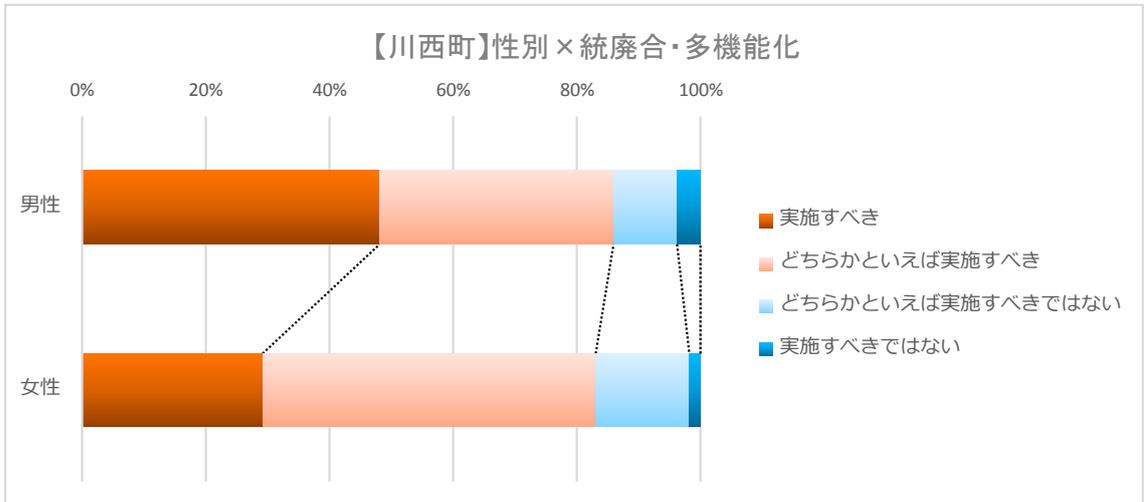




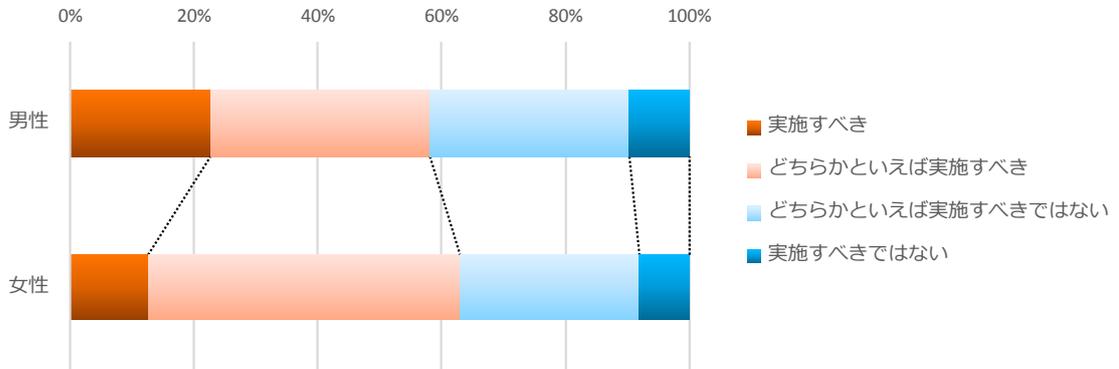




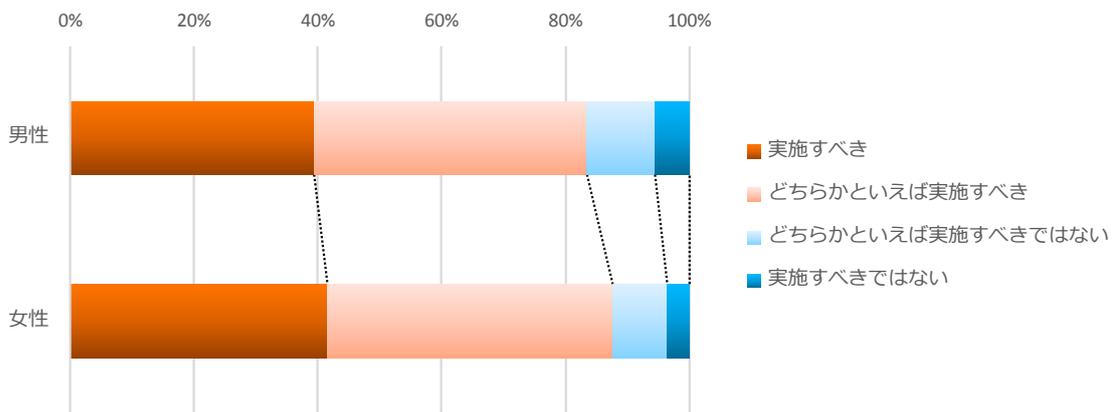




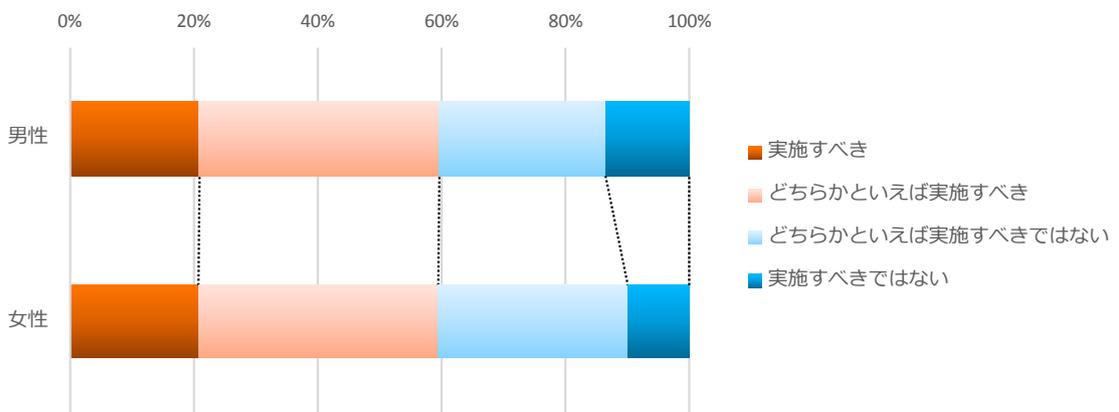
【川西町】性別 × 地域移管

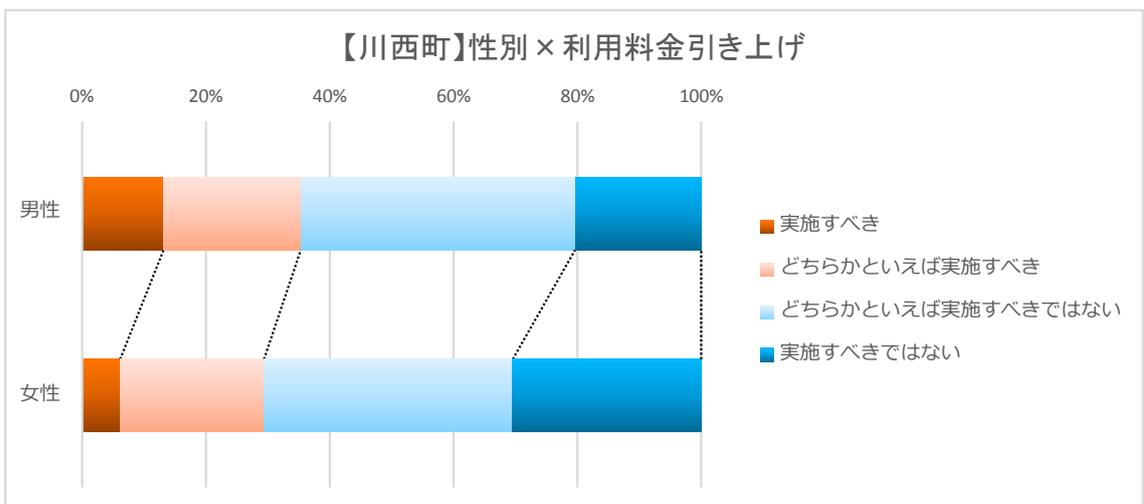
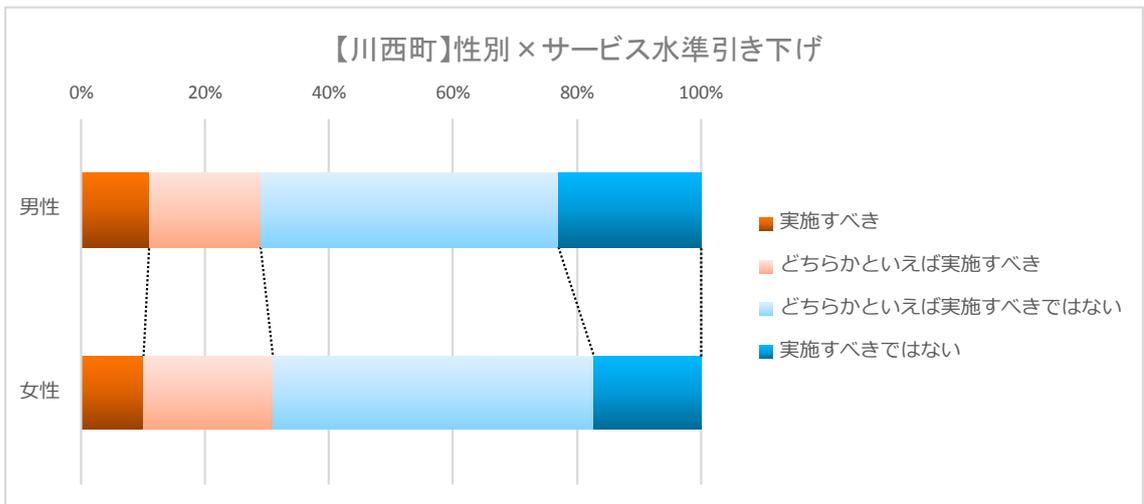
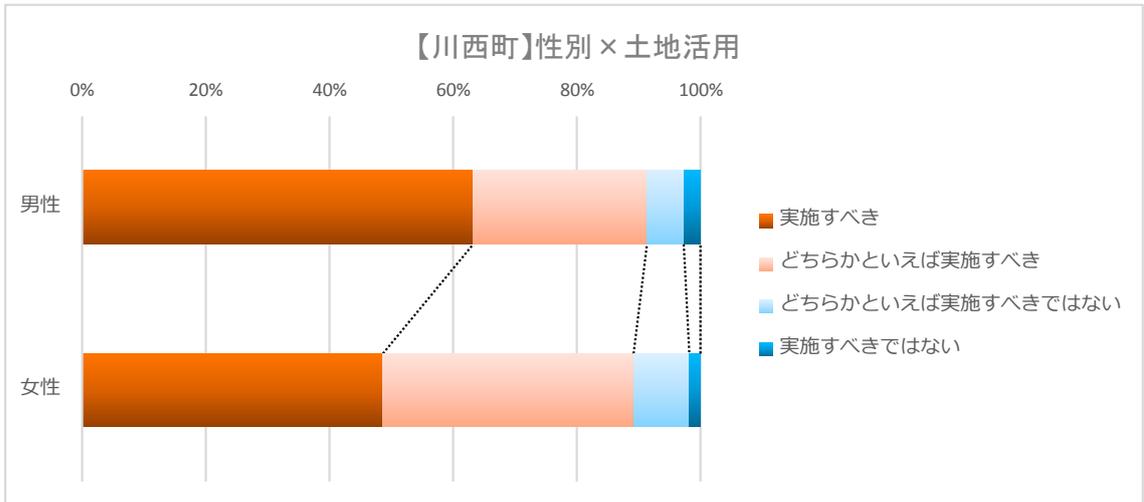


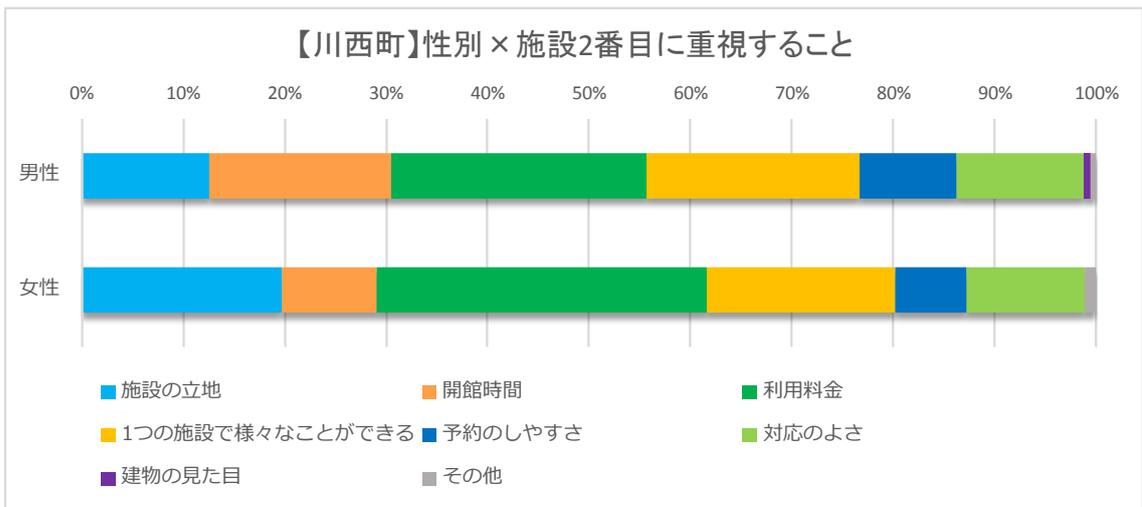
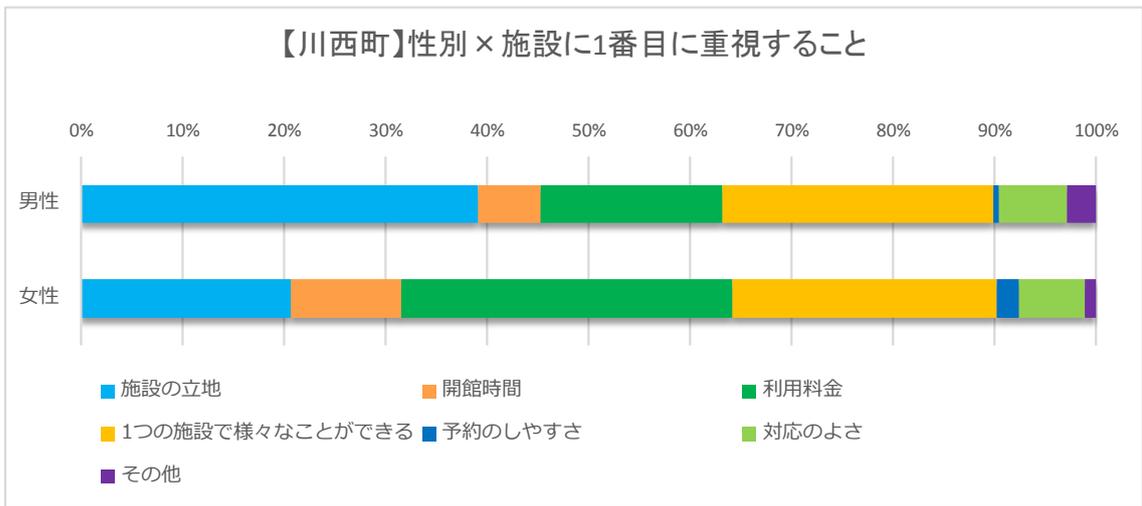
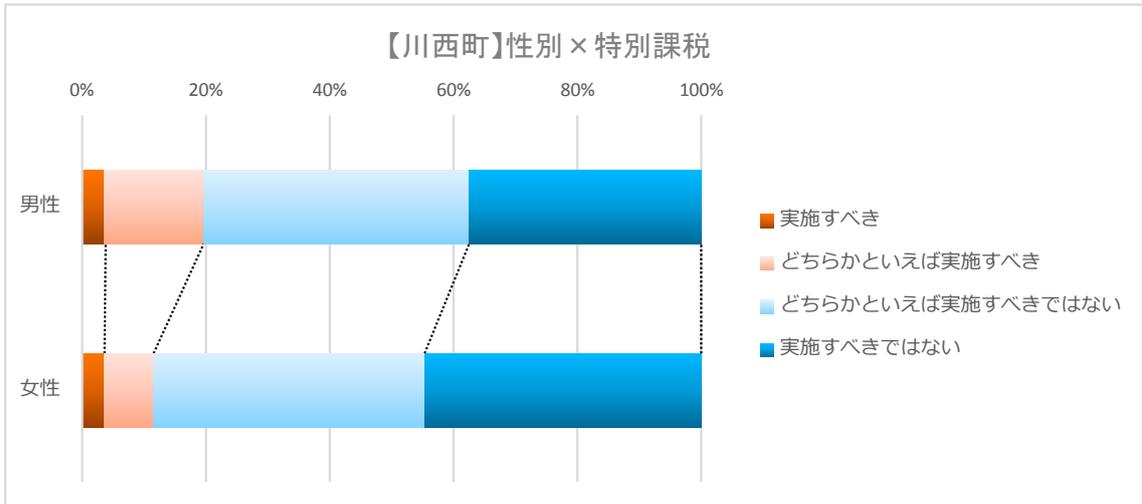
【川西町】性別 × 長寿命化

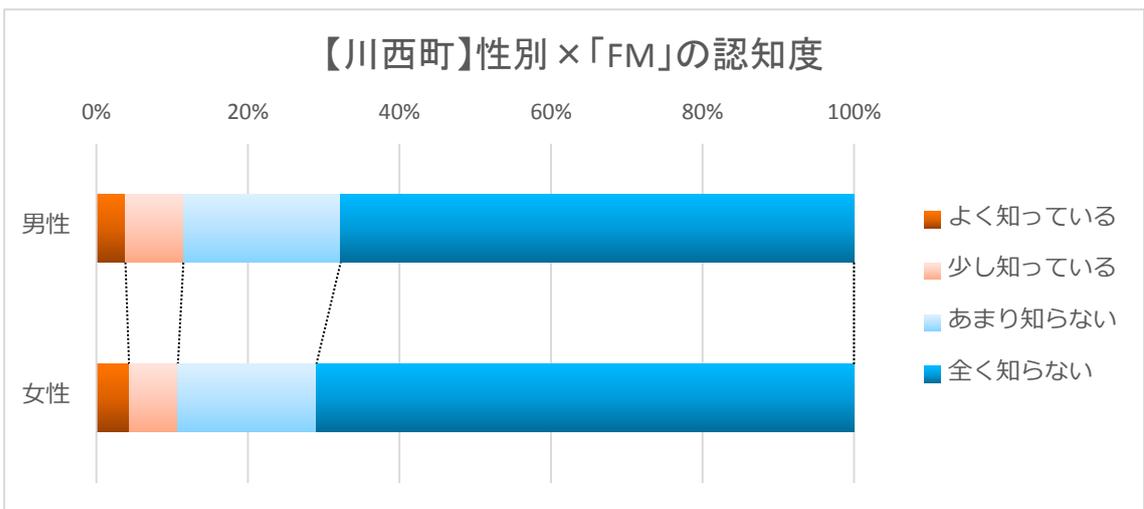
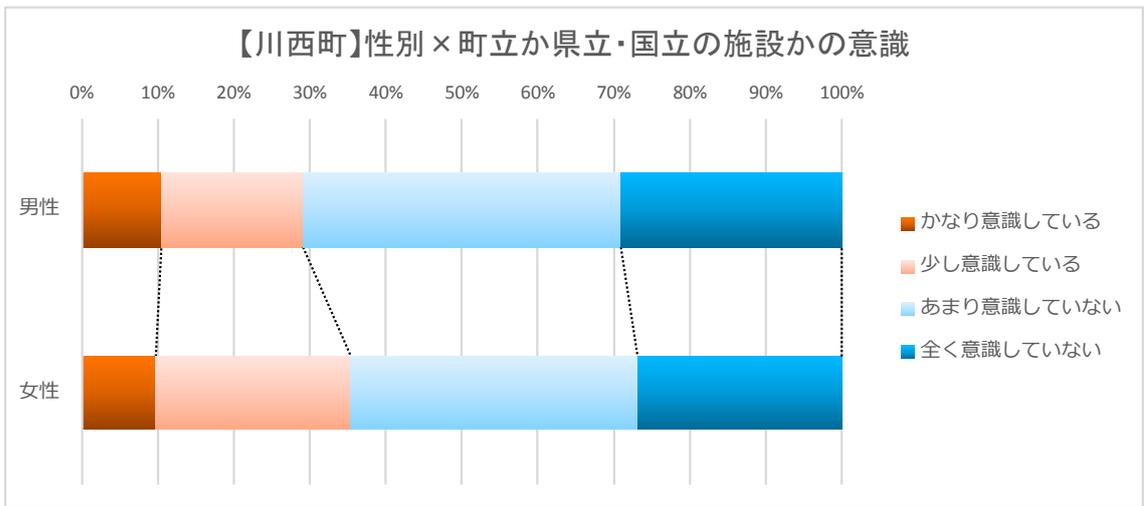
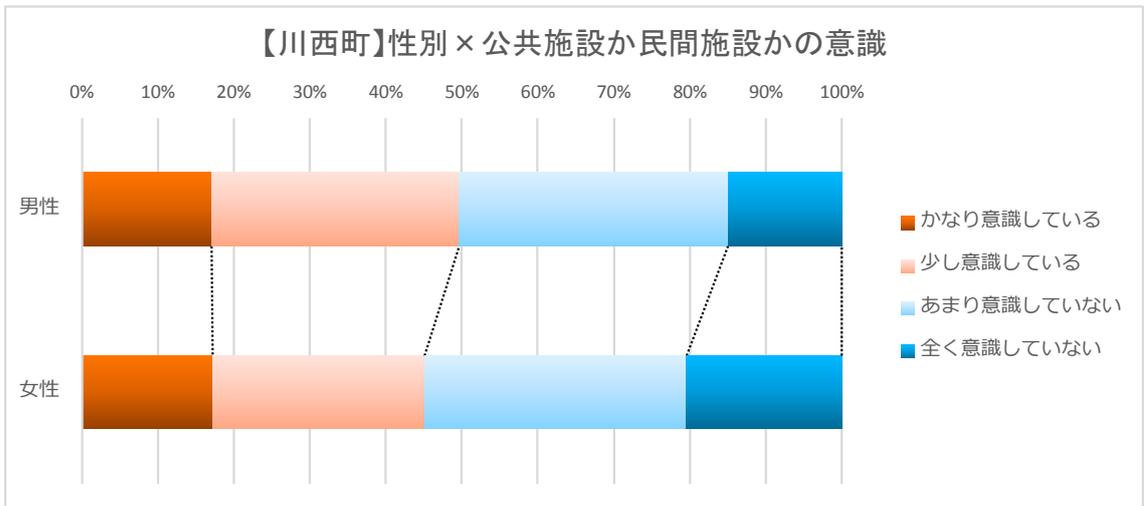


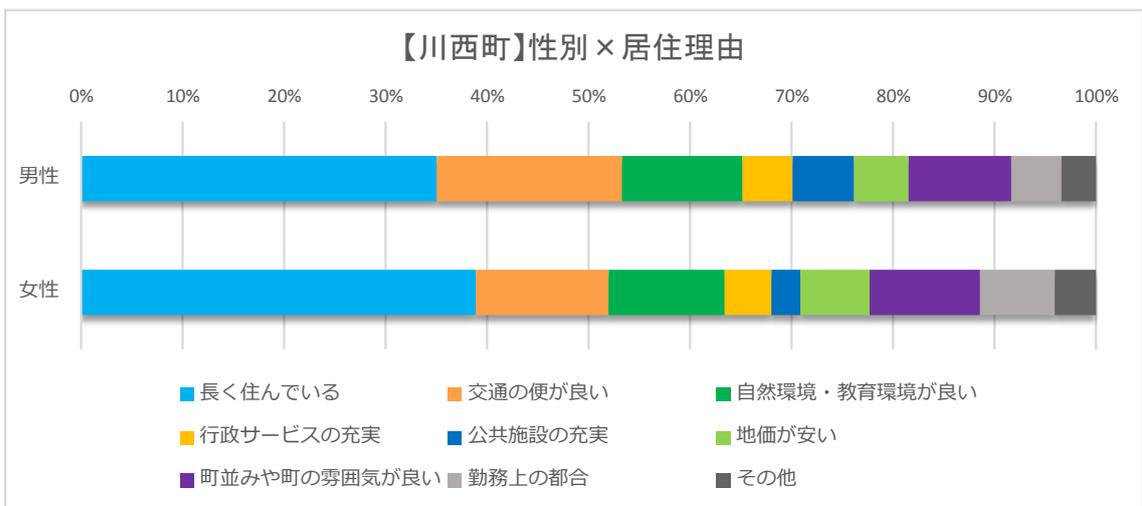
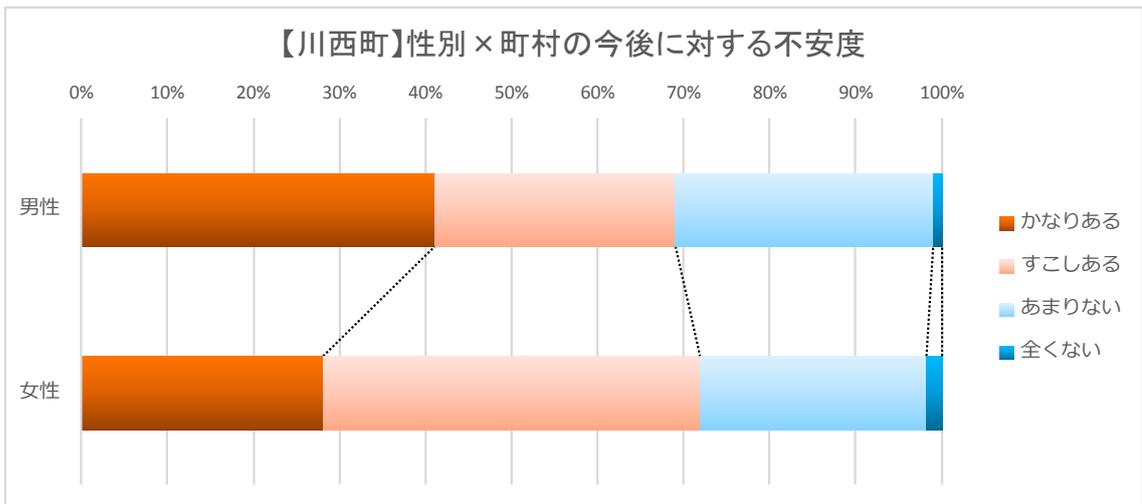
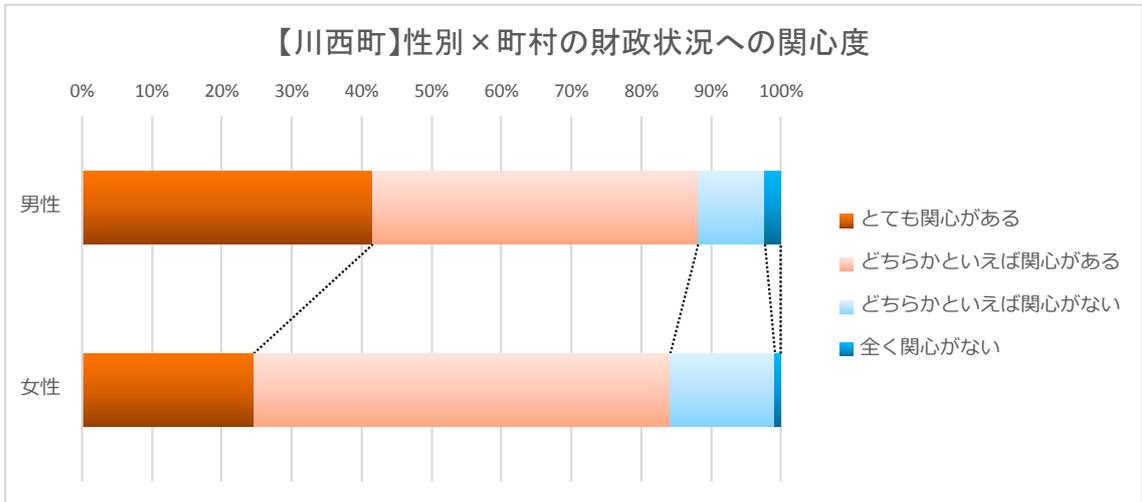
【川西町】性別 × 民間施設利用助成

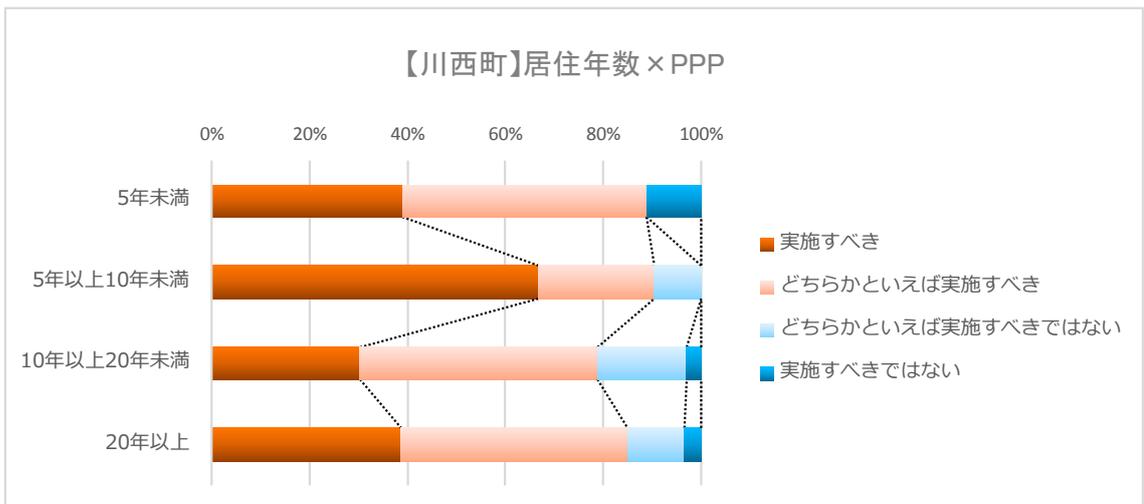
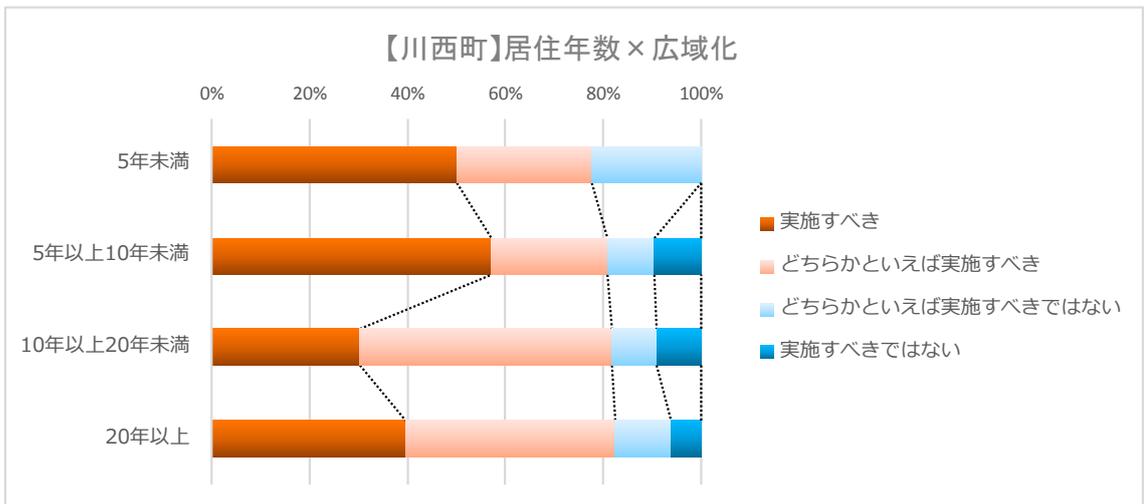
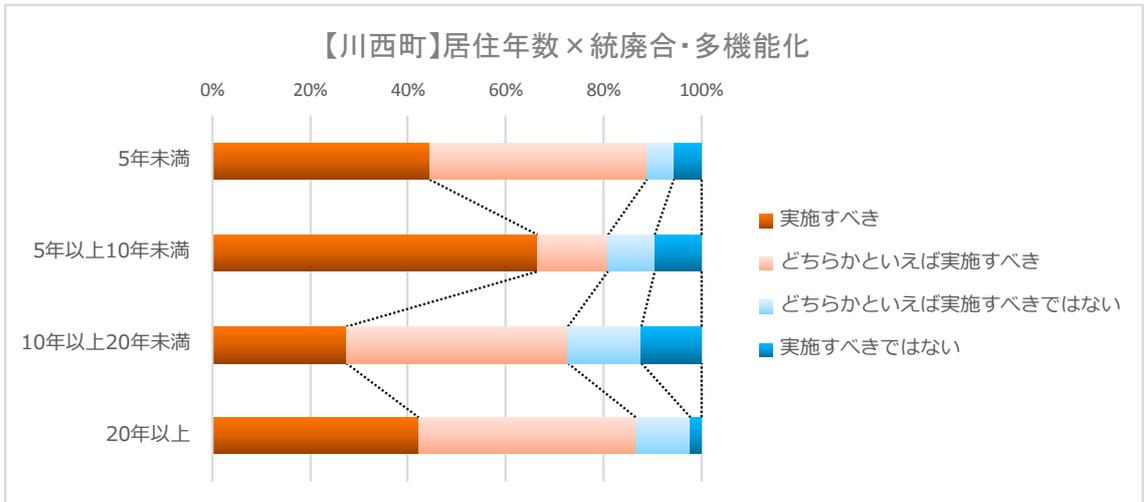


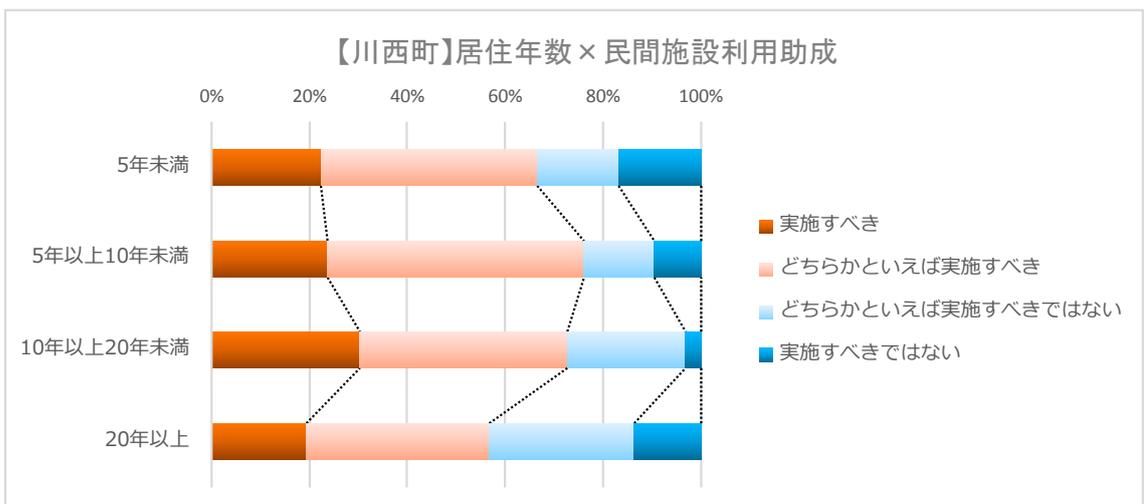
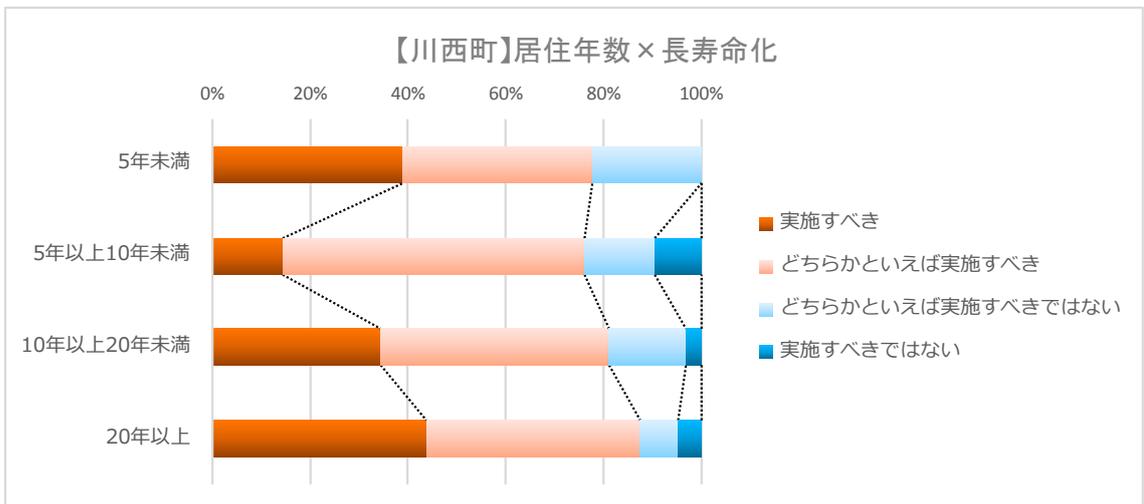
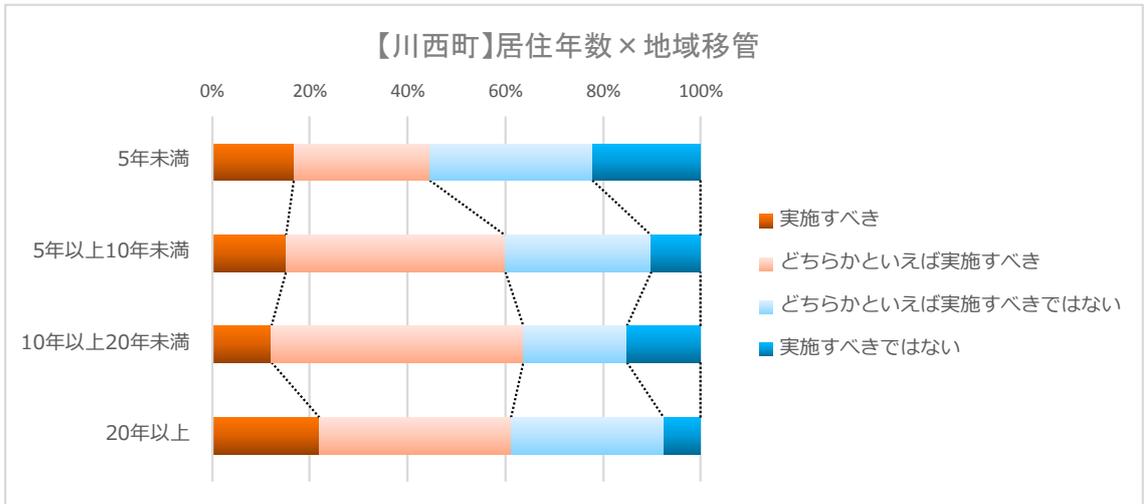


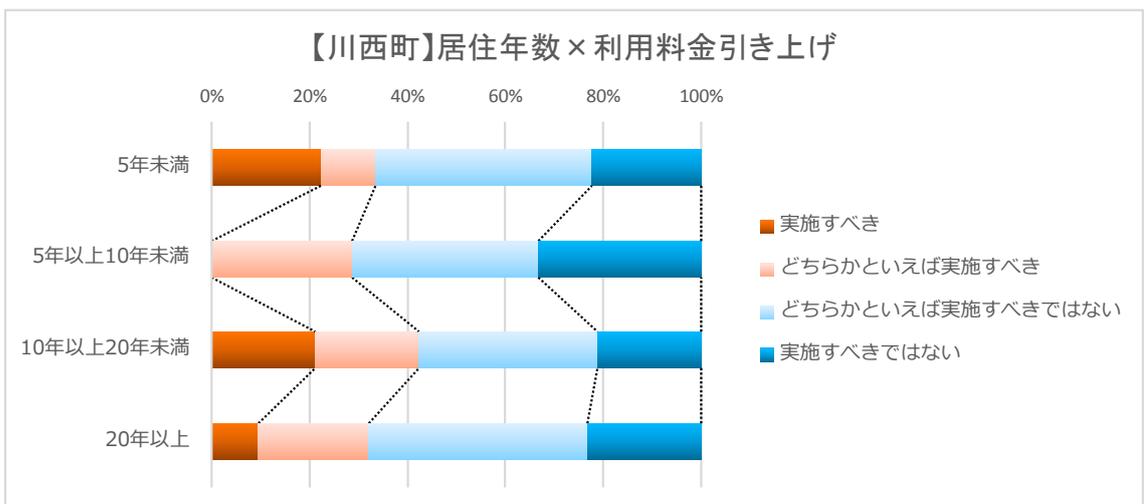
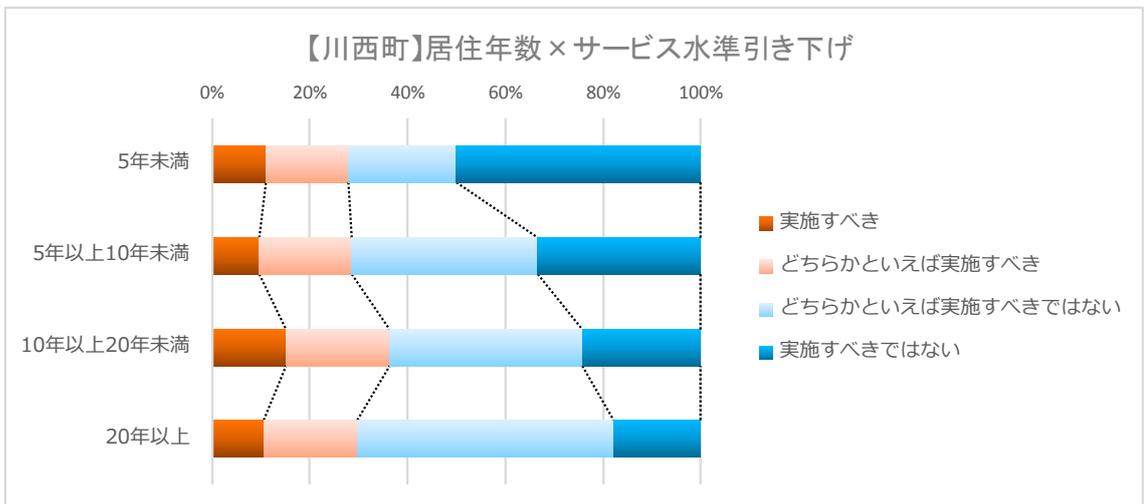
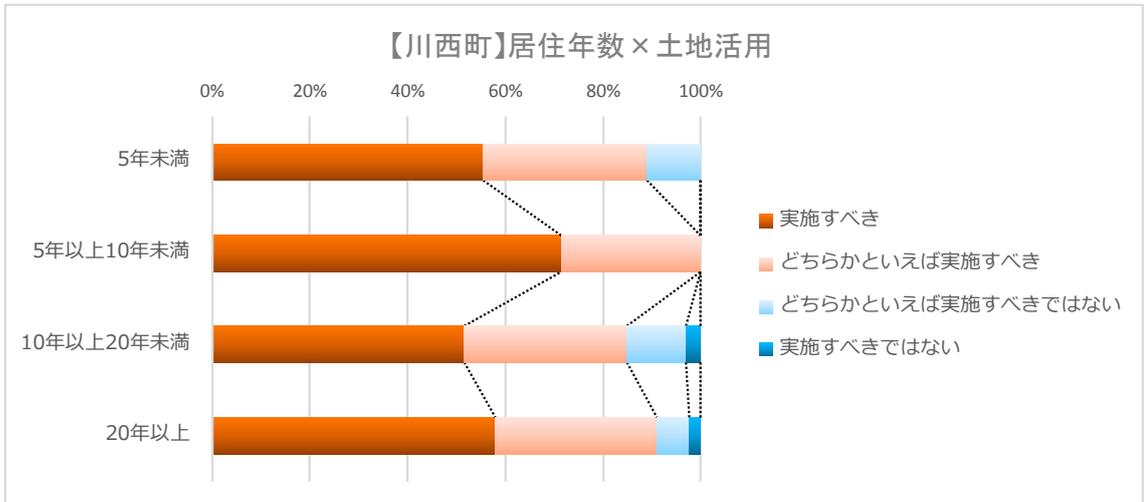


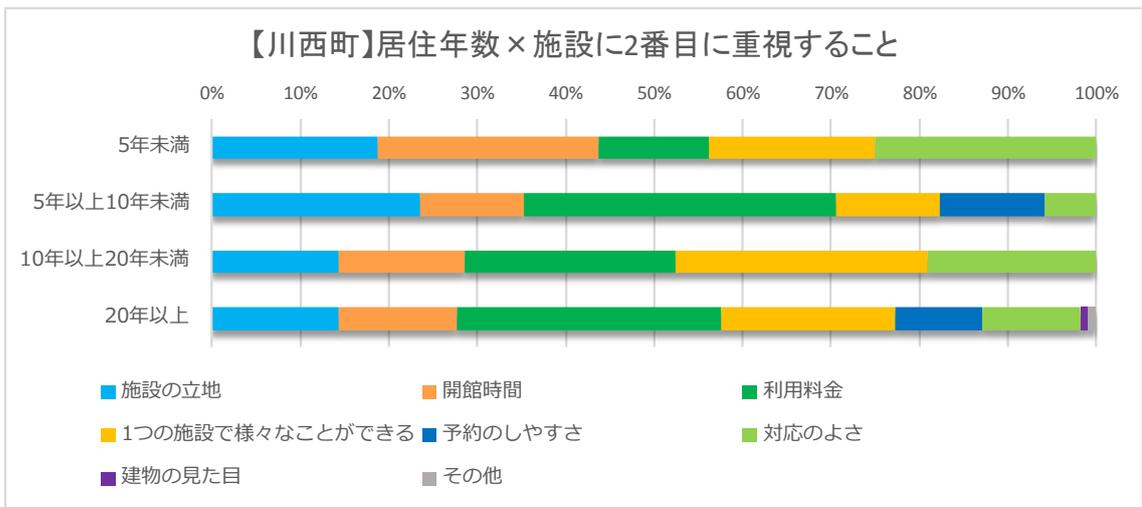
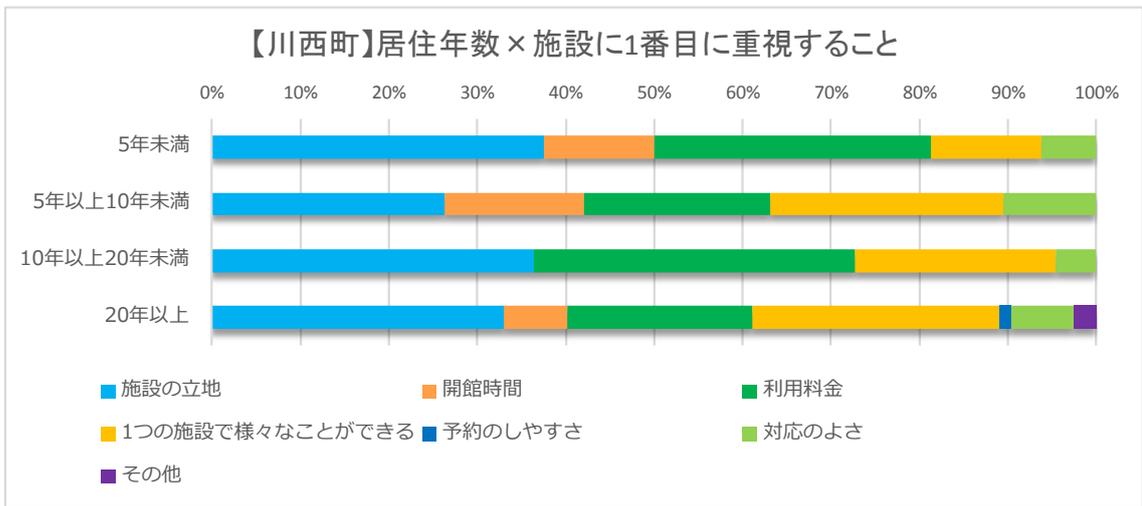
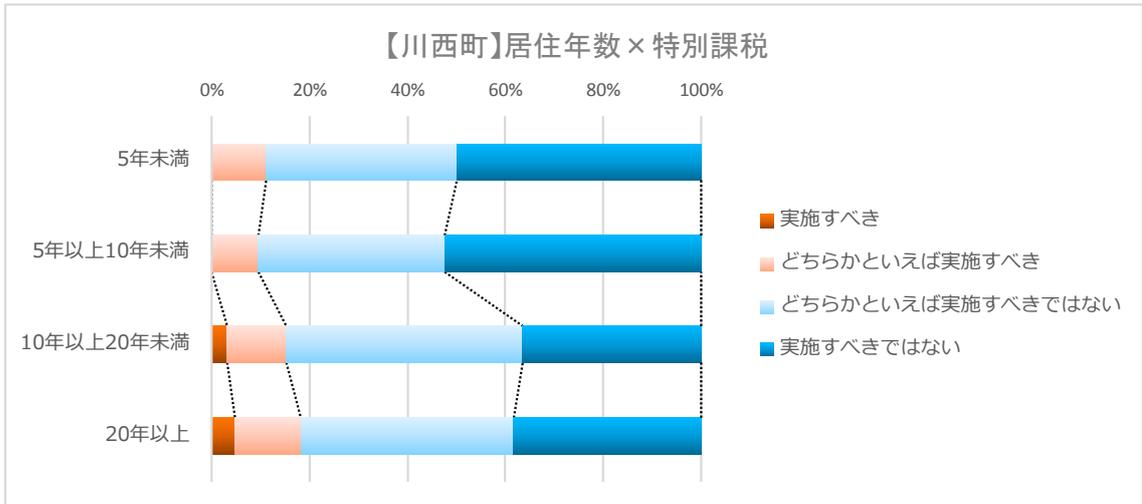


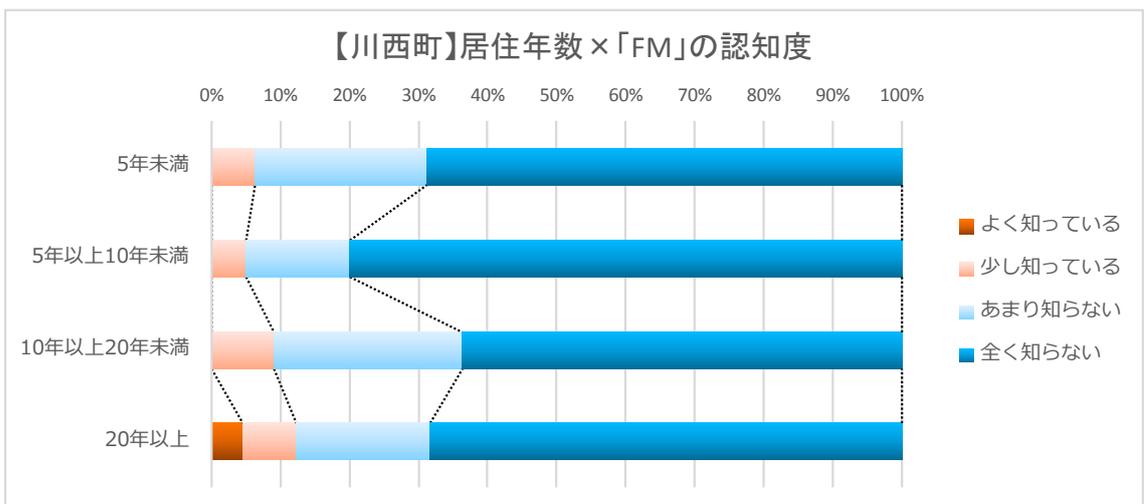
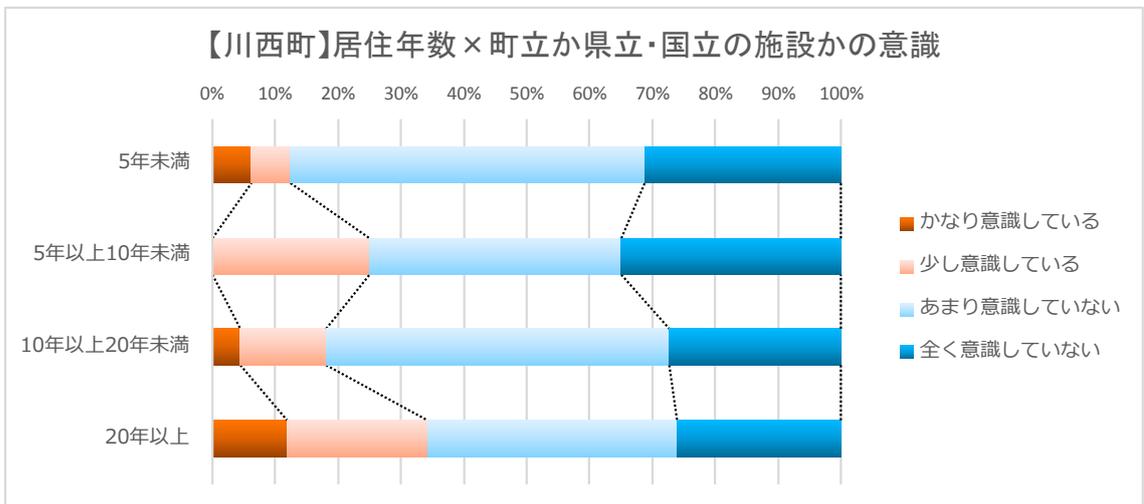
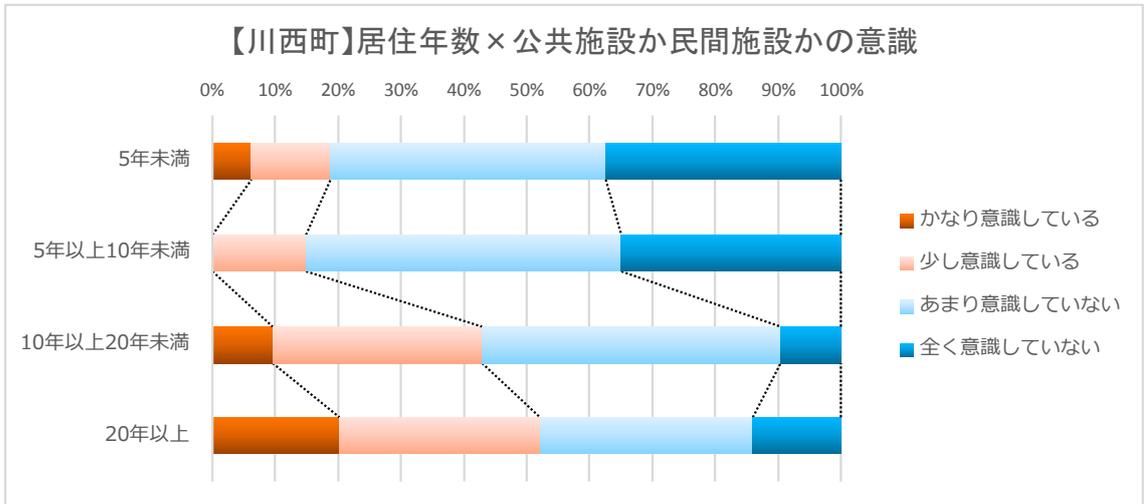


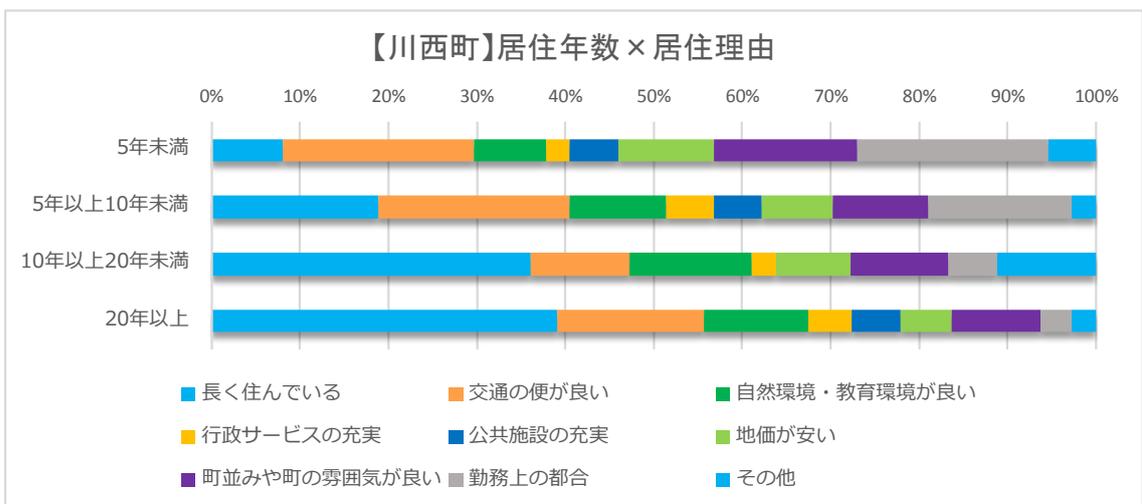
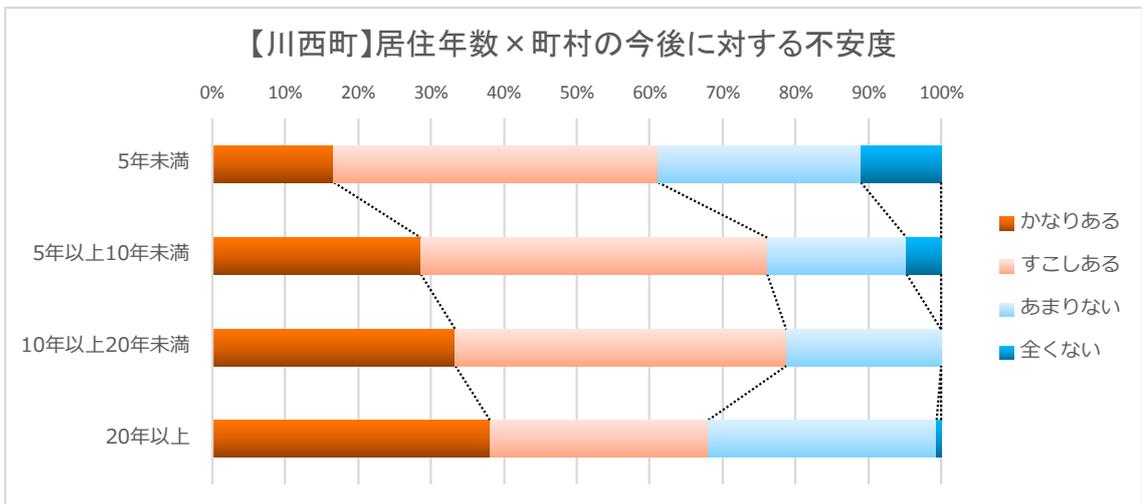
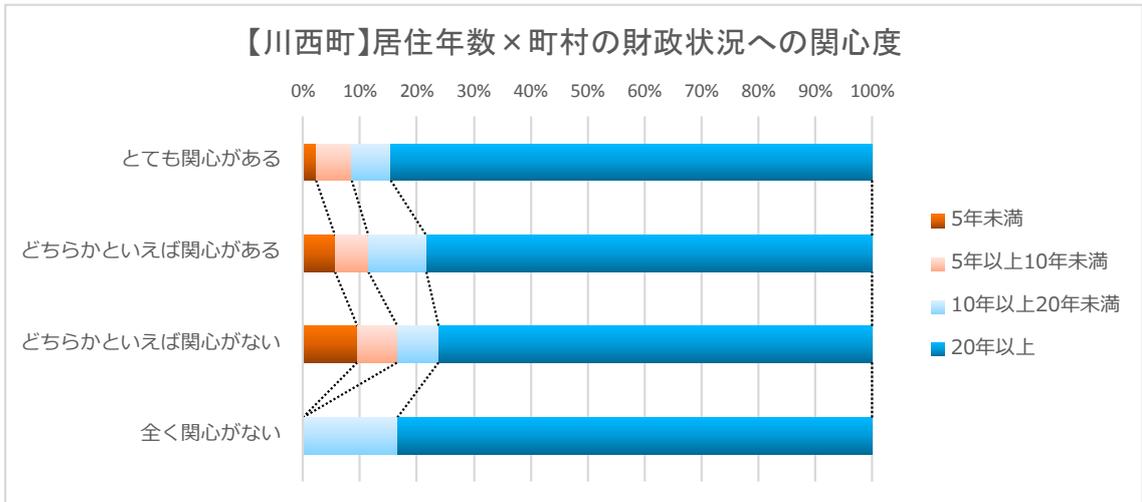


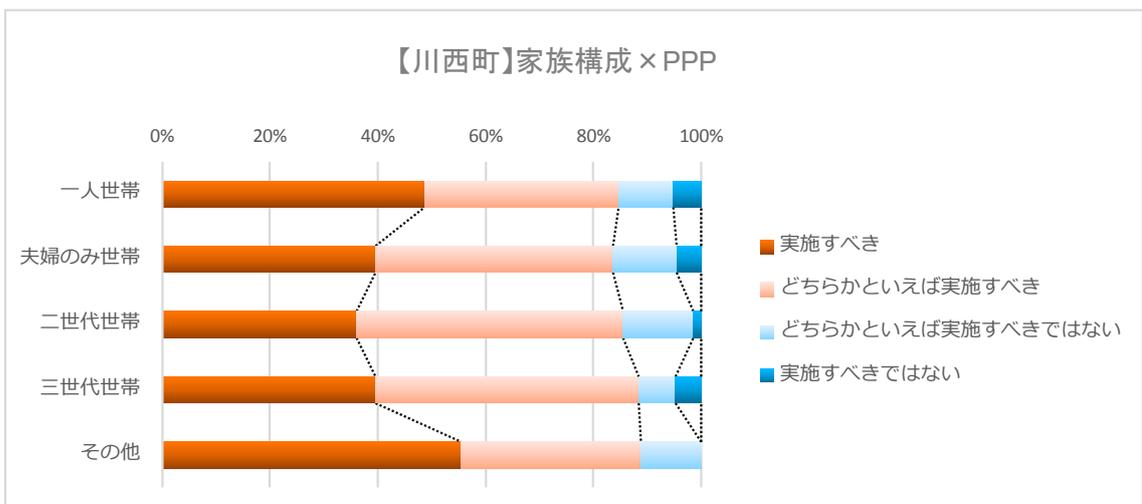
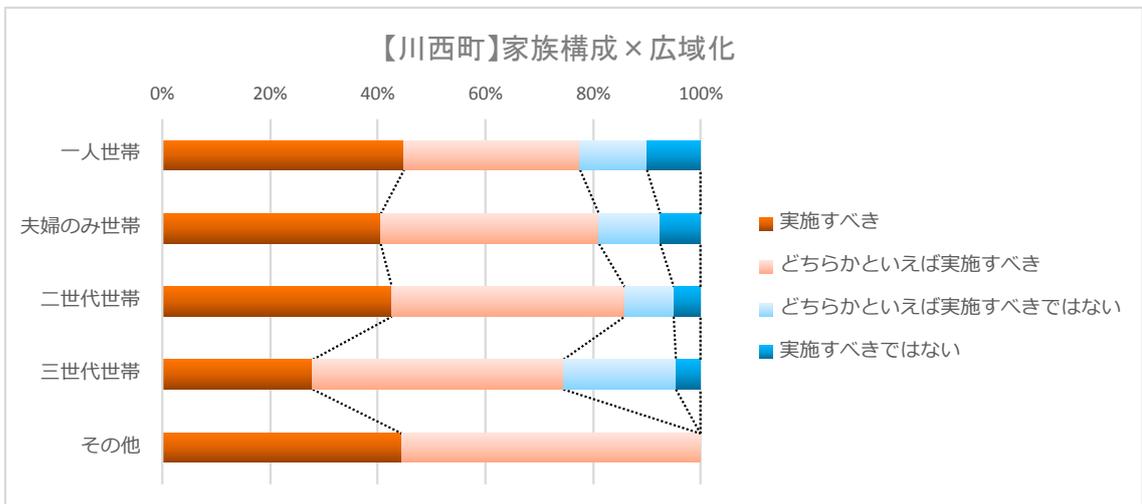
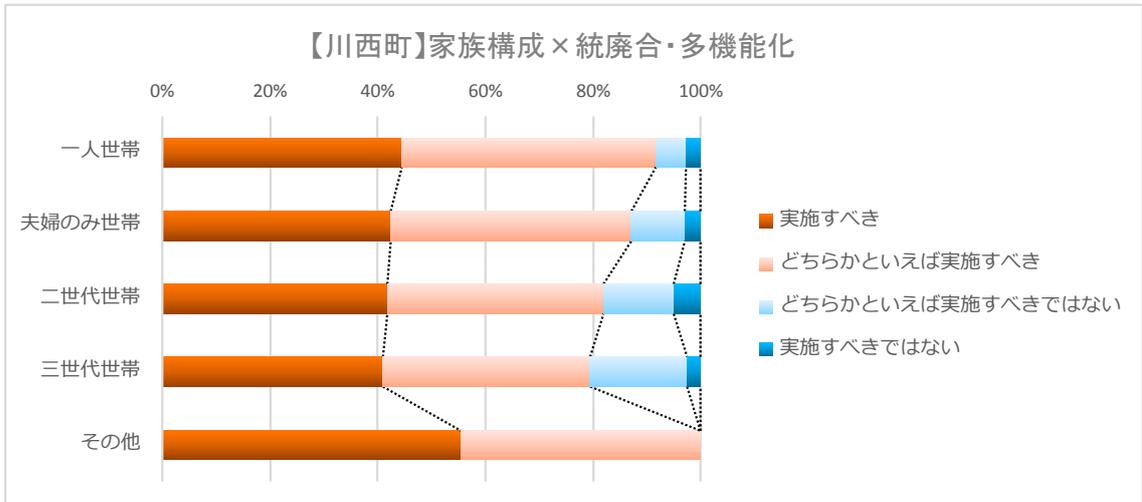


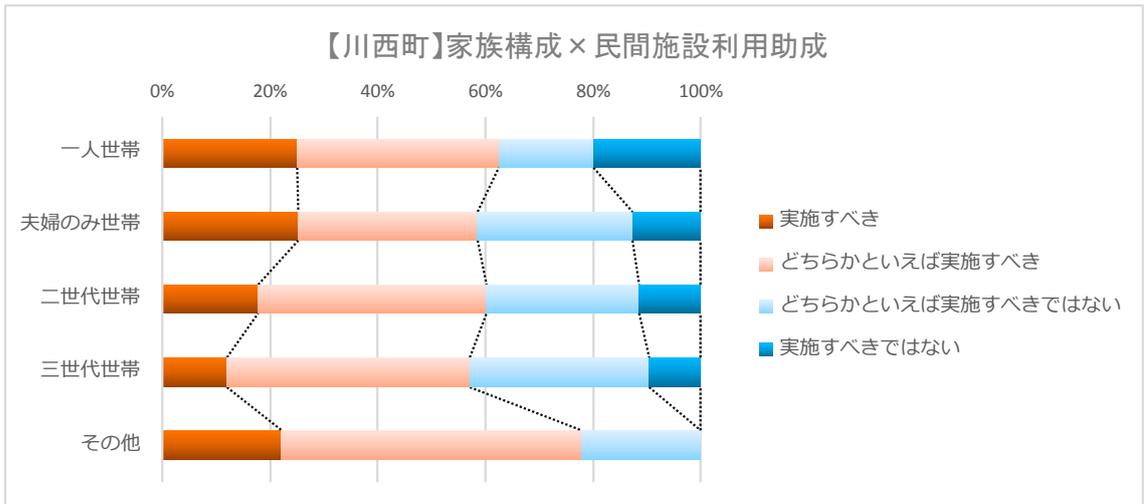
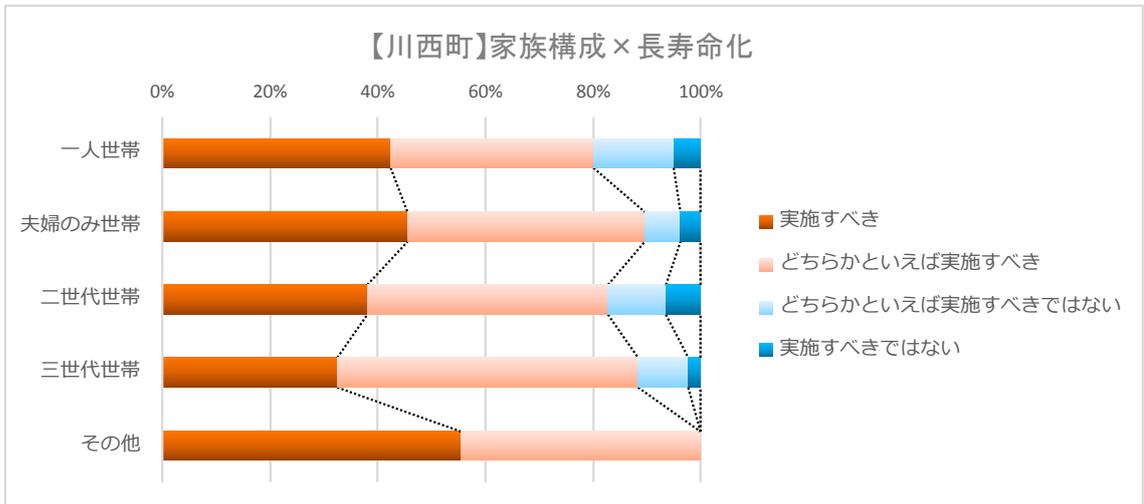
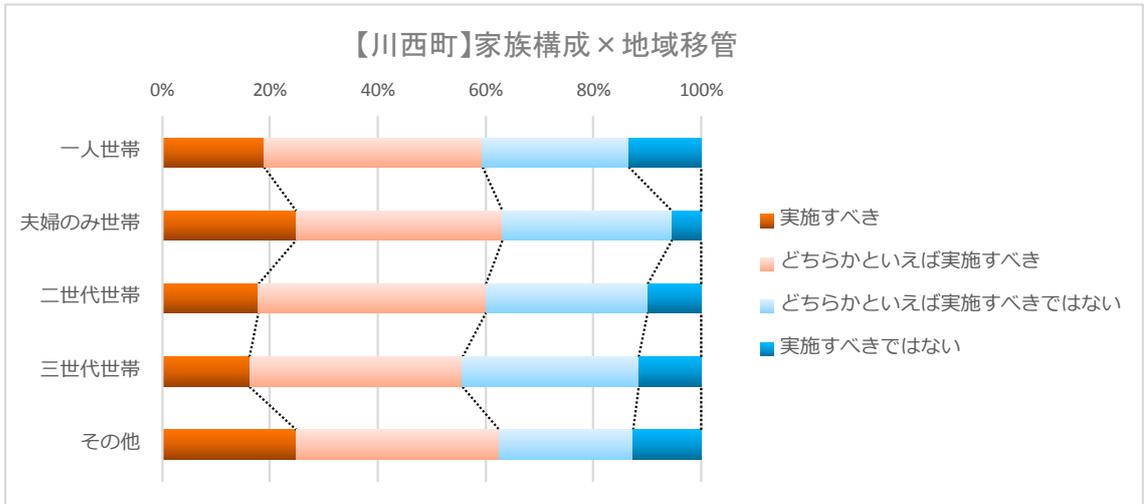


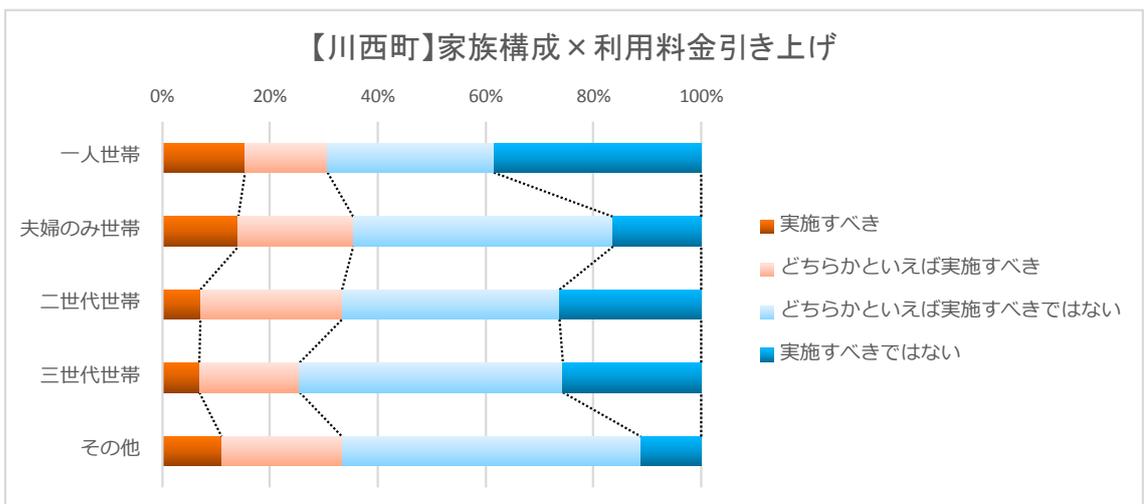
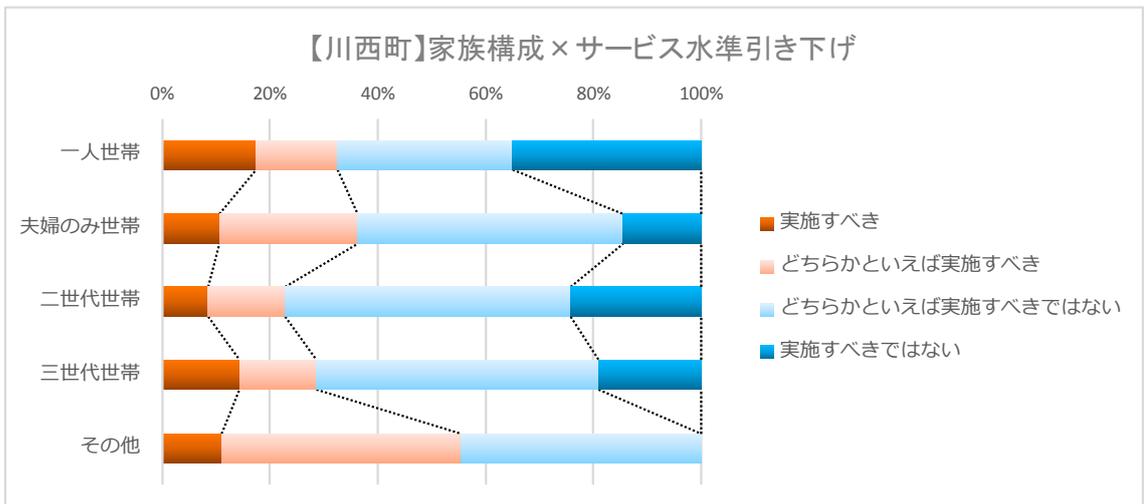
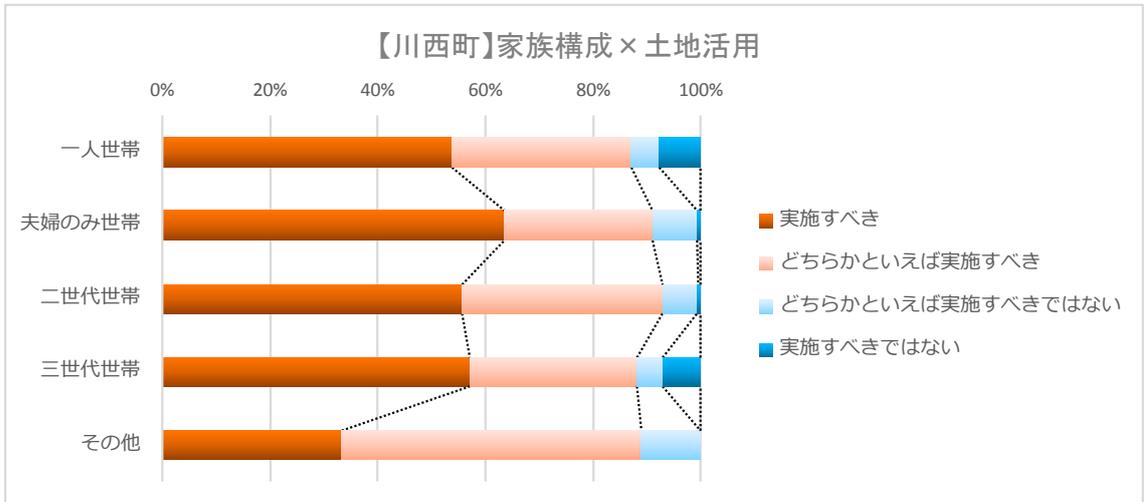


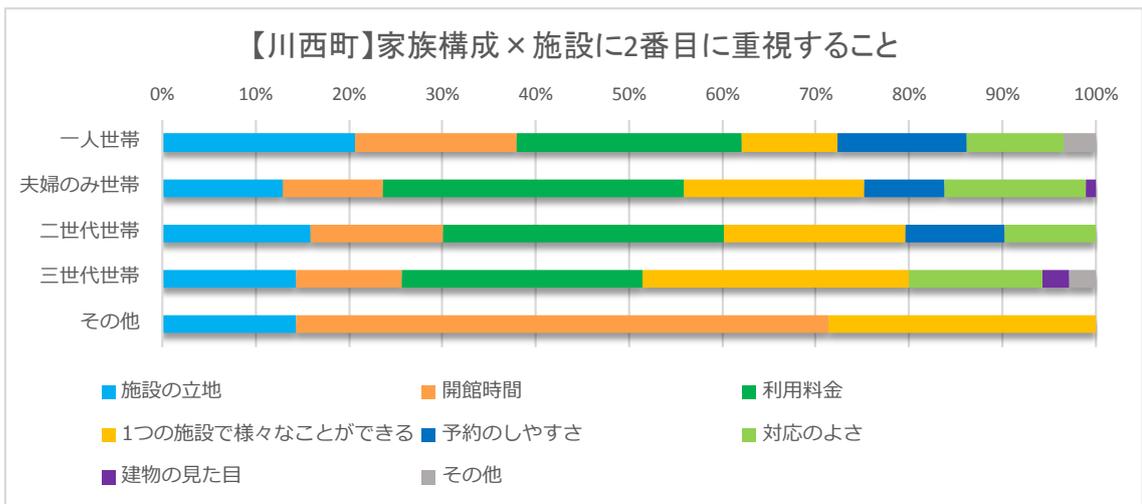
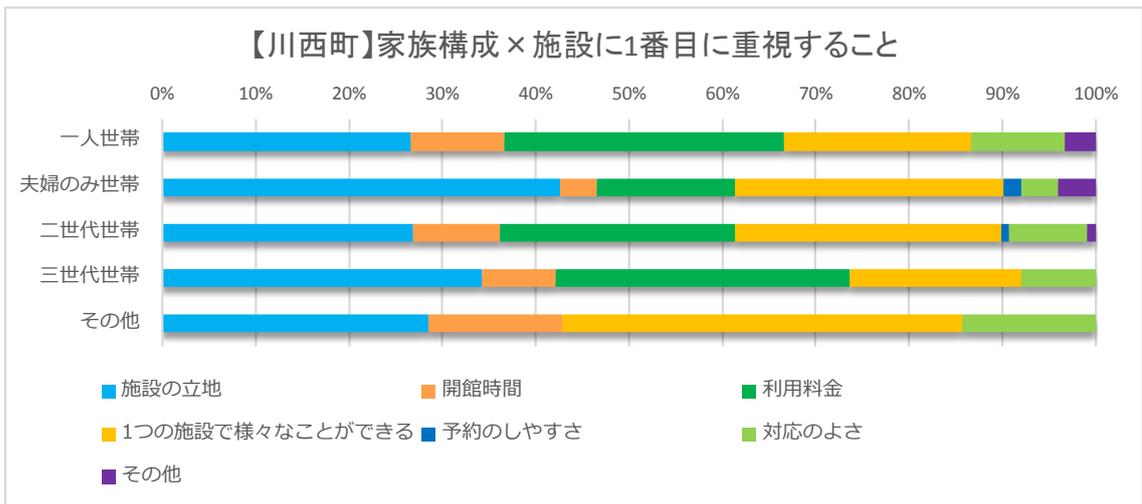
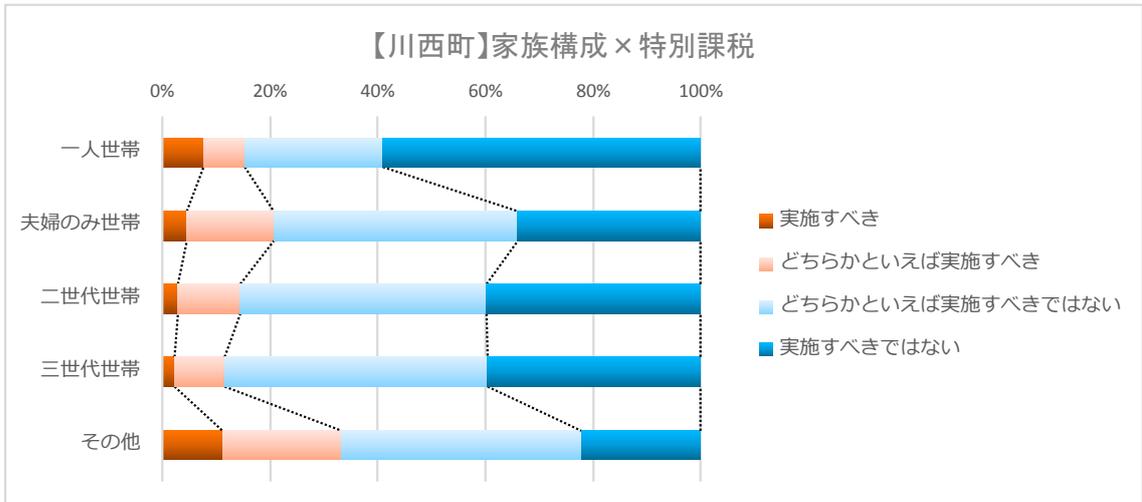


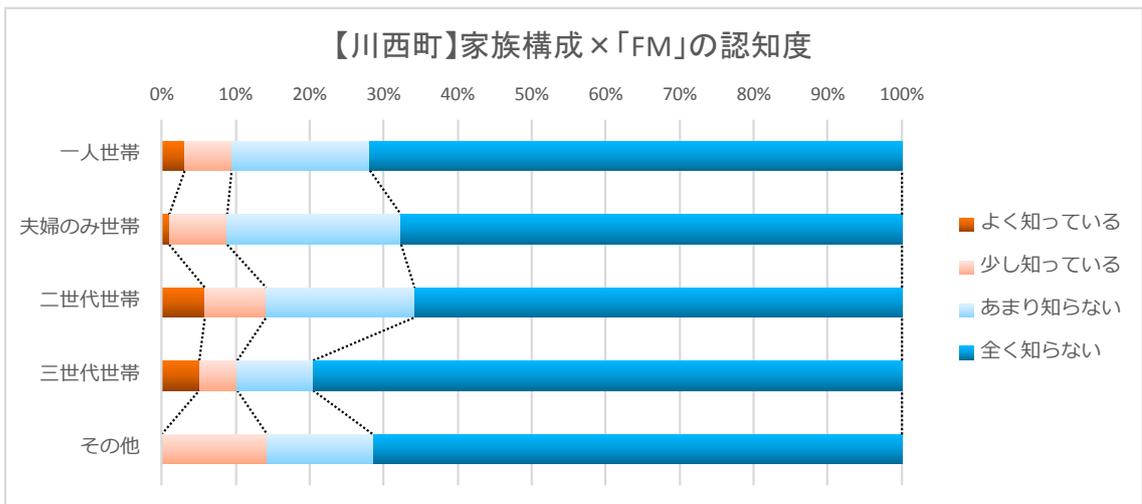
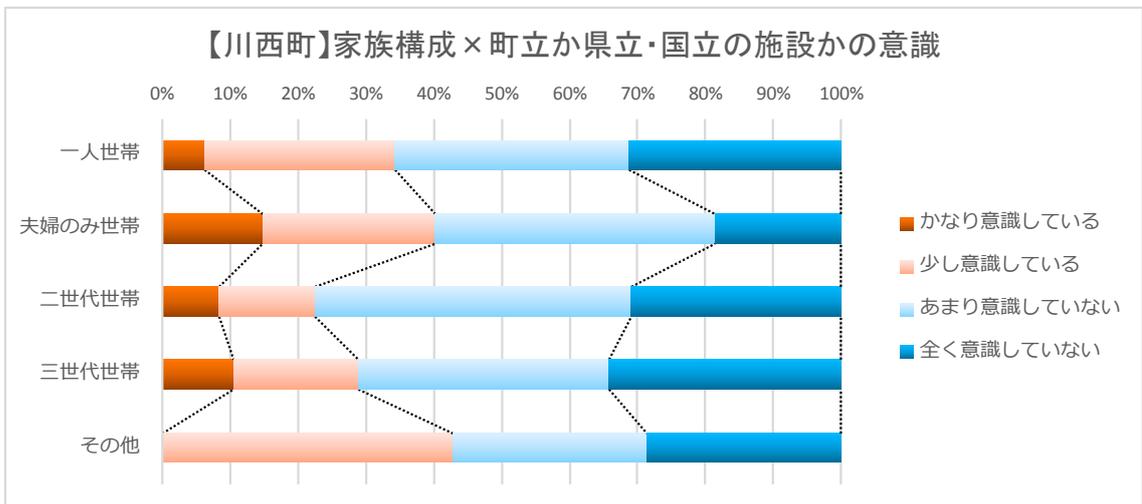
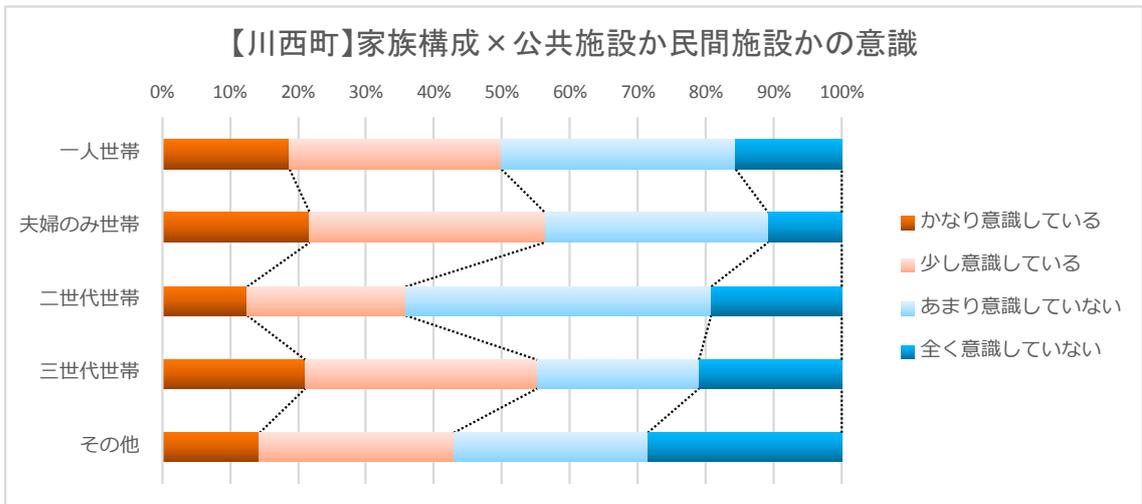


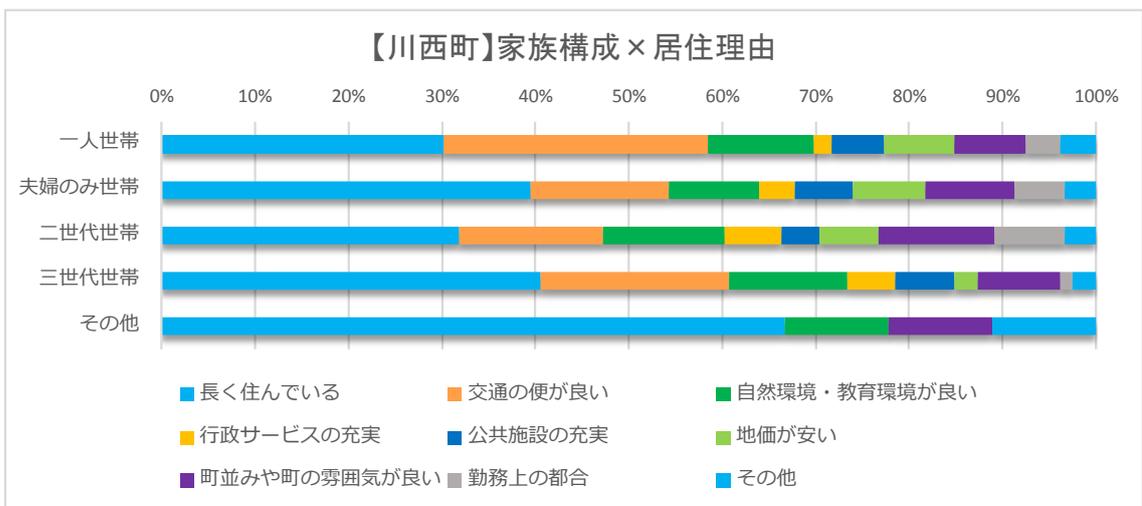
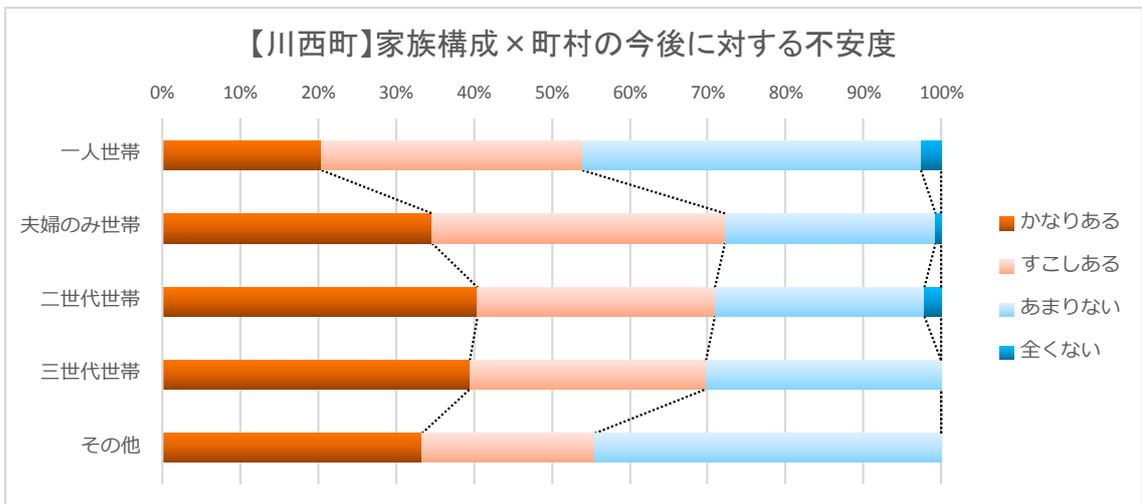
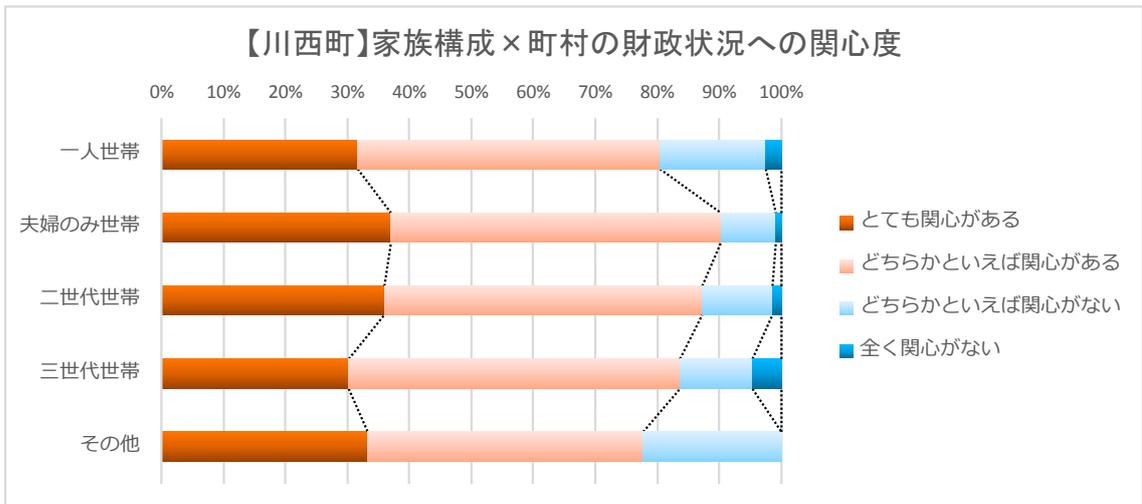


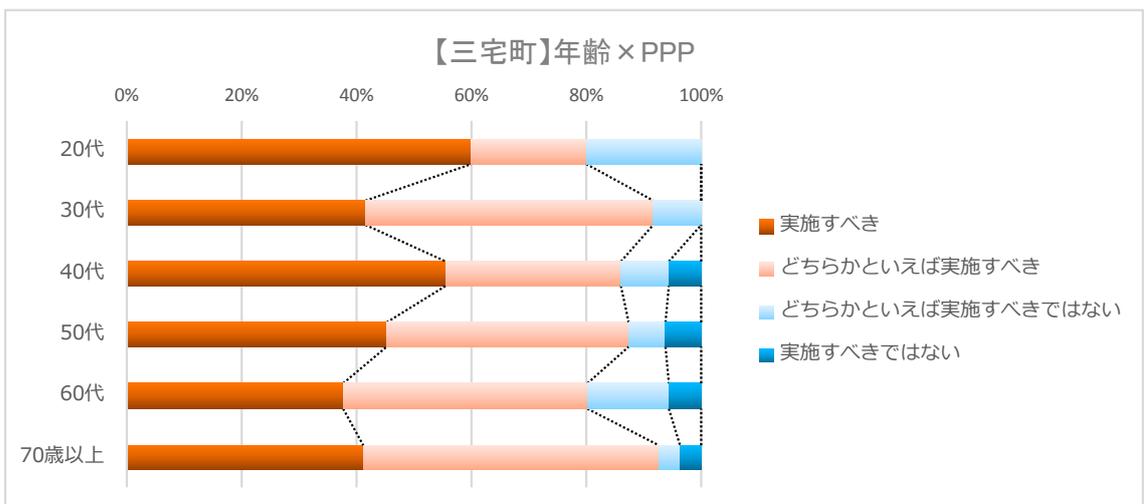
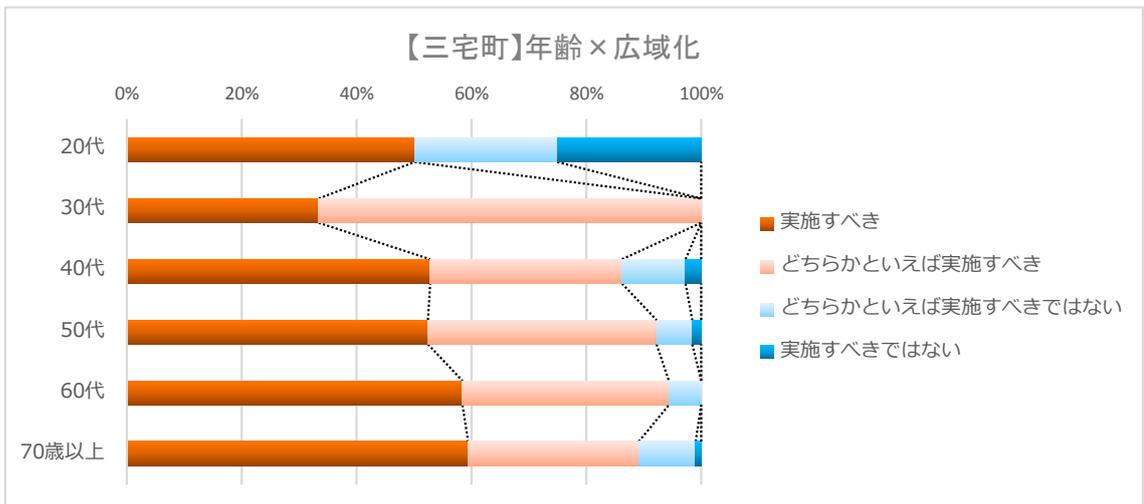
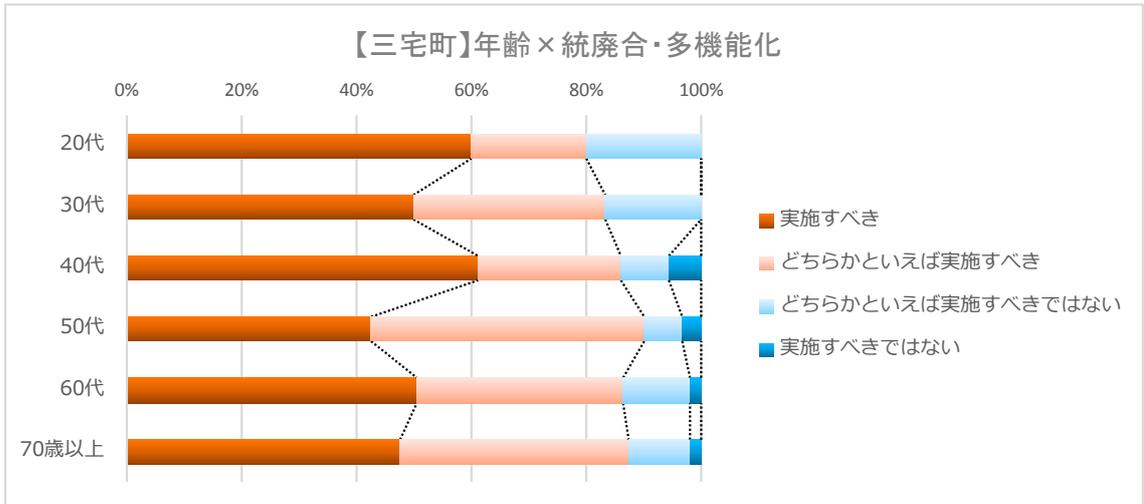


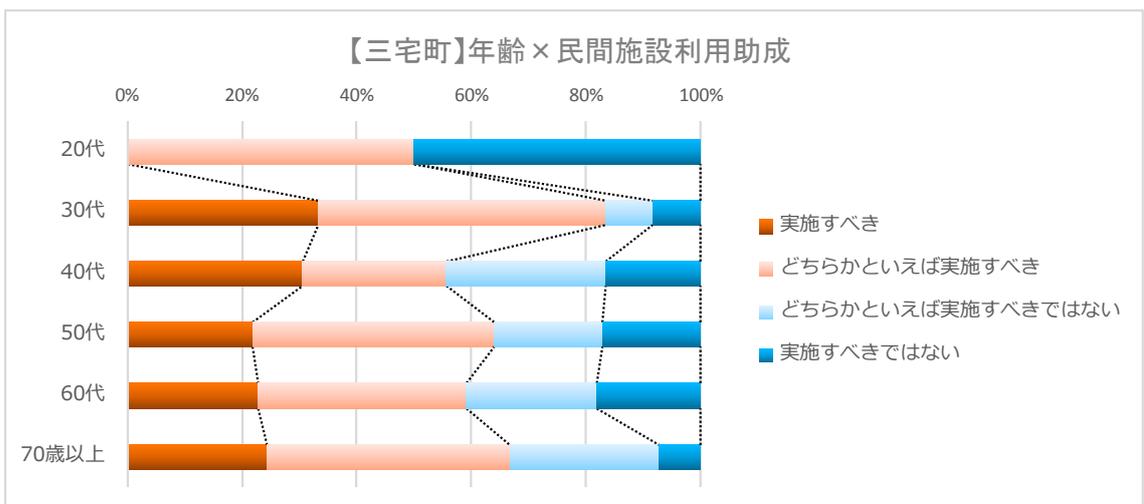
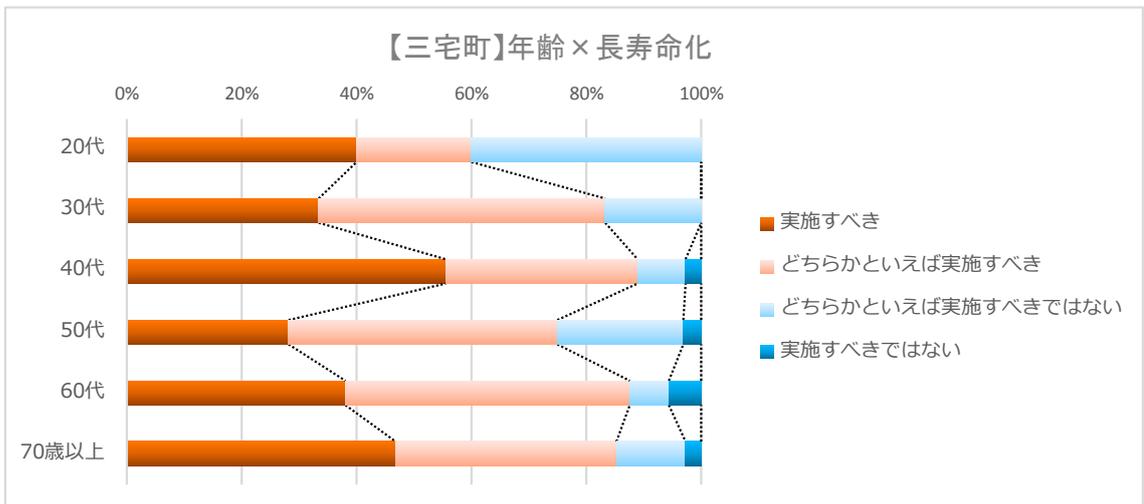
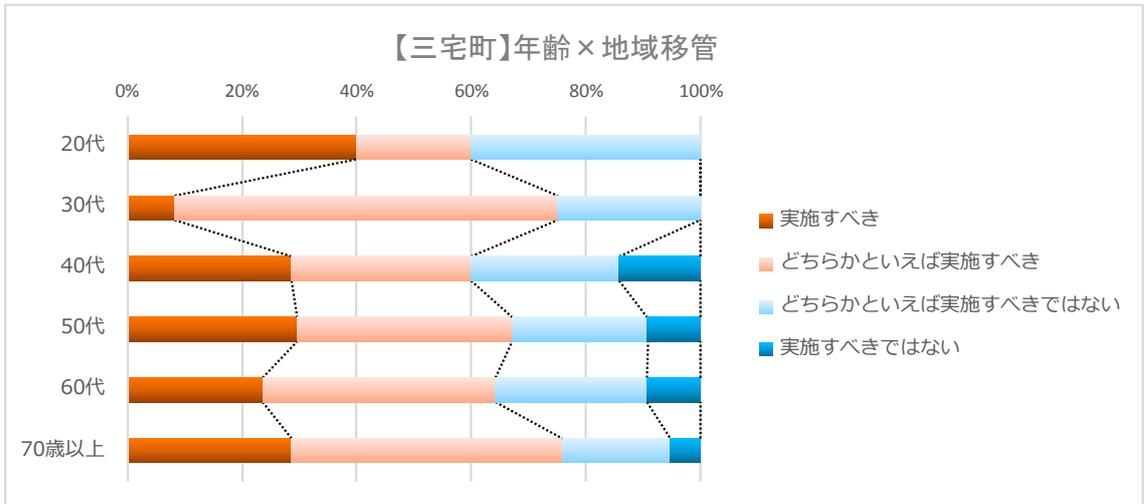


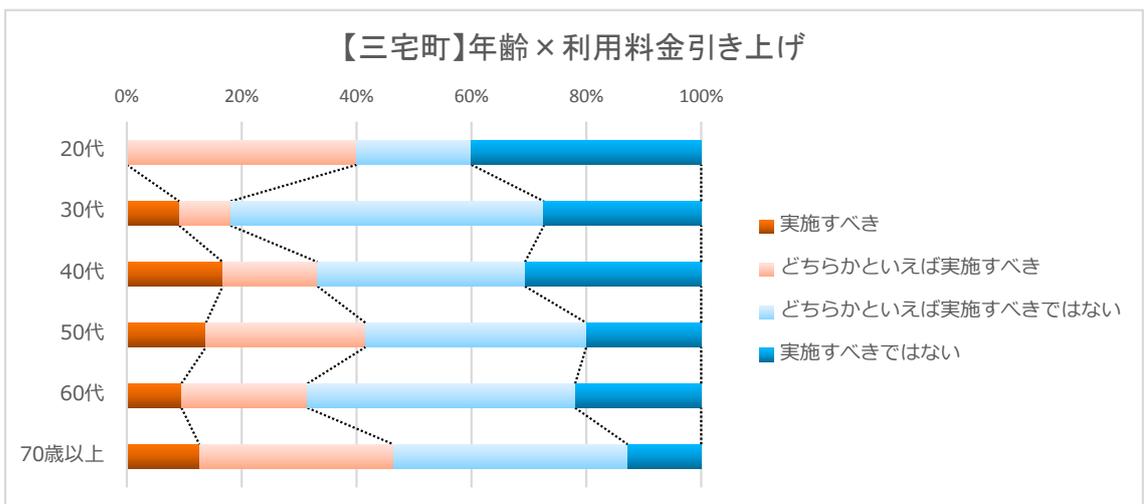
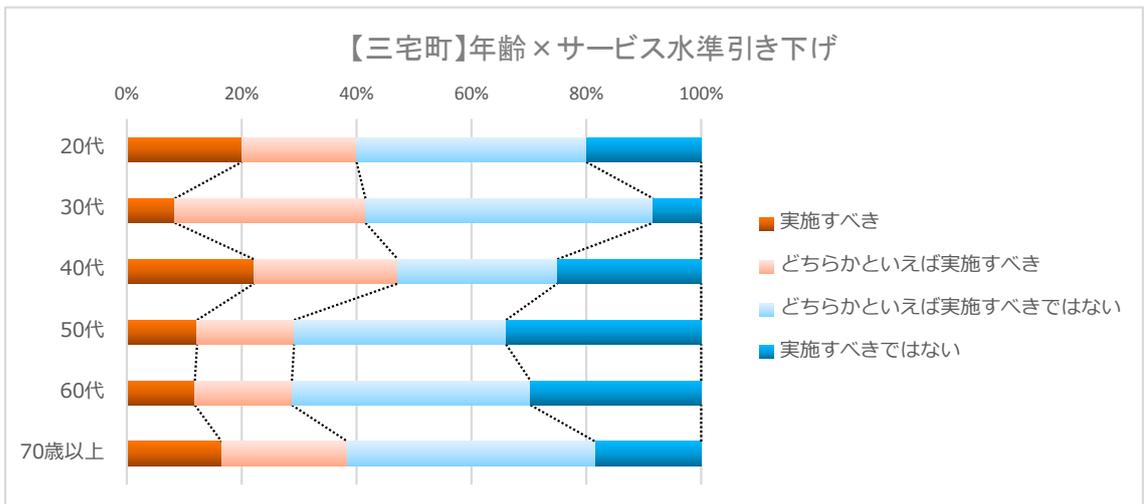
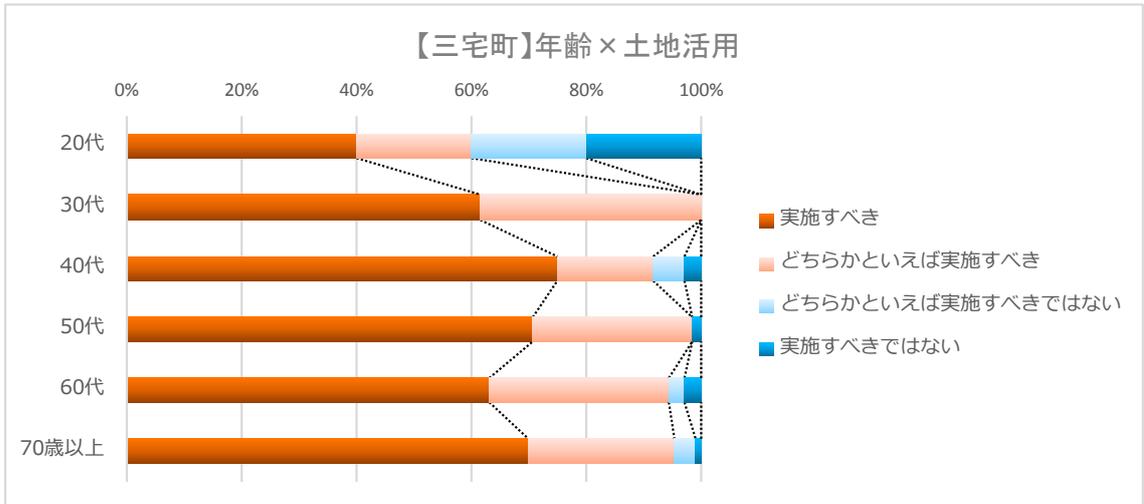


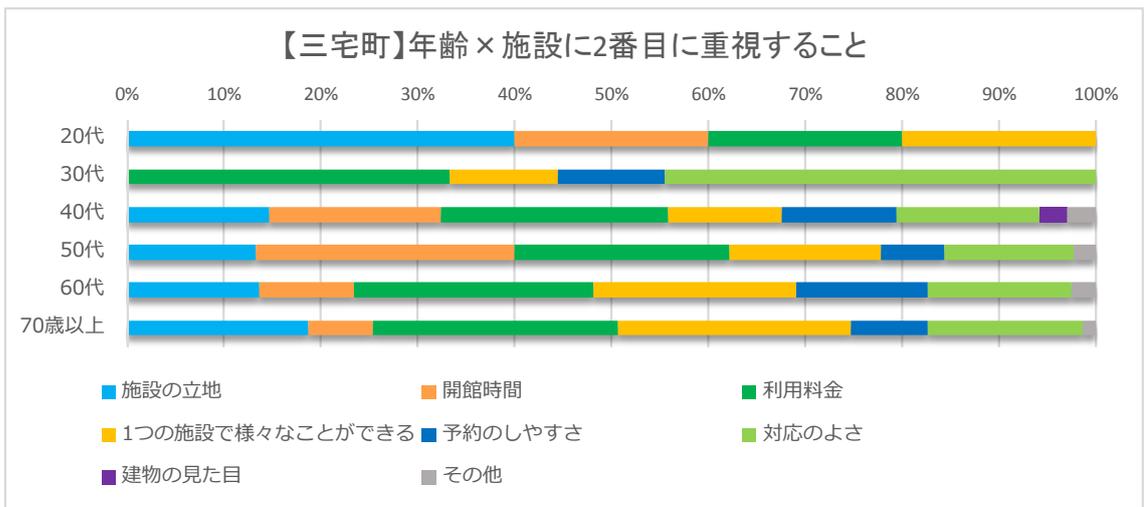
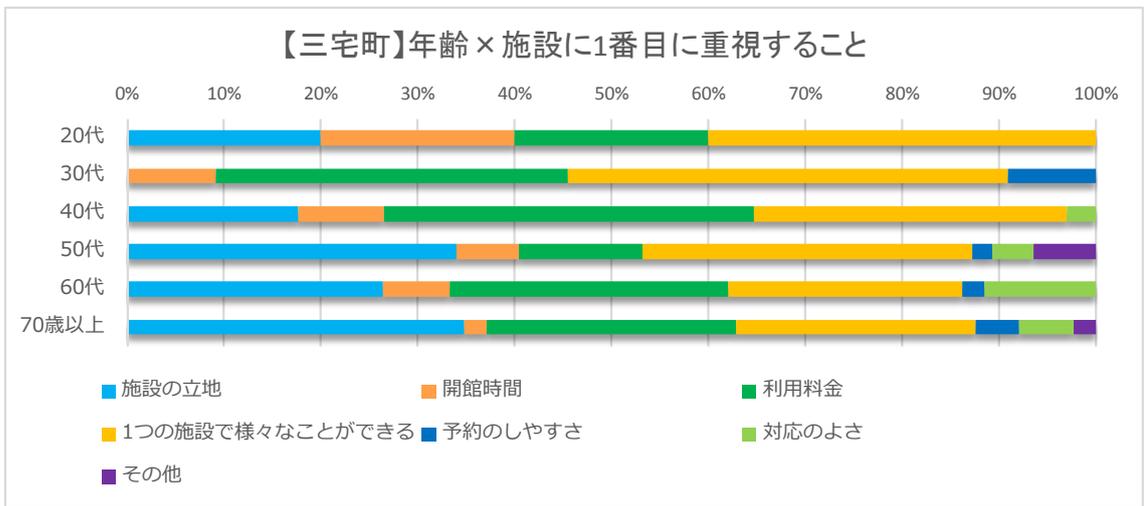
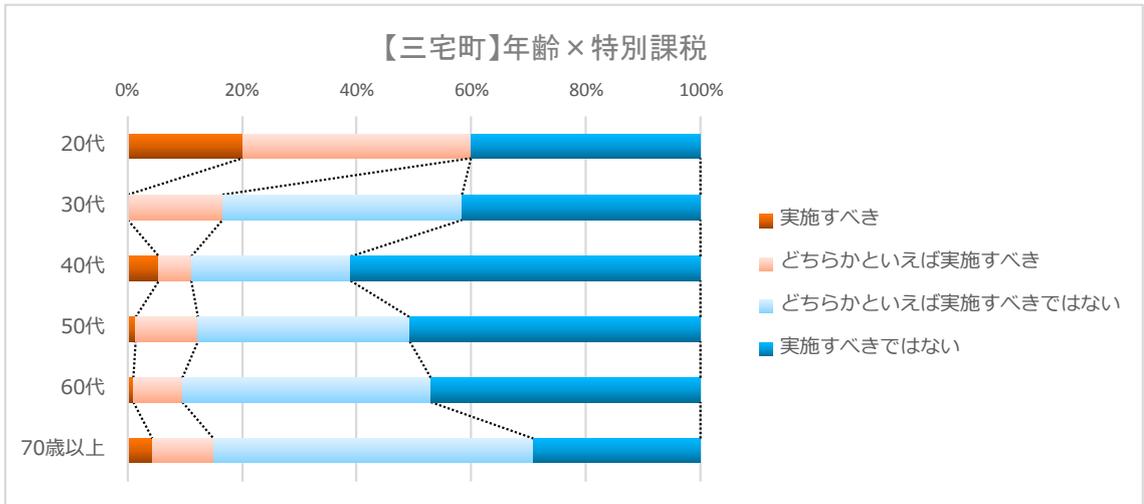


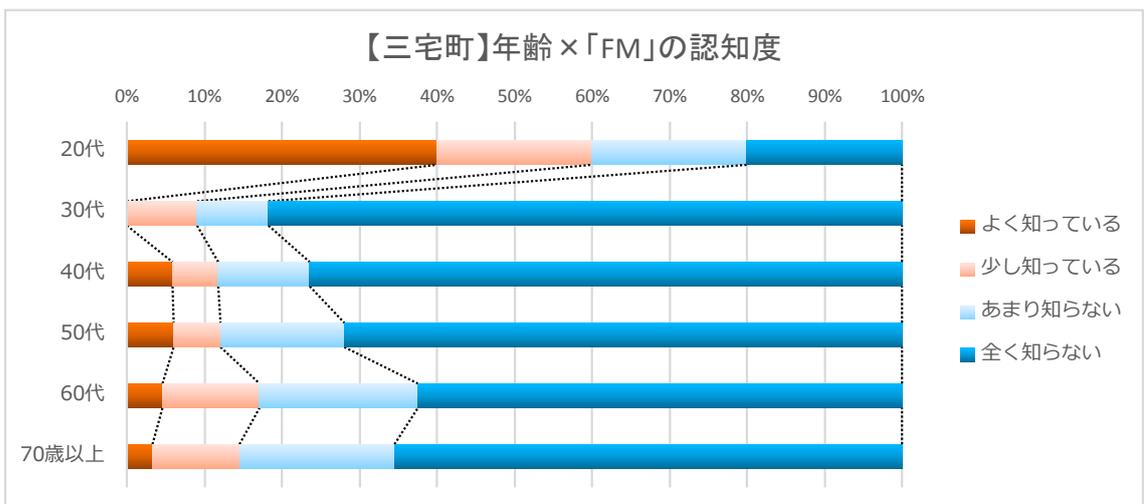
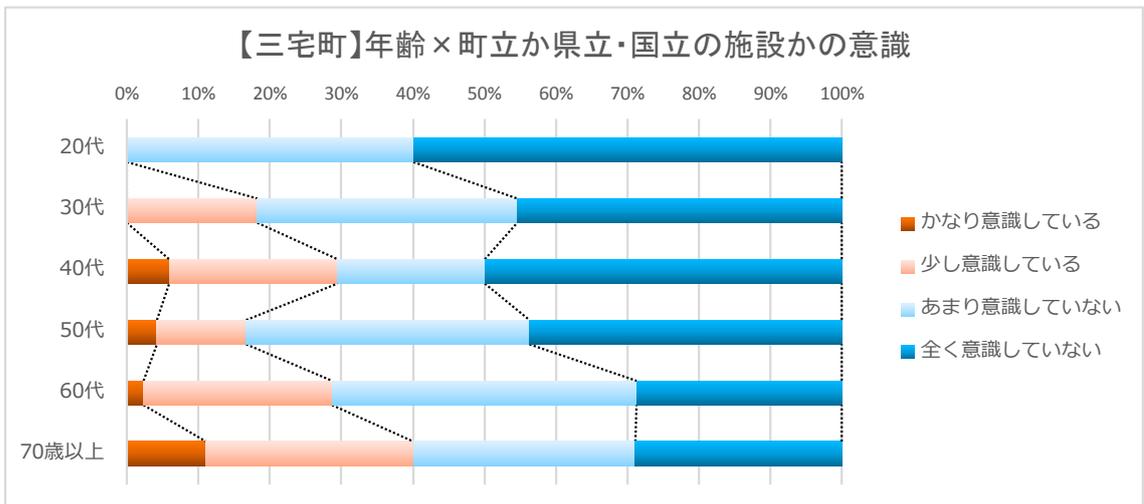
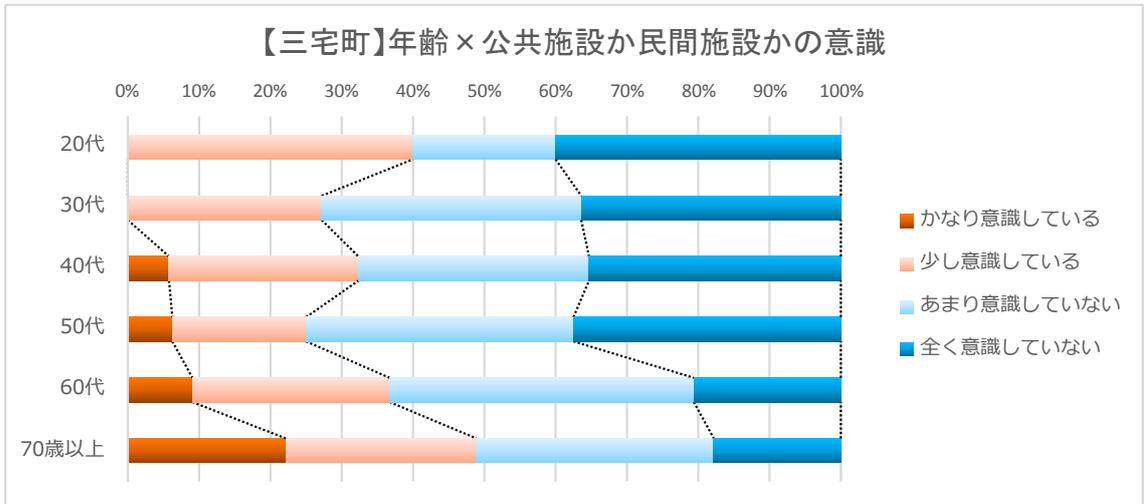


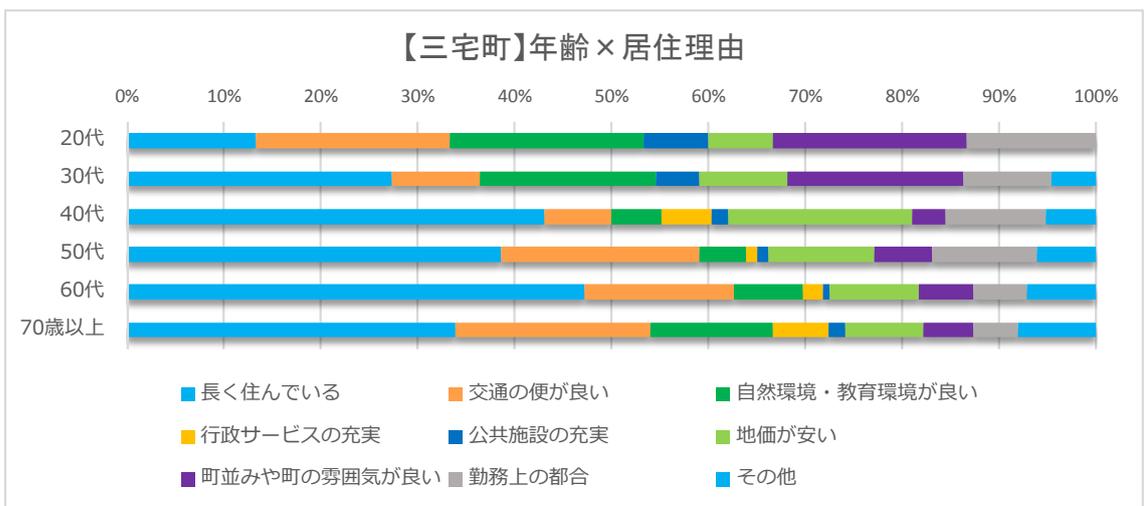
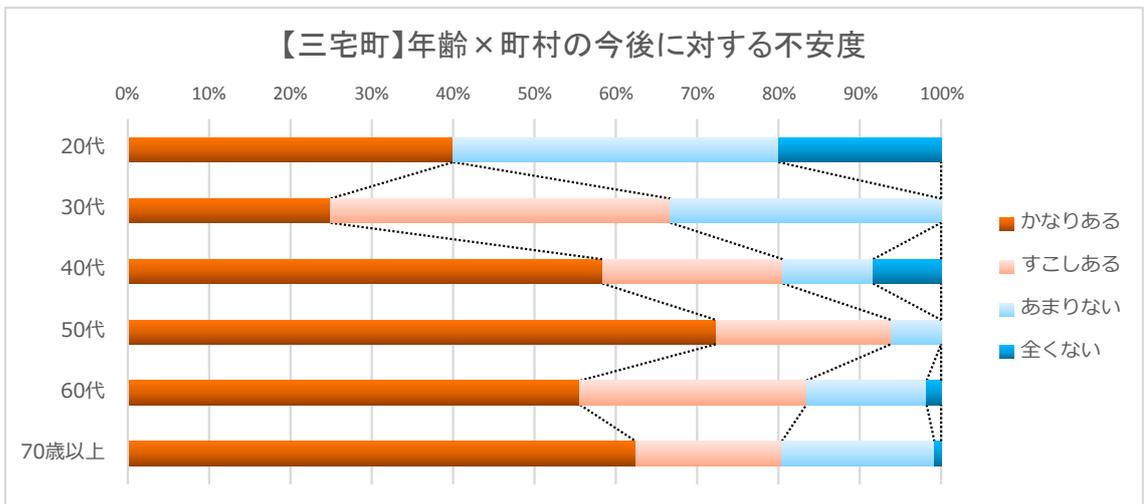
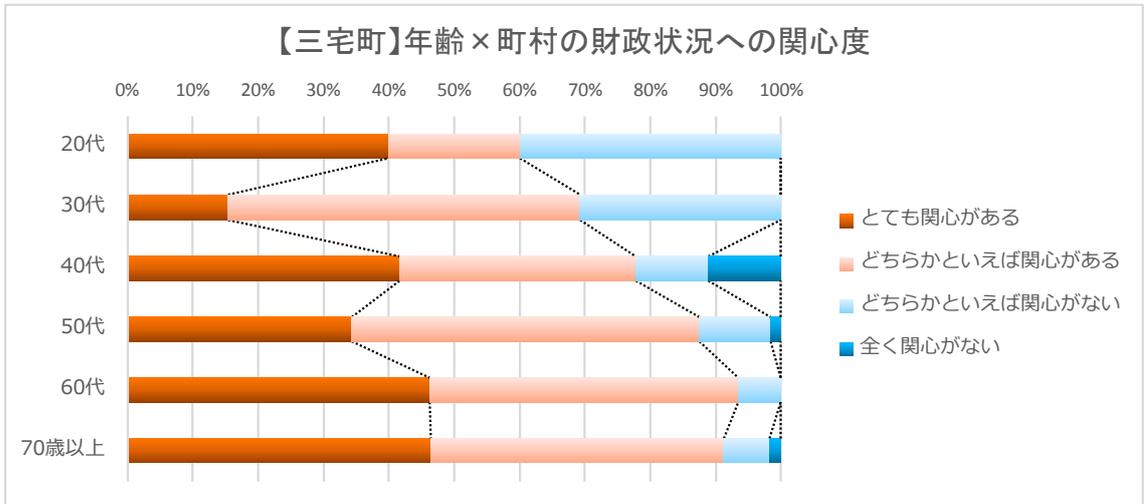


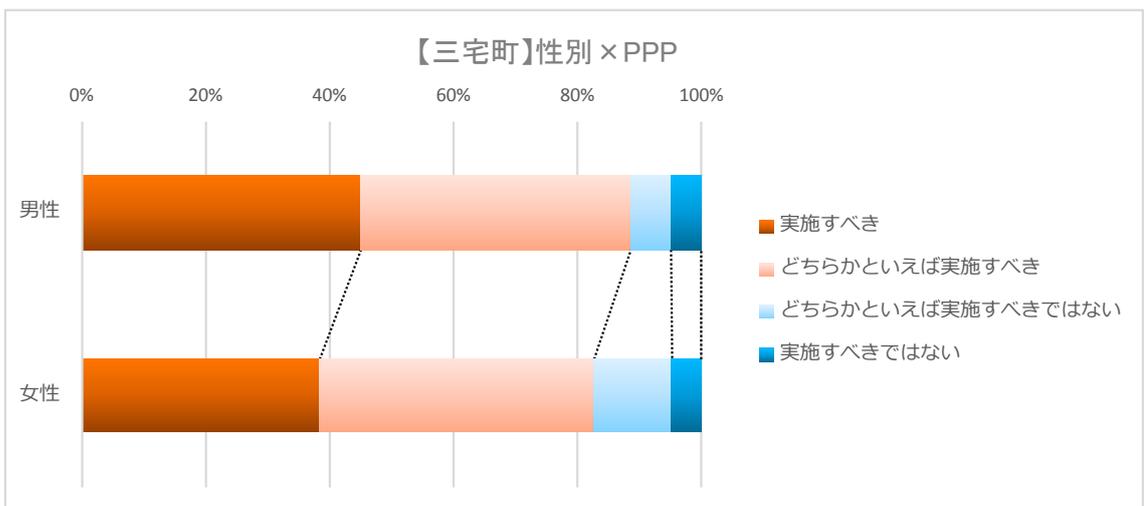
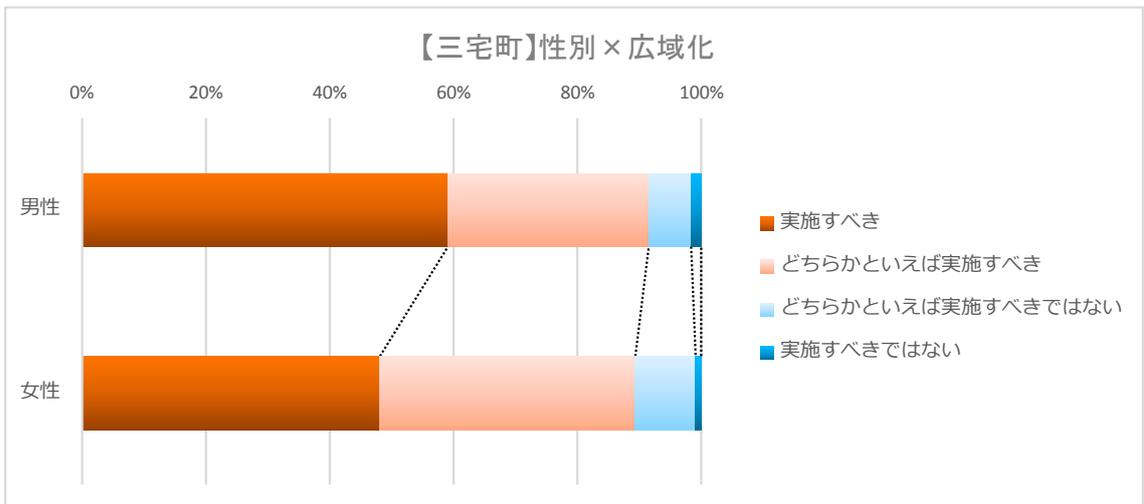
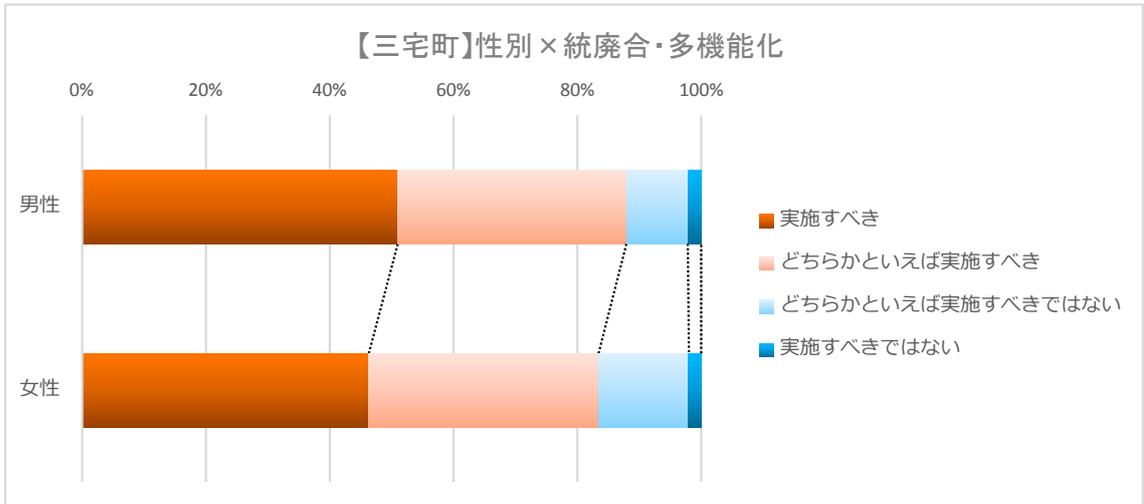


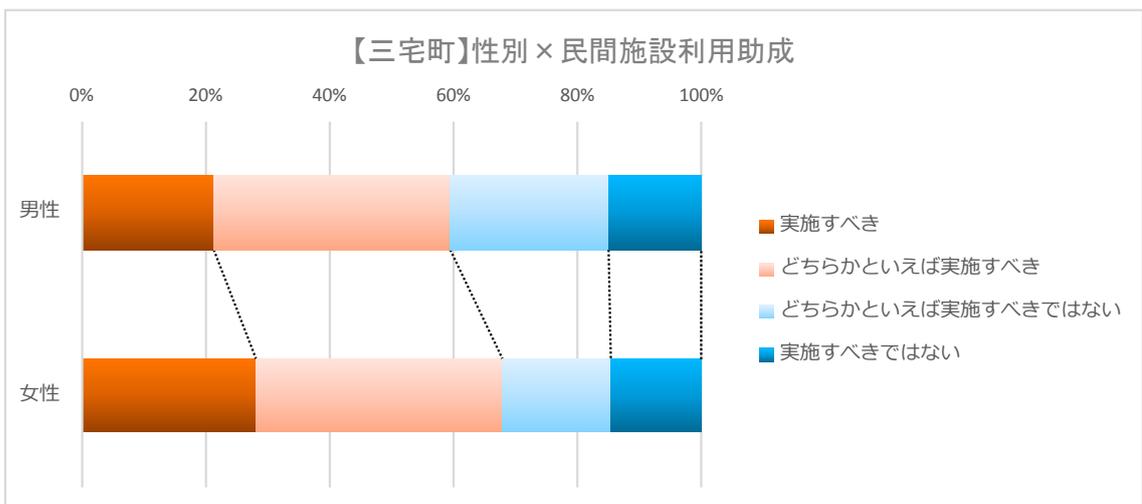
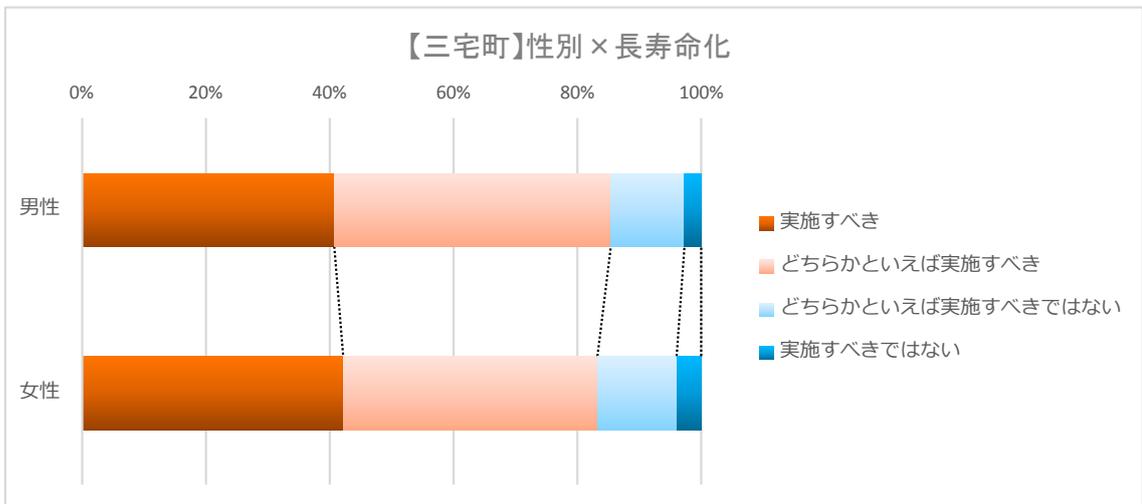
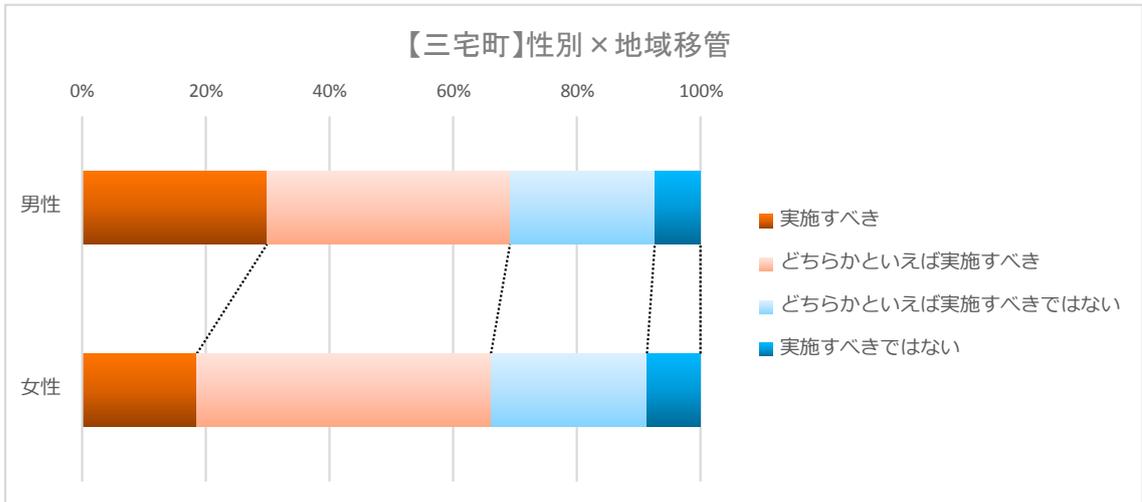


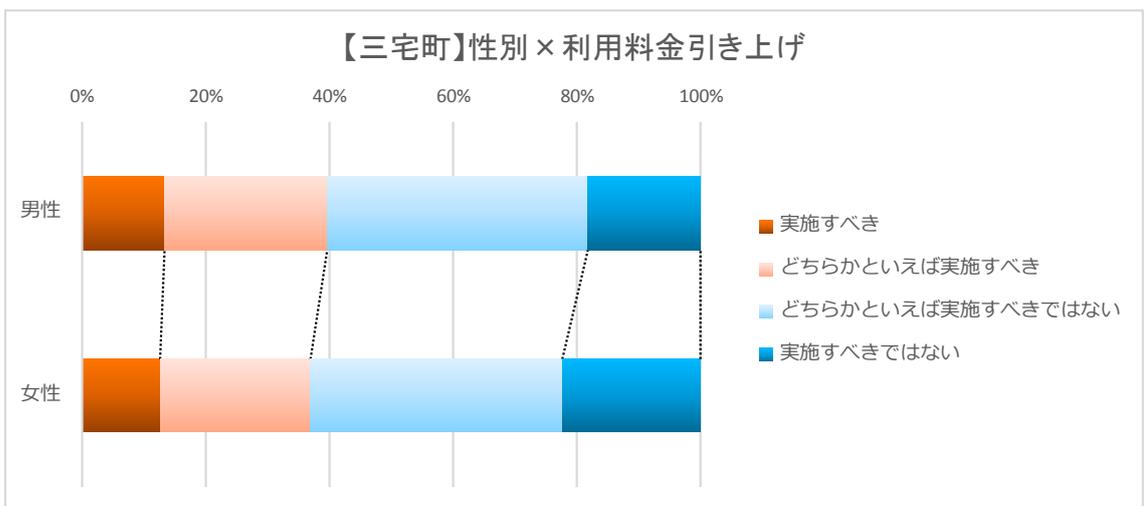
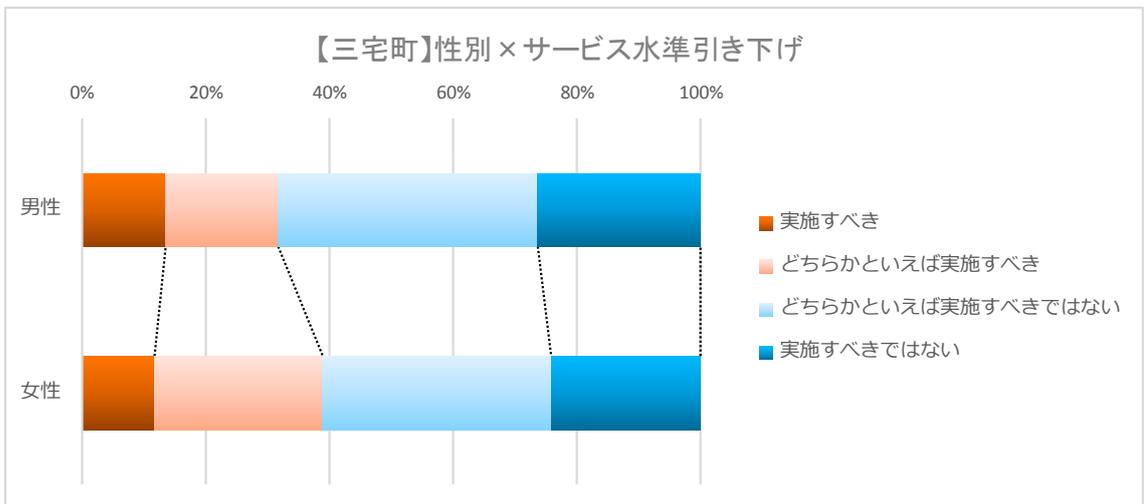
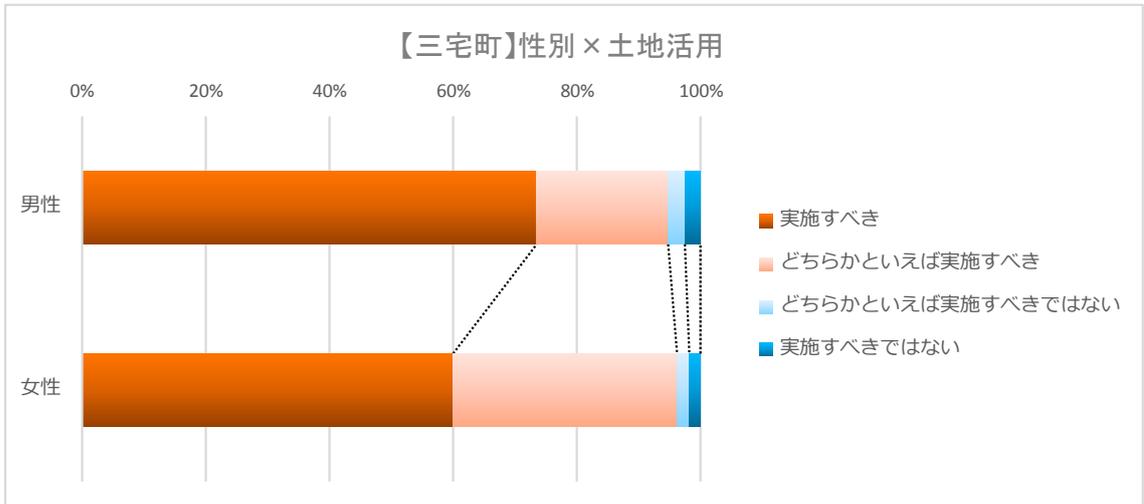


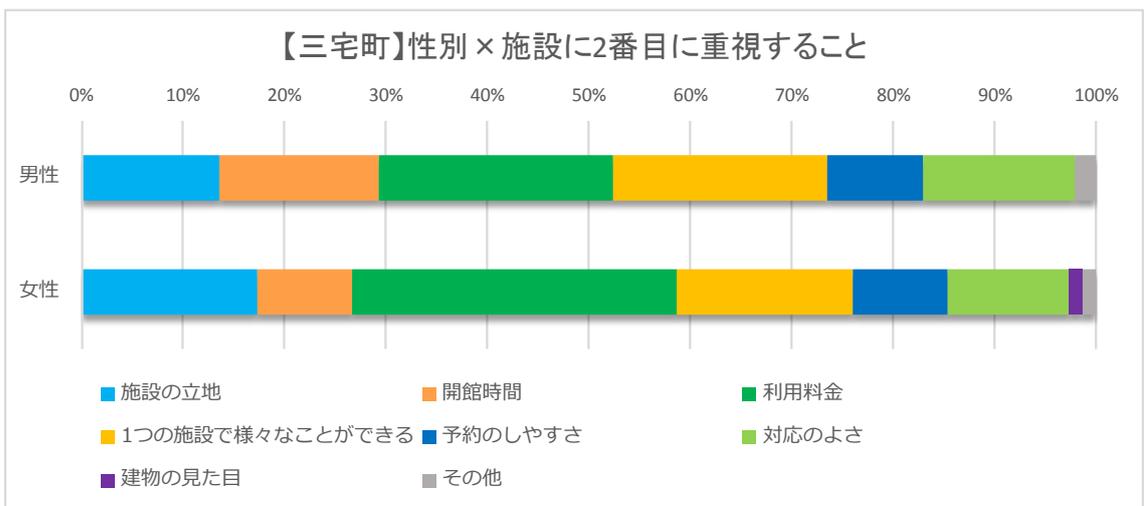
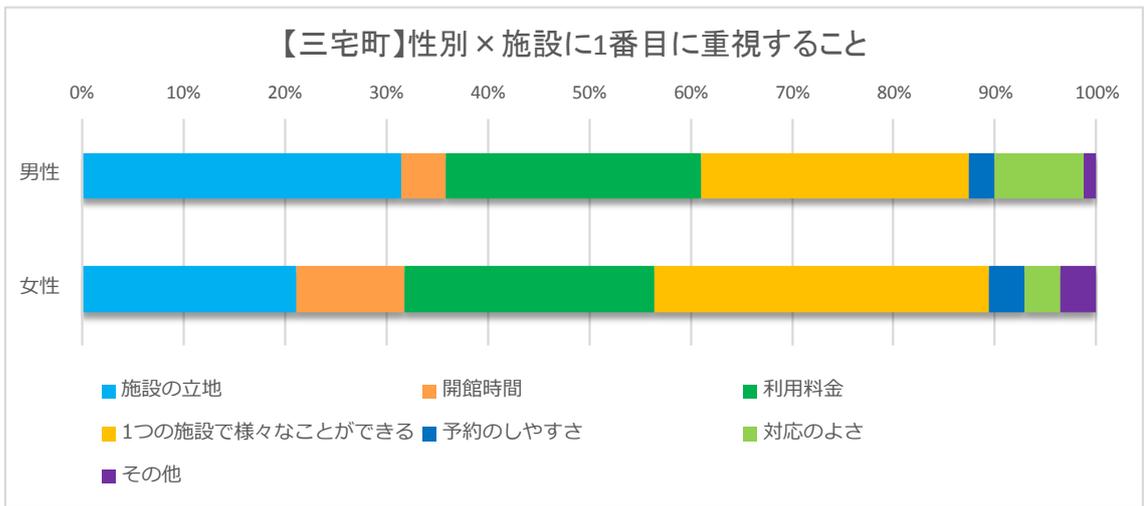
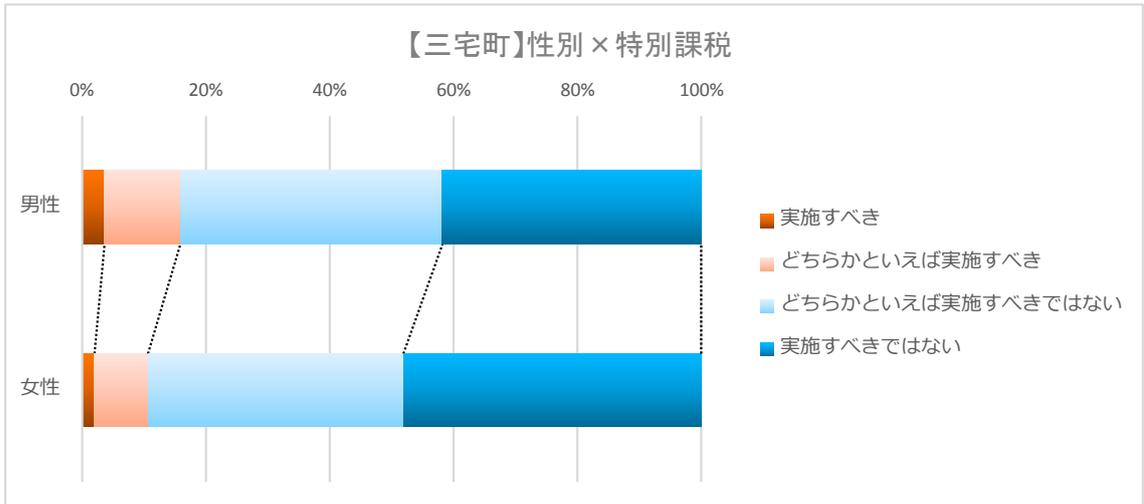


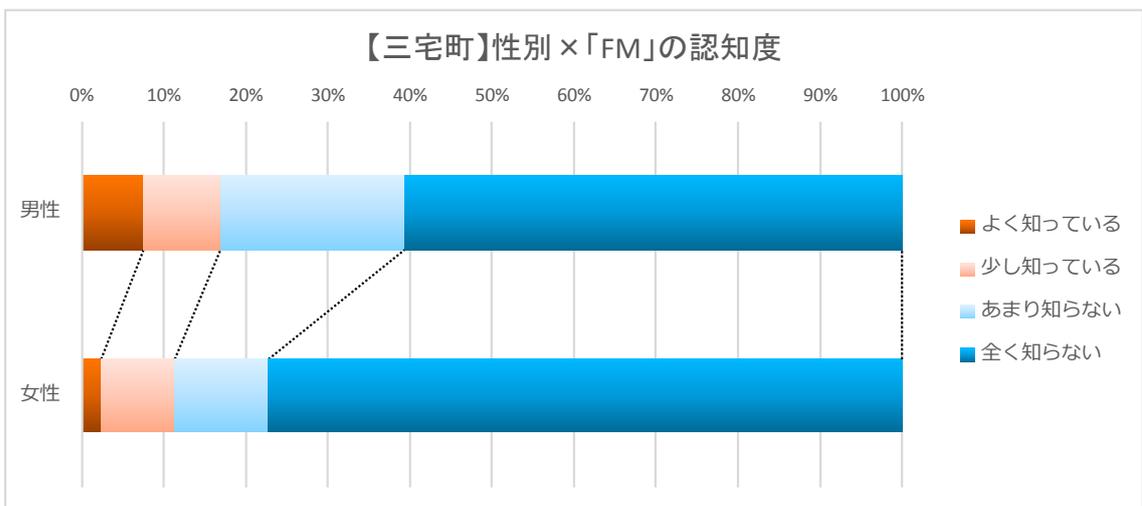
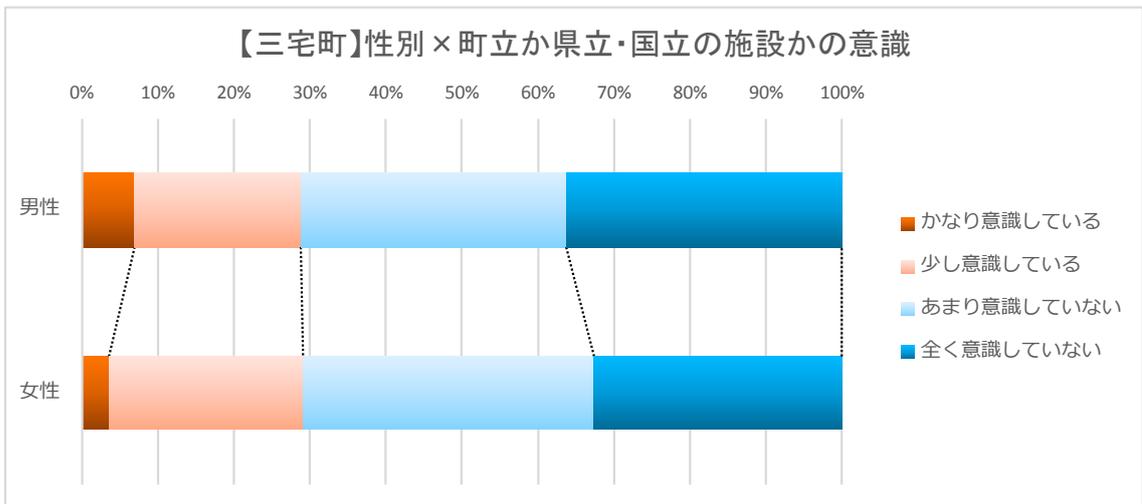
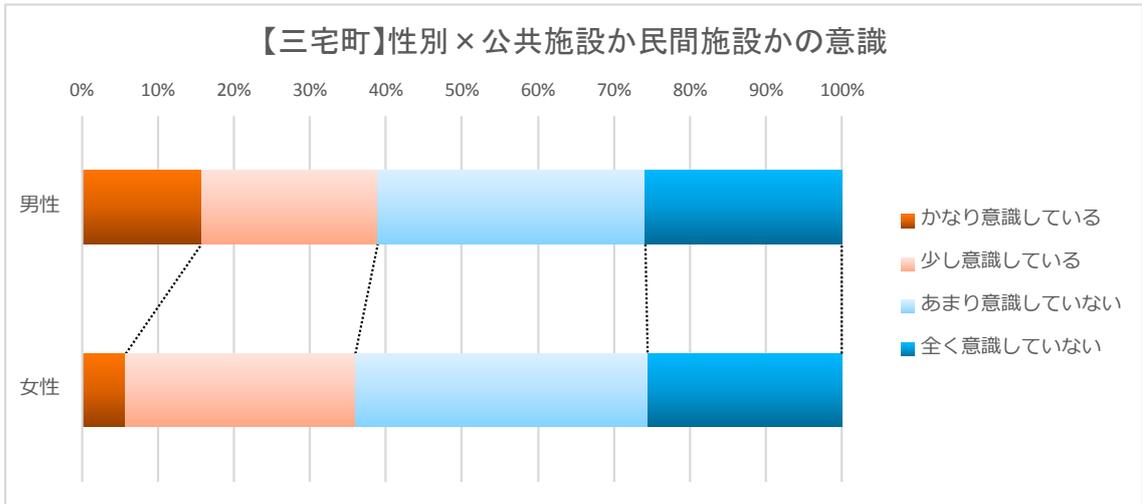


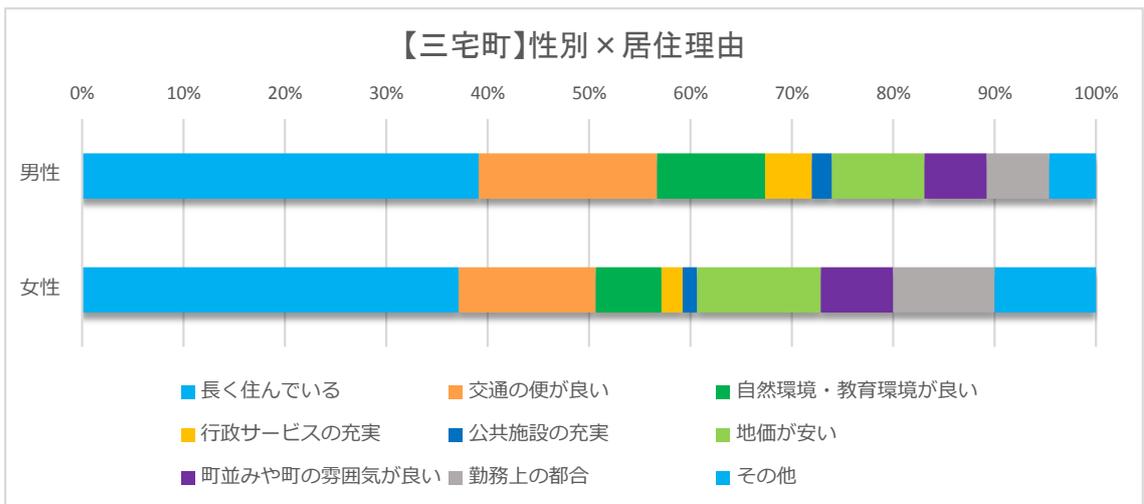
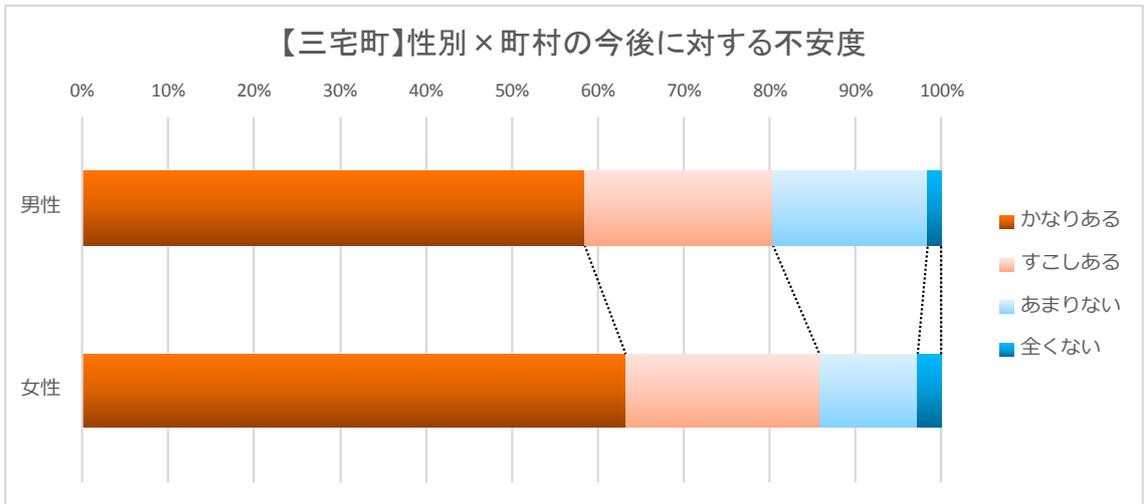
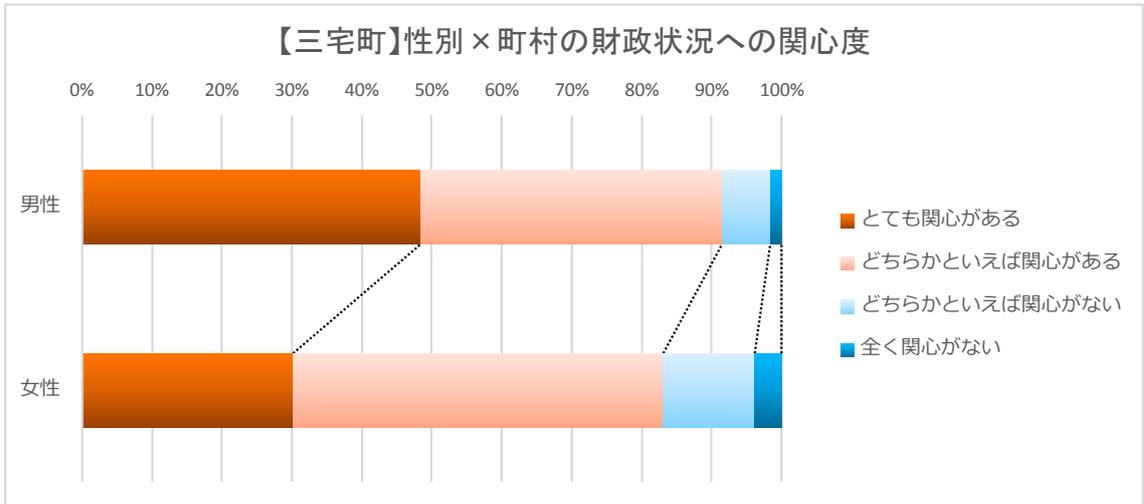


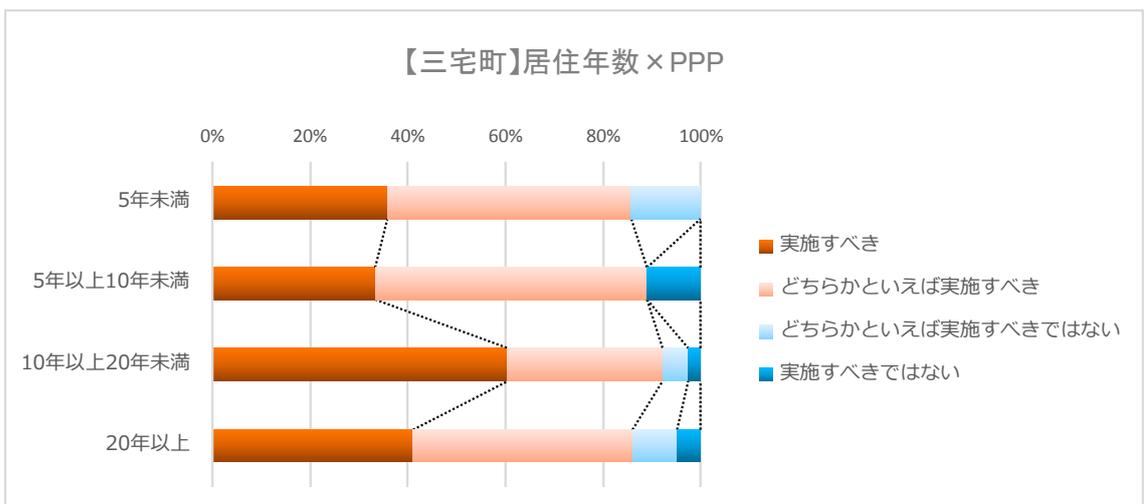
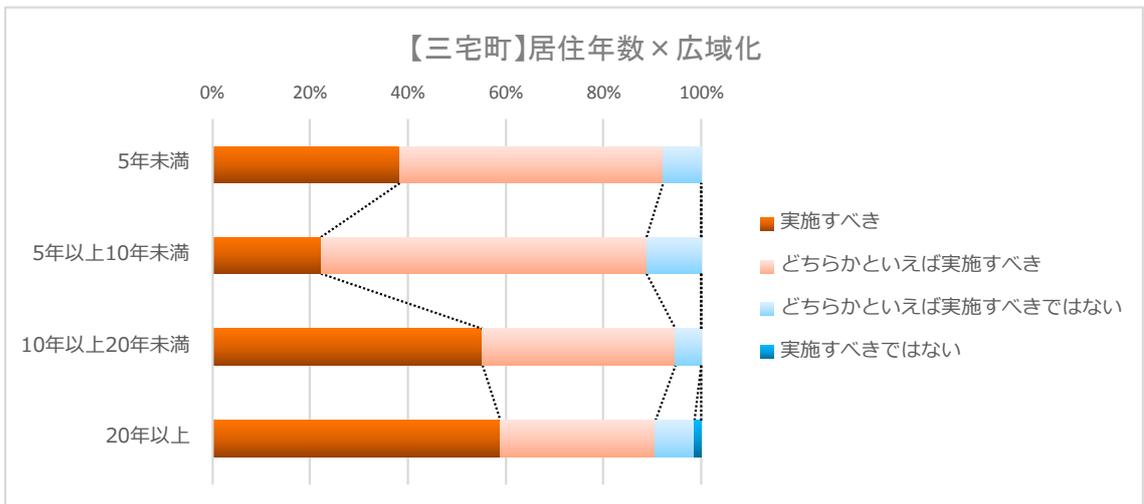
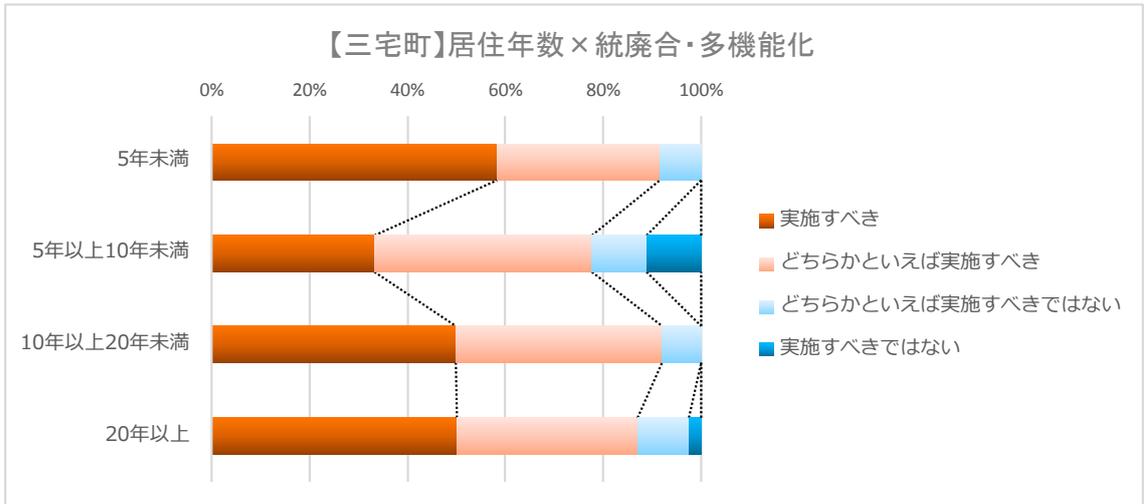


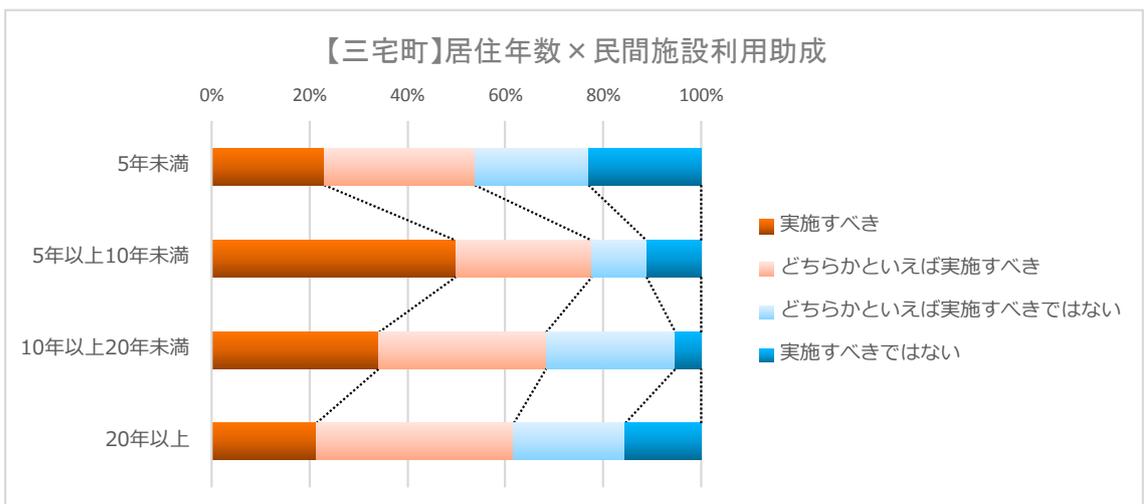
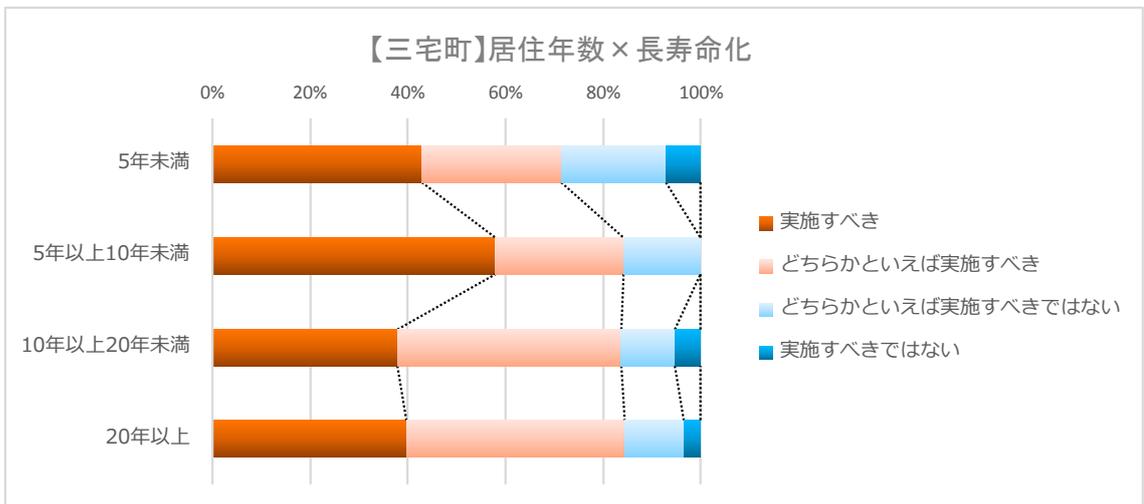
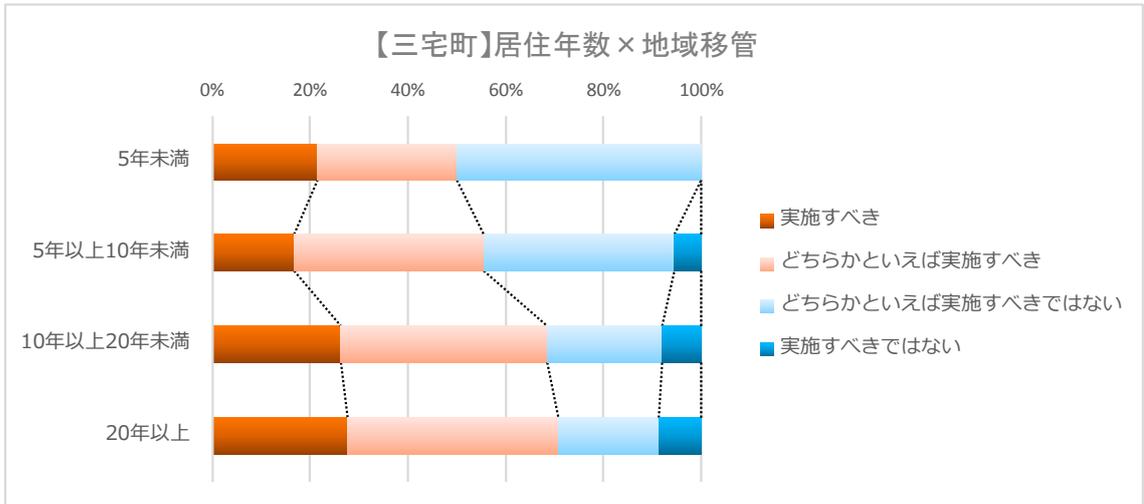


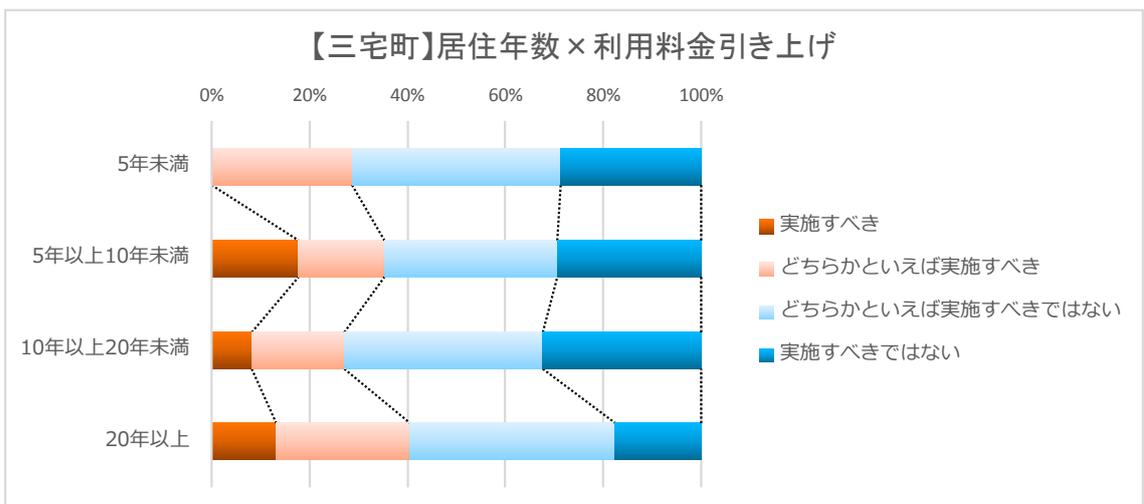
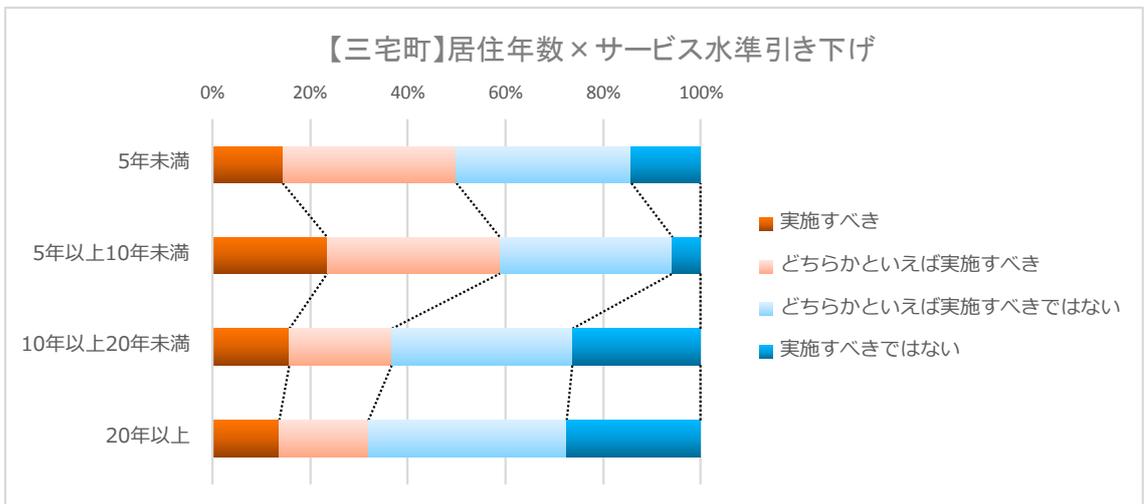
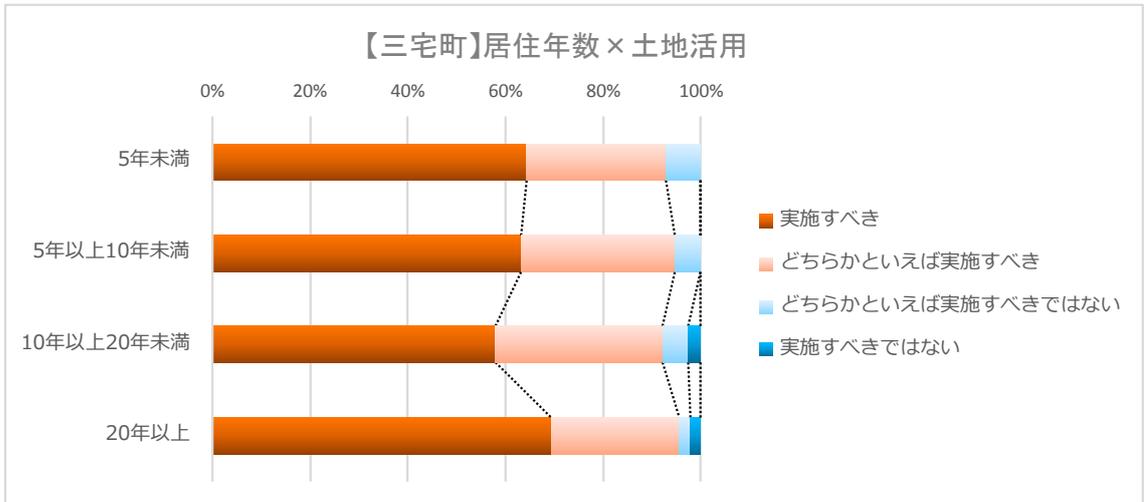


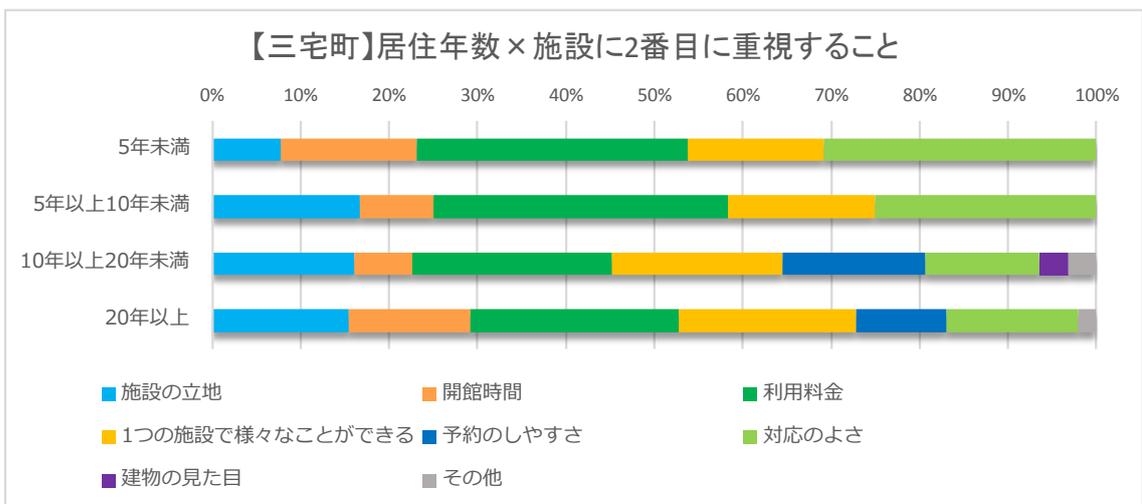
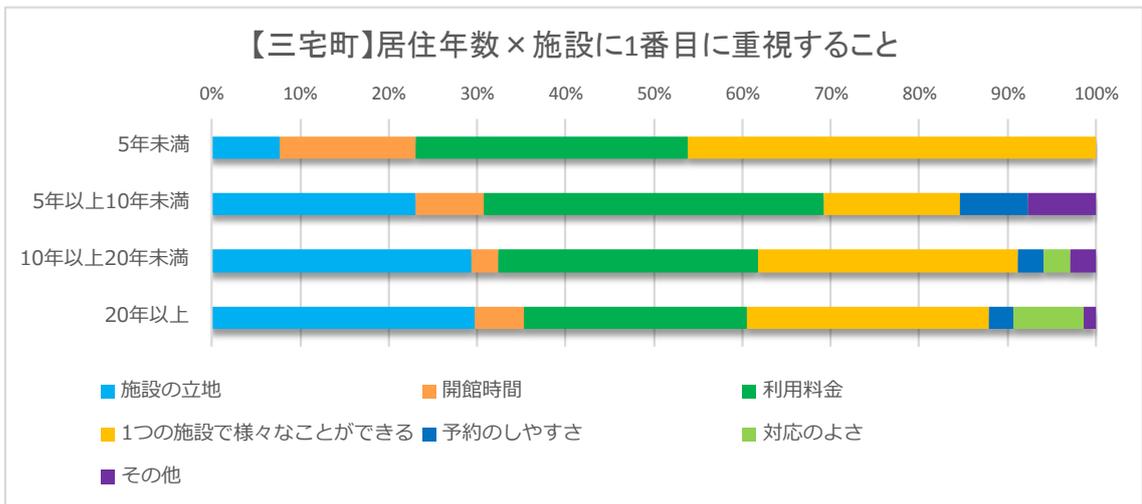
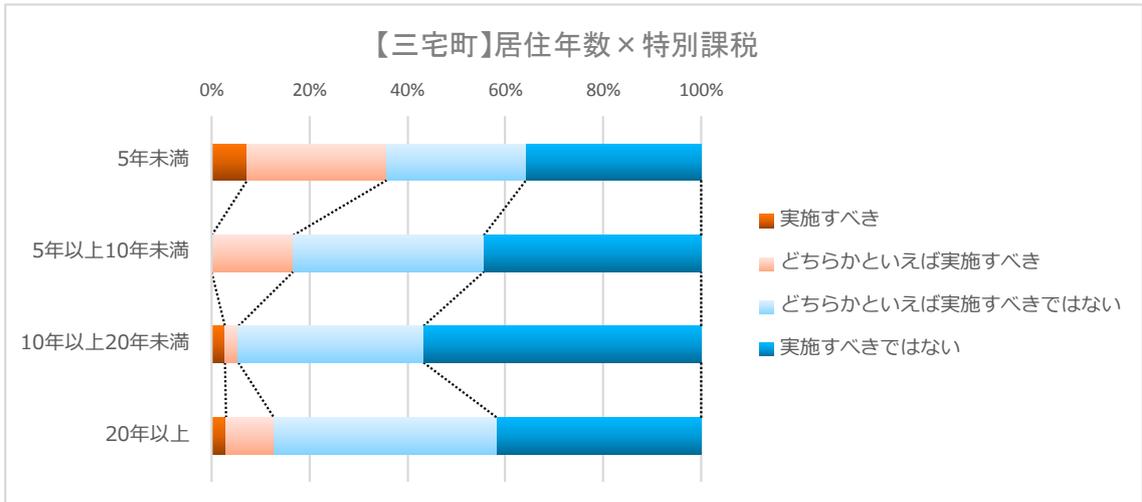


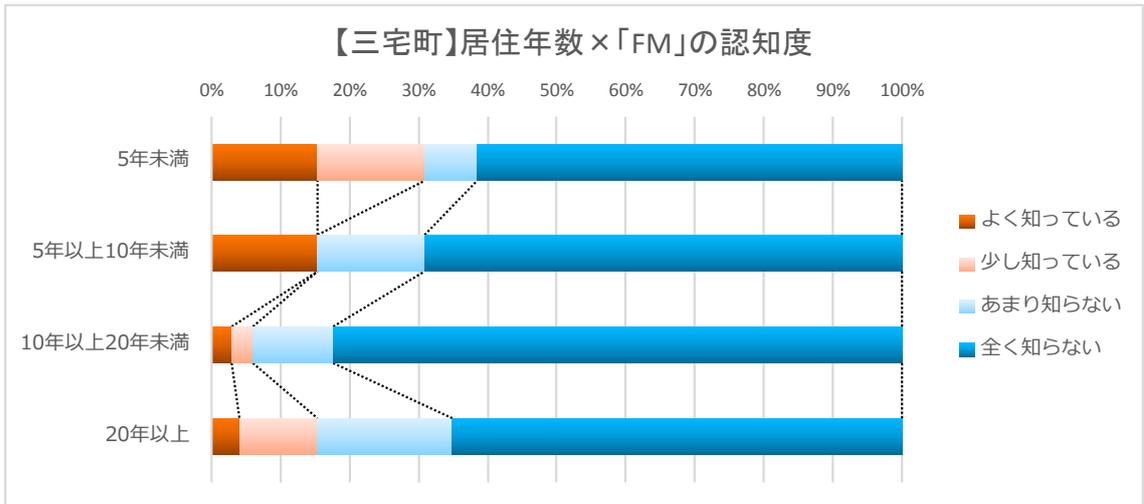
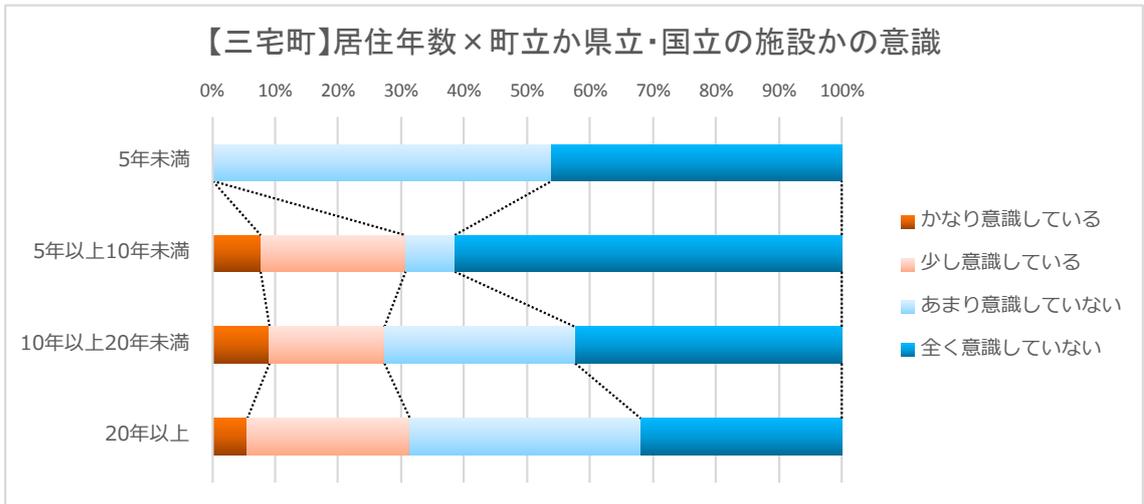
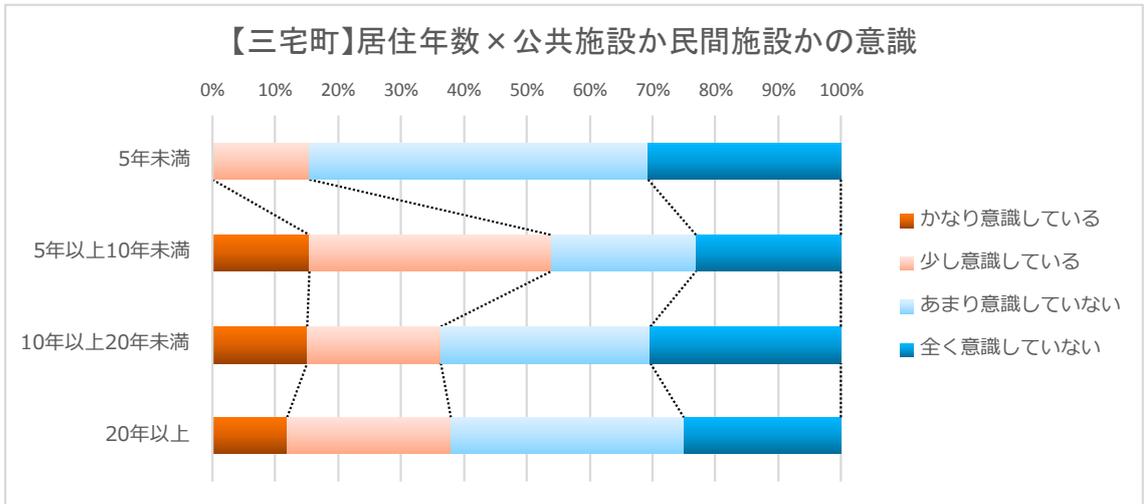


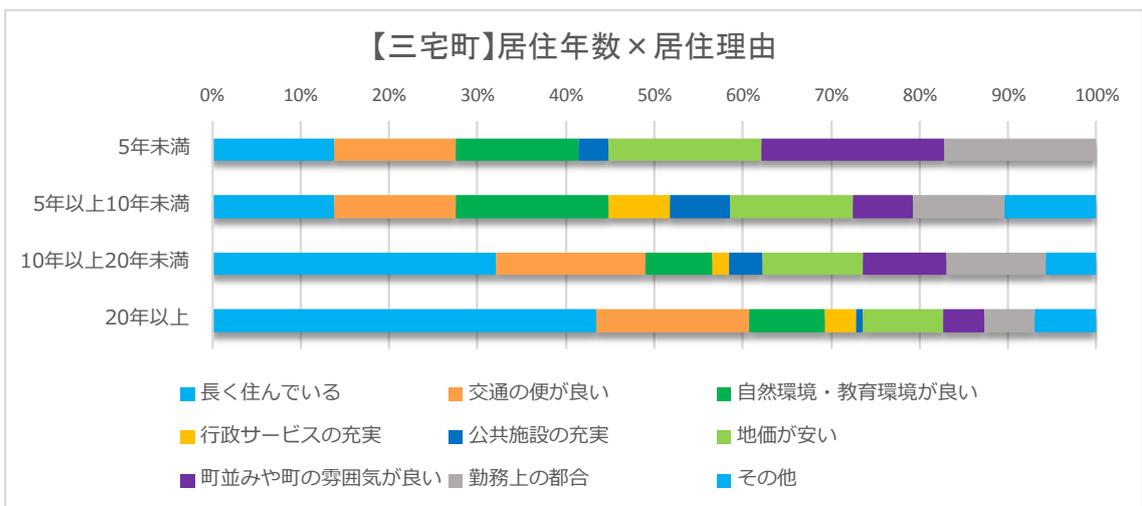
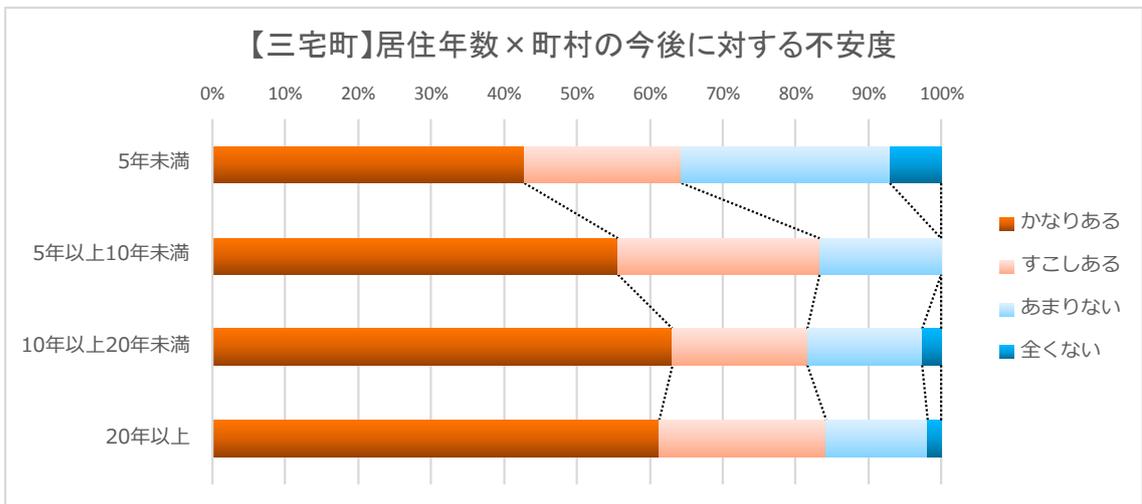
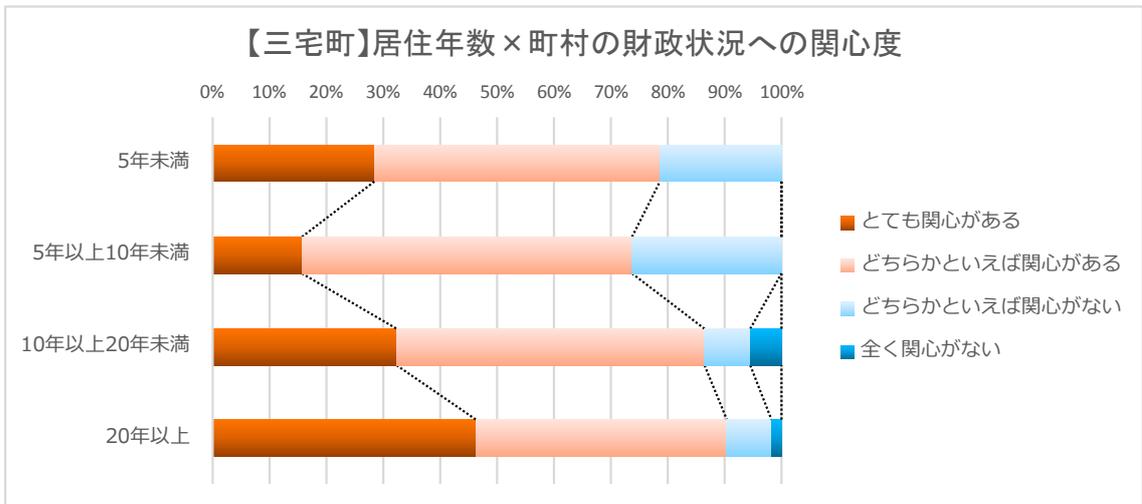


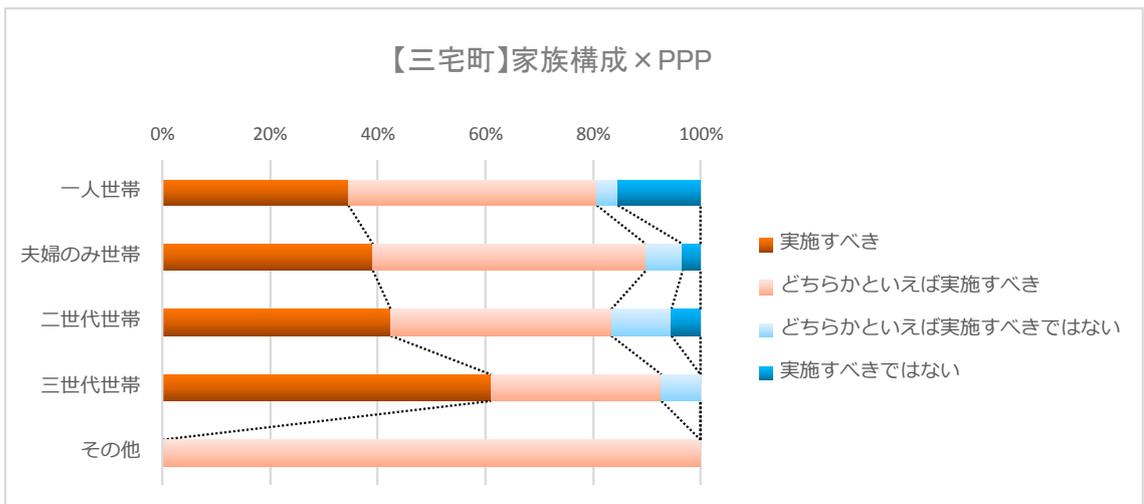
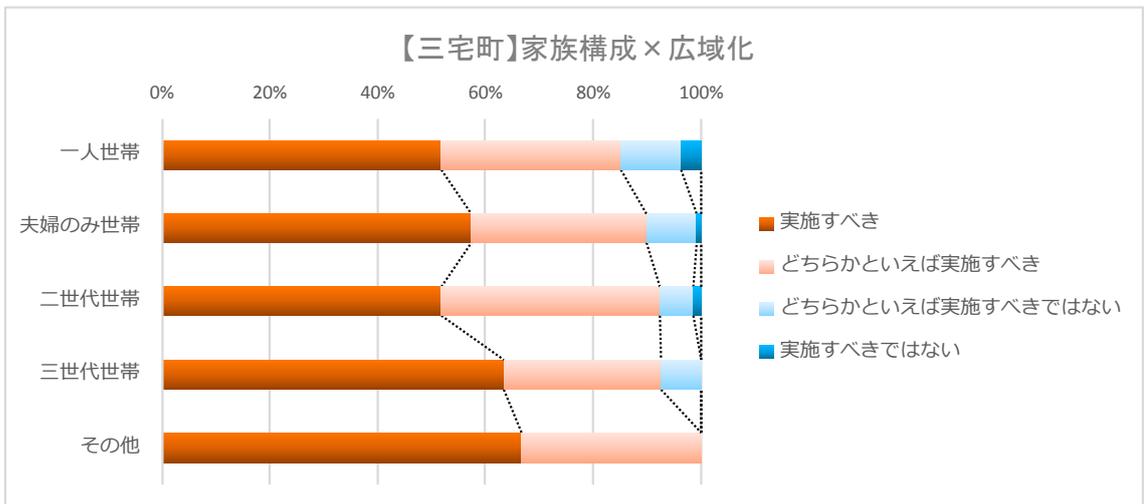
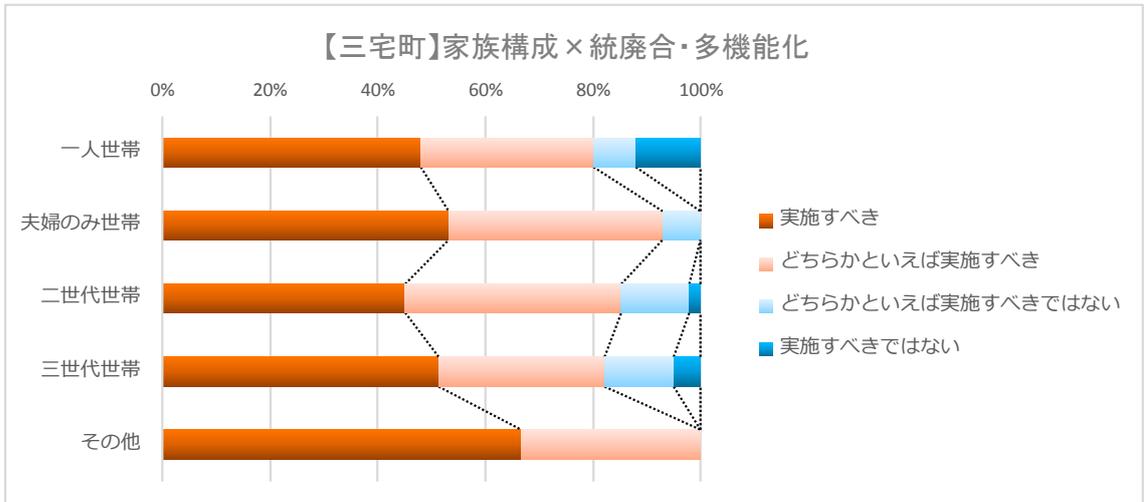


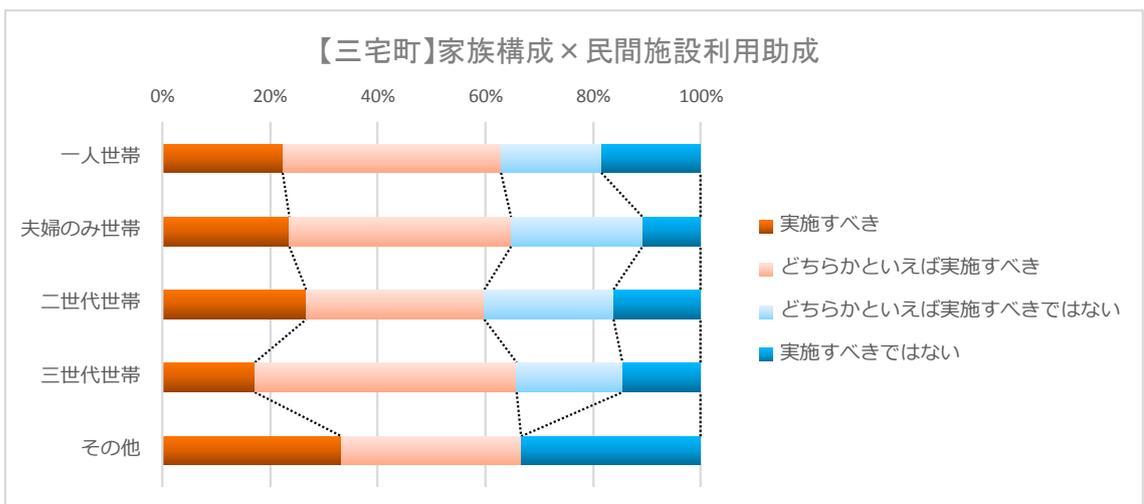
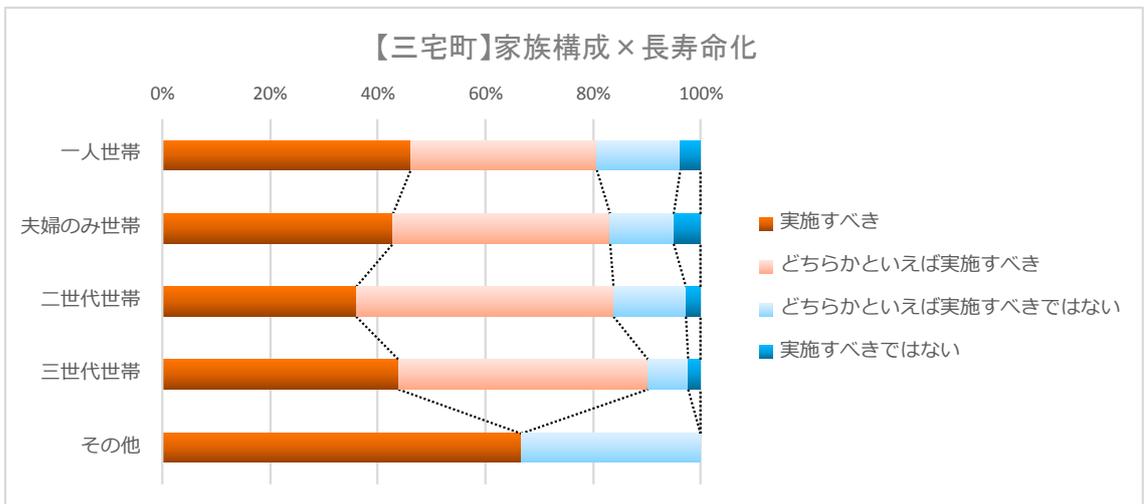
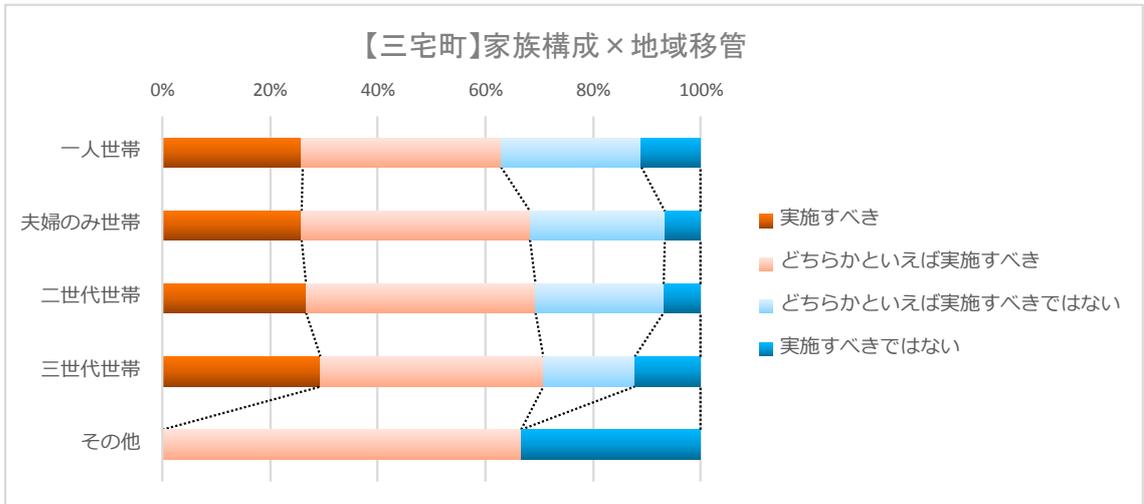


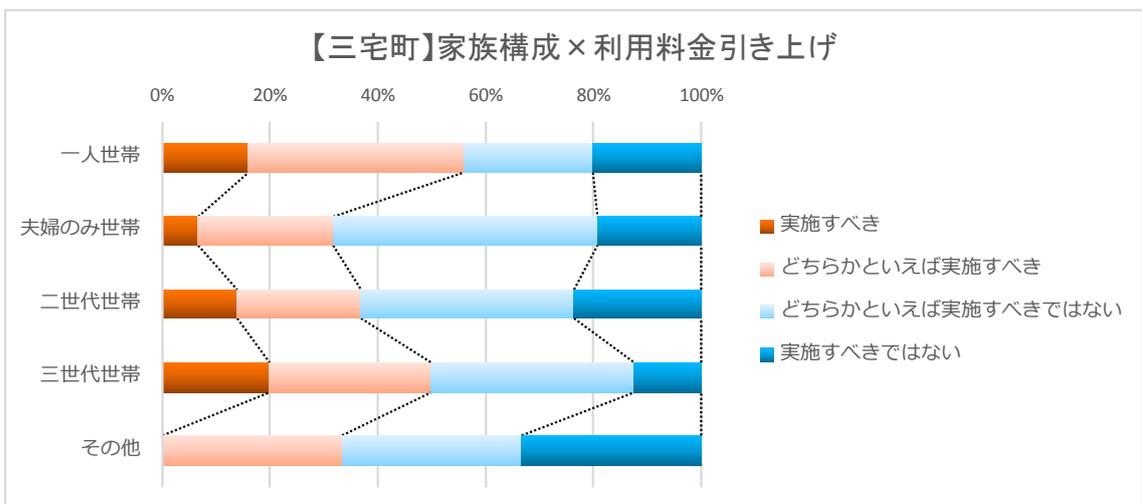
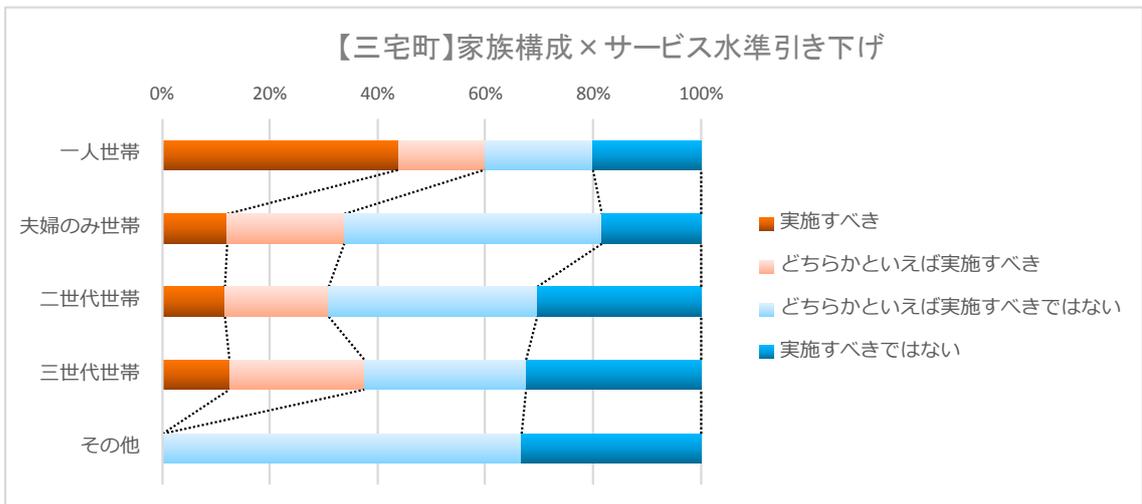
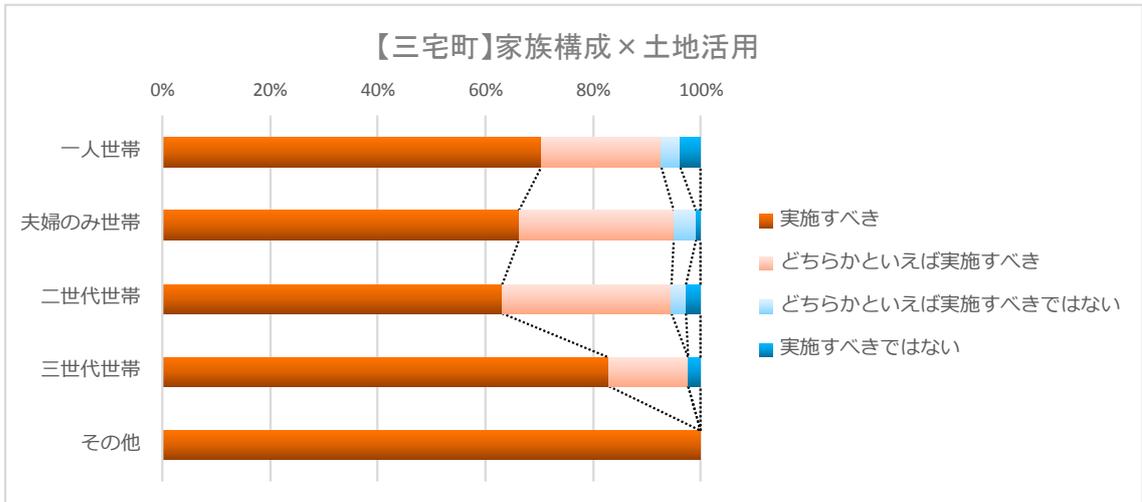


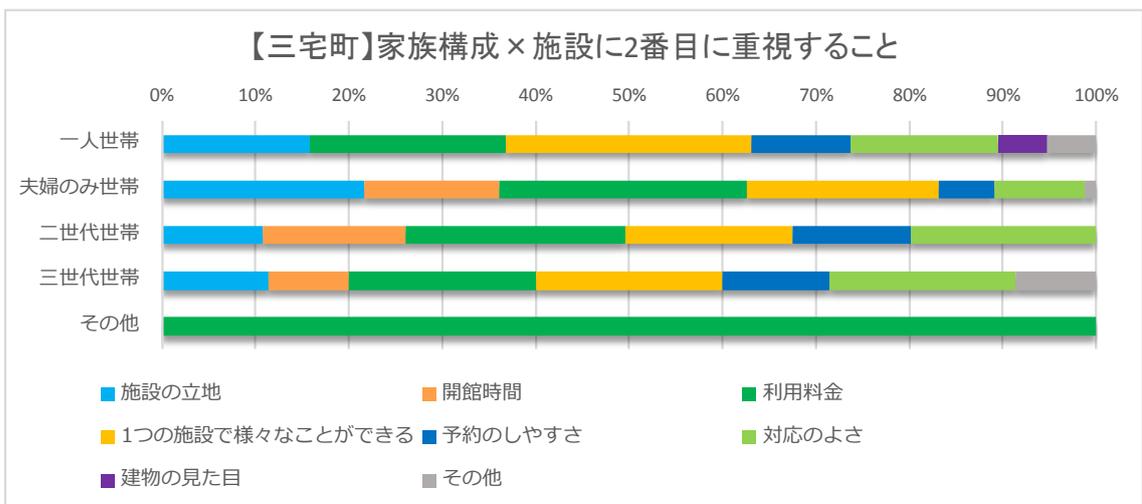
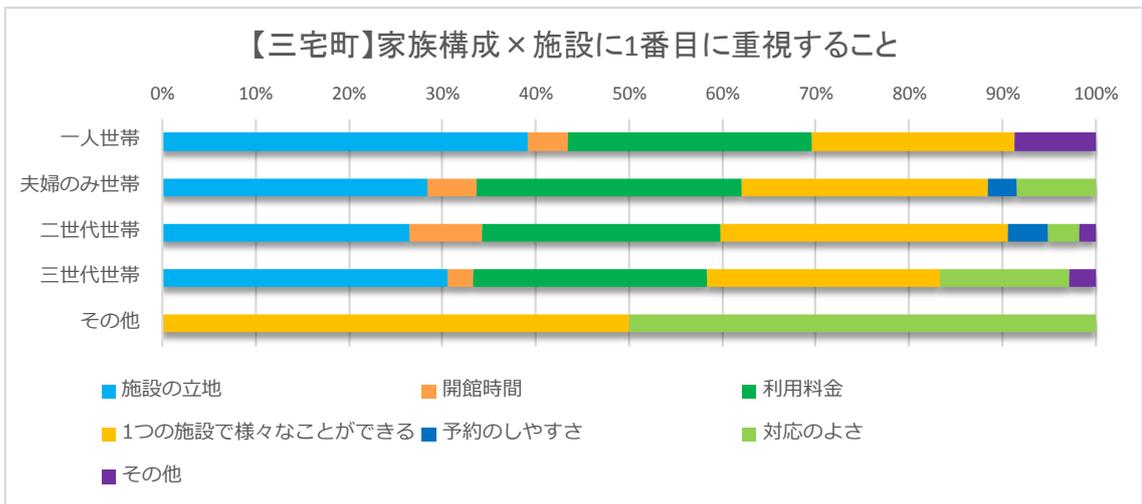
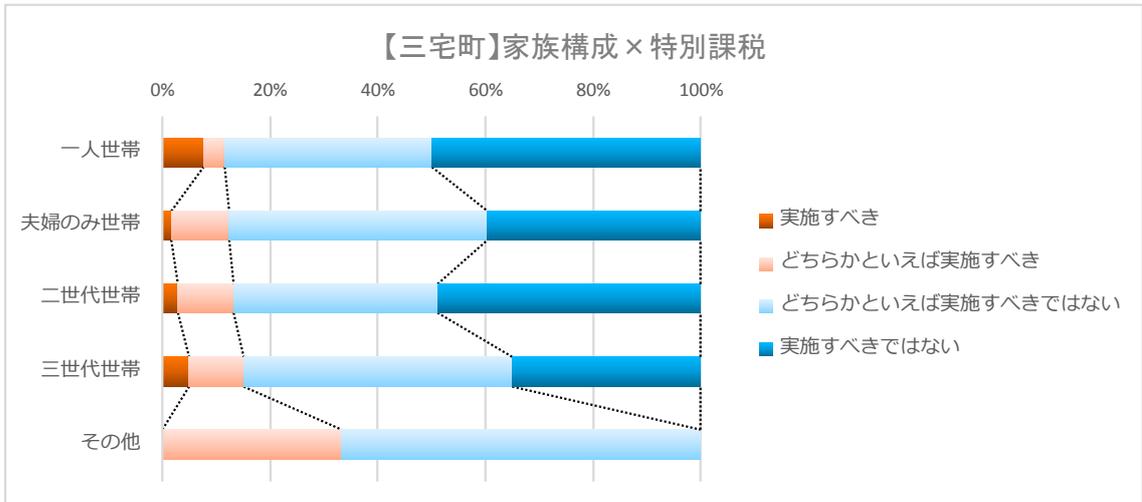


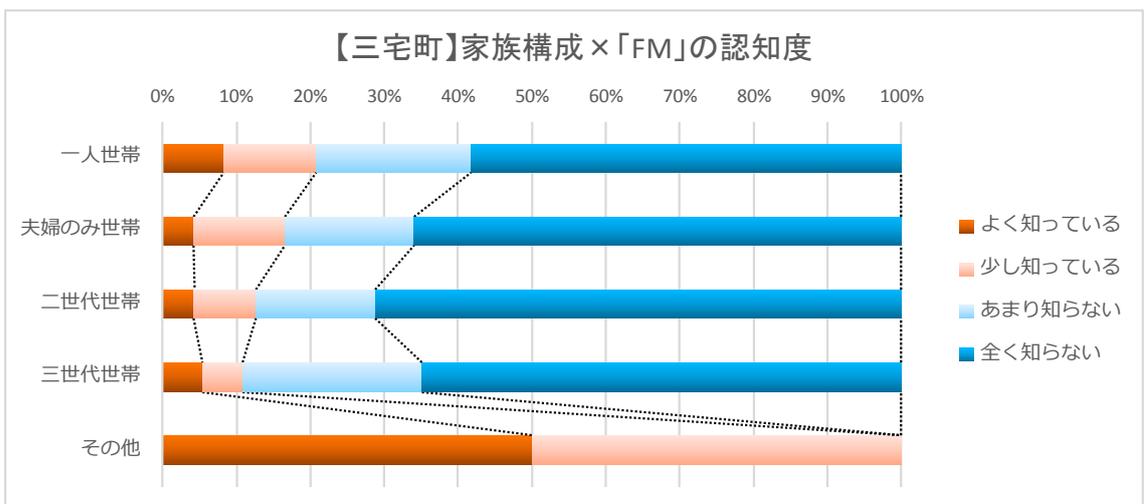
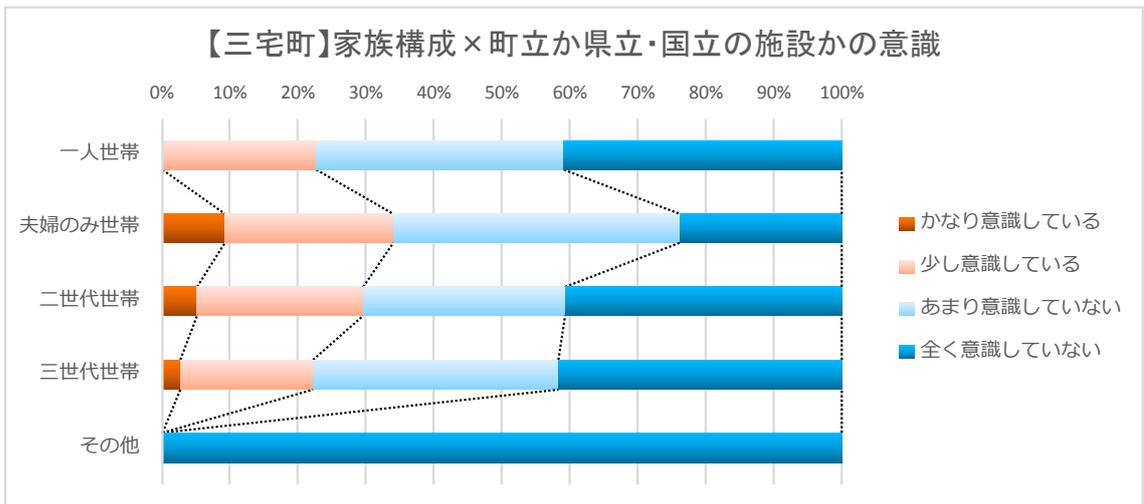
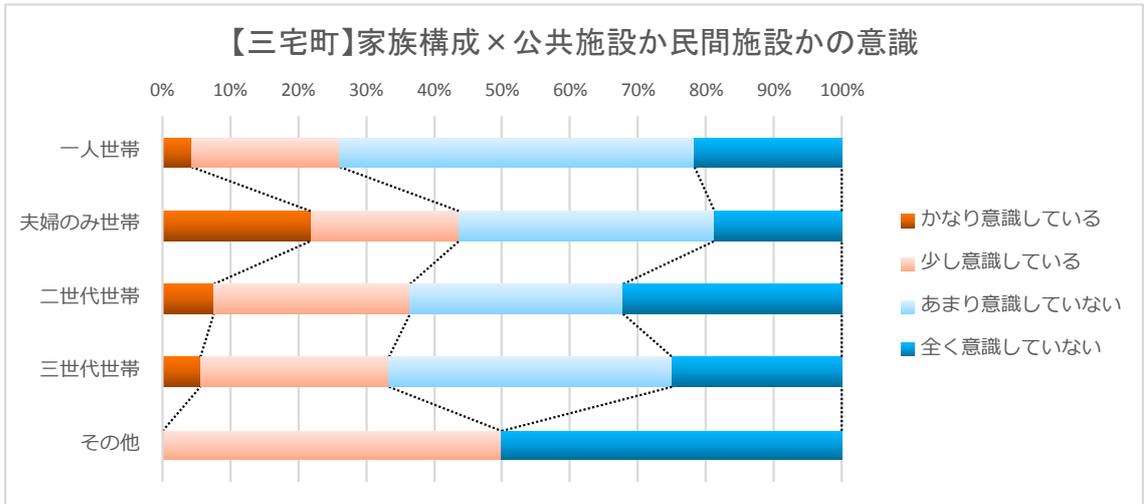


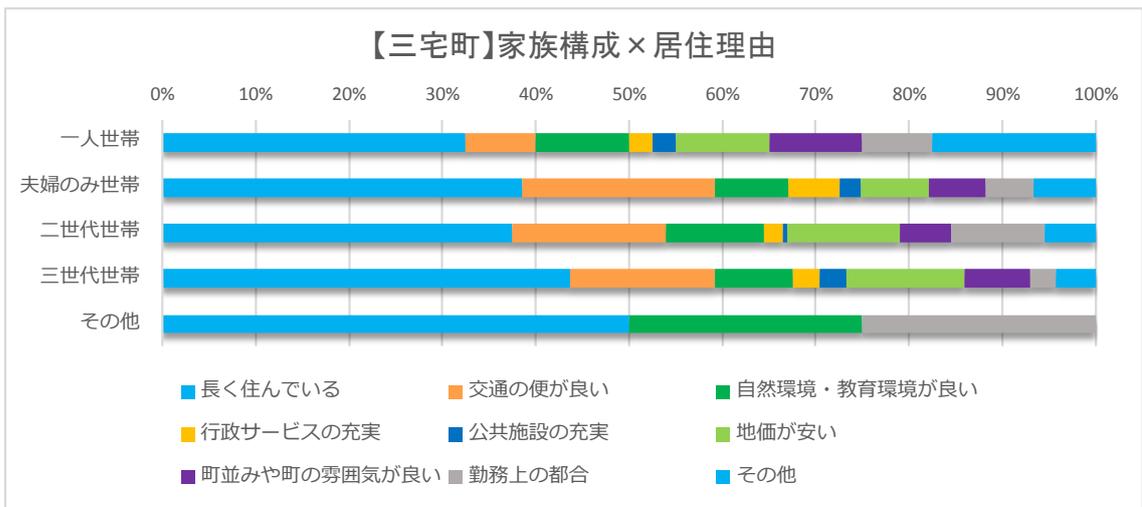
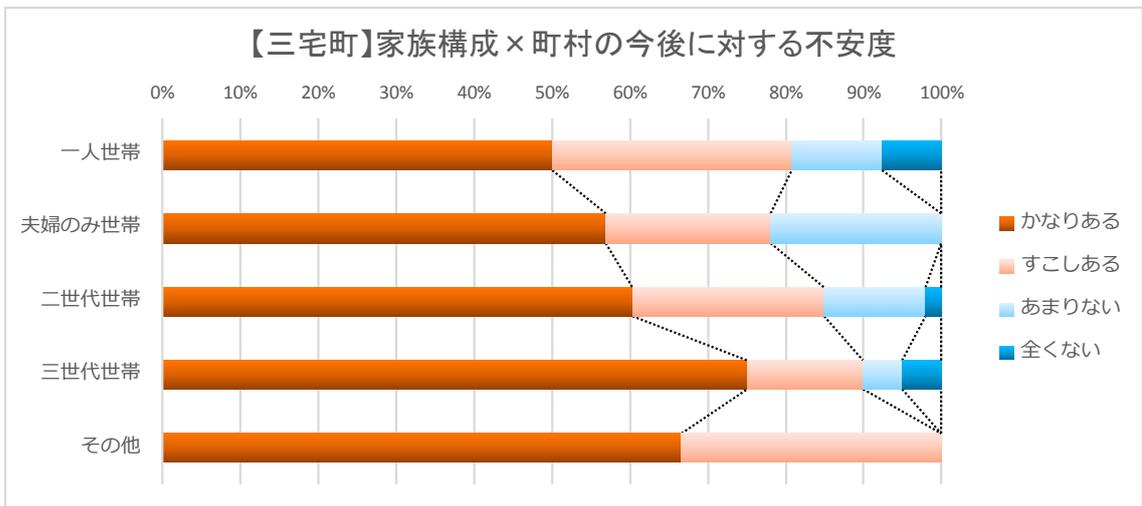
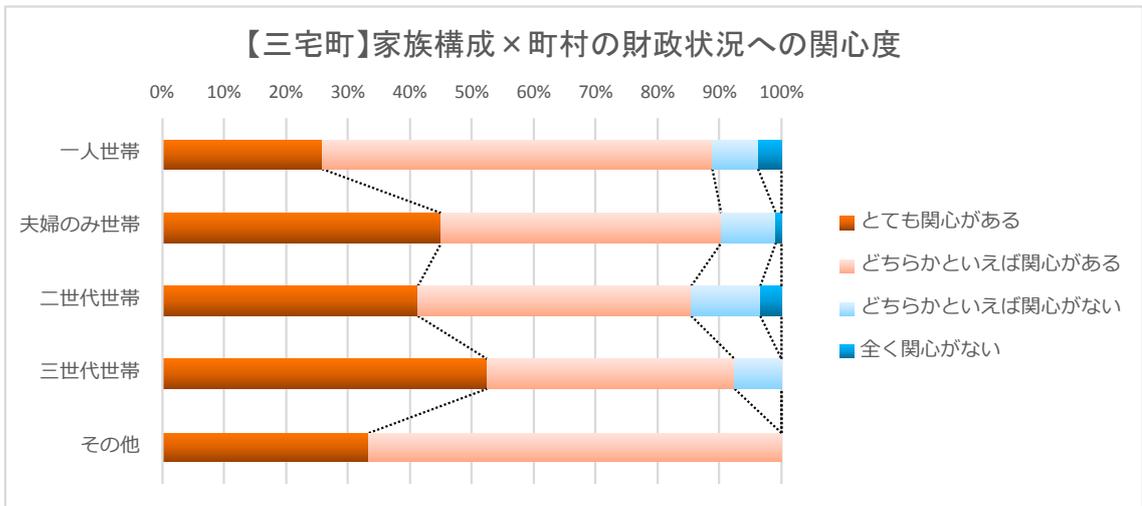


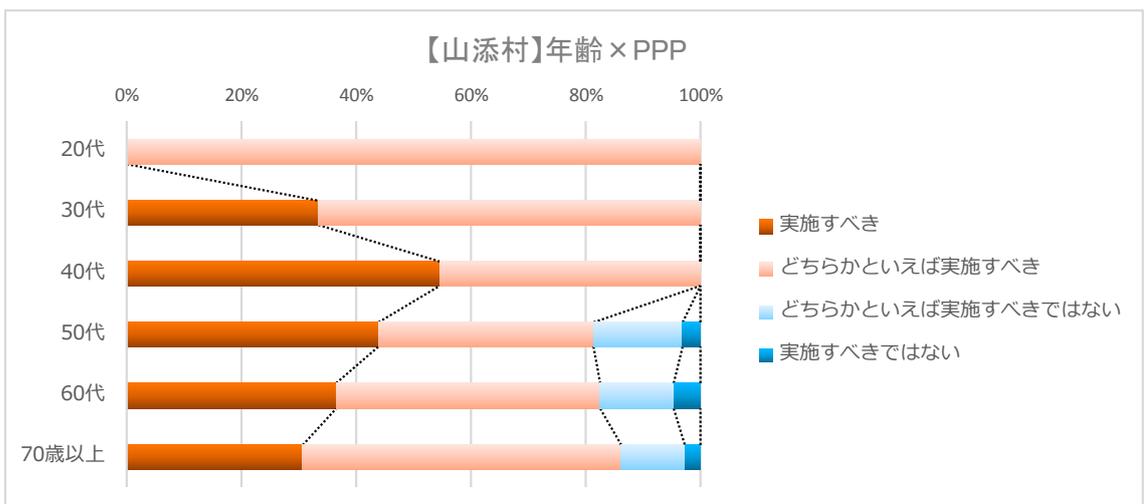
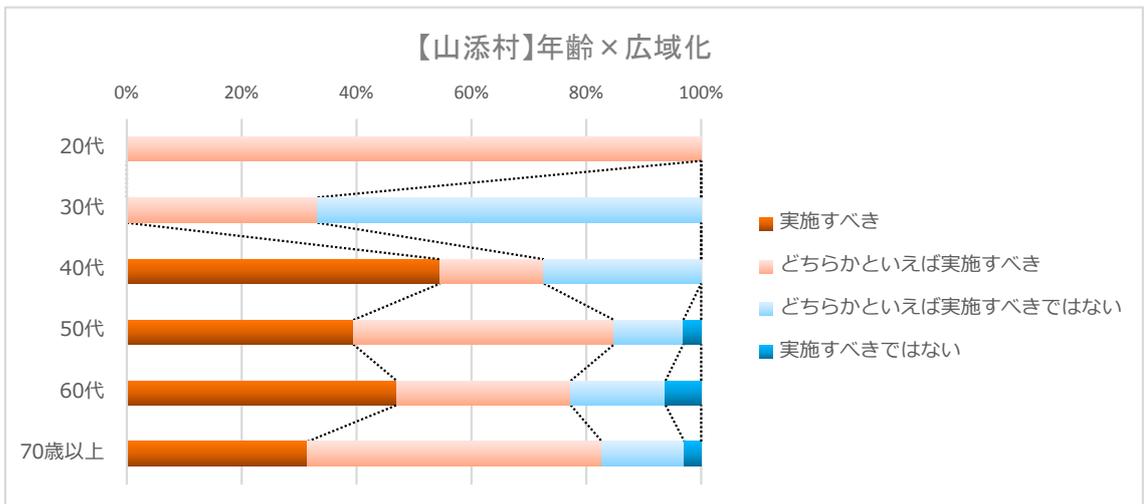
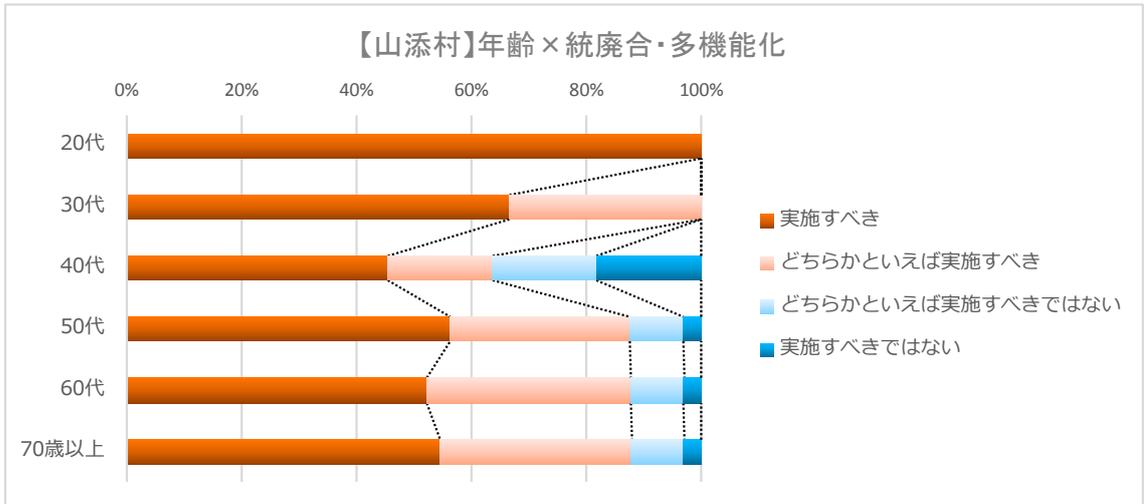


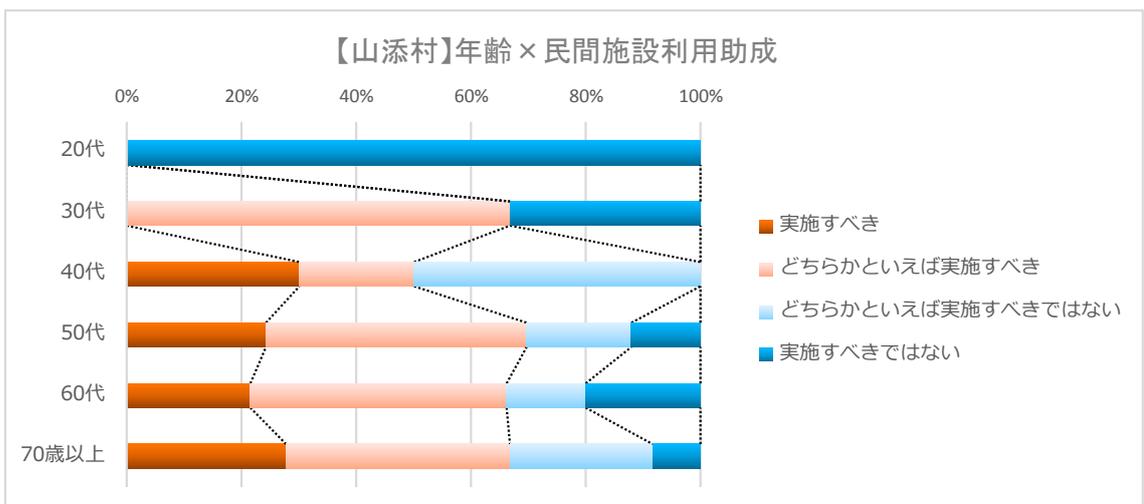
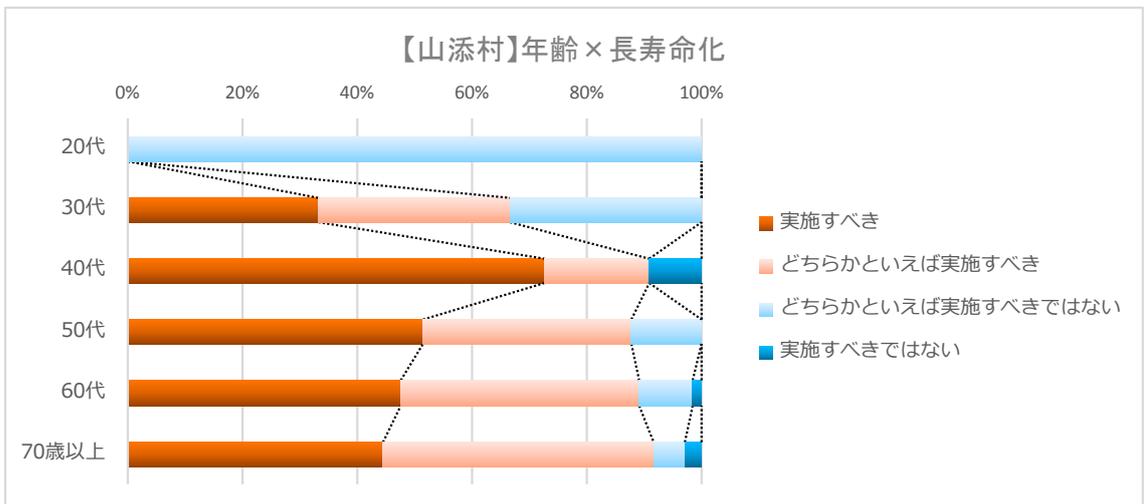
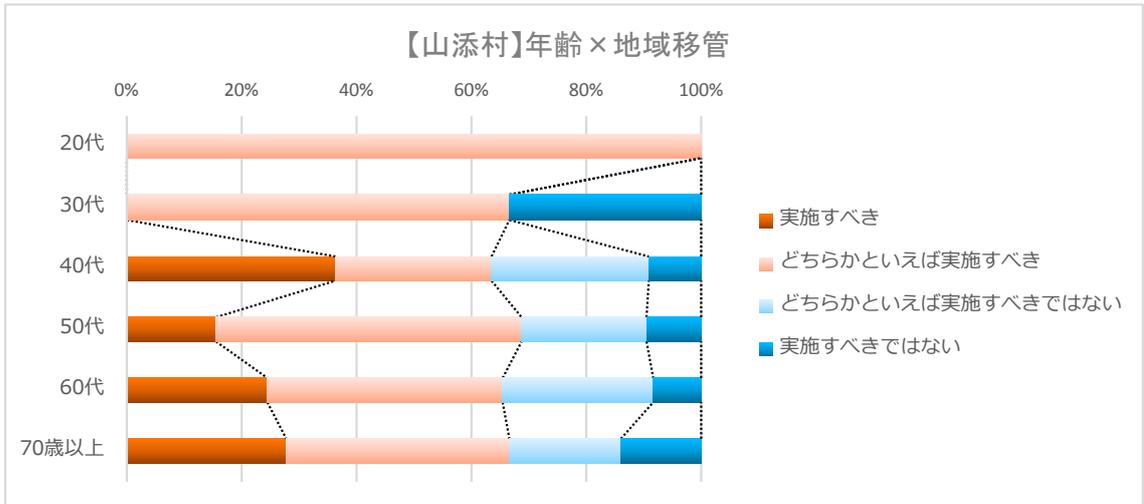


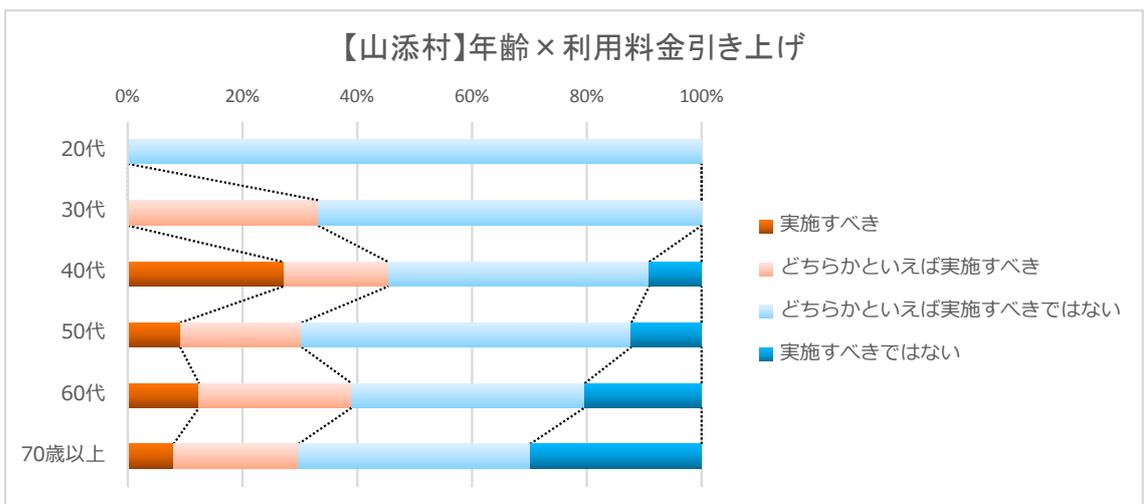
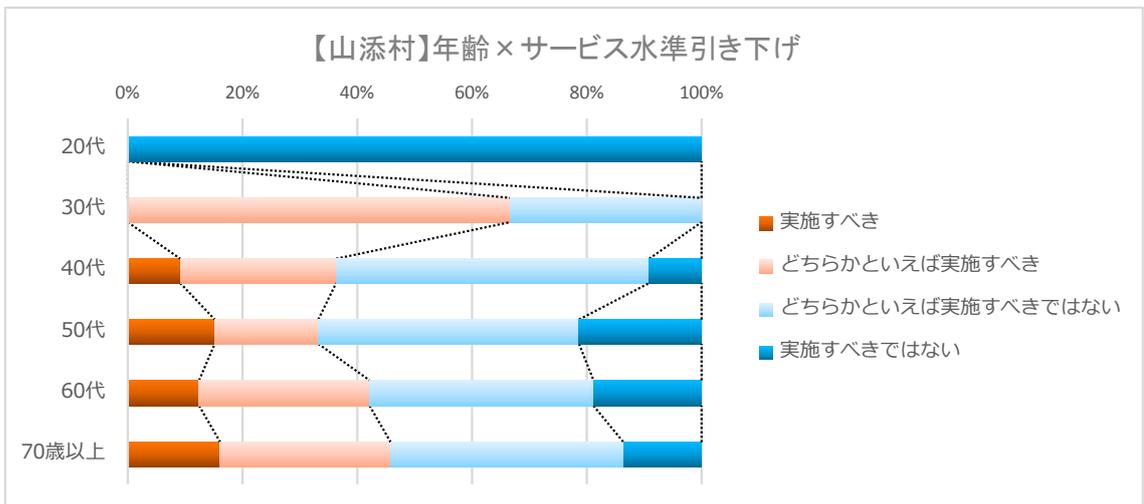
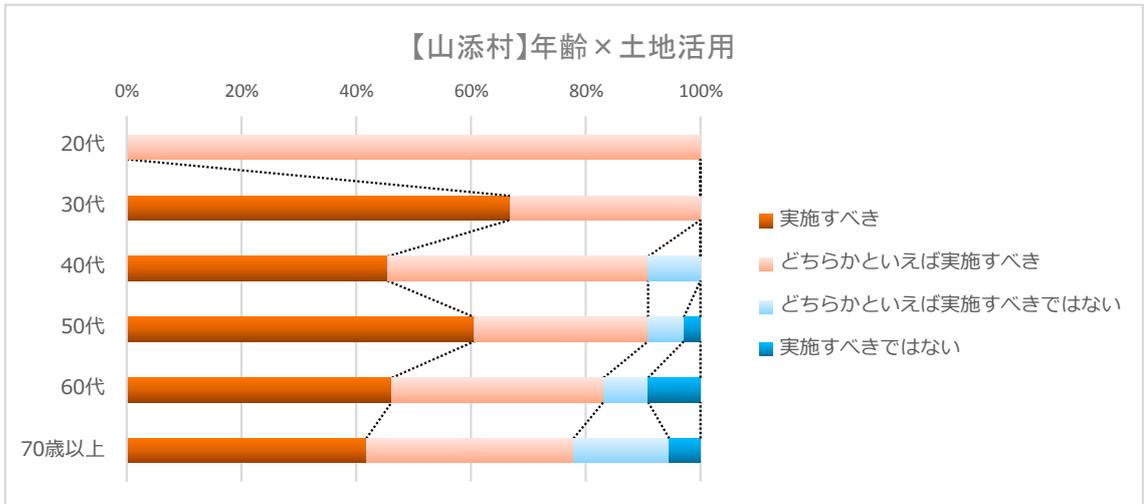


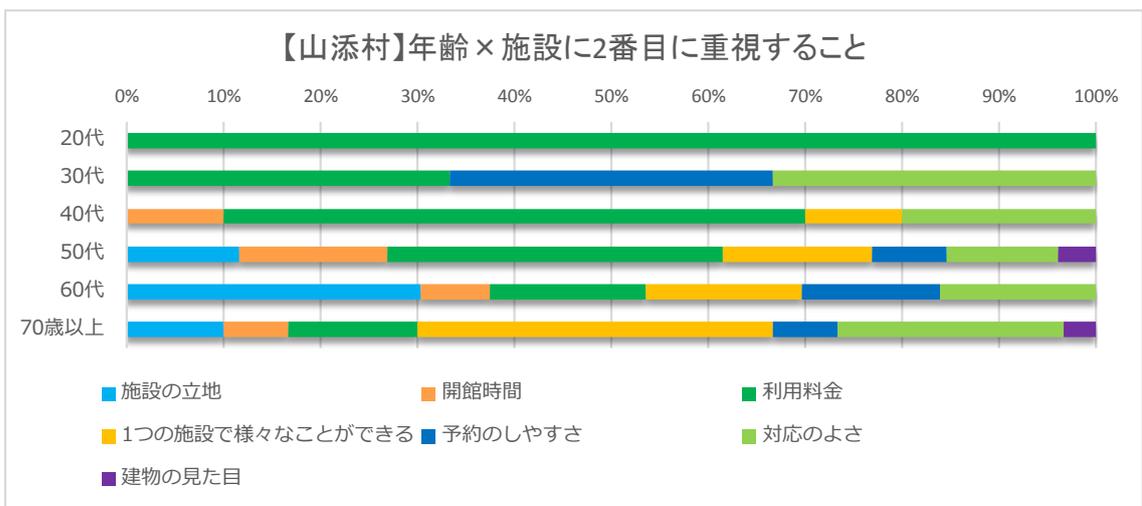
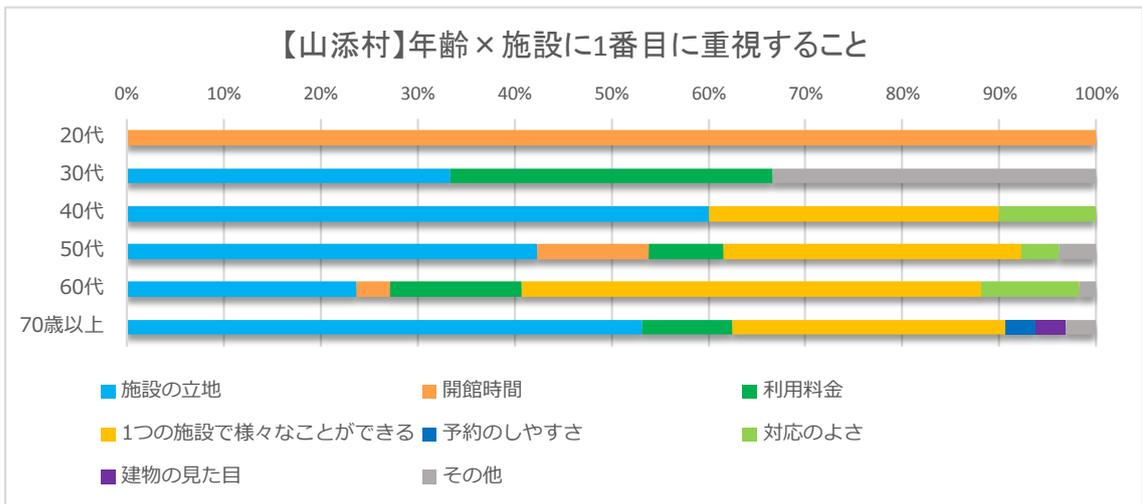
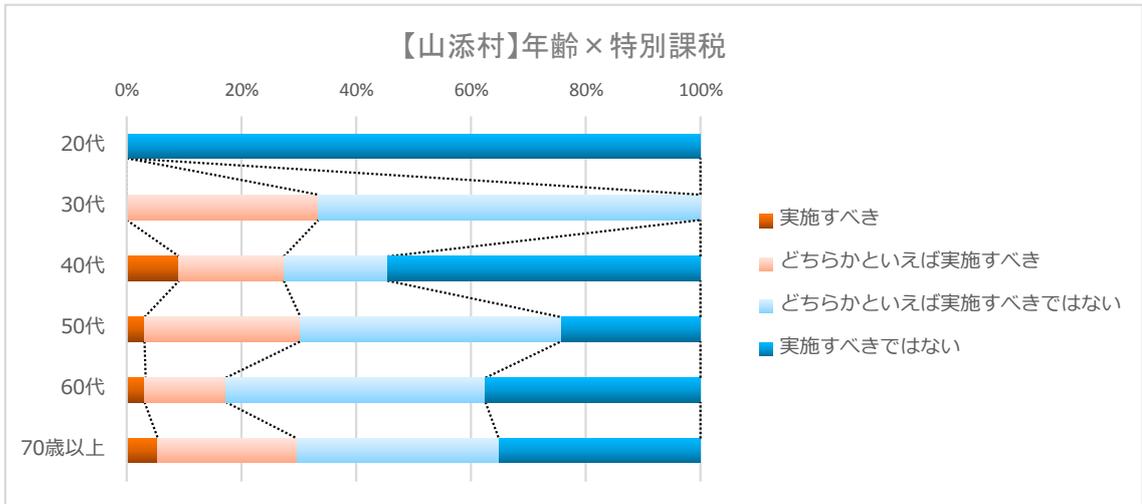


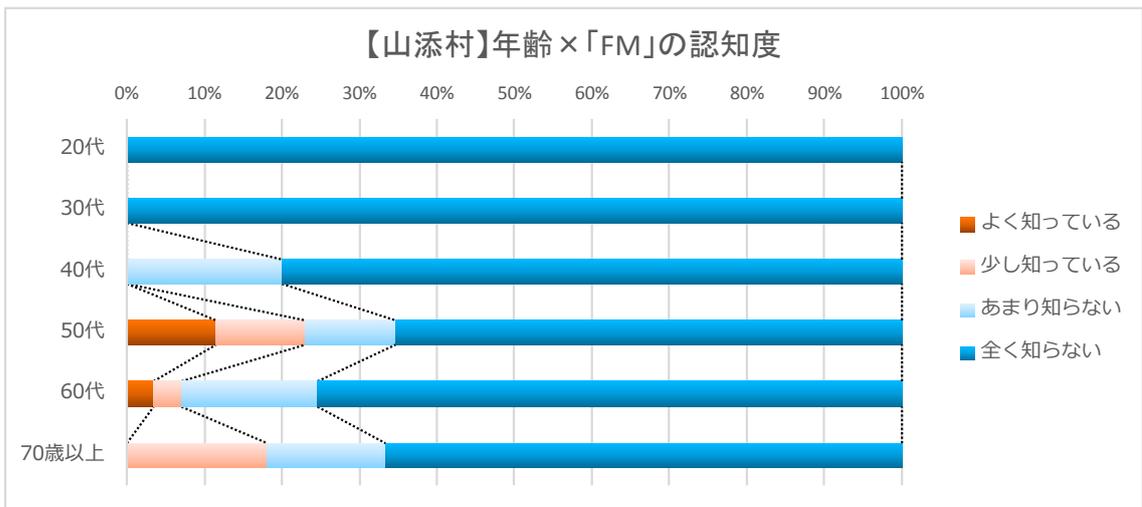
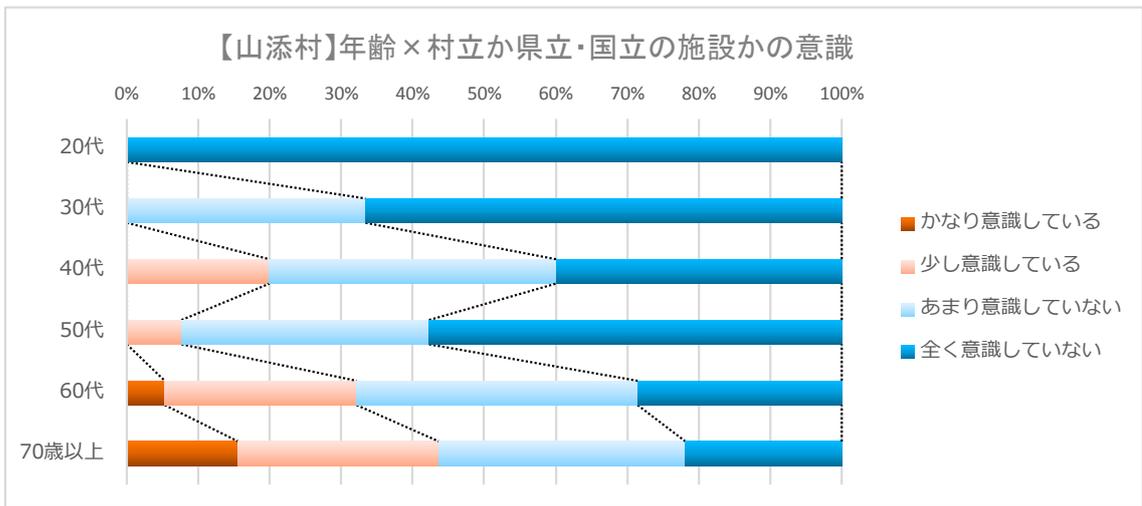
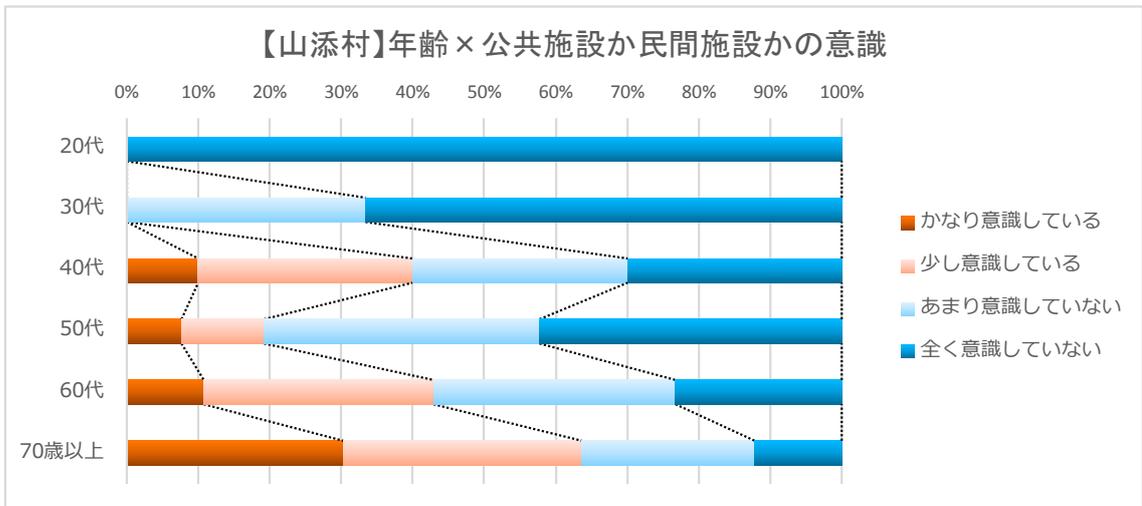


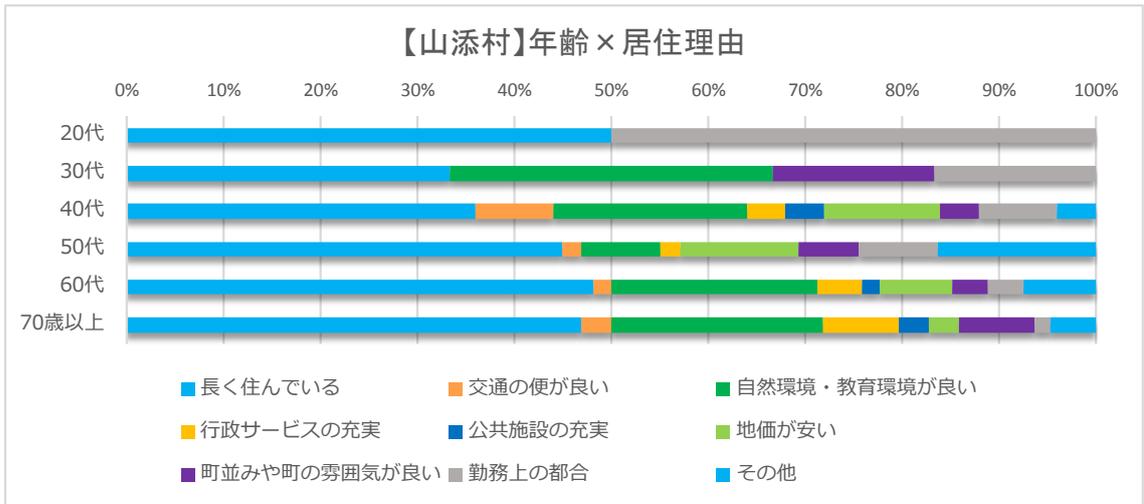
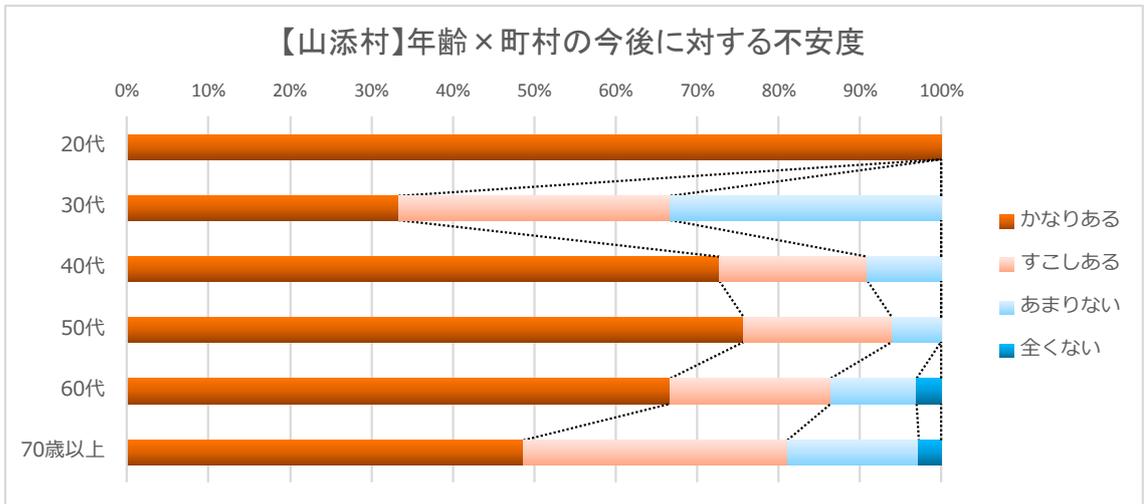
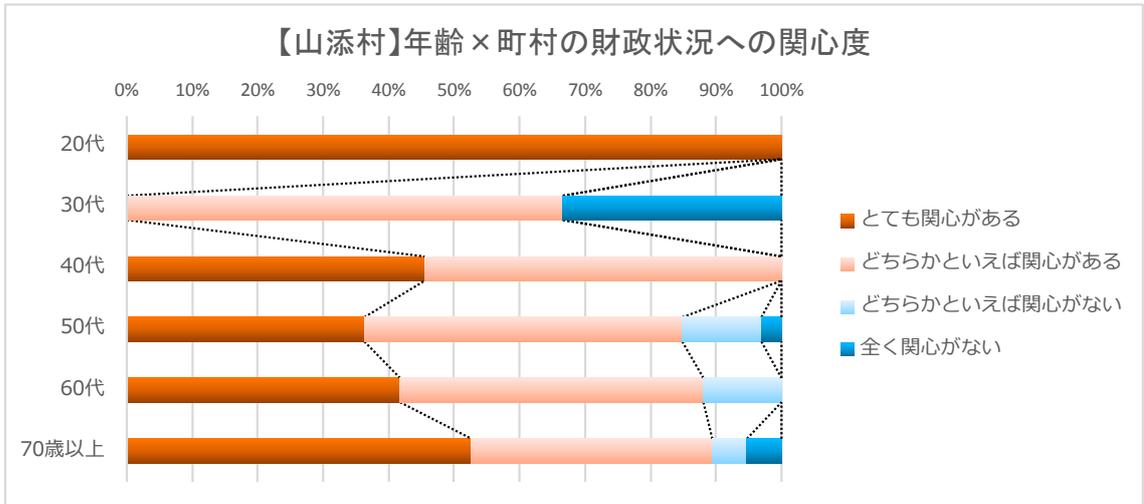


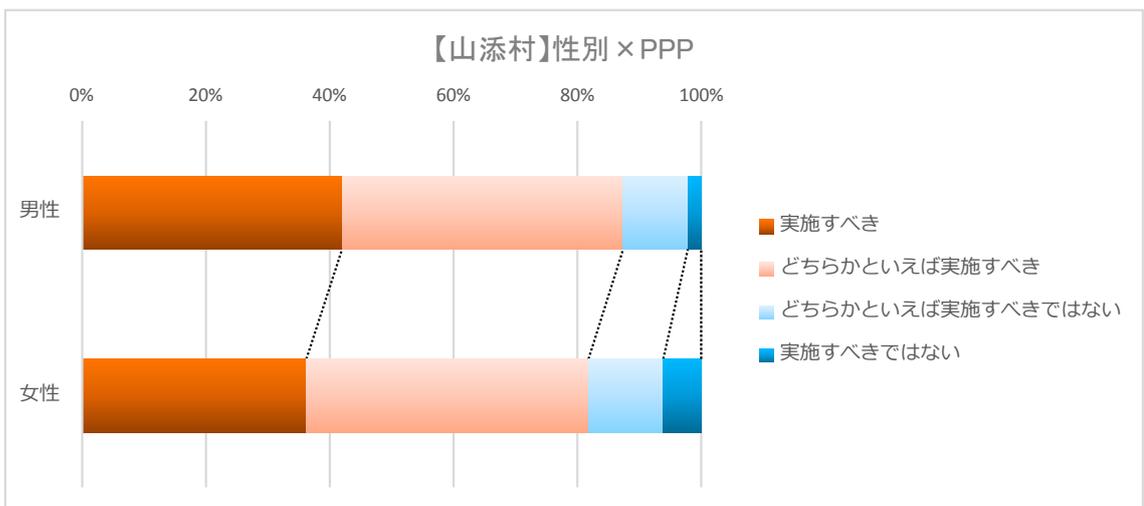
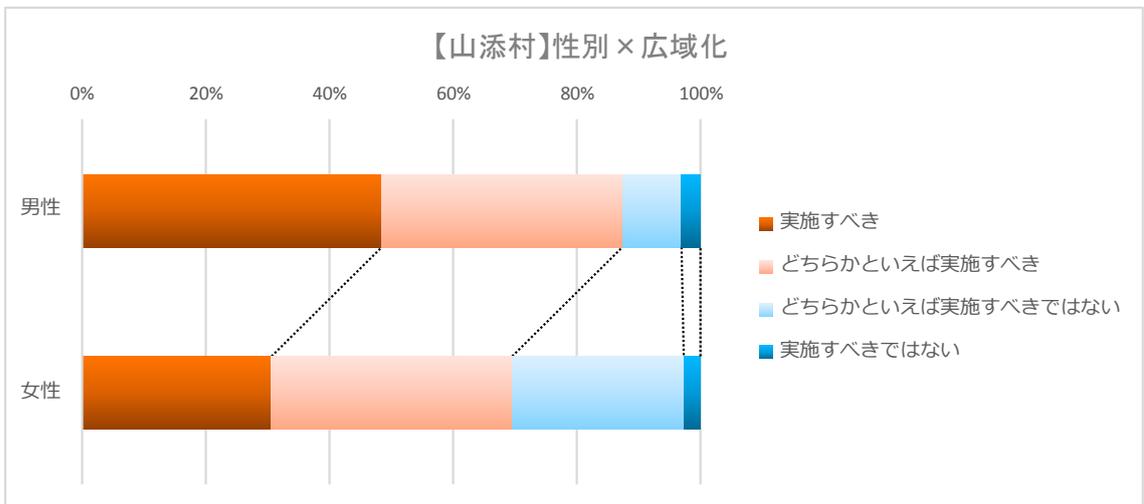
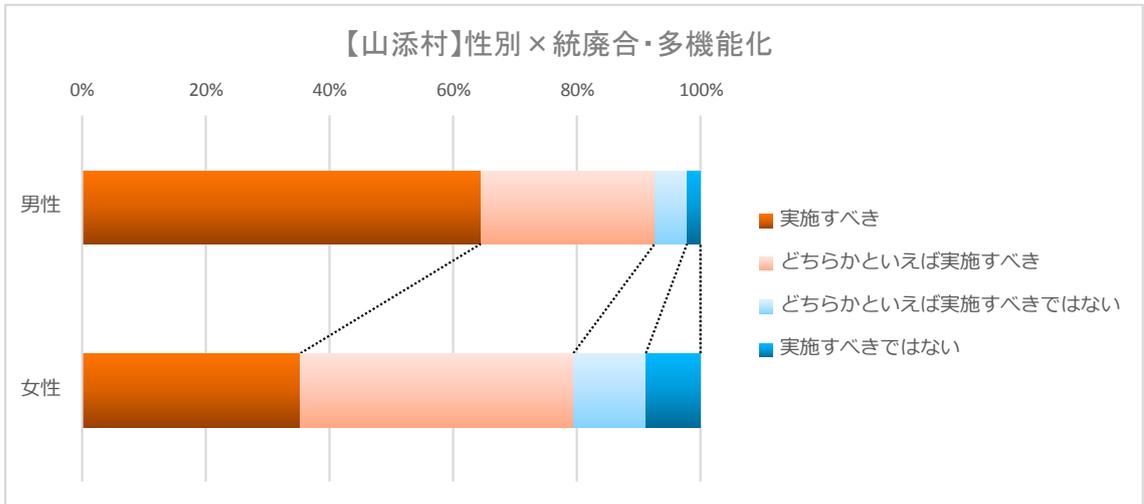


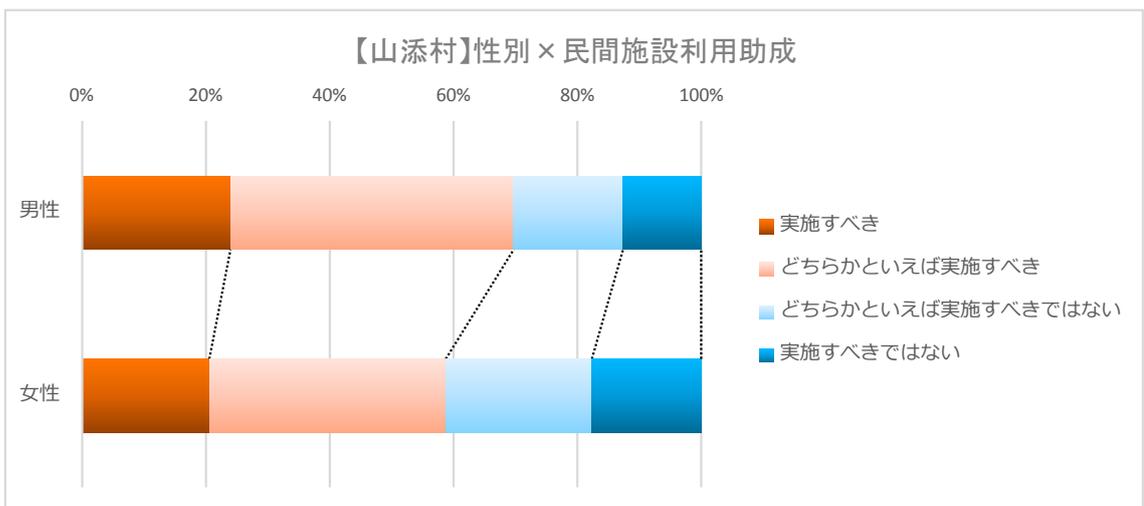
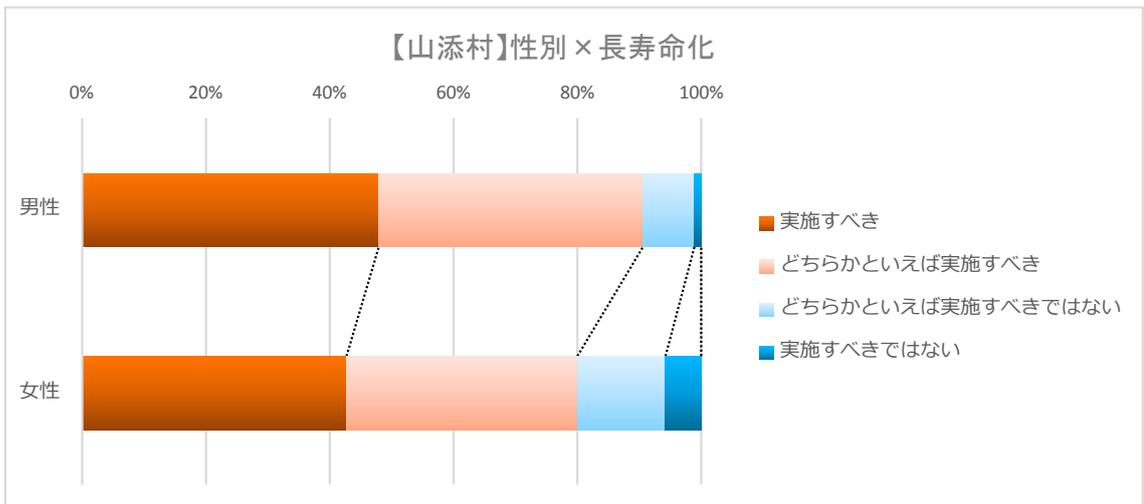
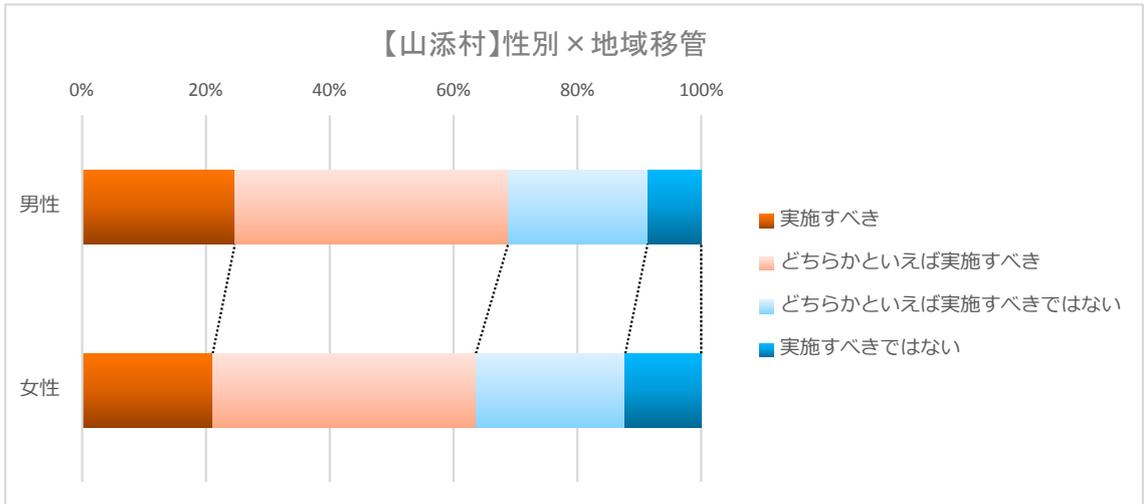


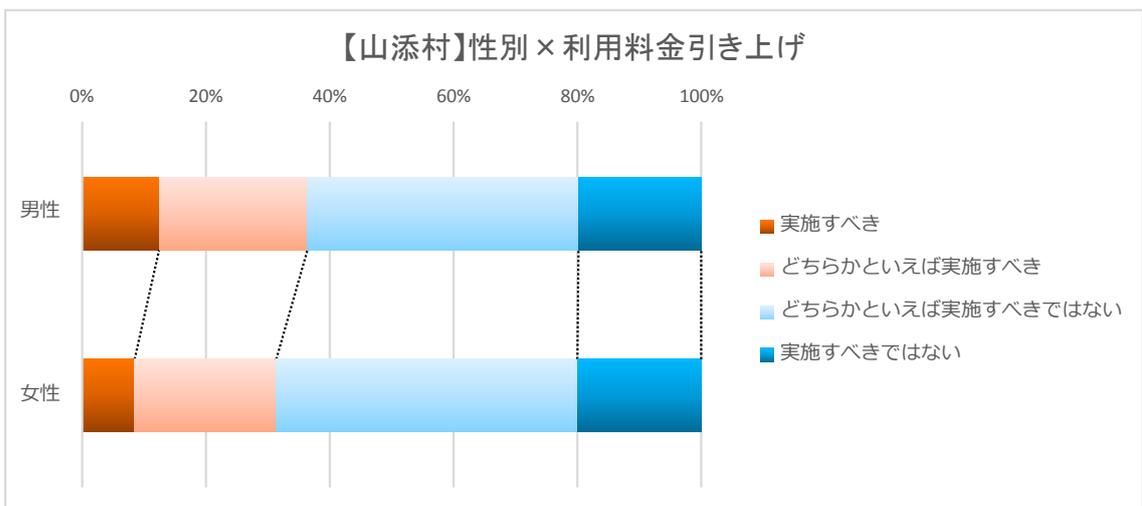
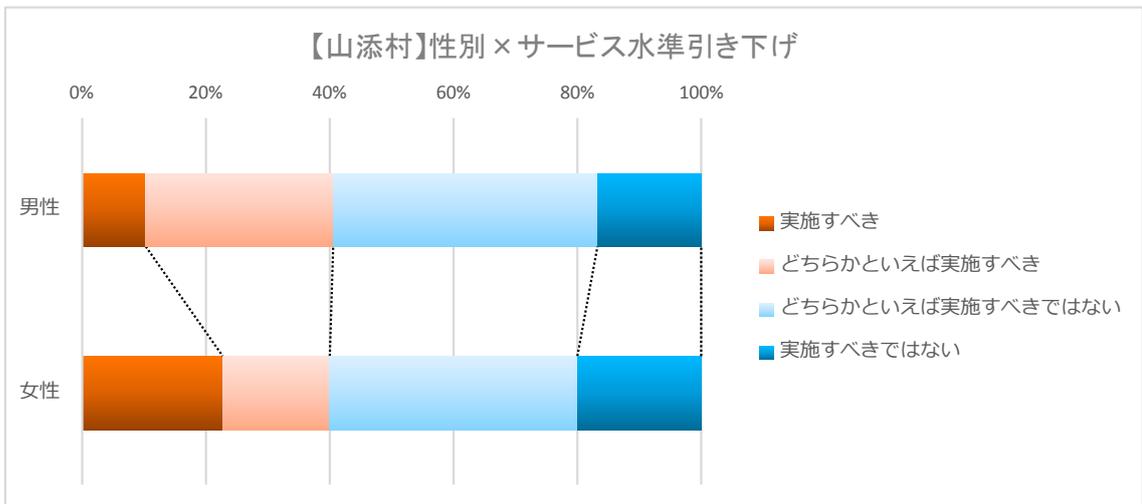
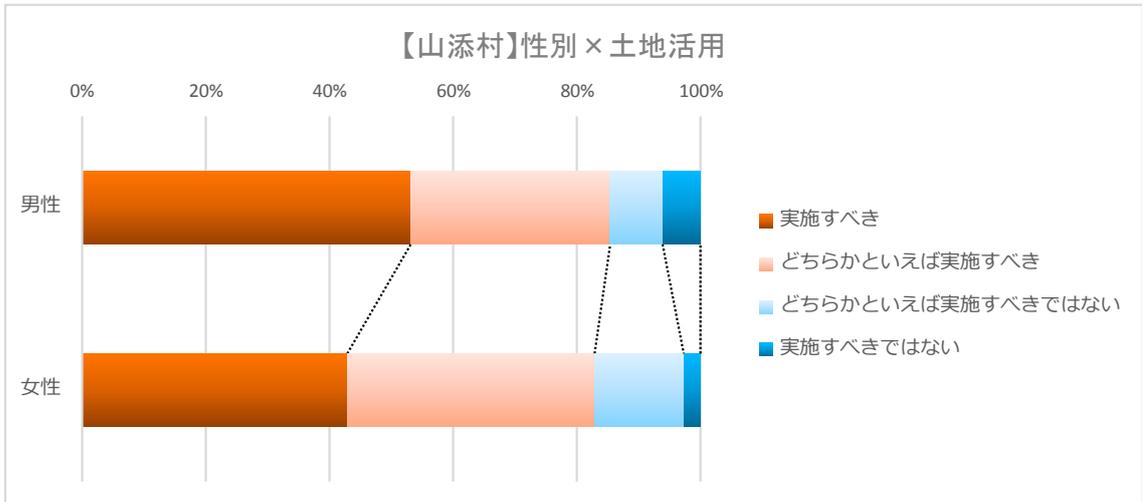


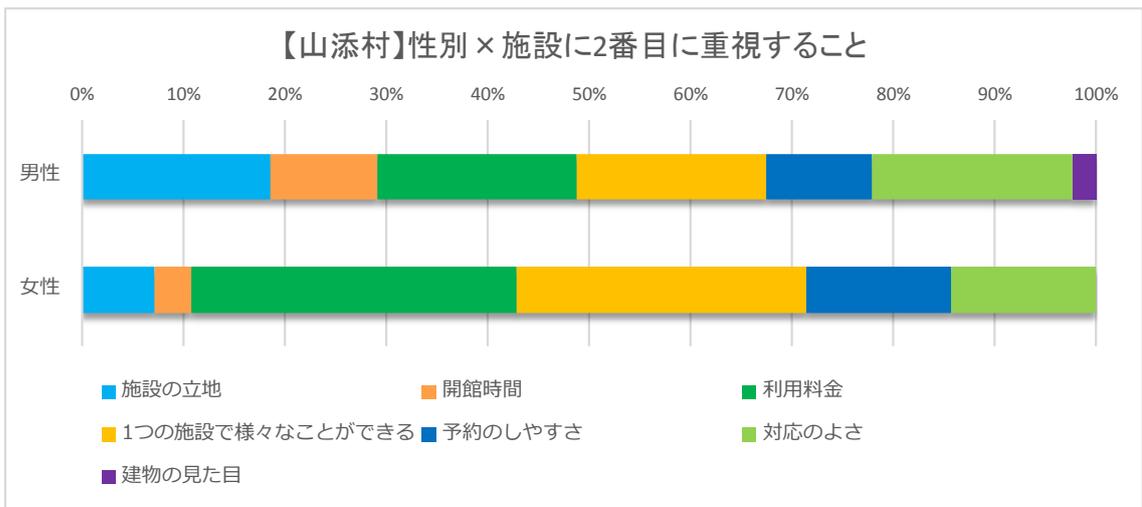
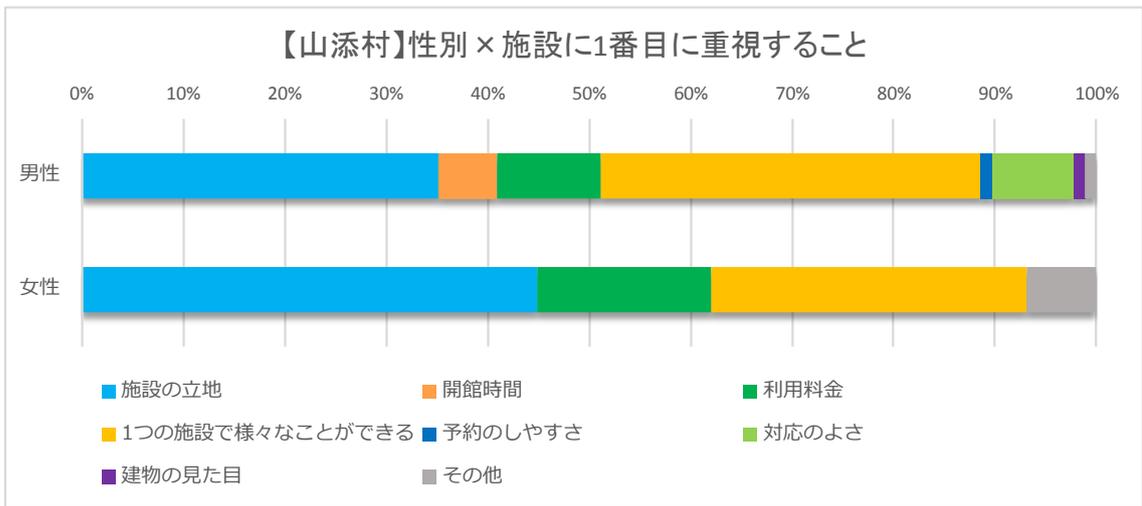
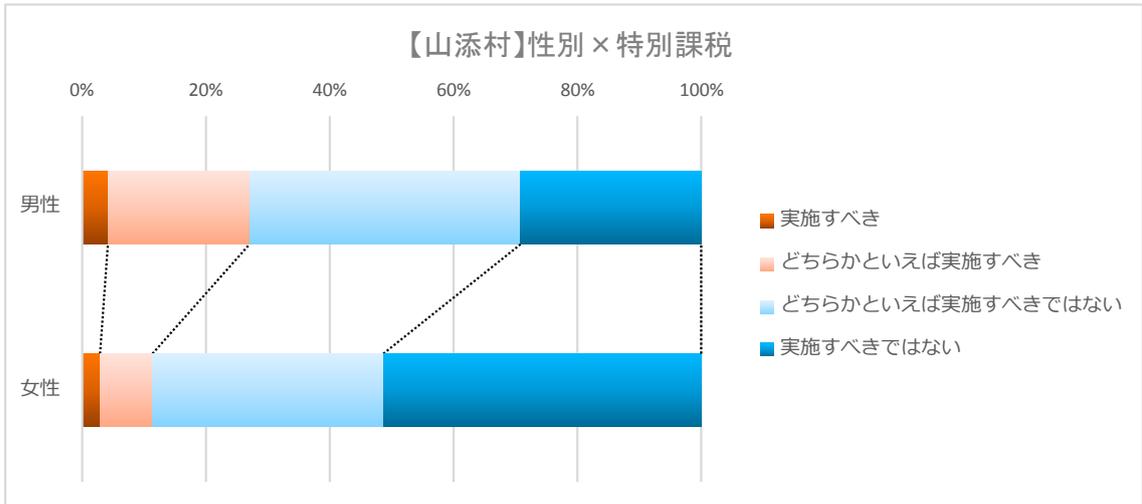


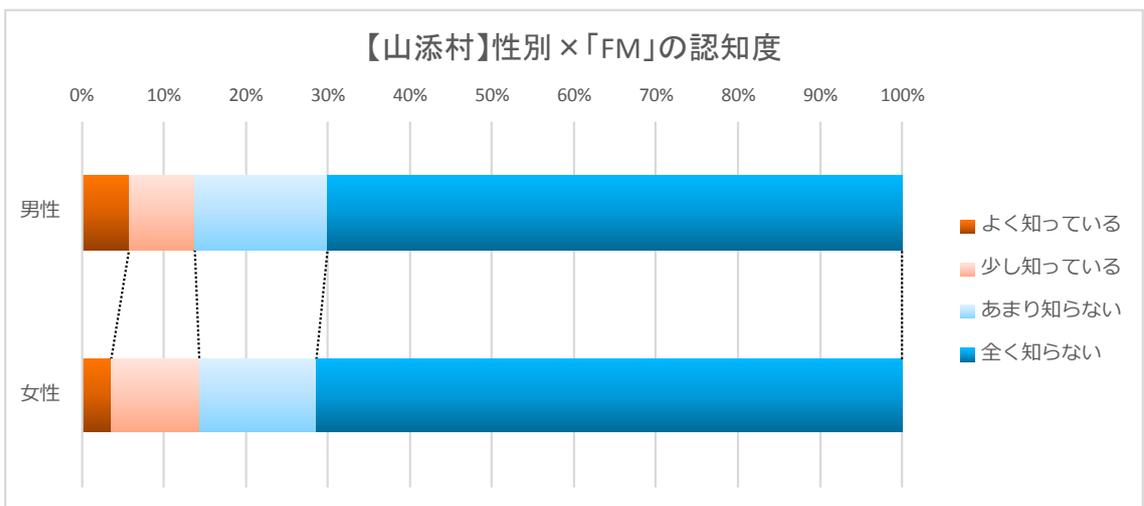
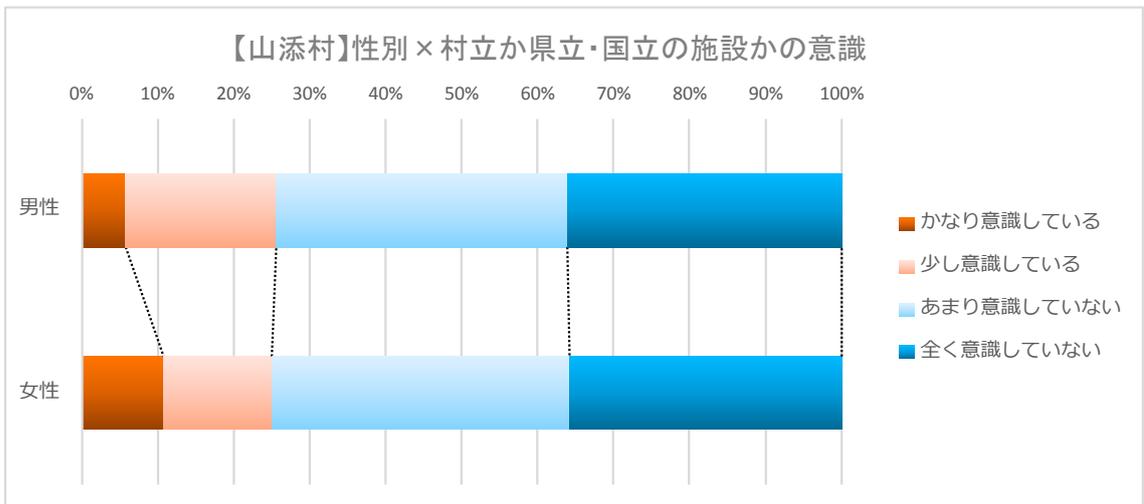
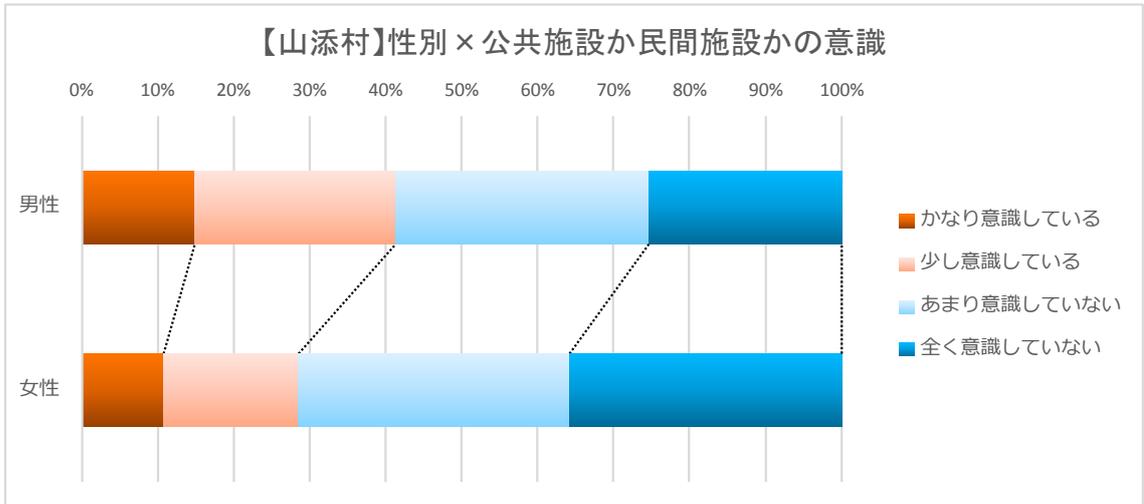


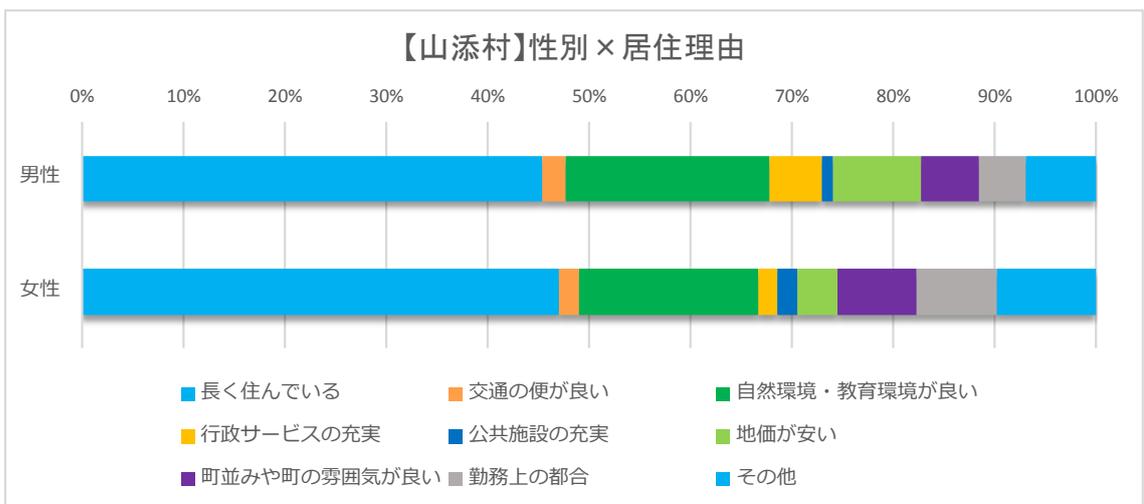
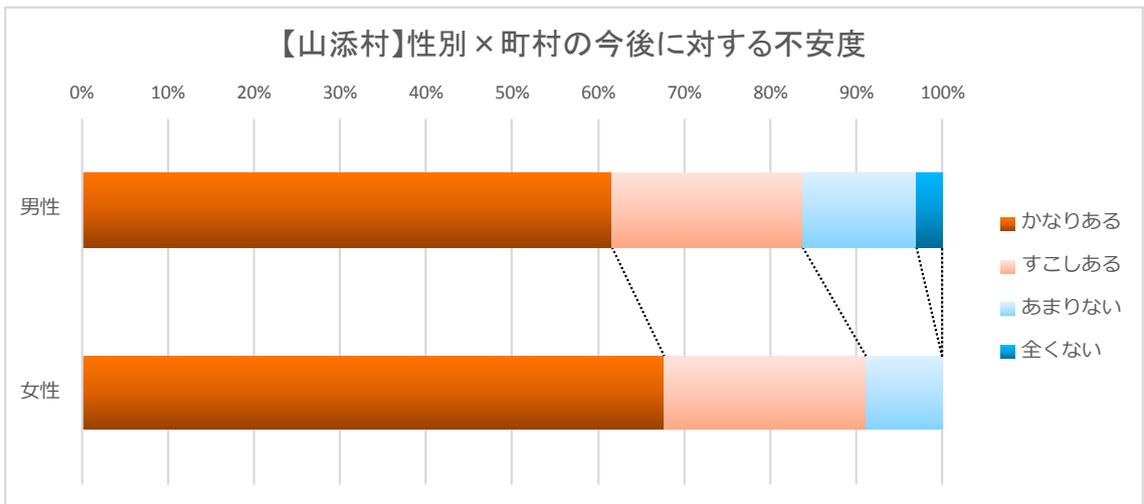
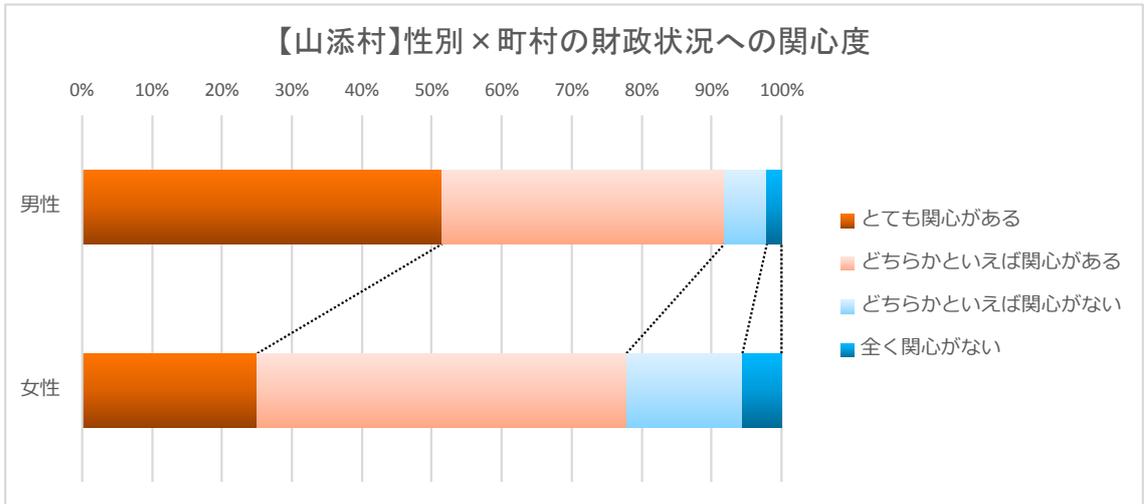


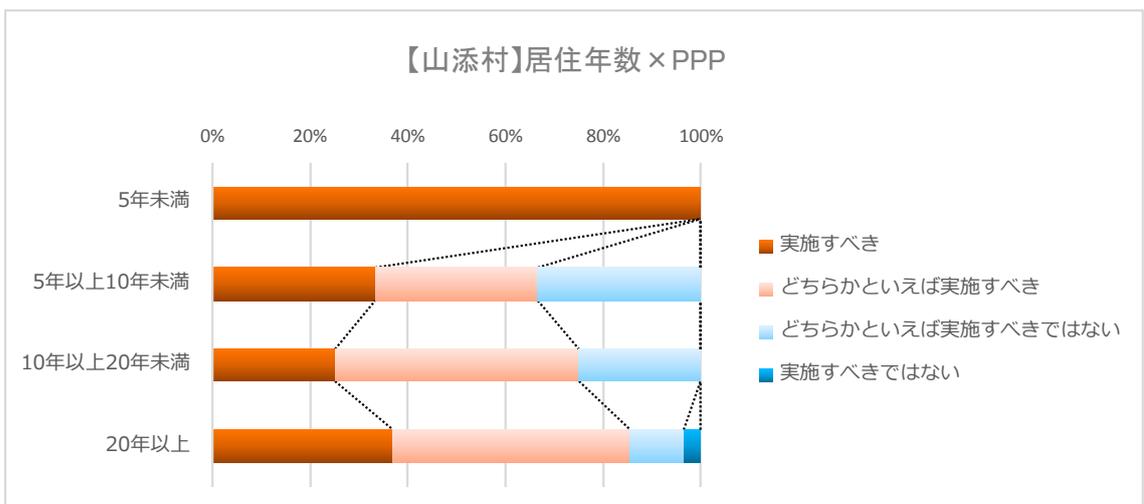
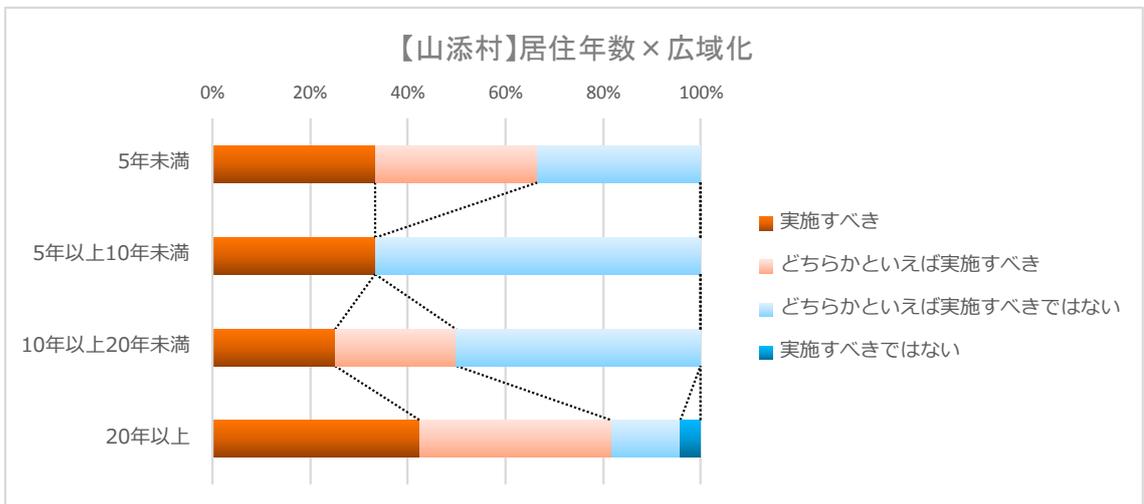
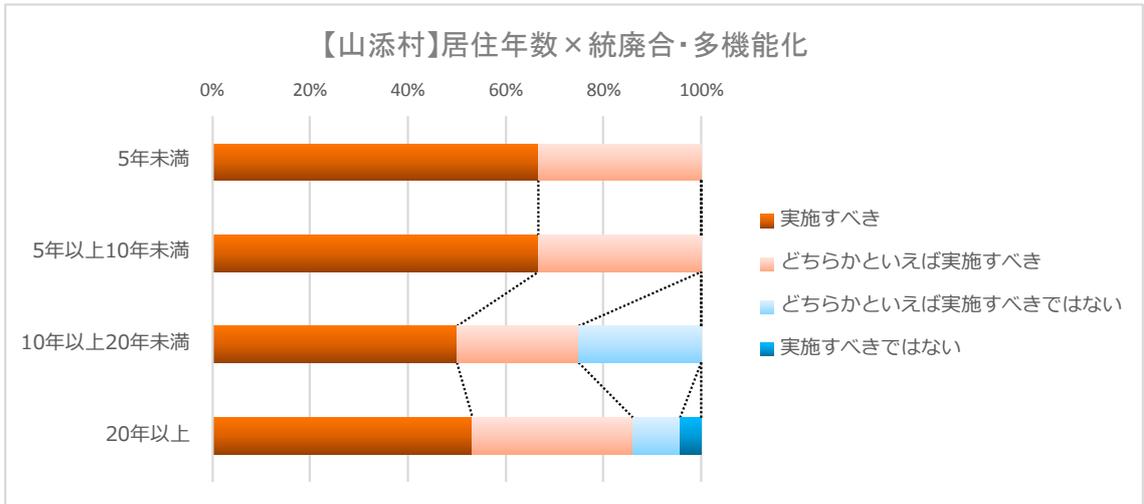


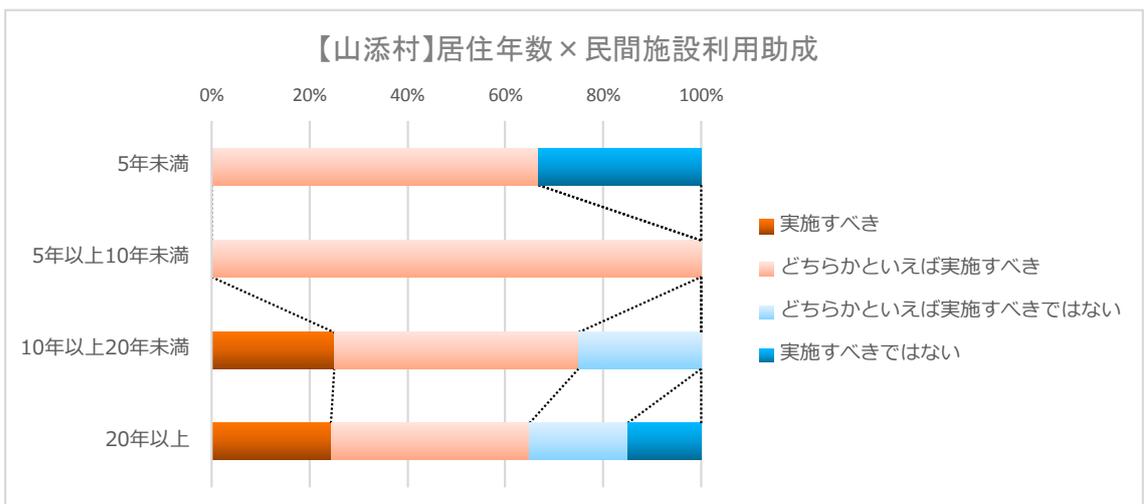
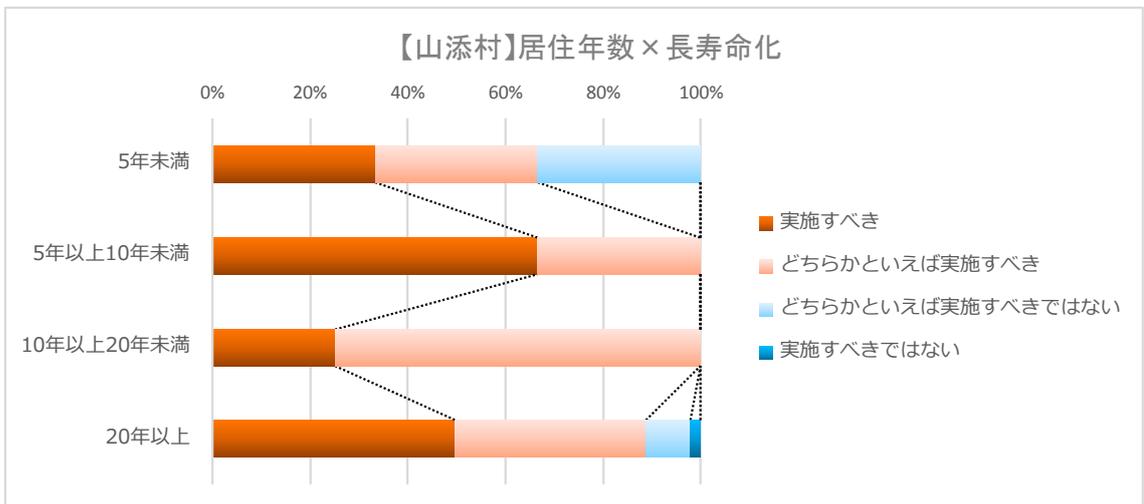
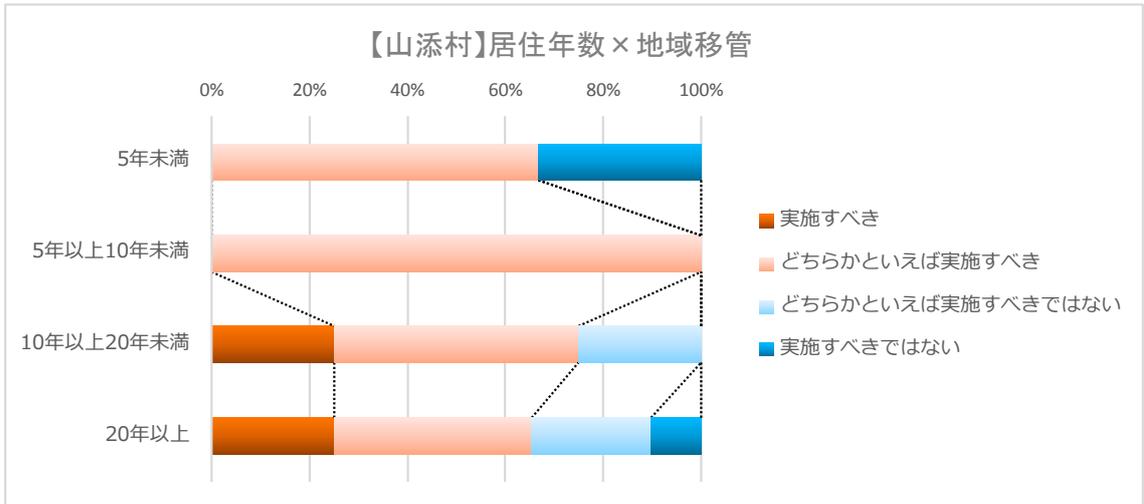


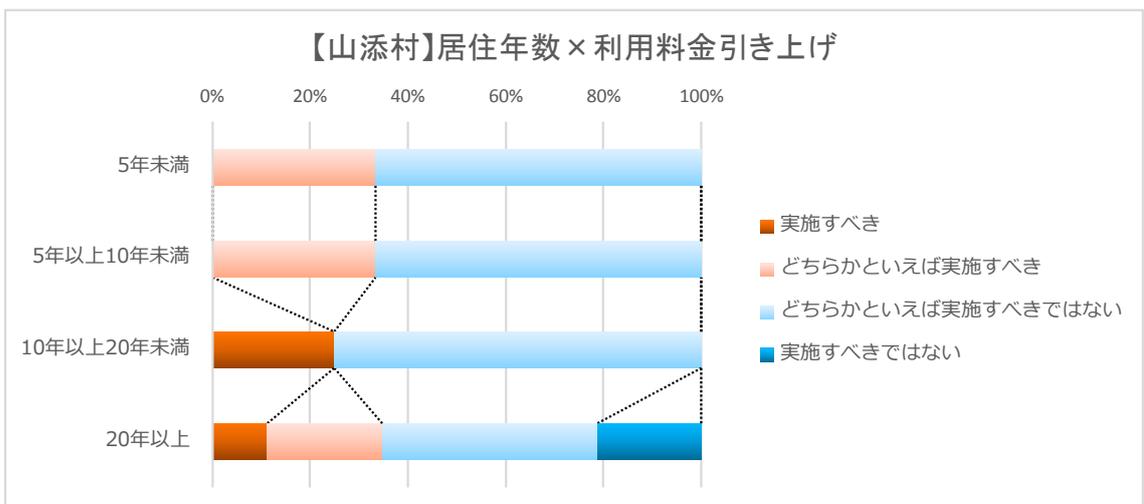
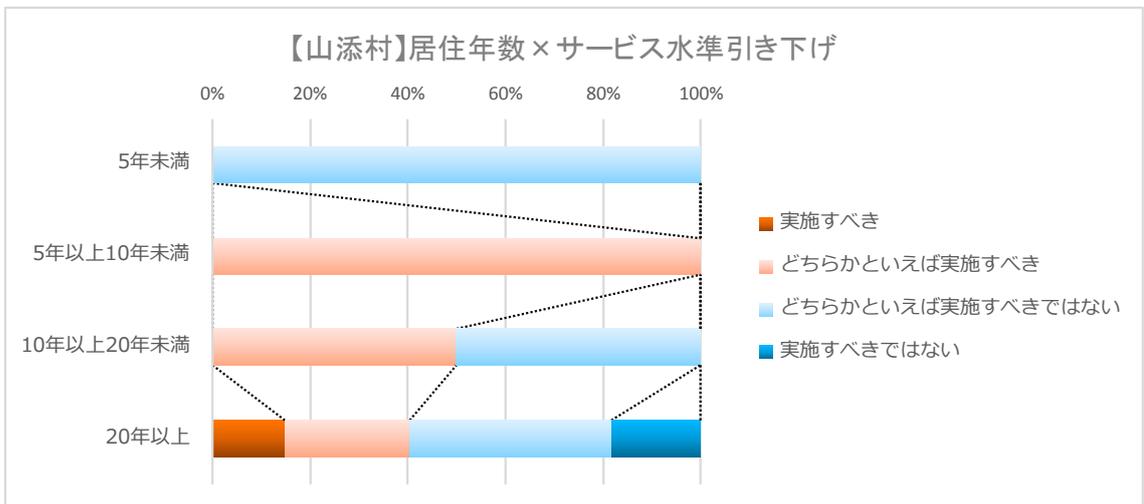
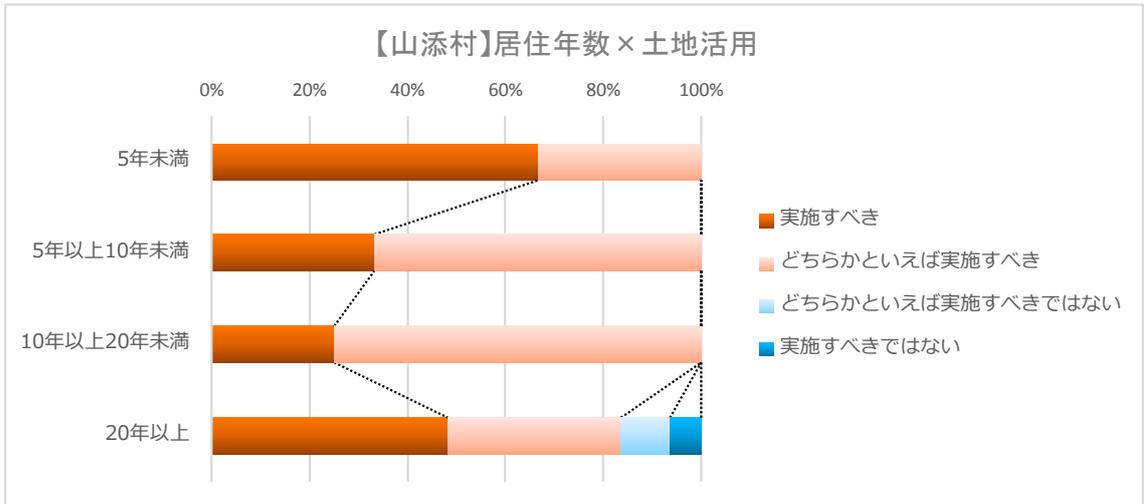


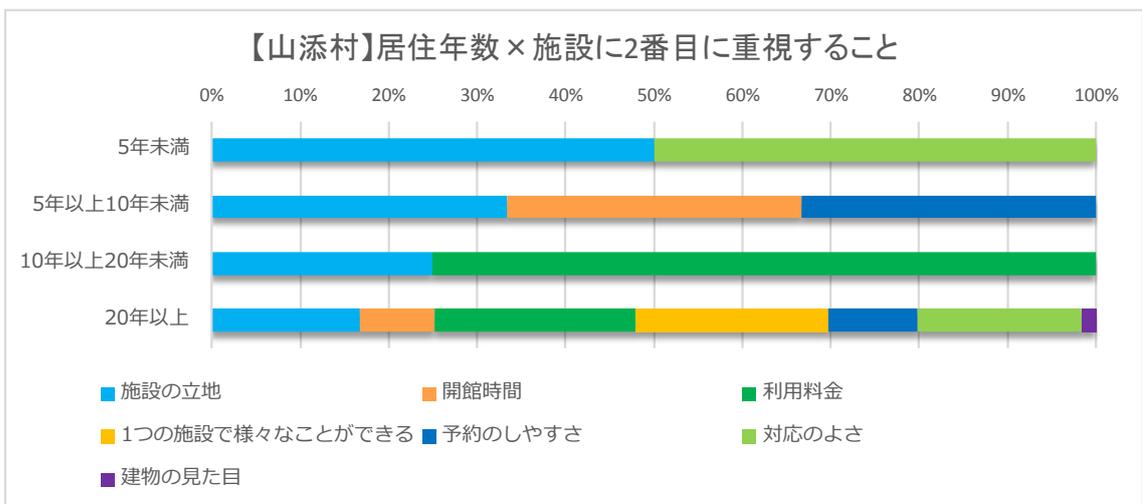
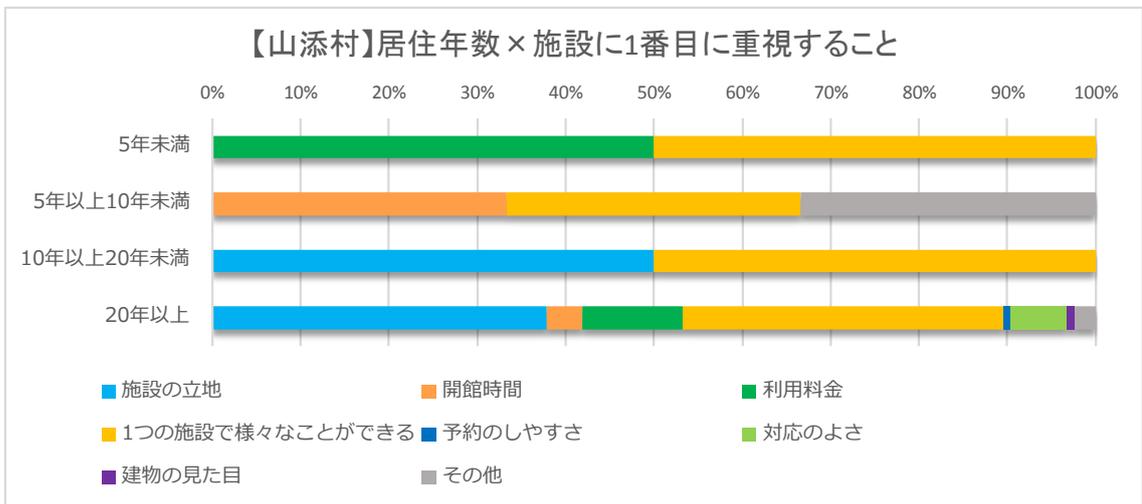
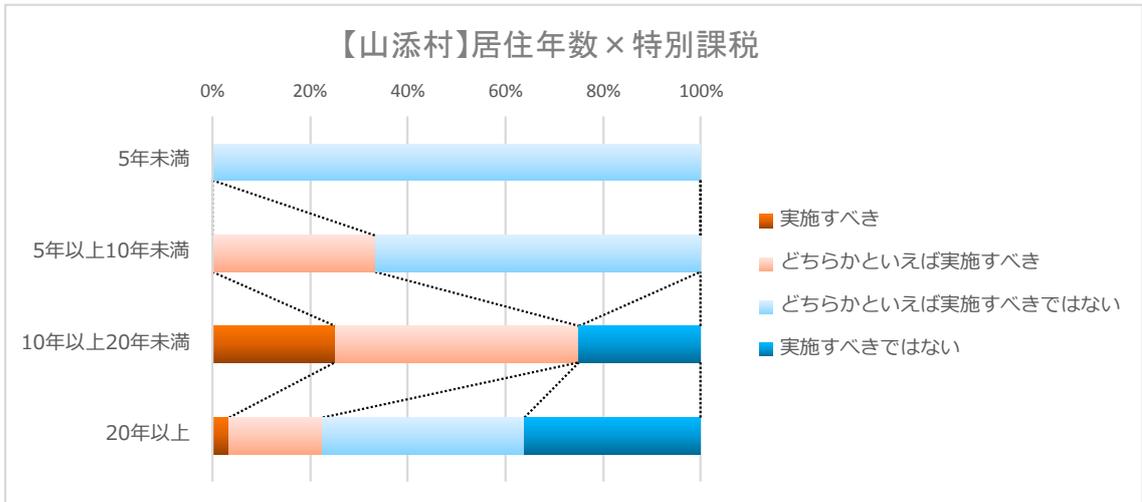


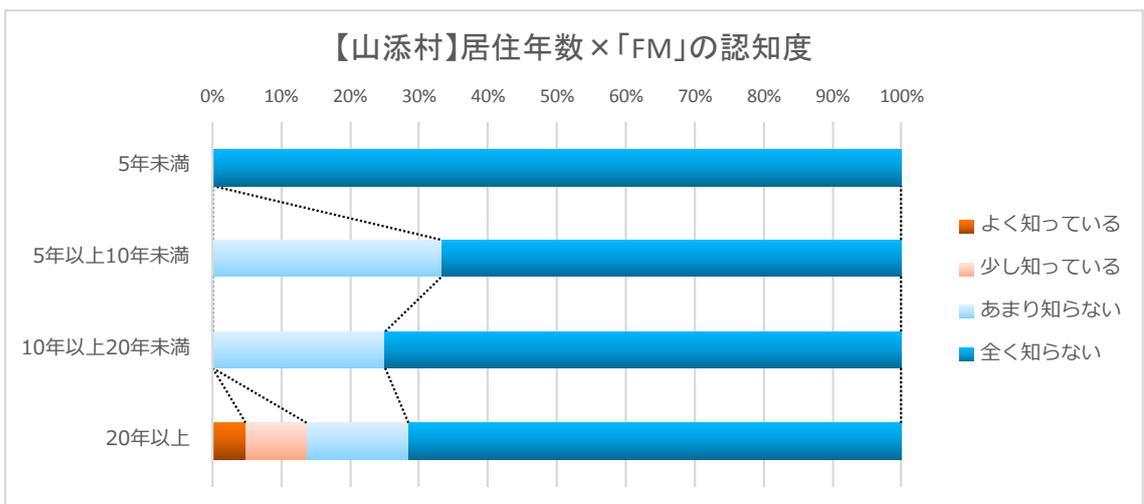
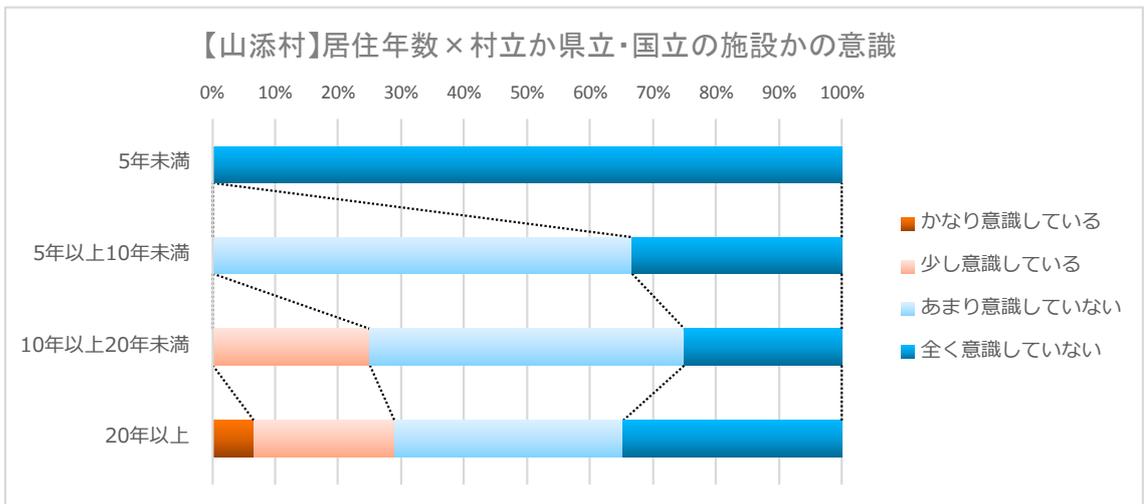
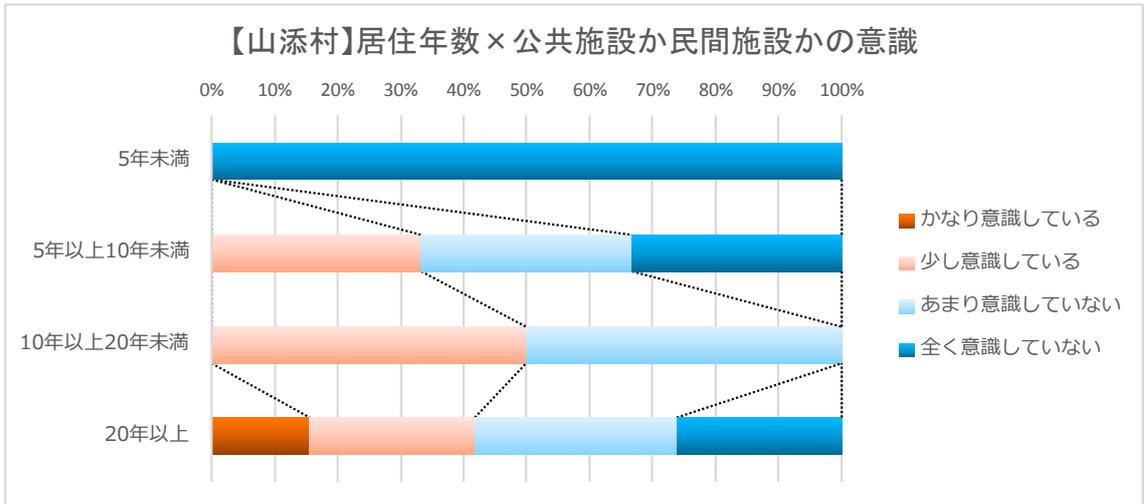


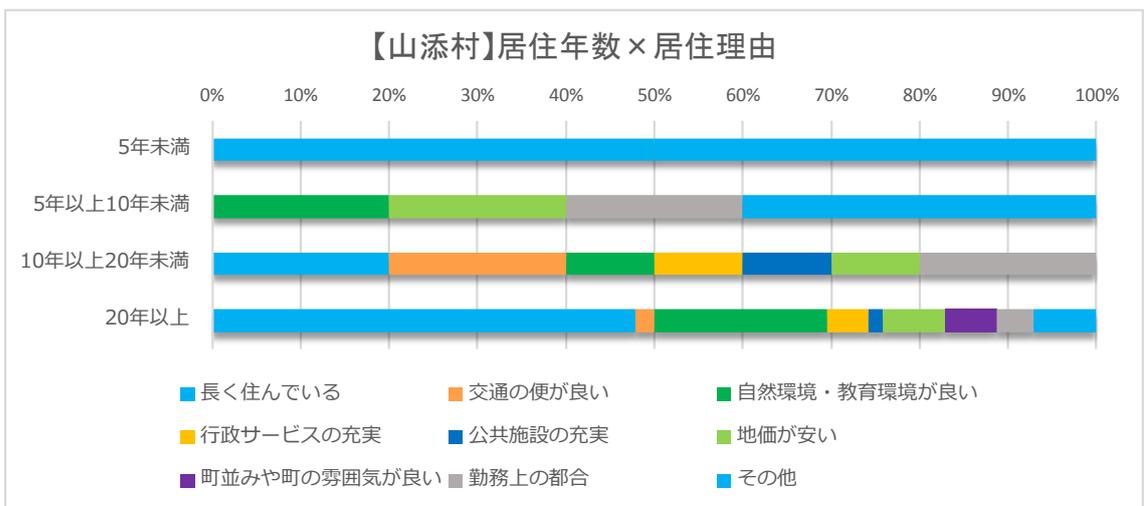
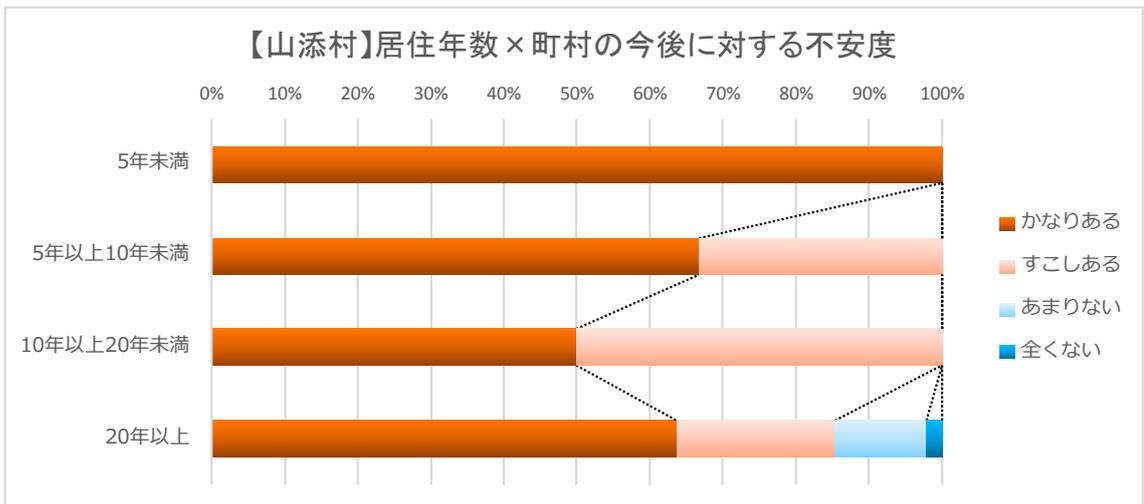
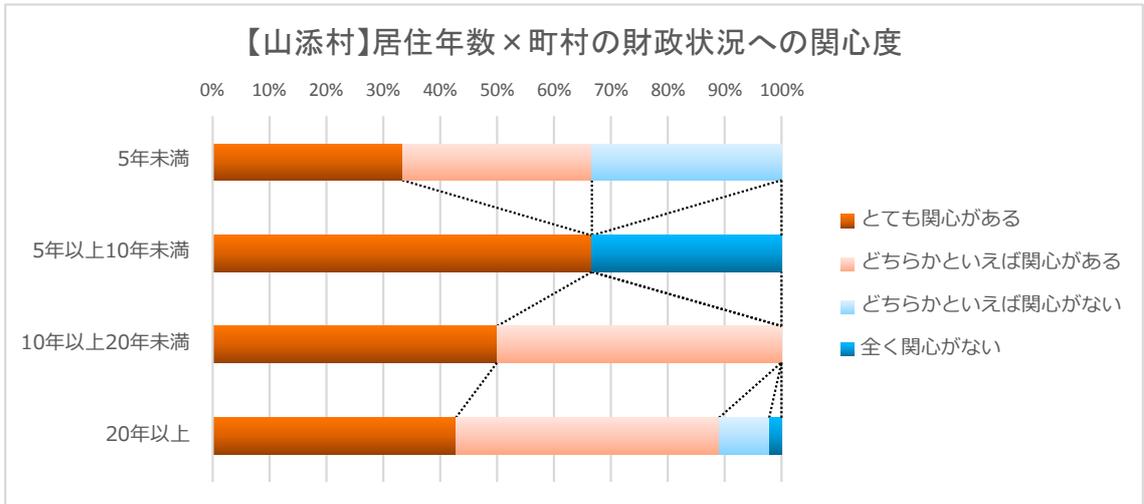


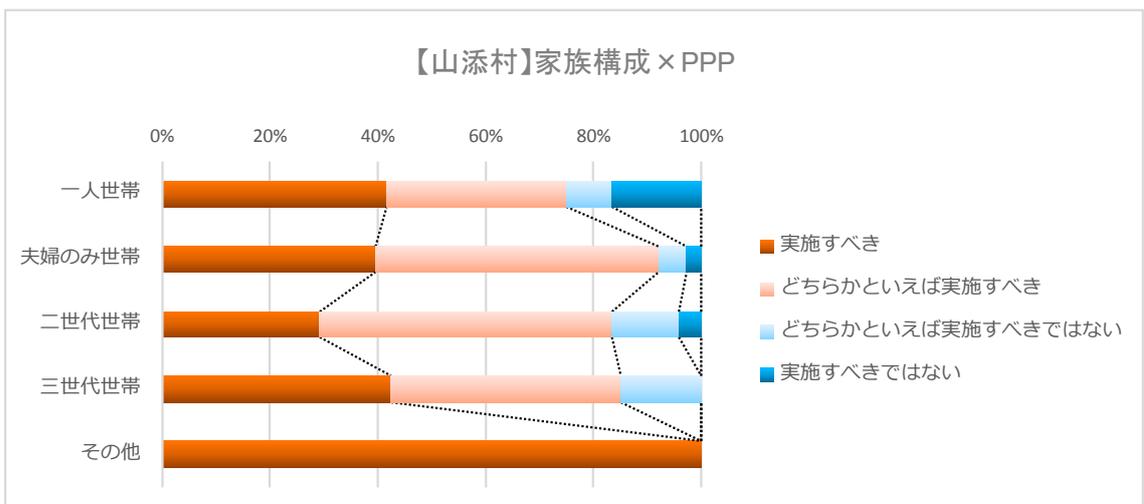
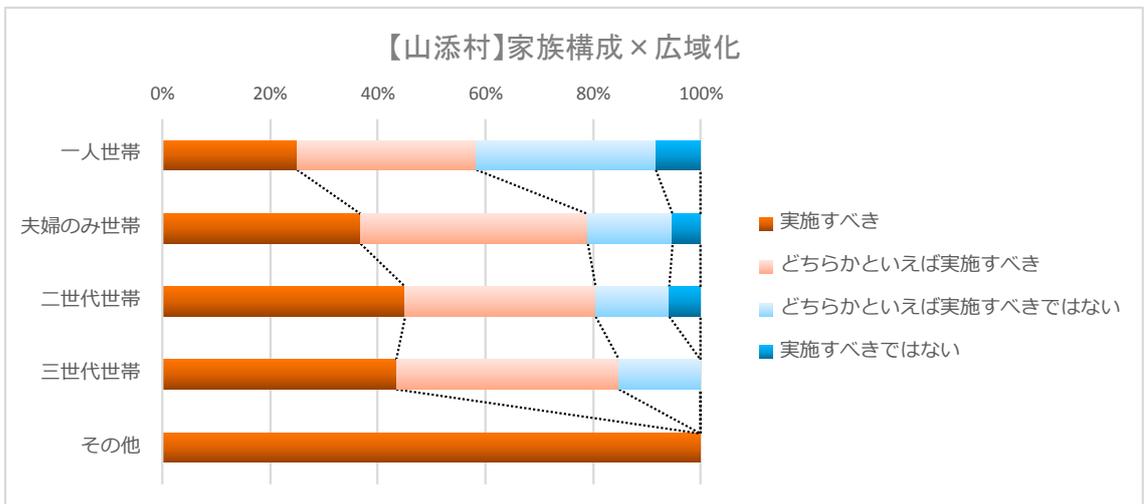
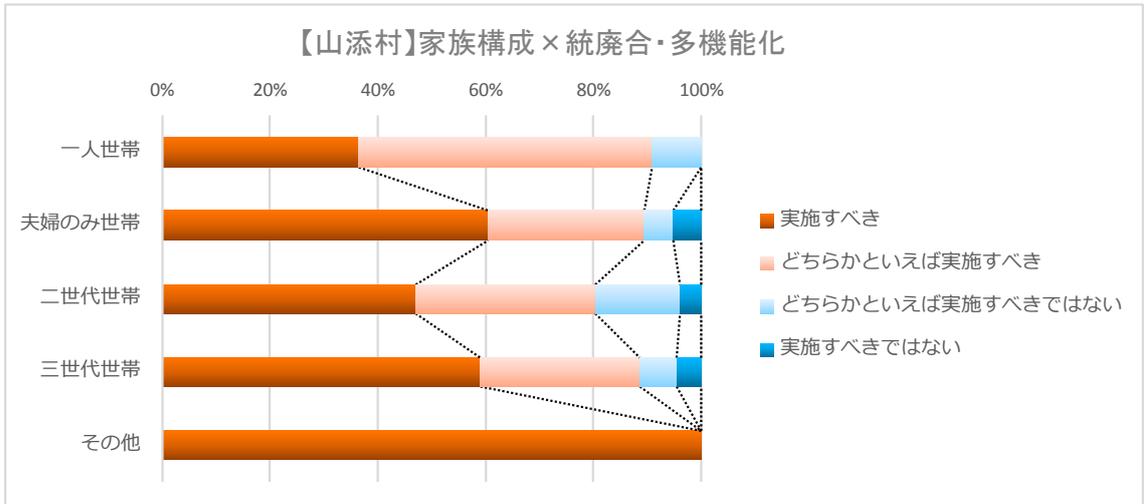


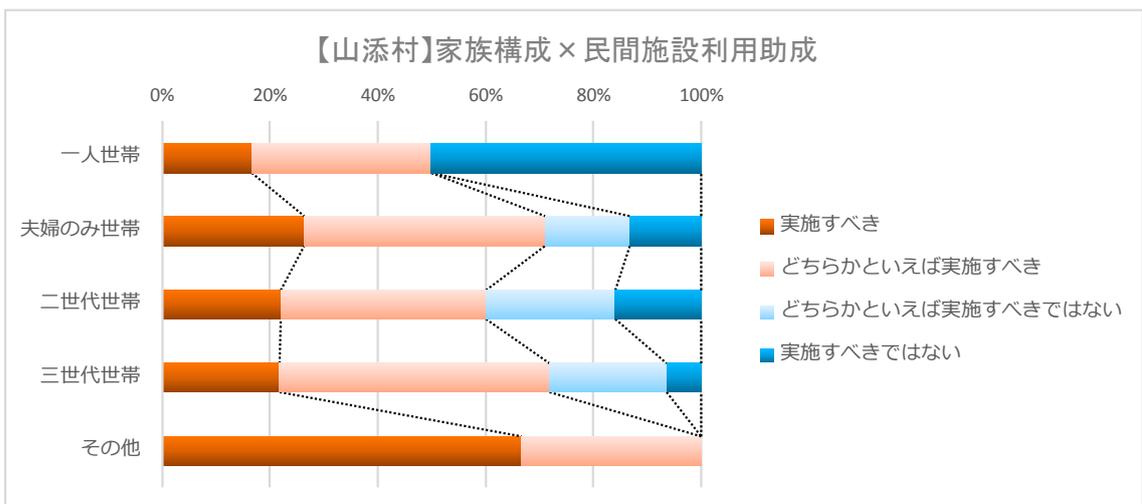
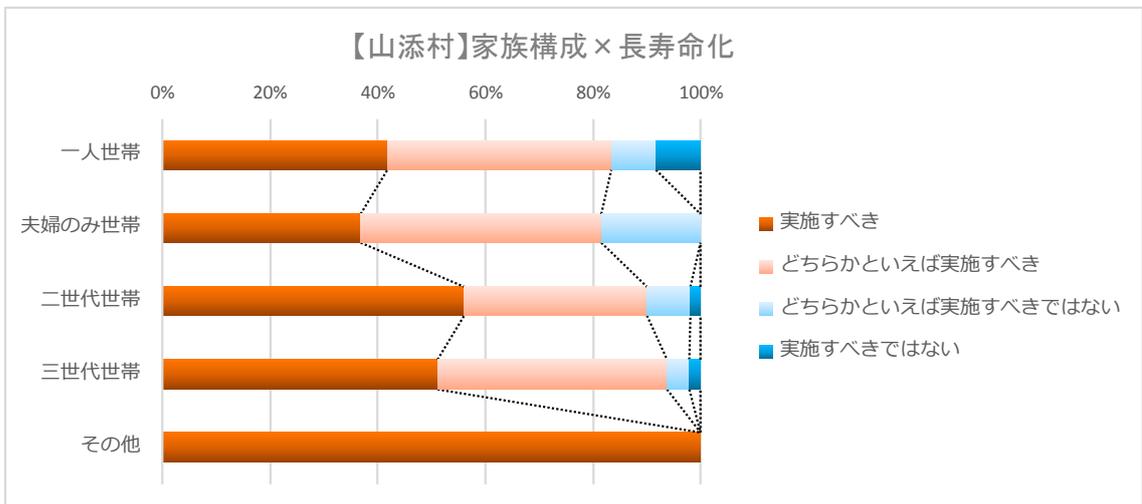
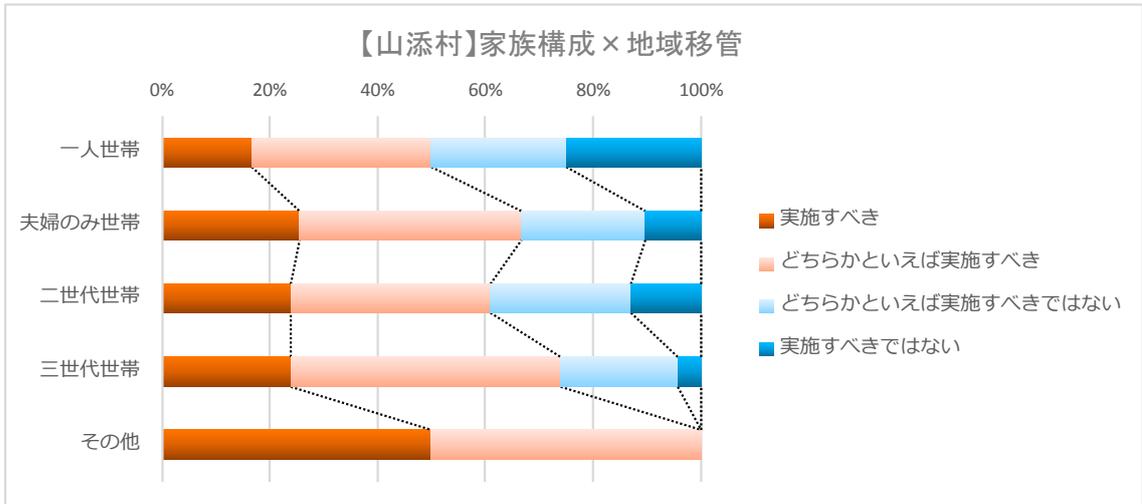


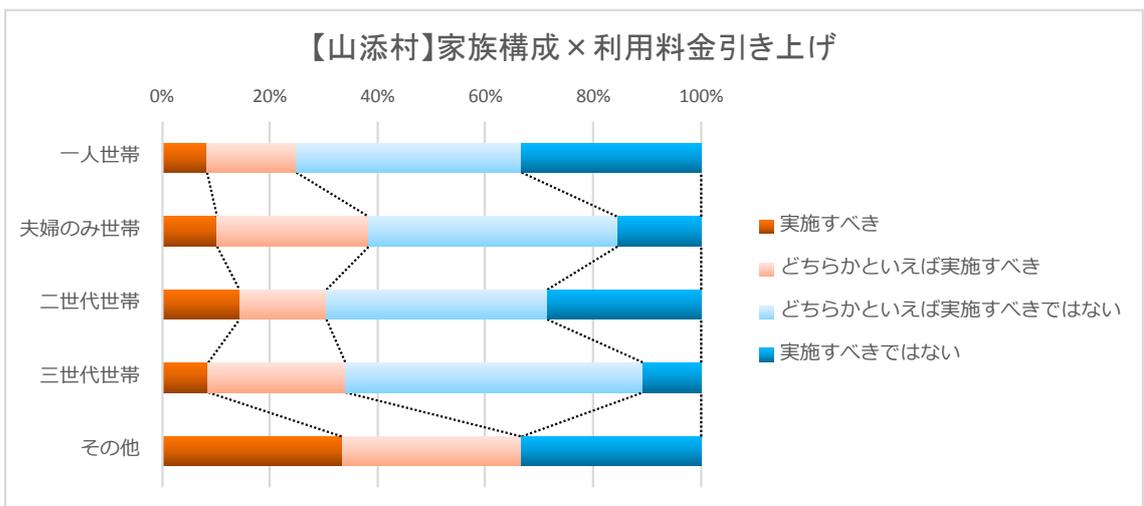
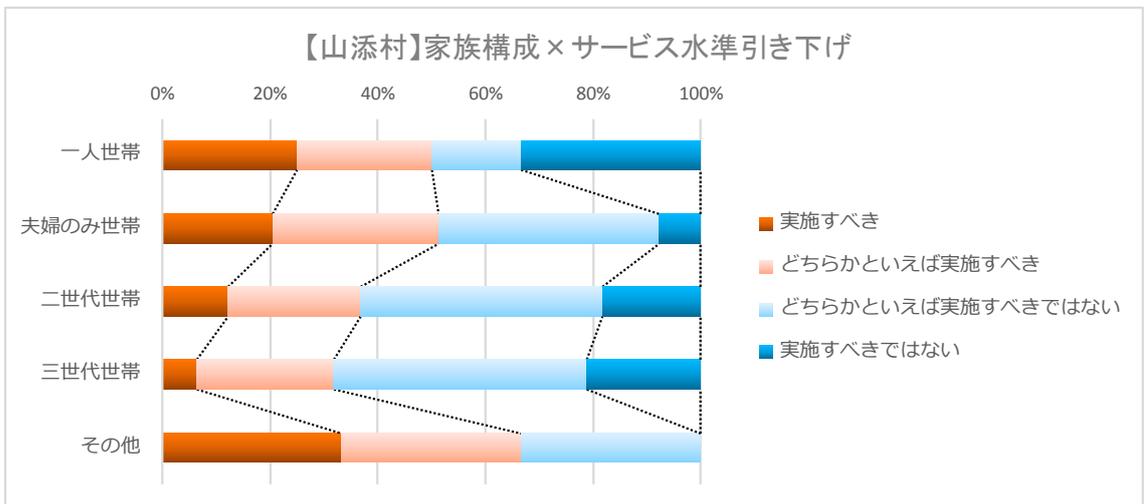
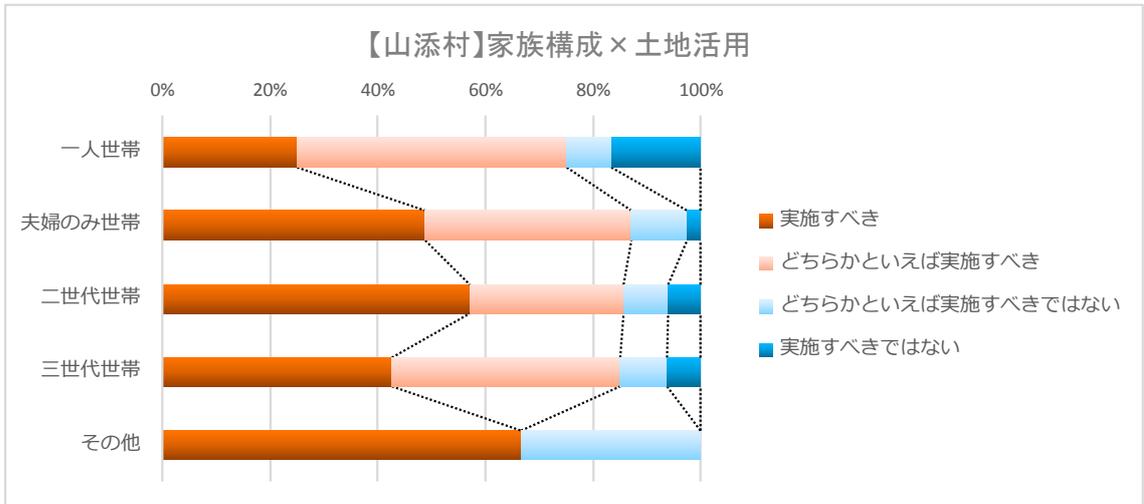


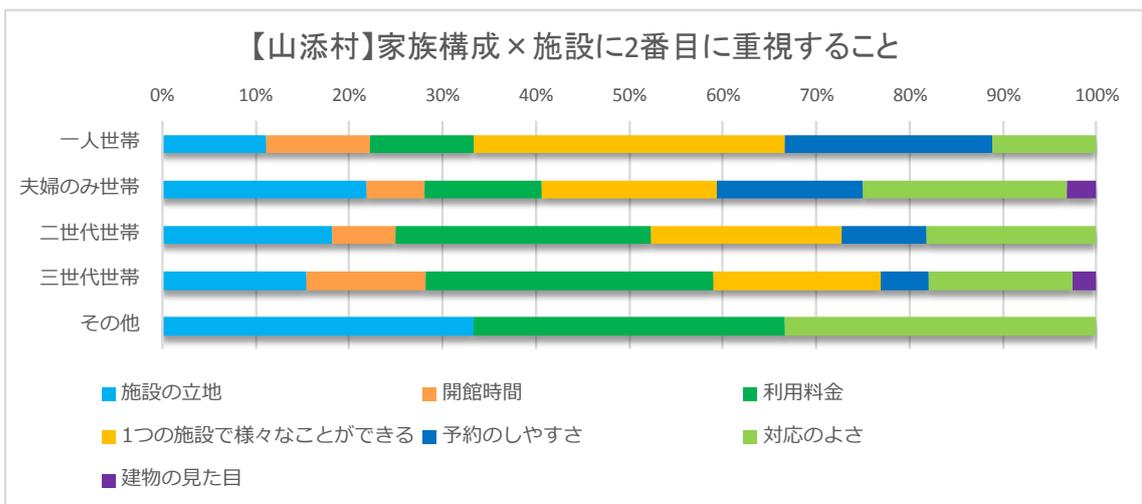
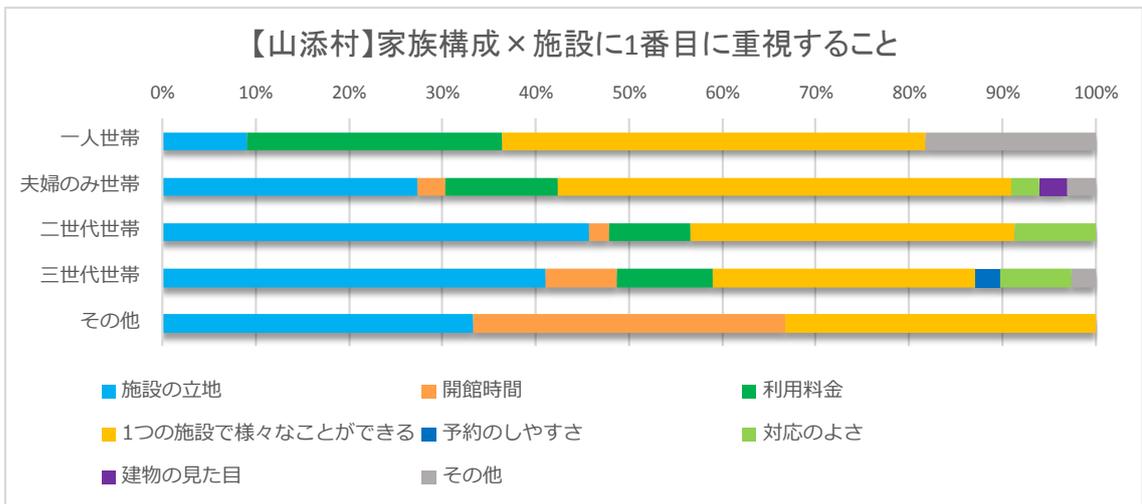
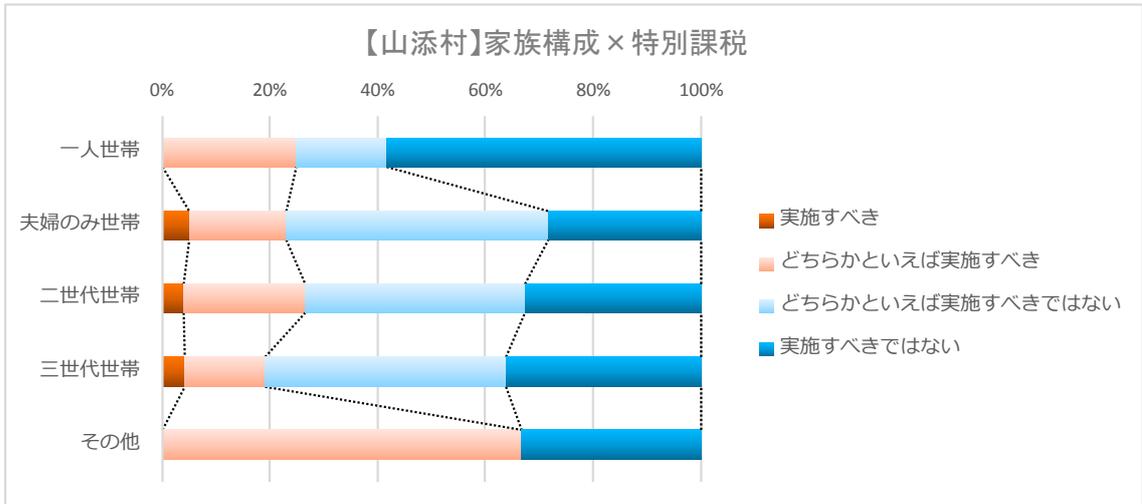


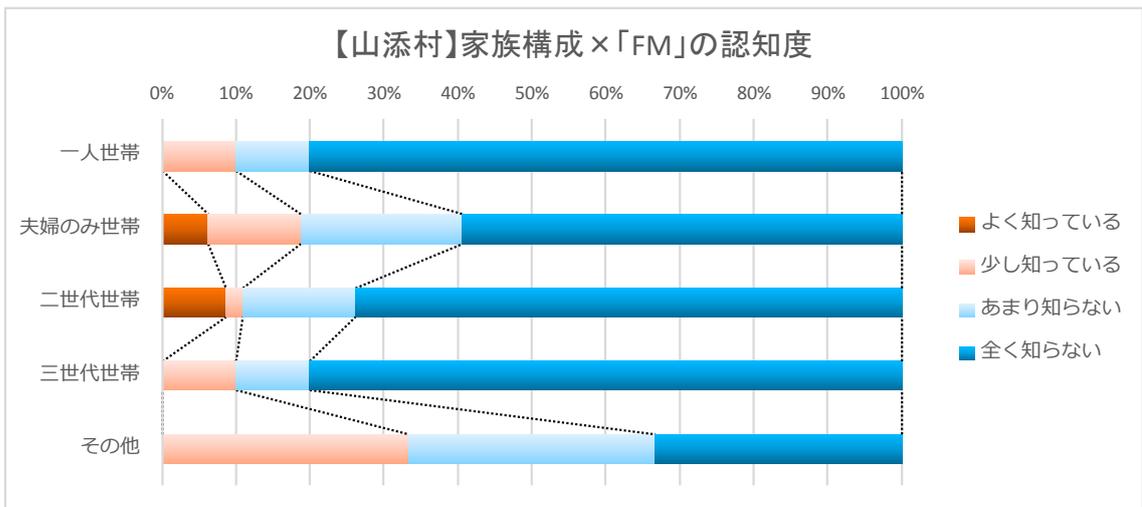
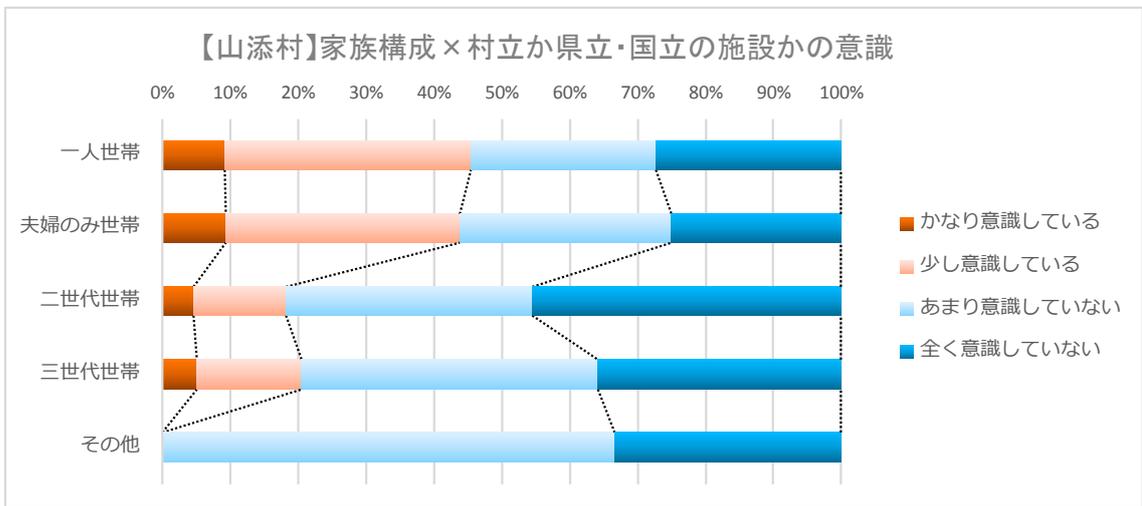
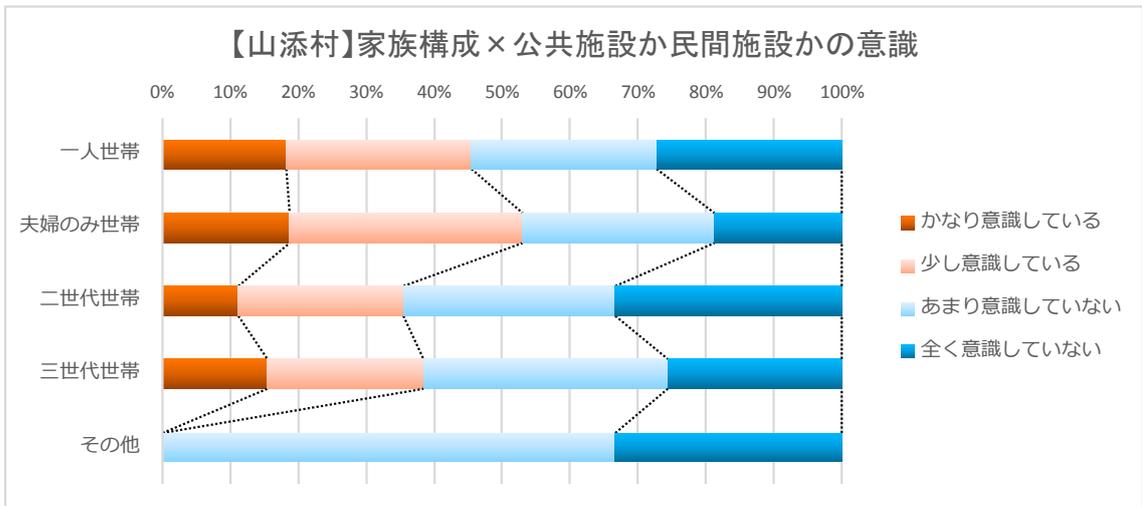


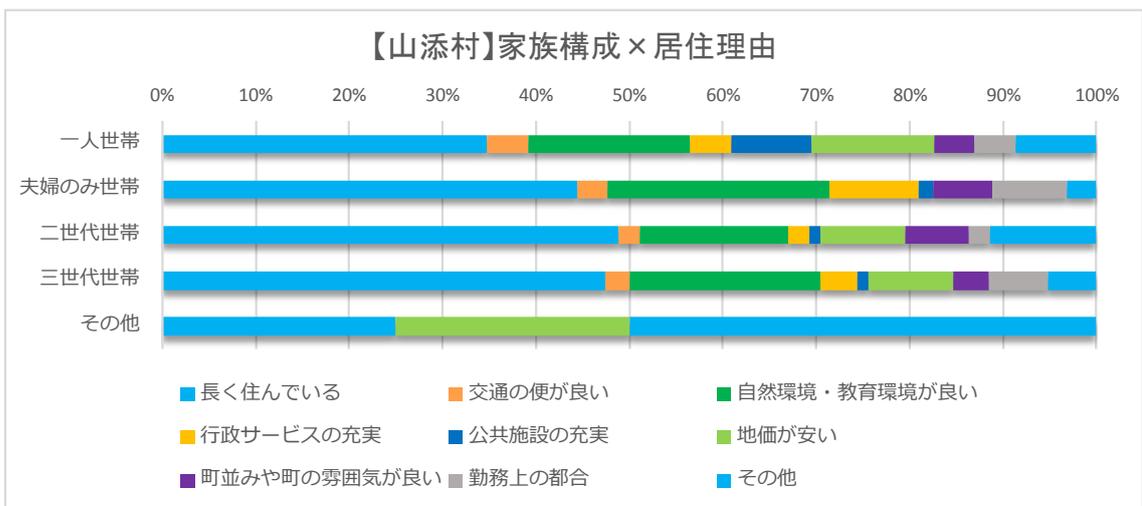
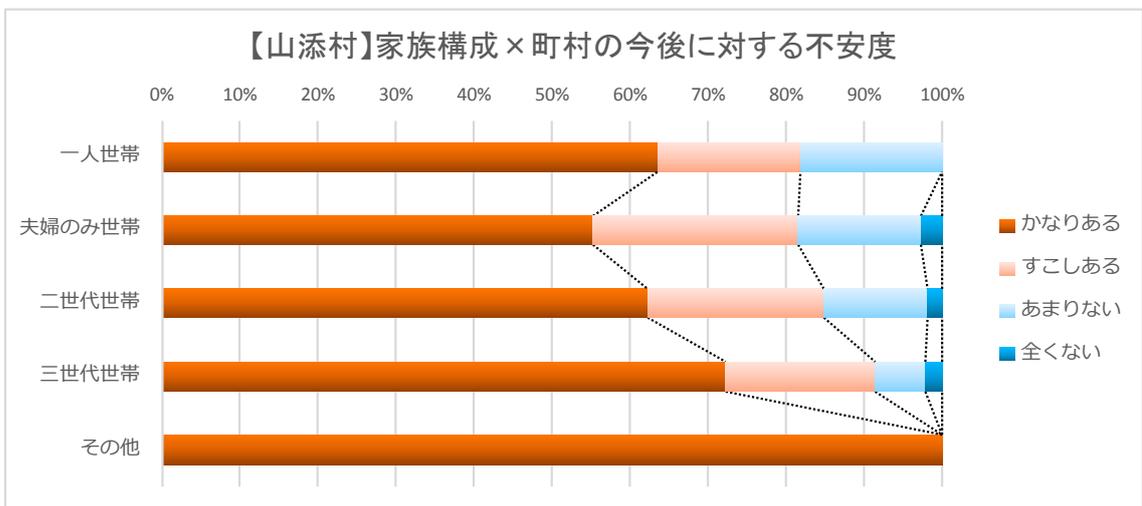
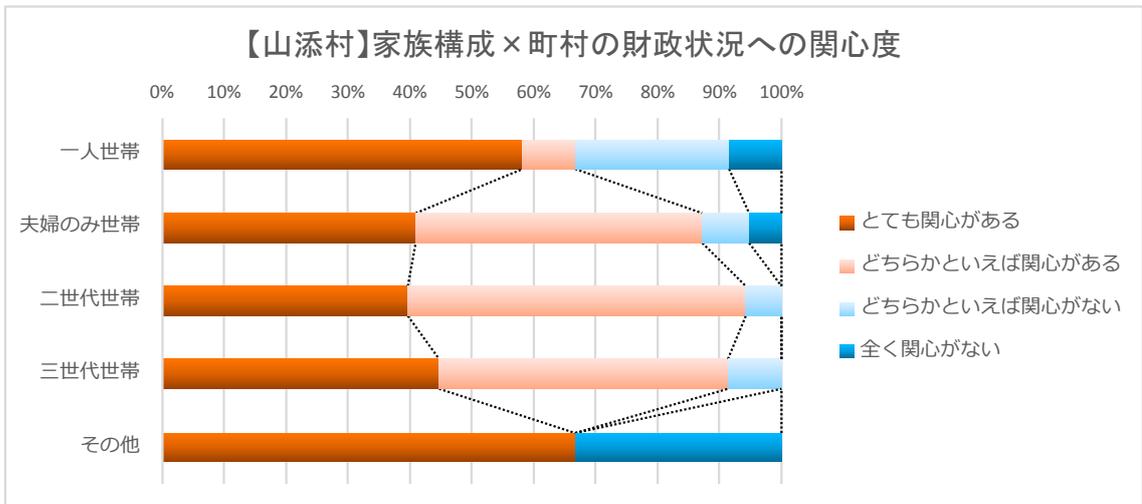












平成 29 年 3 月

天理市

早稲田大学理工学研究所プロジェクト研究グループ（公共不動産経営）

早稲田大学建築学科小松幸夫研究室